
流星のロックマン4黄金のヨロイ・ライオーガ/ツバサ・ドラゲーン

レッドスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星のロックマン4黄金のヨロイ・ライオーガノツバサ・ドラグーン

【Nコード】

N9637S

【作者名】

レッドスター

【あらすじ】

時は22XX年、星河スバルという少年は、AM星人のウォーロックと電波変換し青きヒーローロックマンに変身するのだ！そしてこの小説はとうとう100話

向かえました！そして今「ライオーガの章」は急展開している・・・そしてロックマンの持っているライオーガの力は一体？

そしてとうとう「ドラグーン」の力も判明！

これからもこの小説をよろしく願います！

第1話 プロローグ

星河スバル小学6年生コダマ小学校に通っている少年

この少年はAM星人のウォーロックと合体（電波変換）し、青きヒーローロックマンに変身するのだ！

ロックマンは、3度に渡って世界を救いアンドロメダ・ラ・ムー・クリムゾン・ドラゴン数々の強敵と戦いキズナの力で乗り越えてきた。

そして父、星河大吾を救いそれから月日が流れ・・・春の4月・・・

スバル「父さん、母さん！行ってきます！」

茜「いつてらっしゃい、気よ付けるのよー！」

大吾「スバルの奴ずいぶん変わったな、茜」

茜「ええ！」

今日はスバルが六年生になる日、スバルは、いつもどおりに「ビジライザー」をかけ学校に向かう途中に委員長とキザマロとゴン太達に出会った。

委員長「あら久しぶり！」

委員長（白金ルナ）は、ロックマンが好きでいつも「ロックマン様〜！」と言っている、そしてリーダー的な存在！

キザマロ「おはようございます。」

キザマロ（最小院キザマロ）運動は苦手だが勉強が得意

ゴン太「また一緒のクラスなれるといいな！」

ゴン太（牛島ゴン太）は食いしん坊で好きな食べ物牛丼！

それにウィザードのオックスと電波変換しオックス・ファイアに変身するのだ！

今はすごく平和で誰もがこの平和がこのまま続くと思っていた、しかし、今、地球・・・いや・・・宇宙にも危機が迫っていた・・・そのことは・・・ただ1人の男だけが知っている・・・その男は・・・

・

「????」……とうとう、この時が来たか……」

スバル達はいずれこの男に会う……果たしてどうなる!?

そして学校……

第2話 謎の転校生

キーンコーンカーンコーン

スバル「えーと僕のクラスは・・・あつ！あつた！6-Aか」
すると向こうから委員長達がこつちに向かってくる。

委員長「さあスバル君、行くわよ！」

スバル「えっ？どこに!？」

委員長「どこにつて・・・クラスに決まってるじゃない！」

スバルはプリントをよく見ると委員長達の名前が載っていた。

スバル「（また委員長達と一緒にだ、それに、なんとという奇跡!!)」

委員長「じゃー行くわよ！」

スバル「うん！」

ウォーロツク『おい！スバル!！』

スバル「ん？なにウォーロツク！」

ウォーロツク『完全に俺の事忘れてるだろおおー!！!！つ!！!』

スバル「ご、ごめん！」

ウォーロツク『たく、もう忘れんなよ!』

委員長「スバル君、早くしないと置いていくわよ！」

スバル「あつ、待ってよ、委員長ー!」

そして6-A教室

キーンコーンカーンコーン

先生「皆さん席についてー!」

スバル「へえー、これが6年のイスと机かあー」

ウォーロツク『（イスも机も、どれも変わんねーだろ!）』

先生「それでは、さっそくですが、転入生を紹介します、はいつてきて!」

ガラガラバン!

「????」

キザマロ「ほほう・・・背がたかいですね！」

先生「それでは、自己紹介を！」

ライオ「・・・ライオだ・・・」

スバル「ライオ君か！」

ウォーロック「・・・あいつ・・・」

ライオ「・・・ギロ・・・」

ライオはスバルをにらんだ！

スバル「!？」

第3話 ミソラ登場！

スバル「!?!」

先生「じゃー、星河君の隣の席が空いてるから、そこに座って!」
ライオは、スバルの隣の席に向かっていている。

スバル「ラ、ライオ君、よろしく!」

ライオ「・・・ギロリ・・・」

スバル「・・・」

キーンコーンカーンコーン

放課後

委員長「スバル君!」

スバル「何?委員長?」

委員長「今日、私の家でパーティーするんだけど、来なさい!」

スバル「えーと・・・分かった行くよ!」

委員長「じゃー5時に来て!」

スバル「うん!」

ライオ「・・・ニヤリ」

そして4時40分

スバル「よし!ウォーロックそろそろ行くか!」

ウォーロック「ああっ!」

ピーンポーン

茜「はい・・・あらっ!」

スバル「母さん、誰?」

???「久しぶりだね、スバル君!」

スバル「あーっ!ミソラちゃん!」

ミソラ「ピーンポーンあたり」

第4話 パーティー

スバルはびっくりしていた。

スバル「なんで、ここにミソラちゃんが!?」

ミソラ「なに? 来ちゃだめなの?」

スバル「い……いや、来てもいいんだけど……」

ミソラ「だけど……なに?」

スバル「えーと……」

ウォーロツク『ここにミソラがいるってことは……』

????『ポロローン久しぶりねロツク!』

ウォーロツク『げっ! ハ、ハープ!!』

ハープ『居ちや悪い?』

ウォーロツク『当たり前だーっ!』

そして2体は、喧嘩しながらどこかに行った。

スバル「ハハハ……」

ミソラ「……そういえばスバル君どこか行くの?」

スバル「うん! 今から委員長の家に行ってパーティーをするんだ!」

ミソラ「ふーん、ねえ! スバル君!」

スバル「えっ? なに?」

ミソラ「私も行っていい?」

スバル「えっ! 僕はいいけど……」

ミソラ「やった! じゃー行こうか!」

委員長の家

スバル「皆来たよ!」

ゴン太「おーっ! スバル早く始めよう……ぜ……」

ミソラ「皆、久しぶり!」

ゴン太「ミ、ミソラちゃん……!」

キザマロ「ほ、本物です」

委員長「な、なんでここにい、いるの!??」

ミソラ「暇だったから来ちゃった!」

ゴン太「なー、委員長もう俺腹減ったぜー、早く食べようぜー!」
委員長「そうね!食べましょう!」

皆「いただきまーす!」

こうしてパーティーが始まった・・・そして、ちよんどのころ・・・

???1「準備は・・・いいか?」

???2「・・・ああつ!」

ガチャガチャバチィ

第4話 パーティー（後書き）

面白かったですか？次回もよろしく！

第5話 パーティーの悲劇

ゴン太「モグモグバクバク」

ミソラ「モグモグ」

スバル「おおっ！おいしー！これ誰が作ったの？」

委員長「この料理はシェフが作ったのよ！それで、あっちが私が作った料理よ！」

ゴン太「モグモグ・・・ぐふっ・・・ガクッ」

キザマロ「ゴン太くーーん！」

スバル「・・・」

ウォーロック「・・・あれ・・・食べたら死ぬな・・・」

バチイ！

委員長「あら？」

バチイ・・・プツン！

一瞬にして家の電気が消えた！

スバル「うわあ！なんだ!？」

ウォーロック「スバル！電波ウイルスだ！」

スバル「ウイルス!？」

ウォーロック「スバル！やるぞ！」

スバル「うん！トランスコードシューティングスターロックマン！」

キイーン！

ロックマン「どこだ!？」

ウォーロック「キッチンの電脳だ！」

ロックマン「いくぞー！」

ミソラ「スバル君!？」

・・・キッチンの電脳・・・

第5話 パーティーの悲劇（後書き）

次回おまけ描きます。

第6話 ロックマン！（前書き）

今回から、おまけがあります。

第6話 ロックマン!

……キッチン電脳……

ロックマン「ここだね! ……あつ! いた、あそこだ!」

ウォーロック「…見たことねえーウイルスがいるぞ!」

ロックマン「本当だ、それにウイルスがこんなにいる…」

ウォーロック「おいおいビビッてねーよな? スバル!」

ロックマン「ビビッてないよ! いくよロック!」

ウォーロック「おう!」

ロックマン「ウェーブバトル・ライドオン!」

ウイルスはロックマンに向かって攻撃してくる!

ロックマン「おっと! 危ない!」

ウォーロック「スバル! 攻撃だ!」

ロックマン「うん! じゃー、ロングソード!」

ロックマンは次々とウイルスを倒している…しかし

ロックマン「うわっ!」

ドサッ

ロックマン「くっ…あの、でかいウイルスは普通のウイルスとは違って強い!」

ウォーロック「だったら、一番強いやつで攻撃するんだ!」

ロックマン「よしなら、マッドバルカン3! つけええええええ

ー!」

ガガガガガガガガガガガン

ドオオン

ウォーロック「きまつたな!」

ロックマン「ふーちよつと緊張した…」

ウォーロック「ハハハまだまだだな!」

ロックマン「ハハ…」

おまけ

- スバルの一日 -

スバル「うーん・・・おはようロック」

ウォーロック「おはよーさん！」

スバル「ねえ！ロック！今日学校休みだから、どっか、行こうよ！」

ウォーロック「いいけど・・・どこ行くんだ？」

スバル「アマケン！」

- アマケン -

天地「やあ！スバル君」

スバル「久しぶりです！天地さん！」

そして5時間後・・・

スバル「あー！面白かった！でもまだ見たかったなー！」

ウォーロック「なんでスバルの奴は5時間も居て飽きないんだ！？」

そして、もちろん最後は・・・

- 展望台 -

スバル「わあー！すごいや！」

ウォーロック「飽きた飽きた飽きたー！ーっ！」

スバルは今日たくさん楽しい事がありました

そしてウォーロックは散々な一日でした・・・

おまけ次回も続く

第6話 ロックマン！（後書き）

頑張りましたー！！！！

第7話 パーティーの終わり

ウォーロツク『ふー．．．戻るか!』

スバル「そうだね! 僕お腹すいちゃった!」

そしてスバルは、パーティーの場所に戻った．．．しかし、ある所では．．．

???1「なかなかやるね．．．ウォーロツクも．．．」

???2「．．．ロツクマンか．．．ククク．．．」

???1「お前が笑うなんて．．．珍しいな!」

???2「．．．面白い．．．今度やってやる．．．ロツクマン．．．っ!」

???1「．．．．．」

そして夜の8時．．．皆、ミソラの歌で盛り上がり、楽しんでいた!

ゴン太「ミーソーラーちゃーん! パク! モグモグ．．．!」

キザマロ「ゴン太くーん!」

スバル「アハハハ!」

そして時間は、あつというまに過ぎ．．．夜の9時30分．．．

ミソラ「皆! またね!」

ハープ『ポロロンまたね、ロツク!』

ウォーロツク『二度と、来るな!』

そしてミソラは、帰って行った．．．

スバル「よし! 僕達も帰るか!」

ウォーロツク『そうだな!』

そしてスバルは帰りました．．．

おまけ

第7話 パーティーの終わり（後書き）

次回もお楽しみに

第8話 まさかの・・・遅刻!?

パーティーがあつた次の日・・・

茜「ほら! スバル! 起きなさい!」

スバル「ふぁー・・・あと5分・・・」

茜「なに言つてるの!? あと10分で学校始まるよ!」

スバル「あと・・・10分!?!」

スバルは、急いで着替えて外に出ようとすると!

茜「待ちなさい! スバル!」

スバルは止まろうとすると走つてた勢いで止まらなく、おもいつきり転んだ!

スバル「いたた・・・なに? 母さん・・・」

茜「朝ご飯忘れてるわよ! 食べなさい!」

スバル「・・・はい・・・」

大吾「スバル6年に、なつて早速寝坊か!」

スバル「うん」

大吾「まあ寝坊するのは皆一緒だ! きにすんな!」

スバル「うん・・・」

そしてスバルは、3分で食べ終わった!

じゃー、父さん! 母さん! 行つてきます!」

ボタン!

スバル「やばいよ・・・あと5分で始まつちゃう!」

ウォーロック「まつたく・・・だらしねーなスバル!」

スバル「だつたら起こしてよー!」

ウォーロック「起こしたぜ・・・7回は、でもスバルが起きなかつ

たんだ! (いい顔で眠つてたしな・・・)」

スバル「ええつ! 7回もやつても僕起きなかつたの!?!」

ウォーロック「そうだ!」

そのときスバルは道の角を曲がる時!!

ドン!

スバル「うわっ!」

ドサツ!

スバルは誰かに当たってしまった!

おまけ

- ウォーロックの一日 -

スバルが学校で勉強してる時たまーに、どっかに行く・・・たとえば・・・

- - - - - どこかの電脳 - - - - -

ウォーロック「おりゃ!」

ズバツ!

ウォーロック「でりゃ!」

ジャギ!

ウォーロック「とどめだああああああ!」

ズバババン!!!

ウォーロック「・・・やっぱり敵を倒すのってサイコーだな!よし

!どっか行くか!」

そして外に出ると・・・そこには・・・

ウォーロック「げっ!あのオッサンだ!」

五陽田「ここに大きな反応ありー!皆!つかまえるおお

ー!」

皆「おおー!」

ウォーロック「・・・逃げるか・・・」

これがウォーロックの一日でした

五陽田「むっ!あっちだ!おえー!」

皆「おー!」

ウォーロック『あーッ！こっちに来るなああああーっ
っ！！！』

おまけ次回も続く

第8話 まさかの・・・遅刻！？（後書き）

感想お待ちしています。

第9話 新しい先生

スバル「うわっ！」

????「ぐえっ！」

ドサツ！

スバル「いてて・・・あの、ごめんなさ・・・い・・・って、ゴン太！」

ゴン太「おおっ！スバルじねーか！」

ウォーロツク「おいスバル！遅刻するぞ？」

スバル「あーっ！そうだった！」

ゴン太「スバル！いくぞ！」

スバル「うん！」

そして学校

キーンコーンカーンコーン

スバル「はあはあ間に合った・・・」

先生「それでは、今日新しい先生を紹介します！さあ入ってきて！」

ドアから女の人が出てきた

スバル「（なんか前にもこんな展開があつたような・・・）」

先生「この先生は学活担当のハナ先生です！」

ハナ先生「よろしく！」

ゴン太「（ハナ先生か・・・かわいいな・・・）」

スバル「・・・あれ？先生！」

先生「なに？星河君！」

スバル「今日ライオ君は、どうしたんですか？」

先生「今日は体調悪いみたいです」

スバル「そうなんだ・・・」

そして時間はたち・・・4時間目、学活

おまけ

・キザマロの一日・

キザマロは、朝早く起きると早速、牛乳コップ一杯と背がのびーるコーンを食べる！

そして身長を測る・・・

キザマロ「やった！伸びました！（ちよとね・・・）」

ペディア『キザマロくん！やったね！』

そして次が・・・背のびーる君！！！！！！

説明しよう！10分ぶら下がるとなんと・・・背がのびーる！

キザマロ「うー・・・」

ドサツ！

キザマロ「はあはあ10分間やり・・・ま・・・した・・・ガクッ
ッ！」

ペディア『キザマロくーーーーーん！』

そして最後は・・・！

パソコンで身長が伸びる食品を購入

キザマロの一日でした

おまけ次回も続く！

第9話 新しい先生（後書き）

感想待ってます。

第10話 キズナ

キーンコーンカーンコーン

ハナ先生「それじゃー今日は5年の復習をします」

スバル「5年の復習かー」

ハナ先生「5年の復習は「キズナ」です」

ゴン太「キズナか！」

ハナ先生「それじゃー・・・牛島君「キズナ」の意味を説明して！」

ゴン太「は、はい！キズナってのは人との友情のことです」

ハナ先生「まあ、大体あつてるわね」

ゴン太「ほ、本当ですか!？」

ハナ先生「んー・・・じゃー最小院君」

キザマロ「はい！キズナは、人の絶対的な信頼です」

ハナ先生「はい！よくできました！」

ゴン太「ハナ先生は信頼してる人っているのか？」

ハナ先生「・・・いたわ・・・昔ね・・・あつ、ごめんなさい、ち

よつと昔の事を思い出してて」

ウォーロツク「・・・」

そして4時間目が終わって放課後・・・

スバル「ねえ、ロツク！やっぱりキズナって大切だね!・・・ロツ

ク？」

ウォーロツク「・・・」

スバル「・・・ロツク？」

ウォーロツク「・・・!な、なんだスバル!」

スバル「どうかしたの？」

ウォーロツク「いや・・・なんでもねえ・・・」

スバル「？」

おまけ

・委員長の一日・

委員長はいつも早起きしている

朝4時に・・・

委員長「さあ！やりますか！」

3時間後・・・

そうすると、なんとということでしょうー

ボサボサだった委員長の髪が見事なドリルに

なっているではありませんか

モード『さすが、ルナちゃん！今日もきれいに整っているわー

そしてウィルスが現れれば・・・

委員長「ロツクマン様ー」

そしてロツクマン様応援グッズを作りそして就寝

委員長の一日でした

第11話 WAXA（ワクサ）

ワクサ
WAXAでは・・・

キーンキーンキーン

サテラポリス「な、なんだ!？」

ヨイリー「大変よ!究極プログラムが盗まれたわ!」

サテラポリス「くっ・・・こんな時に暁の奴どこに・・・」

そのころ暁は・・・

暁「サクサク・・・うーん・・・うまい!」

世界各地のうまい棒を回っていた・・・

そのころスバルは家に居た・・・

ウォーロツク『・・・』

スバル「えーと・・・ここがこうで・・・」

ウォーロツク『スバル・・・』

スバル「なに?」

ウォーロツク『暇だあああああああ!!!』

スバル「あー、いつもいつも勉強の時『ひまだー』っていい加減にしてよ!」

ウォーロツク『だってよー!』

スバル「しょうがないなー、じゃーどっか行く?」

ウォーロツク『どこに!』

スバル「展望台!」

ウォーロツク『ええーっ』

スバル「ロツク嫌だったら、来なくていいよ?」

ウォーロツク『・・・』

そしてスバル達は展望台に向かった・・・

第11話 WAXA(ワクサ)(後書き)

ごめんなさい、おまけ書けませんでした・・・次回書きます！

第12話 黄金の石

――展望台――

スバル「わぁー……今日もいろんな星が見える！」

ウォーロツク「……楽しいか？スバル……」

スバル「うん！」

ウォーロツク「……！スバル！」

スバル「なに……あつ！父さん！」

大吾「やつぱり、ここに居たかスバル！」

スバル「でも何で……ここに父さんが？」

大吾「ちよつとな……スバル！」

スバル「なに？父さん？」

大吾「宇宙行きたいか？」

スバル「うん！行きたい！父さんが、乗ってた、ロケットで……！」

大吾「そうか……その日が楽しみだ！……スバル……」

スバル「ん？」

大吾「ロツクマンに変身して、なにかの変化を感じなかったか？」

スバル「えっ……何もなかったけど……何で？」

大吾「ならいいんだ……」

スバル「？」

大吾「！そうだスバル！」

すると大吾はポケットから黄金の石を、出した……

大吾「スバルに、これをあげるよ」

スバルは、大吾から黄金の石をもらった！

スバル「すごい！こんな石、見たこと無いや！」

大吾「……」

スバル「ありがとう！父さん！」

大吾「……ああ！」

大吾は遅く返事した……

スバル「・・・父さん？どうしたの？」

大吾「い、いや・・・なんでもない・・・」

ウォーロック「（大吾の奴・・・なんか、隠してるな・・・）」
大吾「そろそろ帰るか！」

スバル「うん！」

そしてスバル達は家に帰っていった・・・しかし展望台の近くにある木から人影が・・・

???「フフフ・・・ウォーロック・・・必ずあなたを・・・」
そして影が消えた・・・

おまけ

・ミソラの日記・

月×日

今日は、たくさんの仕事がありました！

月 日

今日は、仕事が早く終わって、ルナちゃんの家でパーティーしました！

月 日

ふうー、昨日は、楽しかったなー！

月× 日

明日は、サイン会！明日もがんばるぞ！おーっ！

おまけ次回も続く

第12話 黄金の石（後書き）

感想まっています！

第13話 ライオ

次の日の放課後・・・

キーンコーンカーンコーン

スバル「んーっ！やつと終わった！」

ウォーロツク『スバル明日から3連休だろ、なんかあるか？』

スバル「えっ、ないけど・・・」

委員長「だったらスバル君！」

ウォーロツク『（いきなりでやがった！）』

スバル「なに？委員長！」

委員長「明日2泊3日の旅行に行くの、スバル君も行く？」

スバル「いいの？・・・じゃーいくよ！」

委員長「わかつたわ！」

スバル「そうだ！ライオ君も行くよう！」

ライオ「・・・ことわる！」

委員長「なによ！せつかく誘ったのに！」

ライオ「・・・余計な世話だ・・・もう俺には、かわるな・・・」

スバル「ご、ごめんライオ君・・・」

ライオ「・・・おまえ・・・「君」はやめる・・・」

スバル「え？」

ライオ「ウザいんだよ・・・おまえ・・・」

スバル「！！！」

ライオ「・・・ふん・・・」

ライオはどっかに行ってしまった・・・

委員長「スバル君・・・気にしないでいいわよ！」

スバル「・・・うん」

そしてしばらくして・・・

おまけ

- ウォーロックの旅(上) -

ある晴れた朝の日・・・

ウォーロック『(スバル・・・俺・・・旅に出る!)』

そしてスバルの家から出て行った!

ウォーロック『・・・つとは言ったものの・・・どこいこう・・・』

すると近くにあったゴン太の家の犬小屋けいほうちがあった・・・

ウォーロック『・・・入ってみるか!』

しかし・・・ウォーロックは知らなかった・・・このあと、まさか、

あんなことが、起こることを・・・

おまけ次回も続く

第14話 謎の組織の計画

- 委員長の家 -

委員長「明日の7時にバス亭に集合よ、いい？」

ゴン太「おおー！」

キザマロ「ゴン太君、遅刻しないでくださいね！」

委員長「そうよ！」

ゴン太「うっっ」

スバル「そいえば、どこに行くの？」

委員長「ハマノタウンよ！」

スバル「ハマノタウン？」

委員長「知らないの!？」

スバル「うん・・・」

委員長「はあー、しょうがない・・・キザマロ！」

キザマロ「はい！ハマノタウンは・・・世界1有名なホテルがあるのです！」

スバル「へえー」

委員長「そのとおりね・・・じゃーまた明日！」

そのころミソラは・・・

「ミソラさん、おつかれさまでしたー」

ミソラ「おつかれさまでした」

ハープ「今日もよかったわ！ミソラ！」

ミソラ「はあー・・・いきたくないあー・・・」

ハープ「・・・どこに？」

ミソラ「ハマノタウンよ！」

ハープ「ふーん」

- 謎の組織 -

???1「ククク・・・そうか・・・」
???2「・・・ああ俺が行く・・・」
今動き出す！

おまけ

- ウォーロツクの旅(中) -
- - - 犬けいほうき小屋こや電脳 - - -
ウォーロツク「・・・なにもねー・・・」
すると後ろからさつきを、感じた・・・
ウォーロツク「誰だ！」
???「ブロロロロ誰だー！ツ！」
ウォーロツク「くっ！ウイルスか・・・って・・・オックス！」
オックス「・・・ウォーロツクじゃないか！」
そのとき犬けいほうき小屋が、急に鳴り始めた！
ワンワン！ワンワン！
いったい、なにが起きたのか！

おまけ次回も続く

第14話 謎の組織の計画（後書き）

感想待ってます！

第15話 2泊3日の旅行

次の日・・・

委員長「まったく！ゴン太の奴遅いわね！」

そしてゴン太が来た！

ゴン太「ごめんごめん！寝坊しちゃって・・・」

そのとき、ゴン太は殺気を感じた・・・

委員長「ごくん！た！！！！」

ゴン太「ひいい！」

委員長「・・・まあ！いいわ、いくわよ！」

そのとき、ちょうどバスが、来た！

プップー

そしてしばらくして・・・

委員長「ふうー、ついたあ！」

スバル「ここがハマノタウンかあーっ！」

ウォーロツク「海・・・広いな・・・（まあ見たことあるけどな）」

ゴン太「ウォー海〜！」

キザマロ「ブルブル・・・」

ゴン太「どうしたんだキザマロ」

キザマロ「ちよつと昔のことを思い出して・・・ブルブル・・・」

ウォーロツク「ハハハいい加減に忘れるよ！」

キザマロ「・・・ブルブル」

委員長「皆、ホテルに行くわよ！」

皆「はい」

・・・ホテル・・・

スバル「おおっ！すごいや！」

ゴン太「なあ！キザマロ、あの絵なんだ？」

キザマロ「あの絵は、何百年前に、ここを立てた大金持ちの女社長
が書いた絵なんです！」

ゴン太「へえ〜」

委員長「皆！部屋に向かうわよ！」

スバル「オツケー！」

キザマロ「果たしてどんな部屋でしょうね・・・キラーン」

第15話 2泊3日の旅行（後書き）

おまけ書けませんでした・・・次回書きます！

第16話 狙われるウォーロック(前書き)

第16話 狙われるウォーロック

スバル達が部屋に向かっているところ・・・

?????2「・・・ここか・・・AM星人がいるのは・・・」

?????「そうだ！ここにいる！」

?????2「いくぞ・・・」

?????「ああっ！」

そのころスバルは・・・

スバル「おおーっ！広い！」

キザマロ「想像以上です！」

委員長「当然よ！何だっここは・・・」

ゴン太「海いこうぜ！」

委員長「ご〜ん〜た〜！」

ゴン太「ご、ごめんなさい・・・委員長・・・」

委員長「はあ〜・・・しょうがないわね〜」

ゴン太「うつつ」

委員長「海行きましょうか！」

するとゴン太の顔が笑顔になった！

ゴン太「やったああ！」

そして海に行った・・・

ゴン太「ウォー！またあれをやるぞおおーっ」

スバル「ま、まさか・・・あれを・・・」

ゴン太「ああつ・・・いくぜ！うおおおパ・・・」

委員長「やめなさい！」

ゴン太「ええっ!？」

ウォーロック「(あたりまえだろ・・・)」

スバル「ハハハハ」

キザマロ「ぼくは・・・は、入りません！」
そしてスバル達（キザマロ以外）は、海でたくさん遊びしばらくしてスバル達は、海から上がった・・・しかしスバル達はきずいていなかった・・・ウォーロックが狙われているのを・・・

おまけ

- ウォーロックの旅（下） -

ワンワン！ワンワン！

ウォーロック「なんだ！？」

すると奇妙な声が出た・・・

????「・・・の・・・ど・・・えせ・・・」

ウォーロック「オックス！」

ウォーロックはオックスをみるとなんと！震えていた！？

オックス「くつ・・・ばれたか・・・」

ウォーロック「！！・・・オックス・・・一体なにをしたんだ？」

オックス「実は・・・俺・・・」

ウォーロックはつば（みたいなもの）を飲んだ・・・

ウォーロック「・・・ゴク・・・」

オックス「俺・・・」

トクン・・・

オックス「ゴン太の牛丼を食べたんだ！」

ウォーロックは思った・・・

ウォーロック「（ああ・・・そうか・・・だから、ここにいるのか・・・）」

このあと旅に飽きたウォーロックは、スバルのところに戻った！

おまけ次回も続く

第16話 狙われるウォーロック(後書き)

感想待ってます！

第17話 オックス

しばらくして・・・スバル達は、ホテルに帰ってきた！

ゴン太「ウォー！やったぜ！タコをとったぜ！」

キザマロ「・・・タコとつてなににするんです？」

ゴン太「食う！」

キザマロ「・・・やっぱり・・・」

ウォーロツク「（・・・なぜタコ？）」

スバル「あつ・・・そいえば、ゴン太、オックスつれてきてる？」

ゴン太「おうよ！つれて来てるぜ！」

するとゴン太は、オックスを外に出した！

ゴン太「ウィザード・オン！」

そしてオックスがでてきた！

オックス「ブロロロロロ」

するとウォーロツクもでて来た！

ウォーロツク「よお！オックス！」

オックス「おおっ！ウォーロツク！」

ウォーロツク「あいかかわらず熱いな・・・おまえ・・・」

オックス「ブロロロロロ、おうよ！」

ウォーロツク「・・・（やっぱり、こいつ変わってね・・・）」

ゴン太「オックス！そろそろ戻ろうぜ！」

オックス「おうよ！」

スバル「ぼくも戻ろうか！」

ウォーロツク「ああっ！」

しかし・・・このあと事件が起きる！スバル達は、知らない・・・

第17話 オックス（後書き）

おまけ書けませんでした・・・次回書きます！

第18話 ホテル！ピンチ！

????2「・・・クク・・・」

ゴン太「よし！部屋に行く・・・」

するとホテルの電気が・・・

ジジツ・・・プツン！

ゴン太「うおお、消えた！？」

キザマロ「急に電気が消えたです！」

委員長「もうっ何よ！？」

スバル「な、なんで・・・」

ウォーロツク『スバル、これはウイルスのしわざだ！』

スバル「！！！」

ウォーロツク『それに委員長の家の時と一緒にだ！』

スバル「！！・・・それって・・・」

ウォーロツク『ああっ！！・・・あの時の犯人だ！』

スバル「・・・いくよロツク！」

ウォーロツク『おう！』

スバル「トランスコード！シューティングスターロツクマン！」

光がスバルを包んだ！

キーン！

ロツクマン「いくぞおお！」

ウォーロツク『場所は・・・あの扉の向こうだっ！』

ロツクマン「わかった！」

ガチャガチャ・・・

ロツクマン「・・・あれ？」

ウォーロツク『どうした？スバル？』

ロツクマン「・・・開かない・・・」

ウォーロツク『なにいい！？』

ロツクマン「どうするロツク？」

ウォーロック「……！そっだ、ウェーブロードがあるじゃねーか！」
ロックマン「無理だよ……」
ウォーロック「何でだよ!?」
するとロックマンは、指をさした、ウォーロックは、さしたところを見ると……
ウォーロック「！」
ロックマン「道が誰かがとうせないようにしたんだよ！」
ウォーロック「……なら」
ロックマン「なら?」
ウォーロック「壊すうう!」
ロックマン「だめだよ、壊したりしたら!」
ロックマンは必死にウォーロックをとめている……
ウォーロック「うおおお!はなせーっ!」
ロックマン「ほかに、開ける方法があるだろーっ!」
ウォーロック「じゃー、どうやって!?!」
ロックマン「扉の電腦に入って扉の鍵を解除するんだーっ!」
するとウォーロックは止まった……
ウォーロック「……その手があったか……」
ロックマン「うん!」
ウォーロック「よし!さっさといくぞ!スバル!」
ロックマン「うん、いくよ!ロック」
ウォーロック「ああっ!」

おまけ

- 作者のアンケート -

Q1、好きな食べ物は?

A、焼肉

オックス「俺も好きだぜーっ、ブロロロー！」

Q2、好きなアニメは？

A、ロックマン

ウォーロック「やっぱり！」

Q3、見てる人に一言！

A、まだ下手だけど頑張ってうまくなります！
スバル「頑張ってね！」

以上アンケート終了

第18話 ホテル！ピンチ！（後書き）

おまけのネタ待ってます！

第19話 ホテル！ピンチ！2

――扉の電腦――

ロックマン「ついたあ！」

ウォーロック「スバル！早く扉をあけるぞ！」

ロックマン「そうだね、えーと・・・あつた、あそこだ！」

ロックマンは鍵を開ける所に行った！

ロックマン「開けるよ！」

ピーピーガシャン！

ロックマン「やったあ、開いた！」

ウォーロック「スバル、ウイルスだ！」

ロックマン「しまった！」

ウイルスはロックマンの周りにいた！

ウォーロック「また、見たこと無いウイルスだ！」

ロックマン「やるよ！ロック！」

ウォーロック「いいぜ！よーし、暴れるぜ！」

ロックマン「ウェーブバトル・ライドオン！」

ウイルス達は、ロックマンに攻撃して来た！

ロックマン「ロックバスター！」

ウイルス達は、どんどん倒していった！そして・・・

ロックマン「これで最後だ！」

デュン！

ドドン！

ウイルスはすべて倒した・・・

ロックマン「よし！終わった・・・」

ウォーロック「そろそろいくぞ！」

ロックマン「うん！」

ロックマンは電腦から出た。

ウォーロック「開けるぞ！」

ロックマン「うん！」
扉を開けた・・・そこには・・・
ロックマン「すごい・・・いろんな機会がある！」
ウォーロック「スバル！見てないで、行くぞ！」
ロックマン「あつ！そうだった・・・よし！行くよ、ロック！」
ウォーロック「ああつ！」
そしてロックマンは、電腦に、向かった！

おまけ

- ゴン太と・・・牛！？ -
ある日ゴン太は、牧場に来ていた・・・
ゴン太「・・・」
牛「モッ」
ゴン太「・・・じいじ・・・」
牛「・・・モッ」
ゴン太「・・・ごくり・・・」
ゴン太はヨダレをたらした・・・
牛「モッ!?」
牛は何かの殺気(?)を感じ逃げていった・・・
ゴン太「・・・牛・・・牛井・・・！」
オックス「・・・」
ゴン太は、本当に牛井が好きでしたあー

おまけ次回も続く

第19話 ホテル！ピンチ！2（後書き）

・・・感想・・・待つて・・・ますう～～～・・・

第20話 ホテルの電腦

-----ホテルの電腦-----

ロッキマン「よし！ついたあ！」

しかし、この電腦の中は、暗く周りが見えずらかった・・・

ロッキマン「早く犯人を見つけないと・・・でもむやみに動けない

・・・」

ウォーロック「明かりさえあれば・・・！」

ウォーロックは、なんか思いついた！

ロッキマン「ロック、なんか思いついたの？」

ウォーロック「ああっ・・・オックスの炎で明るくさせればいいんだ！」

ロッキマン「そうか！じゃー、早速ゴン太の所に行こう！」

そして1回電腦にでた！

ロッキマン「ゴン太ー！」

ゴン太「おおっ、ロッキマン！」

ロッキマン「ゴン太、オックスを貸して！」

ゴン太「おう、いいぜ！」

そしてロッキマンは、オックスを借りた・・・」

-----ホテルの電腦-----

ロッキマン「よし！オックス、お願い！」

オックス「まかせとけえ」

オックスは炎を吹いた！

ポオオオオ

ウォーロック「スバル！いまだ！」

ロッキマン「うん、進もう！」

ロッキマンは電腦のおくに進んだ！

おまけ

- スバルの過去 -

それは、まだ星河大吾が行方不明になる前の話・・・

スバル「父さん！」

大吾「ん？なんだ、スバル」

スバル「今度宇宙にいくでしょ！」

大吾「ああ・・・そうだけど・・・」

スバル「ねえ！お土産かって〜」

大吾「えっ？あつ・・・ああいいぞ買ってきてくるよ」

スバル「わーい！」

大吾「（宇宙にもお店あるかなあ？）」

そしてとうとう大吾が宇宙に行く日が来た・・・

3・2・1・・・GO！

スバル「父さーん、行ってらっしやーい！」

事件が起きるのはまだ先の話・・・

おまけ次回も続く

第20話 ホテルの電脳（後書き）

次回とうとう謎の敵が現れる！

第21話 謎の敵・・・ダーク・ナイト！（前書き）

今回のおまけは、超長いです。

第21話 謎の敵・・・ダーク・ナイト!

ロックマンは、どんどん先に進んでいた・・・
ポオオオオ!

ロックマン「ロックバスターー!」
デュン!

ウイルスがどんどん消えてゆく!

ロックマン「よし!先に行こう!」

オックス「ブロロロ、さすがロックマンだ!」

そして次々とウイルスを倒し、とうとう・・・

ロックマン「ついた・・・」

ウォーロック「(おかしい・・・誰もいねえ・・・)」

ロックマン「早く電気を直さないと!」

ウォーロック「ああ、そうだ・・・!スバル!」

ロックマン「?なに?」

ウォーロック「上だ!」

すると上からソードがこっちに降ってきた!

ロックマン「うわあー!」

ロックマンはギリギリソードを、かわした!

ウォーロック「大丈夫か!?」

???「・・・よく交わしたな・・・ロックマン!」

ウォーロック「誰だ!」

ダーク・ナイト「俺は・・・ダーク・ナイトだ!」

ロックマン「ダーク・ナイト・・・」

ダーク・ナイト「そして、こいつが俺のウィザードの・・・ブラッ

ク・ナイトだ!」

ブラック・ナイト「・・・ククク・・・ウォーロック・・・」

ウォーロック「!!!?」

ロックマン「ロック、あの人知っているの!」

ウォーロック『いや・・・あんな奴しらねえ・・・』
ロックマン『えっ!?!』

ウォーロック『それに、あのウィザード・・・ただのウィザードじゃねー!』

ダーク・ナイト「・・・ロックマン、俺は、おまえに用じゃねー」
ロックマン「えっ?」

ダーク・ナイト「用があるのは・・・」
するとダーク・ナイトは、指をさした・・・
ウォーロック『!?!!』

ダーク・ナイト「おまえだ!ウォーロック!」
ウォーロック『なに!?!』

おまけ

- 昔のキズナ -

それはある時代ある世界の話である・・・

???「・・・正斗よ・・・」

正斗「なに?おじいちゃん・・・」

おじいちゃん「おまえにな、頼みがある」

正斗「うん!」

おじいちゃん「まだ先だが・・・」

するとおじいちゃん、は言った・・・

おじいちゃん「遅くてもいい、友達を作っつて、キズナを広めてほしい・・・」

正斗「・・・キズナ?キズナなんて・・・」

おじいちゃん「キズナはな、人を救う・・・」

正斗「人なんかすく・・・」

おじいちゃん「救えるさ!」

正斗「・・・」

そして外に出た・・・

正斗「なにが、キズナだ！」

???「・・・正斗君・・・」

正斗「・・・いくぞ・・・ロックマン」

ロックマン「???」どこに？」

正斗「・・・未来だ！」

そして・・・今新たな物語が始まる！

おまけ次回お休みします。

第21話 謎の敵・・・ダーク・ナイト！（後書き）

今回のおまけは、特別編に、つながります！

特別編はいつかやるので、お楽しみに！

感想待ってるぜ！

第22話 DM星人！

ウォーロック「なにいい!?」

ロックマン「ウォーロックに用が・・・」

ダーク・ナイト「そうだ！AM星人のウォーロックに用があるんだ・
・・」

ウォーロック「一体なんの用だ！」

ダーク・ナイト「ククク・・・ウォーロックを・・・始末しに来たんだ！」

ウォーロック「！」

ロックマン「ロックを・・・始末？」

ダーク・ナイト「そうだ！」

ロックマン「なんでロックを始末するの？」

ダーク・ナイト「ウォーロックは、我らDM星人を裏切った！」

ウォーロック「DM星人・・・？」

ロックマン「ロックが裏切った?・・・本当なのロック！」

ウォーロック「・・・わからねえ・・・DM星人のことなんて知らねえ」

ダーク・ナイト「そうか・・・なら教えてやるよ！」

ウォーロック「！」

ダーク・ナイト「AM星人・・・つまり、ペガサス・レオ・ドラゴンがアンドロメダの鍵を奪い・・・我らの星・・・DM星を破壊されたんだ!!」

ロックマン「なんでアンドロメダが・・・」

ダーク・ナイト「もともとアンドロメダは、DM星の物だ！」

ロックマン「ロック・・・本当なの・・・」

ウォーロック「わからねえ・・・なにも覚えてねえ・・・」

ダーク・ナイト「それは、そうだ・・・だって俺達が、おまえの記憶を消したんだ・・・」

ウォーロツク『なっ!』

ロツクマン「なんで、こんな事を・・・!」

ダーク・ナイト「ククク・・・知りたいか？」

ウォーロツク『ああっ! 教える!』

ダーク・ナイト「つまり・・・おまえは、俺達DM星人が作った電
波体だ!」

ロツクマン「えっ?」

ウォーロツク『・・・』

ダーク・ナイト「おまえは、俺達の物だっ!」

ロツクマン「ウォーロツクが・・・なんで・・・」

ウォーロツク『・・・なんで、おまえは電波体を作れる!』

ダーク・ナイト「これが俺達の力だ・・・!!」

第23話 ウォーロックの力

ロックマン「ロックが・・・作られた!？」

ダーク・ナイト「そうだ・・・ウォーロックは、俺達がつつた電波体だ!」

ウォーロック「信じられるか!たとえ、俺が作られたとしても、なんで俺を作つた!」

ダーク・ナイト「簡単なことだ・・・この星もあの宇宙も俺達の物にするためだ!」

ウォーロック「俺は、そんな力もつ・・・」

するとダーク・ナイトが言った・・・
ダーク・ナイト「持つてるんだよ・・・おまえの中にある力があればな・・・」

ウォーロック「俺の・・・中の・・・力!？」

ダーク・ナイト「そうだ、おまえにはな・・・最強の力がある・・・」

ウォーロック「・・・」

ダーク・ナイト「おまえには2つの力がある!」

ロックマン「2つ!？」

ダーク・ナイト「そう・・・ライオーガ・ドラグーンだ!」

ウォーロック「ラ、ライオーガ・・・」

ウォーロック「その力は、1日で星を破壊する力・・・」

ウォーロック「!・・・まさか・・・」

ダーク・ナイト「それに今のおまえの姿は本当の姿じゃない・・・」
ウォーロック「・・・」

ダーク・ナイト「ウォーロックはただAM星人の姿をした怪物だ！」
ウォーロック「怪物だと・・・」

ダーク・ナイト「そうだ！おまえは、怪物だ！」

ウォーロック「くっ・・・」

ロックマン「違う！ロックはおまえの物じゃない！ロックは怪物じゃない！」

ウォーロック「スバル・・・そうだ・・・俺は、おまえの物じゃね

ー・・・俺は、AM星人のウォーロックだ！」

ダーク・ナイト「・・・そうか・・・なら」

ロックマン「！」

ダーク・ナイト「たくさん痛めつけて、デリートしてやるよ！」

ウォーロック「スバル！やるぞ！」

ロックマン「いくよ、ロック！」

ウォーロック「いつでもいいぜ！」

ロックマン「ウェーブバトル・ライドオン！」

するとダーク・ナイトがこっちに向かってきた！

ウォーロック「くるぞ！」

ロックマン「うん！マッドバルカン3！」

ガガガガガガガガガガン！

しかしすべて外れた

ダーク・ナイト「それだけか？ならこっちもいくぞ！」

するとダーク・ナイトは黒い剣をだした！

ダーク・ナイト「ブラック・ブレイク！」

ズバーン！

すごい音がなりひびいた

ロックマン「うわぁぁぁーっ！」

ウォーロック『ぐつ!』

ダーク・ナイト「弱い!弱すぎる!」

するとダーク・ナイトは、ロックマンの頭においた

ダーク・ナイト「とどめだ!」

そのとき

キーン

ダーク・ナイト「だれだ!」

???「ロックマンは、ぼくが守る!」

第23話 ウォーロックの力(後書き)

しばらくおまけ書けません6月からかきます！

第24話 謎の戦士!

????「ロックマンは、ぼくが守る!」

突然ロックマンの目の前に謎の戦士が現れた!

ダーク・ナイト「おまえ・・・誰だ!」

????「・・・答える意味は、無い!」

ダーク・ナイト「・・・むかつく奴だ!おまえも、デリートしてやる!」

????「・・・いいよ、来なよ!」

ダーク・ナイト「いくぞおおおお!ブラック・ブレイク!」

スバアーン!

パシィ!

????は、ダーク・ナイトの剣を軽々と、止めた

ダーク・ナイト「なっ!」(こいつ・・・できる!!)「

ロックマン「あの人・・・すごい!」

ウォーロック「(・・・あいつ・・・どっかで・・・)」

????「・・・い・・・」

ダーク・ナイト「?」

????「いつてえ~~~~~~~~っつ!」

ダーク・ナイト「(俺の思い込みだったか・・・)」

????「つ~~~~・・・この・・・仕返した!」

すると????の手から黄金の光が出てきた!

ダーク・ナイト「!!なんだ、この光は!」

ブラック・ナイト「・・・あのは・・・!」

????「くらえっ!」

ブラック・ナイト「逃げるぞ!あれは、やばい!」

ダーク・ナイト「なんでだ!」

ブラック・ナイト『いいから！早く！』

ダーク・ナイト「くっ……覚えてるよ！次は、絶対にデリートしてやる！ロックマン！そして……ウォーロック！！」

するとダーク・ナイトは、ウェーブアウトした……

???「……行っちゃた……」

すると光が小さくなり、消えていった……

ロックマン「……あの〜」

???「?、なに？」

ロックマン「助けてくれて、ありがとう！」

???「いいって、いいって！」

ロックマン「あの〜、なまえ教えてください」

???「……」

すると???は、言った……

???「いずれ……わかるさ！」

そして???は、帰っていった、ロックマンは、首を横にかしげた・

・

ロックマン「いずれ……わかるのかな、ロック……」

ウォーロック『さーな！それより早く戻そうぜ！電気！』

ロックマン「……あっ！わすれてた……」

ウォーロック『おい！（わすれるなよ）』

ロックマン「よし！」

ピーピーピー、ガシャン！

ホテルの光がもどった

ウォーロック『戻ったな！』

ロックマン「うん！じゃー、戻ろう！」

ロックマンは、ウェーブアウトした……

第24話 謎の戦士！（後書き）

感想待ってます！

第25話 やっと1日の終わり(前書き)

まじで1日終わります！
くっくっ、ながかった！

第25話 やつと1日の終わり

そのころ委員長たちは・・・

委員長「・・・あら？明るくなつたわ！」

キザマロ「そのようですね、スバル君やりましたね。」

ゴン太「ウオーーあかるくて、目がくくくっ！」

委員長「電気を直してくれたんだから・・・！ロックマン様に会えるわ！」

すると！

「委員長くくっ！」

すると、委員長の目がキラキラ光った！

委員長「ロックマン様くくく！」

スバル「ん？」

委員長は、がっかりした

委員長「なんで、ロックマン様じゃないの!？」

スバル「えっ!？」

委員長「あくくひさしぶりに、ロックマン様に会いたかつたわ！」

ゴン太「でも、スバルは、ロックマン・・・」

キザマロ「ゴン太君・・・禁句です。」

ゴン太「・・・あっ」

委員長は、ゴン太をにらんだ

・・・キイ!

ゴン太「ひいい！」

スバル「ハハハハ・・・くっ！」

ズキイ!

スバルの体全身に痛みが走った!

ゴン太「スバルう!？」

キザマロ「スバル君！」

委員長「スバル君!？」

スバルは、近くにあったイスに座った

スバル「はあはあはあ・・・」

ウォーロツク『（やはり、あいつらとの戦いですごいダメージをうけていたか・・・）』

キザマロ「・・・！すごいケガじゃないですか！スバル君！」

スバル「へ、平気だよキザマロ・・・」

スバルは、立ち上がった・・・しかしスバルはフラフラだった！

スバル「くっ！ああ・・・はあはあ・・・」

ゴン太「スバル！もう休めよ！」

スバル「う、うん・・・」

スバルは、ゴン太の肩に手をかけた・・・

スバル「・・・ゴン太、ありがとう」

ゴン太「いいつてことよ！」

そしてスバルは、部屋に行った、その日はゆっくり休んだスバル・・・

しかし・・・

???2「・・・チイ・・・なんだよ、あいつ・・・」

ブラック・ナイト『（まさか、あいつが居たとはな・・・）』

???1「まさか、君が逃げるなんてな・・・珍しいな・・・」

???2「うるせえ！」

???1「次は、俺の番だ！」

???『シャーシャシャシャ！やろうぜ！』

???1「ああつ・・・久しぶりのえものだあ！」

そして旅行の1日目が終わった・・・

第25話 やつと1日の終わり(後書き)

感想・・・待ってるよ

第26話 海！（前書き）

2回目です。今回は、ちゃんと海のところを書きます！

第26話 海！

旅行2日目・・・

ウォーロック『・・・おゝいスバル』

スバル『・・・あとちよつと・・・』

ウォーロック『まあ、昨日の戦いで疲れているのは、分かる・・・
しかしな！時計見てみる！』

スバル『ん〜・・・8時・・・42分だつて〜！』

するとドアから委員長の声が！

委員長「スバル君！あけなさい！」

スバル「わかった！」

ガチャ！

委員長「スバル君、体だいじょうぶ？」

スバル「え？う、うん！でも、まだちよつといたいや・・・」

委員長「そう・・・これから海に行くんだけど・・・平気かしら？」

スバル「あつ、平気だよ！」

委員長「そう、でも無理しちゃだめよ！」

スバル「うん！分かった！」

そしてスバルは服をきがえて、そして部屋から出た瞬間！

ゴン太「スバルーっ！」

スバル「わっ!？」

スバルは、びつくりして、しりもちついた！

ゴン太「ハハハ」

スバル「いてて・・・びつくりした〜・・・あつ、ゴン太！」

「ぼくもいます・・・」

スバル「この声は・・・キザマロ！一体どこから・・・？」

「ここです！」

ゴン太の後ろから出てきた！

スバル「あつ！そこに居たんだ！」

ウォーロツク『（小さすぎて隠れてるところも見えなかった・・・）

ゴン太「早く海行こうぜ！」

スバル「うん！」

スバルは、立ったそして・・・

海

ザザーン

塩のにおいがした・・・

ゴン太「ウォーリーッ！やっぱり海はいいぜ！」

キザマロ「・・・よし！」

スバル「？」

ゴン太「・・・キザマロ・・・泳ぐぞ！」

キザマロ「は、は、は、はい！」

キザマロの足が震えていた・・・

ウォーロツク『・・・やめたほうがいいと思うな・・・』

そのとき！

「イヤッホーリーッ！」

謎の男が海からこつちにやってきた！

バサー・・・

ゴン太「・・・すげー・・・波に乗ってたぜ！」

???「おいおいあぶないぞ坊主！」

ゴン太「なあ！すげーな！一体何もんだ！」

次郎「おう！よく聞いてくれたな！俺は、次郎だ！」

ゴン太「すげー！俺もやりてーっ！」

次郎「まだ君には、早いな！」

ゴン太「え〜っ！」

次郎「すまないな・・・俺もういかねーと、じゃーな！坊主！」

ゴン太「ああっ！」

ウォーロツク&オツクス『あやしい（ぜ）』

次郎「・・・ニヤリ」

第26話 海！（後書き）

なんか、あやしい展開ですね・・・
感想&おまけネタ待ってます！

第27話 ミソラやってくる!

スバル「厚い……(今4月だよな?)」
そのころゴン太とキザマロは……

ゴン太「がんばれ!キザマロ!」

キザマロ「うつぶ・ぐつぶ・ぐつぶ……」
ザバアザバア!

ウォーロツク「(……今だな……)」

キザマロ「……」

ゴン太「……?」

キザマロは沈んでいった……

ゴン太「キザマロオ!?!」

ウォーロツク「やっぱり……」

そのとき!

「皆ーっ!」

スバル「ん〜?」

ゴン太「あっ!ミソラちゃん!」

キザマロ「……ピクリ!」

スバル「なんでここに?」

ミソラ「久しぶりに来たかったから来ちゃった!」

スバル「へえ〜」

ウォーロツク「!……まさか……あいつも……」

バープ「ポロロ〜ン、ロツク!」

ウォーロツク「ゲツ、ハープ!」

ハープ「あら?歓迎してく……」

ウォーロツク「するかあああああ!」

スバル「ハハ……」

ミソラ「ねえ!スバル君……」

スバル「なに?」

ミソラ「ここに行くなら言ってよ!」

ミソラは、ちよつとふくれた・・・

スバル「えっ!?!」

ミソラ「だから、なんで誘ってくれないの?」

スバル「あ・・・ご、ごめん・・・」

ミソラ「まあ、わかればいいの!」

ゴン太「ミソラちゃん!泳ごうぜ!」

ミソラ「いいよ!」

キザマロ「いいですね・・・」

スバル・ゴン太・ウオーロック「『』(復活早っ!)(『』」

数分後・・・

キザマロ・ゴン太「『』・・・おおっ!」

ミソラは、水着姿になった!

キザマロ「(かわいいです!)」

ゴン太「(ミソラちゃんは、なに着てもにあつな・・・)」

ミソラ「じゃー、泳ごうか!」

第27話 ミソラやってくる！（後書き）

次回・・・ドキドキの展開が・・・

作者「・・・俺こついつの苦手だけががんばります！」

それとたぶん次回短いです・・・（たぶん）

第28話 スバルとミノラ（前書き）

・・・うまく書けるかなあ？

第28話 スバルとミソラ

スバル達が遊んでいるところ・・・

????1「・・・そろそろ、やるか！サーファー！」

サーファー「シャァシャァシャァ！やるぜえ！」

????1「電波変換！」

キイーン！

????「・・・やるぞ！」

そのころスバル達は・・・

スバル「けっこう、日焼けしたね・・・（今本当に4月!?!）」

委員長「それはそうよ！ハマノタウンは、冬以外、夏みたいなもの

よ！」

スバル「へえ」

ウォーロツク「・・・（なんて町だ!）」

そのとき！

キザマロがこっちにやって来た！

キザマロ「た、大変です！スバル君！」

スバル「どうしたのキザマロ？」

キザマロ「ミ、ミソラちゃんが渦に吸い込まれそうなんです！」

スバル「ミソラちゃんか!？」

キザマロ「とにかく、来てください！」

スバル「うん！」

スバルはミソラのところに行った！

スバル「ミソラちゃん！」

ミソラ「キヤァーッ！助けて！」

スバル「今、たすけるよ！」

スバルは、手を伸ばした！

スバル「くっ・・・あと少しなのに・・・とどかない・・・」
ギリギリまで手を伸ばした・・・すると

ギユウウ

スバル「やった！とど・・・い・・・た」

スバルは、バランスを崩してしまい渦に飲み込まれそうになった！
そのとき！

パシィ！

ゴン太「スバル！大丈夫か！？」

スバル「ゴン太・・・ありがとう！」

そしてスバルとミソラを引き上げた！

ミソラ「ありがとう！スバル君、ゴン太君！」

ゴン太「いいって！それよりスバル！ミソラちゃんを安全なところに
！」

スバル「うん！」

スバルは、ミソラを安全なところにつれてった！

ミソラ「・・・」

スバル「ここなら、安全だよ！」

ミソラ「・・・スバル君・・・」

スバル「なに？」

ミソラ「・・・手」

スバル「・・・手？」

スバルは、ミソラの手を握っていた・・・

スバル「あっ・・・ご、ごめん！」

ミソラ「いいの・・・それにうれしかった！」

スバル「・・・えっ？」

ミソラ「・・・あのね・・・スバル君に伝えたいことが、あるの・・・」

スバル「？」

ミソラは、顔を赤くした・・・

ミソラ「わっ、私スバル君の事が・・・」
スバル「・・・」
ミソラ「す・・・す・・・」

第28話 スバルとミソラ（後書き）

・・・いやあ・・・疲れた・・・

感想&おまけネタ待ってます！

第29話 まさかの・・・？（前書き）

まさかのタイトルが「まさかの・・・？」です。

第29話 まさかの・・・？

ミソラ「わっ、私スバル君の事が・・・」

スバル「・・・」

ミソラ「す・・・す・・・」

スバル「・・・」

するとスバルの目を見た・・・

ミソラ「私スバル君の事が、す・・・」

そのとき！

ゴン太「スバルウゥゥ！」

スバル「・・・！ゴン太！」

ミソラ「・・・えっ!？」

ゴン太「ミソラちゃん！大丈夫か？」

ミソラ「えっ!？あ・・・平気だよ!」

ゴン太「よかつたぜ・・・」

スバル「そいえばミソラちゃん、さっきなんて言おうとしたの?」

ミソラ「えっ?ああ・・・え」と・・・」

ミソラは、ちよつと顔が赤くなつた・・・

スバル「どうしたの?ミソラちゃん、顔赤いよ?」

ミソラ「な、なんでもないよ!」

スバル「そうなんだ!」

ハープ『（はあく、あとちよつとだったのにね・・・）』

スバル「・・・ねえ、ロック!」

ウォーロック『なんだ?』

スバル「ずつと思つてただけど・・・急に渦がでるのっておかし

いよね・・・」

ウォーロック『ああつ・・・俺もそのことを考えていた・・・』

スバル「やっぱり……」

ウォーロック「誰かが操って作り出したものだ……」

スバル「誰かって……まさか……」

ウォーロック「予想だが……昨日の奴の仲間だろう……」

スバル「……」

ウェーブロードでは……

???「ククク……もうばれたか……」

ウォーロック「！」

スバル「どうしたのロック……」

ウォーロック「スバル！ウェーブロードに誰かいるぞ！」

スバル「！いくよ、ロック！」

ウォーロック「おう！」

スバル「トランスコードシューティングスターロックマン！」

キイーン！

ロックマン「いくぞ！ウェーブロードに！」

第29話 まさかの・・・？（後書き）

「まさかの・・・？」意味わかったかな？（まあ・・・わからなくてもいいです）感想待ってます

第30話 ブルー・ジェット！（前書き）

またまた新たな敵！

果たしてロックマンはどくなるー！？

第30話 ブルー・ジェット!

ミソラ「ロックマン、がんばって!」
ゴン太「がんばれよー!」

……ウェーブロード……

ロックマン「ついた!このウェーブロードのどこかにいるんだよね
!」

ウォーロック「そうだ、さがすぞ!」

ロックマンは、ウェーブロードのあっちこっちさがした……
ロックマン「くっ……見つからない……」

そのころミソラは……

ハープ「ねえ、ミソラ!」

ミソラ「ハープなに?」

ハープ「行かないの?」

ミソラ「……ハープいこっか!」

ハープ「ええっ!」

ミソラは、変身した!

キーン!

ハープ・ノート「じゃーいくよ!」

ハープ・ノートは、ウェーブロードに行った!

ロックマンは……

ロックマン「どこだ……!いた!」

青い後ろ姿があった!

ロックマン「おい!そこでなにをしている!」

???「おっと、見つかってしまった……」

ロックマン「おまえは、何者だ!」

ブルー・ジェット「俺は、ブルー・ジェット！DM星人だ！」

ロックマン「DM星人だつて!？」

ブルー・ジェット「そうさ！」

ロックマン「でもおまえを、おいつめたぞ！」

ブルー・ジェット「・・・ククク」

ウォーロック「なにがおかしい！」

ブルー・ジェット「おいつめたのではなく・・・俺が誘い込んだんだ！」

ロックマン「なにっ!？」

ロックマンの周りにウイルス達が集まってきた!

ウォーロック「ちい!罨か・・・」

ブルー・ジェット「ククク、やれっ!ウイルスども！」

ウイルスがロックマンを襲う!

ロックマン「ロックバスター！」

しかしウイルスは、効いていなかった!

ロックマン「なっ!？」

ブルー・ジェット「ククク、無駄だこいつらは、ちよつとの攻撃は、効かない！」

ロックマン「くっ・・・なら！」

ブルー・ジェット「！」

ロックマン「カウントボム2！」

ピ・ピ・ピ・ピーーー!

ドオオオオオオオオン!

大爆発した!

第30話 ブルー・ジェット！（後書き）

感想&おまけネタ待ってます！

第31話 ブルー・ジェットの罠!

ウイルスが次々とデリートされている!

ロックマン「やったあ!」

ウォーロック「……!スバル、あいつがいねえーぞ!」

ロックマン「なにに!」

ロックマンは、周りを見回した……

ロックマン「本当だ、いない……」

ウォーロック「おそらく、どこかの電腦に逃げたかもしれない」

ロックマン「どこかの電腦か……」

ウォーロック「ここから近い電腦は……あそこだ!」

ロックマン「行ってみよう!」

ロックマンは、近くの電腦に入った!

……ビーチの電腦……

ロックマン「ついた……!」

ウォーロック「いたぞ!あそこだあ!」

ロックマン「もう逃げられないぞ!」

ブルー・ジェット「……クク……ハハハ……」

ロックマン「?」

ブルー・ジェット「ウアーハハハハハハハハハ!」

ウォーロック「な、なんだ?」

ブルー・ジェット「ハハ……また俺の罠に引っかかるとは……

馬鹿なやつめ!」

ロックマン「……罠?」

すると、ロックマンの足に水がこぼれていた……

ブルー・ジェット「まだわからないのか……」

ウォーロック「……まさか……」

ブルー・ジェット「そう……このステージは、俺の有利な、ステージだ！」

ロックマン「なんだって!?!」

ブルー・ジェット「さあ、こいよ!」

ロックマン「……」

ウォーロック「スバル!」

ロックマン「そうだね、ぼくがやらないと! ウェーブバトル・ライドオン!」

ブルー・ジェット「ククク……くっえ! ウェーブジェット!」

ドドドドドド!

ロックマン「くっ……バリアー!」

ズドン!

ロックマン「うわあああああつ!」

ドサツ!

ウォーロック「スバル!?!」

ロックマン「……」

ウォーロック「ス、スバル……!」

ブルー・ジェット「とどめだあー、ウェーブジェット!」

ドドドドドドドドドド!

第31話 ブルー・ジェットの間！(後書き)

次回は、2、3日間書けそうにないです。

感想&おまけネタ待ってます！

第32話 危機一髪！（前書き）

久しぶり・・・かな？

第32話 危機一髪!

トトトトトトトト

ブルー・ジェット「おりゃー!」

ロックマン「……ん……」

ウォーロック「スバル!早くたつんだ!」

ロックマン「うん……」

ブルー・ジェット「もう遅い!」

ロックマン「!」

ウェーブジェットがまともに当たった!

ロックマン「うわあああ!」

ドサッ!

ロックマンは、倒れた

ブルー・ジェット「終わったぜ……」

ロックマン「……」

ブルー・ジェット「あっけなかつたな……帰るか!」

ブルー・ジェットが後ろを向いたとき……

ロックマン「ロックバスター!」

デュン!

ブルー・ジェット「ぐあっ!」

ロックマン「はあはあ……」

ブルー・ジェット「な、なぜ……」

ロックマン「あの時、ギリギリオーラを使ったんだ!」

ブルー・ジェット「……ククク、そこなくちゃな!」

ロックマン「いくぞ!」

そのころハープ・ノートは……

ハープ・ノート「んどこだろ?」

そのときハープ・ノートの目の前に誰かが現れた!

ハープ・ノート「！なに？」

???「フフフ・・・あなたをおとりにするわ！」

ハープ・ノート「おとり!？」

ハープ『ミソラ、あいついやな感じがするわ!』

ハープ・ノート「あなた、何者!？」

???「私？私は、DM星人よ」

ハープ・ノート「!」

ハープ『（・・・まさか・・・また・・・）』

???「来てもらうわ」

ハープ『くるわ、ミソラ!』

ハープ・ノート「うん!」

ロックマンは・・・

ロックマン「ロックバスター!」

デュンデュン!

ブルー・ジェット「くっ・・・やるな・・・」

ロックマン「はあはあはあ」

ウォーロック『（やばいな・・・スバルの奴限界だな・・・）』

ロックマン「はあはあ・・・どうやってやれば、倒せるのかな・・・

!」

ウォーロック『なんか思いついたのか?』

ロックマン「うん!」

ウォーロック『どうやってだ!』

ロックマン「使うのは、ボボボンボムとソードとマヒプラスとミ

ニグレネードだよ!」

ウォーロック『?』

第32話 危機一髪！（後書き）

感想&おまけネタ待ってます！

第33話 コンボ！

ウォーロック「おい・・・それで勝てるのか？」

ロックマン「今は、これしかない！」

ウォーロック「そうか・・・やるぞ！」

ロックマン「うん！」

ロックマンは、ボボボンボム3を投げた！

ブルー・ジェット「！」

ブルー・ジェットは、守り体制になった

サッ・・・

・・・何も起きなかった・・・

ブルー・ジェット「・・・へっ！爆発しねえじゃねえーか！」

ブルー・ジェットは、「ホッ」とした。

ロックマン「！、いまだ！ウォーロックアタック！ソード+マヒプラッス！」

ブルー・ジェット「！（しまった、油断してた！）」

スバアーン！

ブルー・ジェット「ぐうっ！」

ロックマン「やったあ！」

ブルー・ジェット「・・・クククまだ俺は、やれる・・・！」

ブルー・ジェットは、動かなかった・・・

ブルー・ジェット「（体が、う、うごかねえ・・・）」

ロックマン「無駄だよ、マヒプラスでしばらく動けないよ！」

ブルー・ジェット「なにいつ!？」

ロックマン「そして、これが僕のコンボだ！」

ロックマンは、ミニグレネードを投げた、そして爆発した同時にさつき投げたボボボンボム3も爆発した！

ドカアアーーーーッ！

ブルー・ジエツト「ぐあああつ！」

キーン！

ブルー・ジエツトの変身が解けた・・・

ロックマン「・・・この人は・・・次郎さんだ・・・」

ウォーロック「・・・この感じは・・・てでこい！」

サーファー「シャシャシャ！ばれたらしようがねえ・・・」

ウォーロック「おい！おまえも俺を狙っているのか！」

サーファー「そうだ！」

ウォーロック「そうか・・・」

サーファー「1ついい事をおしえてやろう・・・」

ウォーロック「なんだ!？」

サーファー「これからおまえを狙う奴らは、皆DM星人がおまえを狙う！」

ウォーロック「！」

サーファー「それに・・・」

ウォーロック「それに?」

サーファー「おまえの大切な人が危険なこに次々と巻き込むことになる！」

ウォーロック「なにっ!」

第33話 コンボ！（後書き）

感想&おまけネタ待ってます！

第34話 さらわれた!?(前書き)

第34話 さらわれた!?

ウォーロック「なにっ!?!」

サーファー「・・・時間だ!」

ウォーロック「ま、待て!」

サーファー「じゃーな!」

次郎とサーファーは、消えた

ロックマン「ロック僕達も戻ろう」

ウォーロック「そうだな・・・(なんか嫌な予感がする・・・)」

スバル達は、委員長達の所に戻った

ゴン太「スバル、平気か?」

スバル「うん平気だよ」

キザマロ「・・・あれ?スバル君」

スバル「なに?」

キザマロ「ミソラちゃんと一緒にじゃないんですか?」

スバル「え、ミソラちゃん?知らないよ」

ゴン太「じゃーどこに行つたんだろ?」

「???」あら、誰を探しているの?」

ゴン太「誰って、ミソラちゃ・・・ん?」

ウォーロック「誰だ!」

皆が上を向いた!

スバル「!おまえは・・・」

フラワー・ピンク「おまえじゃないでしょ!私は、フラワー・ピンク

よ!」

ゴン太「また敵か!っ!?!」

スバル「なんの用?」

フラワー・ピンク「1言いに来たのよ!」

委員長「なにを言いに来たのよ!」

フラワー・ピンク「あなた達の大切な人を誘拐したわ・・・」
ゴン太「ゆうかい？」

ウォーロック「まさか・・・」

スバル「ミソラちゃん！」

フラワー・ピンク「正解」

ゴン太「ミソラちゃんを帰せ！電波・・・」

そのときゴン太の腕に木の根が巻きついていて。

ゴン太「くっ・・・電波変換できねえー」

スバル「なんのためにミソラちゃんを誘拐した！」

フラワー・ピンク「フフ・・・おしえな〜い」

ウォーロック「テーマいい加減にしろ！」

フラワー・ピンク「・・・」

????「時間よっ」

フラワー・ピンク「そう・・・帰るわ！」

スバル「ま、待って！」

フラワー・ピンク「返してほしいければあさつての、コダマ小学校の
屋上に来なさい！私は、そこに居るわ・・・待ってるわよ！」

フラワー・ピンクは、帰って行った・・・

ウォーロック「スバル・・・」

スバル「ミソラちゃんは、僕が助ける！」

ゴン太「俺も居るぜ！」

キザマロ「僕もです！」

委員長「私も忘れないでよね！」

スバル「皆・・・ありがとう！」

そして・・・2日後・・・

スバル「助けよう、ミソラちゃんを！！」

おまけ

・作者とライオのコント・

作者「どーもー作者のレッドスターです。」

ライオ「・・・」

作者「ほらっ、自己紹介して！」

ライオ「・・・ライオだ・・・」

作者「ライオは、食べ物なにが好き？」

ライオ「・・・」

作者「ねえー何々？」

ライオ「うざい！」

ガーン

作者は、ライオが言った「うざい！」にショックをうけた

作者「・・・ねえ、ライオ俺・・・どうすればいい？」

ライオ「消えろ！」

作者は、このあと泣きました

第34話 さらわれた!?(後書き)

次回「特別編」です!

特別編 100年前の戦士(前書き)

どーもーレッドスターでーす。

最近小説書けませんでした。理由は、風邪ひいたり体調崩したり・

・(マジで)

さて！今回の「特別編」は、なんと、100年前から謎の少年現れる！

果たしてその少年の狙いとはーっ！？

(この話はスバルが過去から帰ってきた何日後の話です。)

特別編 100年前の戦士

21xx年

- インターネットの中 -

???? 「ここか・・・」

???? 「本当に行くの?」

???? 「あたりまえだ!・・・絆なんて・・・」

???? 「・・・正斗くん・・・」

正斗 「いくぞ・・・」

正斗は、究極プログラムを発動した

キイイイイイン!

究極プログラムの光がさらに強くなった、そして・・・

カッ!

正斗は、光に包まれ消えていった

時は戻り22xx年

スバル 「大変だーっ!」

ウォーロック 「どうしたスバル、敵か?」

スバル 「違うよ、今日委員長達とミソラちゃんのライブに行くんだ!」

ウォーロック 「チッ、めんどくせーな」

スバル 「なんでロックがめんどくさがるの?」

ウォーロック 「いや・・・それは」

スバル 「?」

ウォーロック『それよりどうしたんだ、そんなにあわてて』

スバル「遅刻しそうなんだよ、あと・・・5分!？」

ウォーロック『（最近のスバルは、だらしねーな）』

スバル「よし!いくよロック」

スバルは、家からでた

ウォーロック『・・・ん?』

スバル「どうしたのロック?」

ウォーロック『ああ、ちよつと変な感じがした』

スバル「変な感じ?」

ウォーロック『・・・!』

スバル「ロック?」

ウォーロック『スバル、止まれ!』

スバル「え?」

スバルが止まった瞬間に爆発した音がした・・・さらにスバルは、ギリギリ巻き込まれていなかった

スバル「な、なんだ!？」

???「なかなかやるな、お前」

スバル「誰!？」

そこには、ロックマンの姿をした少年が居た

正斗「俺の名は、正斗・・・またの名は、ロックマン!」

スバル「ロックマンって・・・ええっ?あのロックマン!？」

ウォーロック『ロックマンって、前過去に居た奴か?』

正斗「!、そうか・・・おまえか、未来から来たロックマンは!」

スバル「なんでそのことを」

正斗「おじいちゃんから聞いたぜ・・・おまえが教えたのか、キズナのことを!」

スバル「え?」

ウォーロック『なに言ってるんだこいつ』

正斗「キズナなんてクソだ・・・キズナなんていらねー!」

????『ねえ、やめ・・・』

正斗「ロックマンは、黙ってる！」

ロックマン「???」正斗くん・・・」

正斗「いくぞ！バトルチップ、ロングソード！」

スバル「うわーっ！」

ウォーロック「スバル、あぶねーっ！」

正斗「くえええっ！」

ズバン！

ウォーロック「ぐがああああ」

スバル「ロック！」

ドサツ

ウォーロックは、倒れた

正斗「ふん！次は、おまえだ！」

正斗は、ソードを少しずつスバルに近づけた

スバル「！」

正斗「終わりだ・・・」

スバル「ま、待って！」

正斗「・・・なんだ」

スバル「なんでキズナを嫌うの？」

正斗「・・・おまえには、関係ない・・・」

スバル「でも・・・」

正斗「消える！」

ウォーロック「や、やめろおお！」

ウォーロックは、痛みを絶えて正斗に突っ込んだ

正斗「なっ！」

スバル「ロック！」

ウォーロック「スバル！電波変換だ！」

スバル「うん！」

正斗「くっ・・・」

ロックマン???'大丈夫?正斗君'

正斗「ああっ・・・!」

スバル「トランスコード!シューティングスターロックマン!!」

キイイイン!

スバルは、ロックマンに変身した!

ウォーロック「あいつを止めるぞ!」

ロックマン「うん!」

特別編 100年前の戦士（後書き）

ふうー、どうでしたか？こっちも楽しく書けました！
次回も「特別編」！楽しみに待っててねー！

特別編 ロックマンVSロックマン!? (前書き)

最近もつと暑くなりましたね・・・俺の家では暑さ対策で氷を袋に入れてひたいにあててます

さて今回の特別編は、2人のロックマン対決です!

果たしてどっちのロックマンが勝つのかーーーーっ!?

特別編 ロックマンVSロックマン!?

そのころ委員長達は……

委員長「……遅い……スバル君遅いわ……」

キザマロ「何かあったのでしょうか？」

すると……

???「委員長」

委員長「もうスバ……」

そこにはゴン太がいた……

ゴン太「?……!」

委員長から「ゴゴゴ」という音が聞こえている……

ゴン太&キザマロ「ひいひいひい」

ロックマンとウォーロックは……

ロックマン「いくぞ!」

正斗「来い!」

ロックマン「ロングソード!」

正斗「ソード!」

ガツキイン!

激しくぶつかりあっている

正斗「やるじゃないかお前」

ロックマン「君もね!」

正斗「でも……」

ロックマン「!」

正斗「ずに乗るなあーっ!」

すると正斗は、もう1つの手からソードを出した

正斗「うおおお」

ズバァン！

ロツクマン「うわあぁっ」

ドサッ

ロツクマン「くっ……」

そのとき

正斗「絆なんて……」

ロツクマン「……」

正斗「なんの意味があるんだぁっ！！！」

ロツクマン「??」

正斗「絆なんてクソだぁぁっ！」

ロツクマン「違う！」

正斗「！」

ロツクマン「「キズナ」は、クソなんかじゃない！」

ウォーロツク「ス、スバル……」

ロツクマン「僕は、「キズナ」の力でこの世界を守れたんだ！「キ

ズナ」の力で僕は、変われた！……だから僕は今ここに居るんだ

！」

正斗「はっ！だったら見せてみるよ、その……絆の力を！」

ロツクマン「いくよ……ロツ」

「??」「ロツクマン様」

ロツクマン「えっ？委員長!？」

委員長「あれ？あそこにいるロツクマンさまみたいな人は……あ

っ！ロツクマン様の友達ね！」

すると委員長が正斗の所に近づいた

ロツクマン「だ、だめだ委員長今すぐここからにげて……」

委員長「え？」

そのとき正斗が委員長を捕まえた

委員長「キャアーーーーッ！」

ロックマン「委員長！・・・卑怯だ、早く委員長を放せ！」
正斗「返してほしければ俺に勝ってみろ！」
ロックマン「（委員長・・・今助けるからね！）」
委員長「は、はな・・・しなさい・・・よ・・・」
正斗「態度たかい女だ・・・」
ロックマン「うおおお、ウェーブバトル・ライドオン！」
今ロックマンどうしの戦いが第2ラウンドをむかえた！

特別編 ロックマンVSロックマン!? (後書き)

特別編は、まだまだ続く・・・次回は、正斗の過去が分かる!(たぶん)

特別編 正斗の過去（前書き）

どーもーレツドスターでーす。

最近パソコン買ってくれました、嬉しいです！

今回も特別編！今回もロックマン同士の戦いです！

特別編 正斗の過去

ロックマン「委員長は、僕が助ける!」

正斗「さあ来い!」

ロックマン「ヘビーキャノン!」

ドオン!

正斗「バリアー!」

キーン バアアアン

ロックマンの攻撃が防がれた

正斗「次は俺からいくぜ!フミコミザン!」

ウォーロック「くるぞ、スバル!」

ロックマン「うん、スーパーバリア!」

スバアアン!

正斗「何っ!?!」

ロックマン「(今だ)エドギリブレード3!」

ズバアアン!

正斗「ぐはっ!」

ロックマン「これで終わりだ!」

正斗「く……」

ロックマン「ロングソード!」

正斗「うわあああ」

……

正斗「……あれ?」

ロックマン「正斗君・・・なんで「キズナ」が嫌いななの？」

正斗「・・・」

ウォーロック『・・・こいつ・・・ぶんなくってやる!』

ロックマン「だ、だめだよロック」

正斗「・・・俺が小学1年のころだ・・・」

ロックマン「!」

正斗の時代から4年前・・・

正斗「た・・・たすけて・・・」

隣の中学の中学生が正斗を絡んでいた・・・

「おい、おまえいい物もってるな」

正斗がもっているのは、おじいちゃんからもらったナビ「ロックマンEXE」だった

「それ見せてくれよ!」

正斗「た・・・助けてよ・・・」

友達は、怖くなって逃げてしまった

正斗は、なんとか無事だったロックマンEXEも無事だった

でも不幸は続き2年後・・・正斗は、3年生になっていた

しかしそのころから正斗は、イジメにあっていた・・・

正斗「やめてよ・・・ロックマンをかえして」

「やだねーだっ」

こないじめにあっても、友達はたすけるどころか、ずっとこっちを見て笑っていた・・・

そして・・・また2年後・・・

ある日おじいちゃんから言われた

おじいちゃん「・・・正斗よ・・・」

正斗「なに?おじいちゃん・・・」

おじいちゃん「おまえにな、頼みがある」

正斗「うん!」

おじいちゃん「まだ先だが・・・」

するとおじいちゃん、は言った・・・

おじいちゃん「遅くてもいい、友達を作って、キズナを広めてほしい・・・」

正斗「・・・キズナ？キズナなんて・・・」

おじいちゃん「キズナはな、人を救う・・・」

正斗「人なんかすく・・・」

おじいちゃん「救えるさ！」

正斗「・・・」

そして外に出た・・・

正斗「なにが、キズナだ！」

ロックマンEXE『・・・正斗君・・・』

正斗「・・・いくぞ・・・ロックマン」

ロックマンEXE『どこに？』

正斗「・・・未来だ！」

ロックマンEXE『・・・』

正斗「（もう信じないキズナなんて！）」

現在

ロックマン「正斗君・・・」

正斗「もう・・・いやなんだ！裏切られるの！」

ロックマンEXE『正斗君』

正斗「・・・さあ、早くとどめをさせっ！」

ロックマン「・・・そんなことしないよ」

正斗「！」

ロックマン「ねえ、正斗君1つお願いがあるんだ・・・」

正斗「なんだよ・・・」

ロックマン「僕と・・・友達になろうよ！」

正斗「！・・・」

ロックマンは、手を伸ばした

特別編 正斗の過去（後書き）

正斗の過去どうでしたか？次回も特別編！

特別編 友達と別れ（前書き）

どーもーレッドスターでーす。

なんと今日2回目です。

今回の特別編は・・・正斗は果たして心を開いてくれるのかー
ーっ!?

特別編 友達と別れ

正斗「俺と・・・友達に？」

ロックマン「うん！」

正斗「・・・でもどうせ俺と友達になつたらお前も裏切るんだ」

ロックマン「僕は、そんなことしない！僕は・・・君と友達になりたい」

正斗「いいや、絶対に裏切る！」

ロックマン「裏切らない！」

正斗「裏切る！」

ロックマン「裏切らない！」

正斗「裏切る！」

ウォーロック『だー！っ、なんと言えはわかるんだー！っ！』

ウォーロックのイライラが爆発した

ロックマン「ちょ、ちょっとロックー」

ロックマンはウォーロックを必死に抑えている

正斗「・・・」

ロックマン「お、おちつけよーロックー」

ウォーロック『うおおお放せー』

正斗「・・・ぷっ」

ロックマン「えっ？」

正斗「はははははっ」

正斗は笑っている

ロックマン「正斗君が笑ってる」

正斗「ははは・・・は・・・あっ・・・」

ウォーロック『なんだよあいつ笑えるのか・・・』

正斗「（しまった・・・つい）」

ロックマン「ぷっ・・・あははははっ」

ウォーロック『ははははははは』

正斗「・・・へ？」

ロックマン「ははは、正斗君も笑うんだ」

正斗「あっ、当たり前だろ！」

ウォーロック「めっちゃでかい声で笑ったしな」

正斗は、顔を赤くした

ロックマンEXE『はははっ』

正斗「なんだよ！ロックマンまで」

ロックマンEXE『今の正斗君はいい顔してるよ』

正斗「え？」

正斗は、顔をかえた

正斗「う、うるせー」

ロックマン「ねえ、もう一回言うよ・・・僕と友達になろうよ！」

正斗「・・・」

すると・・・

正斗「しょうがねーな！いいいぜ！」

ロックマンEXE『（正斗君は、素直じゃないな）』

正斗「（そうか・・・これが「キズナ」なのかな・・・なんか、い

いなこんなのも・・・）」

するとロックマンは、変身をといた・・・

正斗「なあ・・・」

スバル「なに？」

正斗「お、おまえの名前はなんだ？」

スバル「僕の名前は、「星河 スバル」！」

正斗「スバルか・・・こつちも改めて・・・俺は、「光 正斗」よ

ろしく！」

スバルと正斗は握手した・・・

ロックマンEXE『正斗君、大変だ、僕達が来たトンネルが閉まり

そっだ』

正斗「なにっ・・・スバル」

スバル「なに？」

正斗「すまなかつたな・・・いろいろ・・・」

そして正斗は変身をといた・・・スバルは、目を丸くした、そこには正斗は熱斗によく似ていた

正斗「じゃーなスバル！いくぞロックマン！」

ロックマンEXE『OK』

正斗・ロックマンEXE「クロス・フュージョン！」

キイイーン！

スバル「正斗君、また会おうねー」

正斗の姿が見えなくなった

スバル「・・・あっ」

ウォーロック『どうしたスバル』

スバル「委員長のことを忘れてたー」

数分後・・・

委員長を助けたあとミソラのライブにいった・・・

21××年

正斗「ねえおじいちゃん！」

おじいちゃん「なんだ？」

正斗「俺、友達出来たぜ！」

おじいちゃん「ほう・・・よかつたな」

正斗「でなその友達の名前が・・・」

「スバルなんだ！」

特別編 完

特別編 友達と別れ（後書き）

今回で特別編終わりです。

次回から本編に戻ります！

お楽しみに！

第35話 ミソラを助ける！（前書き）

（本編の）前回のあらすじは・・・
ブルー・ジェットを倒したロックマンは委員長の所に戻ったが、ミソラがいない事にきずいた皆、ミソラは、ロックマンを追いかけたあとから帰ってきてない・・・そのときに新たな敵「フラワー・ピンク」が現れた、さらにフラワー・ピンクの手元にミソラがつかまっていた・・・スバルは、ミソラを助けるために学校の屋上に向かった・・・

第35話 ミソラを助ける！

スバルは、屋上に向かった・・・
スバル「ロック行くよ！」

ウォーロック「あ、ああ・・・（まさかスバルが授業をサボるとは・・・成長したな・・・）」

スバル「トランスコード！シューティングスターロックマン！！」

キイイイン！ カッ！

光がスバルを包む

ロックマン「（待っててねミソラちゃん！）」

ウォーロック「！、スバルウェーブロードに乗れ！」

ロックマン「うん」

ロックマンはウェーブロードに乗った

そして屋上につくと・・・

ロックマン「！」

ロックマンの目の前にハープ・ノート（ミソラ）がいたそれに根っ

このロープでしばられていた

ハープ・ノート「んーんー」

ロックマン「今助けるね」

ごそごそ・・・ぶちっ、ぱら

ロープが解けた

ハープ・ノート「ありがとう、ロックマン」

ロックマン「いって、それよりフラワー・ピンクどこに居るか知ってる？」

ハープ・ノート「んー、たしか、あそこの電脳に入ったわ！」

ロックマン「わかった、ありがとう！行こう。ロック」

ウォーロック「おう！」

ハープ・ノート「待って、私も行く」

ロックマン「ハープ・ノートは、休んでいいよ！」

ハープ・ノート「私も行きたいの、お願い！」

ロックマン「えっ……でも……」

ウォーロック「（負けるな、スバル！）」

ハープ「（ポロロンがんばりなさいミソラ）」

ロックマン「あ……（だめだ……負けてしまう）」

ハープ・ノート「お願い！（あともう少しだわ）」

ロックマン「……わかった……」

ハープ・ノート「やったあ！」

ロックマン「でもピンチの時は逃げてね」

ハープ・ノート「はい」

ロックマン「じゃー、行こう！」

ロックマン達は、電腦に入った

- 水やりシステム電腦 -

シユン

ロックマン「ついた……ええっ!？」

ハープ・ノート「どうしたの……えっ!？」

電腦の中は木の根っこだらけだった

ウォーロック「どうなってんだ？」

ロックマン「前は、こうなってなかったのに……」

???「フフフ……来たようね、でもまだ授業中よ」

ロックマン「!、フラワー・ピンク！」

フラワー・ピンク「いきなりだけど……ロックマン、あなたを倒

す！」

ロックマン「！」

おまけ

- 作者のどうでもいい話 -

作者「どーもーレッドスターです・・・知ってるよね？にしても暑いねーさすが夏って感じだね！（夏だから当たり前かーあははは）最近カードゲームにはまってます。友達に「ただでくれよ！」って言われているけどその人から一回もただでもらった事ありません・（いやですねーそんな人）あとイナズマイレブン3とかゼルダとか・・・もちろん流星のロックマン3まだまだやりまくってます（よくロックマンのデータ2をさいしょっからにしています。皆さん「おまけ」の「どうでもいい話」を最後まで見てくれてありがとうございます！」

おまけ次回も続く！

第35話 ミソラを助ける！(後書き)

次回もよろしくー
感想待ってます！

第36話 フラワー・ピンク（前書き）

レッドスターです。

今回は、フラワー・ピンクと対決です！

第36話 フラワー・ピンク

ウォーロック『くるぞ』

ロックマン『ウェーブバトル・ライドオン!』

フラワー・ピンク『じゃー、やりましょう』

フラワー・ピンクは、手をたたいた

パン!

そのとき

ゴゴゴゴゴ

ロックマン『うわっ!』

ウォーロック『うおおっゆれてる!』

ハープ・ノート『キヤアア電腦が崩れてるわ!』

ハープ『どうなったんの!?!』

フラワー・ピンク『あら、すきだらけよ』

ロックマン『えっ……』

ドゴッ

ロックマン『ぐはっ』

ハープ・ノート『ロックマン!』

フラワー・ピンク『あら……まだ居たのあなた』

ハープ・ノート『次は、私よ! ショックノート!』

ギュイイン

フラワー・ピンクは、よけた

フラワー・ピンク『それだけ?』

ハープ・ノート『まだよ! 連続ショックノート!』

ギュイイン

しかし、またよけられてしまった

ハープ・ノート『もう! すばしっこいわね!』

フラワー・ピンク『次は私から行くわ……フラワーボム!』

ハープ・ノートの下から花が現れたさらに花の中から爆弾が現れた

フラワー・ピンク「終わりなさい！」

爆弾が爆発した

ポオオオオン

ハーブ・ノート「キヤアア」

ロックマン「はあはあハーブ・ノート！」

ハーブ・ノート「キヤアアア」

ロックマン「やめろ、フラワー・ピンク！」

フラワー・ピンク「やめるは・・・あなたがウォーロックを渡すな

らね・・・」

ウォーロック『（こいつも俺狙いか・・・）』

フラワー・ピンク「さあ、どうするの？」

ロックマン「くっ・・・」

そのとき

ロックマンの足元が崩れた

第36話 フラワー・ピンク（後書き）

おまけ書けませんでした・・・

第37話 ロックマンピンチ！（前書き）

レッドスターです。

夏は本当に暑いですねー、海とかが行きたいなー……で今回は……
ロックマンはどうなってしまっつのか？

第37話 ロックマンピンチ!

電腦がどんどん崩れている・・・

ロックマン「うわっ!」

ウォーロック「スバルッ!」

ロックマン「くっ」

ガシッ

ロックマンは木の根っこにつかまった

ロックマン「ふう」

フラワー・ピンク「しぶといロックマンだわ・・・でも」

ハープ・ノート「キヤアアア」

ボボボボボン

ロックマン「ハープ・・・ノート・・・」

ロックマンは、根っこを上っている

フラワー・ピンク「この女もしぶといわね」

ハープ (ミソラ耐えるのよ、きつとロックマンが・・・) 『

ハープ・ノート「キヤアアア (ロックマン・・・)」

ロックマン「くっ、あとちよつと・・・」

ガシッ

ロックマンは無事に上れた

ロックマン「!」

フラワー・ピンク「フフフこれでとどめよ・・・ツリースピア!」

ロックマン「やめるおおお」

そのとき

カアッ

フラワー・ピンク「!!--!」

ロックマンの体から黄金の光がでていた

フラワー・ピンク「(な、なにこの感じ……まさかこれが……
「ライオーガ」!?!」

ロックマン「……ロックバスター!」

ドン!

フラワー・ピンク「キャア!」

フラワーボムが消えた

ロックマン「……ハツ、ハープ・ノート!」

ハープ・ノート「はあはあ……ロック……マン」

ハープ・ノートは、気絶した

ロックマン「ロックやろう!」

ウォーロック「ああつ……」

ロックマン「バトルカード「ウォーリアーブラッド」!」

ロックマンは、すごい速さでロックバスターを打つ

ドドドドドドドド

フラワー・ピンク「くっ、すばしっこいやつ……」

ロックマン「くっ……(体が痛い……)」

ドドドドドドドド

ロックマン「(これで)とどめだっ! プラズマガン3!

ジジッ

フラワー・ピンク「くっ(動けない)」

ロックマン「これで終わりだ! ブレイクサーベル!」

ズバアアアン

フラワー・ピンク「キャアアア」

ロックマンは、フラワー・ピンクを倒した

おまけ

- ウォーロック番長 やってくるの巻

-

ここは、人は誰も知らない電波世界「西電腦学園」である、その学園には10体の番長がいる……

その中の1体は……伝説の暴れ番長「ウォーロック」……そうこの物語はウォーロック番長の成長伝説物語なのだーっ！

3・0組休み時間

ウォーロック番長「おい……金よこせこの女！」

ハーブ女子高生「キャアアたすけてー」

ウォーロック番長「さっさと金だせデブ女！」

ピクッ

ハーブ女子高生「だれがデブブサイク女ですってーっっ！」

女子高生から悪魔が見えた

ウォーロック番長「ヒィィィ（ブサイクは言っつてねー）」

そしてウォーロック番長とハーブ女子高生の成長伝説が始まる！

ウォーロック番長たぶん続く

第37話 ロックマンピンチ！（後書き）

おまけネタ&感想待ってます

第38話 フラワー・ピンクの正体（前書き）

あと少しで七夕ですね、俺の願いは「3DS」です。

今回はなんとあの人がフラワー・ピンクの正体だった！

果たしてあの人は……っ!？

第38話 フラワー・ピンクの正体

ロックマンはフラワー・ピンクを倒したあと変身を解いた

スバル「ミソラちゃん！」

ミソラ「ん・・・スバル君？」

ミソラは、目を覚ました

スバル「大丈夫？」

ミソラ「あ、うん平気・・・ッ！」

ミソラは足を怪我していた

スバル「怪我してるじゃないか！早く手当てしないと・・・」

ミソラ「！、スバル君後ろ！」

スバル「！」

スバルは、後ろを向いた、そこにはフラワー・ピンクが居た

フラワー・ピンク「ま、まだよ・・・くっ」

フラワー・ピンクは変身が解けた

スバル「えっ・・・」

ウォーロック「おいおいまさかフラワー・ピンクの正体って」

スバル「ハ、ハナ先生」

ハナ「私は、先生じゃないわ、私は、スパイだウォーロックの観察

そして・・・ウォーロックを消す者よ」

スバル「なんで・・・なんで先生が」

ウォーロック「教えてくれなんで俺だけ狙う！」

ハナ「いいえ、あなただけじゃないわ、この世界に居るもう1体の

「DM星人」も狙っているわ」

ウォーロック「なっ（ほかにも居るのかDM星人が）」

????「ちよつとー、ハナったらもう立つのも限界なのに早く帰ろ

うよ」

ハナ「そうね・・・フラワー」

フラワー「じゃ行きましょーう」

近くにある木の枝が伸びた
ハナ「じゃあね、スバル君」
スバル「待って！」

すると木の枝が大きくなってハナの姿が見えなくなった
そして少しずつ木の枝が小さくなっている

完全に木の枝がもとに戻ったがハナの姿がなかった

スバル「・・・ハナ先生・・・」

そのあとミソラをスバルの家に運んで怪我の手当てをしたしばらくしてミソラは帰っていった

そしてスバルは、ぐっすりやすんだ・・・

しかしスバルは、忘れていた・・・そう地獄の「テスト」を・・・

おまけ

- バトルカード紹介 -

?1「キャノン」前方の敵を攻撃する！ヒットするとおくに吹き飛ばすぞ！

?2「プラスキャノン」キャノンの進化版、キャノンより少し破壊力すが高い！

?3「ヘビーキャノン」さらに進化したキャノン、破壊力がすごく高い！

?4「プラズマガン」攻撃力は弱いがあいて1体をしびらせて少しだけ動けなくする！

おまけ次回も続く！

第38話 フラワー・ピンクの正体（後書き）

おまけネタ&感想待ってますーっ！

第39話 地獄のテスト（前書き）

今回の話は・・・地獄のテストです・・・（そのまんま）

第39話 地獄のテスト

次の日の朝

ウォーロック『おいスバルー』

スバル『ぐうぐう』(爆睡)

ウォーロック『起きろ!』

スバル『ぐーぐー』

ウォーロック『起きなさい、スバル君!?』(委員長の真似声)

スバル『くーくー・・・鬼・・・』

ウォーロック『・・・』

スバル『くーすー』

ウォーロック『・・・テスト・・・』

スバル『!、そうだったーっ!』

スバルは、一瞬にして目覚めた!

ウォーロック『(こいつ・・・本当に寝てたのか?)』

数分後・・・

キーンコーンカーンコーン

スバル『(ホッ・・・間に合った)』

先生『ではテストを始めます今から算数からやりましょう』

スバル『(いきなり算数ーっ!)』

ゴン太『(・・・終わった・・・)』

キザマロ『(いいでしょう受けてあげましょう)』

委員長『(出来るかしら、まー私に解けない問題なんてないわオー

ホホホホ)』

先生『皆さんテストの紙がいききましたか・・・では・・・』

キーンコーンカーンコーン

先生『始めっ!』

皆はいっせいに始めた

スバル「……（意外といけそう）」

ウォーロック「（……暇だ）」

生徒（男の子）「ゴン太君なにしてんだろ……」

ゴン太「……」

鉛筆を転がしていた……

コロコロ……

「3」

ゴン太「（3か!）」

委員長「（この問題……簡単ですわ……）」

キザマロ「（ゴン太君なにしてるのでしょうか?）」

ゴン太「ぐーぐー」

寝ていた……

そして……

キーンコーンカーンコーン

ゴン太「お……終わった……」

キザマロ「ゴン太君まだですあと「国語」があります」

ゴン太「……」

さあー

ゴン太は灰になった

ゴン太「がくっ」

キザマロ「ゴン太くうーん!」

スバル「がんばったね」（自分に言っている）

ウォーロック「テストって……やばいのか?」

ゴン太「に……肉……川の向こうに牛丼が……」

スバル「（まさかゴン太がこんなになるとは……おそろるべし! テ

スト!）」

そのあと地獄のテストは続くのであった

- スバルの夢の中 -

スバル「やったあ！宇宙にきたぞ、すごいやこころが宇宙か」

ゴゴゴゴゴゴ・・・

スバル「あれ？なんの音」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

スバル「うわぁーこっちにくるー」

そのとき

ウォーロツク『スバルは俺が守る！』

スバル「ロツク！」

ウォーロツク『うおおおおおおおおお』

スカッ

ウォーロツクの体をすり抜けた

スバル「ぎゃあああああ・・・・・・・・・」

・・・・・・

・・・・・・ガバア！

スバルは起きた

スバル「・・・夢でよかった」

そのあとしばらく眠れなかったそうなの・・・

おまけ次回も続く！

第39話 地獄のテスト（後書き）

おまけネタ&感想待ってるぜえええええ！

第40話 地獄のあとの誘い（前書き）

今回の話は、テストの後の話です。

第40話 地獄のあとの誘い

キーンコーンカーンコーン

放課後……

ゴン太「お……終わった」

スバル「なんか知らないけどテストいけそうな気がする……」

ウォーロツク『ああー、暇だった』

委員長「スバル君！」

スバル「うわっ、委員長！」

イラ

委員長「なに、その反応は!?!」

スバル「ご、ごめんなさい」

委員長「まあいいわ、スバル君今週の(土)曜日あいてる?」

スバル「え……あいてるけど……?」

委員長「じゃあ、デパートに行きましょうよ！」

スバル「うん、行こう」

委員長「じゃあ、きまりね」

ゴン太「楽しみだなー……ジュール」

キザマロ「(ゴン太君は食べ物狙いですね)」

スバル「(それにしても今日もライオ君居ない……どうしたのかな?)」

ウォーロツク『スバル、早く帰ろうぜ!』

スバル「そうだね……」

スバルは、家に帰った……しかしある所では……

ハナ「くっ……」

次郎「弱いな……おまえ」

ハナ「うるさいわね! あんたも負けたでしょ!」

????2「やめる……」

????4「そうですよ……次は……私が……ヒヒヒ」

「????5」(ロックマンか・・・楽しめそうだ・・・)「

そして(土)曜日

バス停

スバル「・・・」

キザマロ「・・・」

ゴゴゴゴゴ

委員長「お・・・せい
すると

ゴン太「ゴツメーン」

スバル「！」

委員長「おつつっそーいーい！」

ゴン太「ヒイイイ」

キザマロ「(あーあー・・・)」

ゴン太「ご、ごめんなさい」

委員長「まったくもう」

そのとき

プップー

バスがきた

委員長「いくわよ」

スバル・ゴン太・キザマロ「」「はい!」「」

皆はバスに乗った

おまけ

・ウォーロック番長 ほかの番長現る

ウォーロック番長「うおおお番長バアアアンチ」

「ぐえっ」

ウォーロック番長「さあ金よこ・・・」

ハーブ女子高生「やめなさいーい」

ドカッ

ウォーロック番長「いつてーなにすんだこのブ……」
バキィ

ウォーロック番長「な……なんか変な音したぜ……」
そのとき

???「ブローロー」

ウォーロック番長「お……おまえは……」

オックス番長「おまえには仮があるだからかえすぜ」

ウォーロック番長「……だれだっけ……」

オックス番長「ガアーン」

ウォーロック番長「？」

オックス番長「くっそーおぼえてろよー（涙）」

勝者ウォーロック番長……

ウォーロック番長たぶん続く！

第40話 地獄のあとの誘い（後書き）

感想&おまけネタ待ってます！

第41話 マジックデパート（前書き）

明日は七夕ですね、あー、「3DS」ほしー！
今回のロックマンは、マジックデパートに来た話です。

第41話 マジックデパート

数分後・・・

『次はー「マジックデパート」の入り口前ー繰り返しします・・・』

そして・・・

委員長「ついたわ!」

スバル「そいえば、委員長は何を買ったの?」

委員長「そ・・・それは・・・」

ここから少し委員長の想像に入ります

パレードを見ている委員長とロックマン

ロックマン「きれいだ・・・委員長」

委員長「そうね・・・このパレード」

ロックマン「ちがうよ」

委員長「えっ」

ロックマン「君の瞳がきれいだ・・・」

委員長「ロ・・・ロックマン様・・・」

想像終了

委員長「フッフ」

スバル「い、委員長?」

委員長「・・・ハッ、何でもないわホホホ」

ウォーロック『・・・』

スバル「・・・」

委員長「さあいきましょうか・・・」

ゴン太「うおおお、食べるぞおおお!」

キザマロ「(やっぱり食べるだけですね・・・ゴン太君は)」

そして皆はマジックデパートに入った

スバル「おおっ」

キザマロ「本で見るよりすごいですね」

ゴン太「あそこにレストランがある!」

委員長「パレードをやる時間は・・・午前ね！」

スバル「パレード？」

委員長「そうよ、パレードを見るために来たのよ！」

スバル「へ、へえ」

ウォーロック「（ただ見るだけかよ）」

委員長「まだ時間があるからご飯にしましょう！」

ゴン太「うおおおめしいい！」

そして皆はご飯にした

???4「ヒヒヒ来ましたね・・・ウォーロック！」

???「カカカ、ハヤクヤロウヨ」

???4「あせるなよ・・・やるのは、パレードが始まったらだ・・・

・ヒヒヒ」

そしてパレードが始まるまで30分・・・

おまけ

・フラワー・ピンクの戦いのあと

先生「スバル君・・・」

スバル「ご、ごめんなさい」

先生「授業をサボった事はいいの」

スバル「へ？」

先生「先生は、なんでそこに響ミソラちゃんが居るのか言ってるのよ」

スバル「（そつちかーっ！）」

先生はミソラの大ファンだったのだー

おまけ次回も続く！

第42話 パレード(前書き)

今日は、七夕だあああ！うおおお「3DS」がほしいい！！
・・・さて今回のロックマンもなにやら怪しい影が・・・

第42話 パレード

マジックレストランでは・・・

ゴン太「うめええ」

スバル「本当においしー！」

委員長「（あー早くパレード始まんないかなー）」

キザマロ「あと15分後です」

委員長「キザマロなんで私の心読めたの？」

キザマロ「わかりません」

ゴン太「おかわりするぜえ！」

キザマロ「まだ食べるんですか!？」

ゴン太「おうよ」

ウォーロック「スバルもこれぐらいたべねえと、強くなれねえぞ！」

スバル「ははは・・・」

そして15分後・・・

ピンポン パンポン

『パレードが始まります。見たい人は、パレードスタジアムに来て

ください、繰り替えます・・・』

委員長「さあ行きましょう！」

ゴン太「まって、あとこのに・・・」

キザマロ「委員長はもう行きましたよスバル君も」

ゴン太「・・・」

そしてパレードスタジアム・・・

ワーワー

委員長「すごい人ね・・・」

スバル「そうだね」

委員長「スバル君1つお願いがあるのよ」

スバル「えっ、なに」

委員長「スバル君! ロッ・・・」

『それでは始まります』

ワーワーワー

ワーワーワー

委員長「うるさいわねー」

スバル「で、何」

委員長「だからロック……」

ワーワーワー

『それではーパレードの主役のロッキーさんです!ー』

ワーワーワー

委員長「……」

スバル「ロックがどうかしたの？」

ウォーロック「ん?」

委員長「な……なんでもないわ……」

ワーワーワー

ロッキー「みなさんこのパレードに来ていただきありがとうございます!」

ワーワーワー

ロッキー「それでは楽しい……地獄のパレードをお楽しみください!」

スバル「!」

ウォーロック「スバルここから逃げろ!」

スバル「うん」

スバルはその場所から逃げた、すると下からフーセンが現れて人をフーセンの中に吸い込んだ!

スバル「ふー、あぶない……」

委員長「きゃああ何これ!」

スバル「委員長!」

委員長は、フーセンに吸い込まれた

おまけ

・もしもゴン太がロックマンだったら・

ゴン太「うめええ」

ウォーロック「・・・」

ゴン太は、牛丼を3杯食べた

そのときウイルスが現れた

ゴン太「いくぞロック！」

ウォーロック「お、おおっ」

ゴン太「トランスコード・シューティングスターロックマン！」

キイーン

その姿は丸いロックマンだった！

おまけ次回も続く！

第42話 パレード（後書き）

感想待ってます！

第43話 地獄のパレード(前書き)

今日は少し涼しいですね。

今回は、とうとう謎の敵現る！

第43話 地獄のパレード

ロッキー「ヒヒヒ」

????『ウォーロックヲデリート』

ロッキー「そうだな・・・やるぞマジジャン！」

マジジャン『オー』

ロッキー「電波変換」

キイイン！

????「ヒヒヒ・・・」

ウォーロック『！、スバルあれを見る！』

スバル「あれは・・・」

ウォーロック『たぶんあいつだ！』

スバル「あいつを倒せば委員長を助けられるかも・・・やろうロクク！」

ウォーロック『ああっ』

スバル「トランスコード・シューティングスターロックマン！」

キイイン！

委員長「ロックマン様」

ロックマン「委員長、まっててね！」

委員長「はい」

ロックマン「ロック！」

ウォーロック『あのでかい物の上に居るぞ！』

ロックマン「わかった」

????「・・・来る・・・ヒヒヒ」

すると????は、でかい物の電脳に入っていた

ロックマン「待てーっ！」
ロックマンも電脳に入っていた

- - - パレードの建物電脳 - - -

ロックマン「ここか・・・」

ゴロゴロ・・・

ウォーロック「スバル・・・これ何の音だ？」

ロックマン「ん？」

ロックマンが後ろ向くと・・・

ゴロゴロゴロゴロ

大きなボールが転がってきた！

ロックマン「わわっにげるー」

ロックマンは必死に逃げているすると・・・

ロックマン「わわっ道が2つにわかれてるーどっちロック」

ウォーロック「さあ？」

ロックマン「ええええっーっじゃ右！」

ロックマンは、右にいった・・・すると・・・

道が途切れていた・・・

ロックマン「わっ・・・」

ロックマンは落ちそうになった・・・

ロックマン「ふうーあぶなかつたー」

ウォーロック「スバル、後ろ！」

ロックマン「えっ・・・」

ロックマンはボールにあたってしまった・・・

ロックマン「うわあああ」

ロックマンは下に落ちてしまった・・・

第43話 地獄のパレード(後書き)

ピンチロックマン次回ロックマンの行方は・・・

第44話 グリーン・マジック(前書き)

すみません・・・前の回のおまけ書けませんでした・・・
今回のロックマンも見逃せません！

第44話 グリーン・マジック

ロックマン「うわあああ」

????「ヒヒヒ落ちたな……」

マジジャン『アソコニワ、ウイルススタクサンイル』

????「ヒヒヒどうする、ロックマン……ウォーロック！
ドサッ！」

ロックマン「いててて……あれ？」

ウォーロック『なんだこの玉？』

ロックマンが落ちた場所は小さい玉がたくさんある場所だった
ロックマン「さわってみよ……」

ロックマンは触ってみた……
ちよん

すると玉が動き始めた
ぐによくによ

ウォーロック『うわっ気持ちわるっ』

すると玉がウイルスになった！

ロックマン「ええっどうなってるのーっ！」

さらに次々と玉がウイルスになっていく

ウイルスはロックマンに襲い掛かってきた！

ロックマン「くっカウントボム！」

ピ・ピ・ピ・ピーー！

ポオオオオオン

ウイルスがどんどん消えてゆく

そして……

ロックマン「ふうー終わった……さあ行こう！」

このころゴン太達は……

ゴン太「はあはあついたー」

キザマロ「食べすぎですよ、ゴン太君！」

ゴン太「うわっなんだこれっ!？」

キザマロ「あっあのフーセンの中に委員長がいます！」

2人は委員長の近くに行った

委員長「ロックマン様」

ゴン太「・・・」

キザマロ「うかれてますね・・・」

委員長「ロックマン様」

そのころロックマンは・・・

???「ヒヒヒ・・・ん？」

ロックマン「はあはあ・・・」

???「きたな・・・ヒヒヒ」

ロックマン「僕はおまえを倒す！」

???「ウォーロック・・・ヒヒヒ」

ウォーロック「!・・・おまえ」

グリーン・マジック「そう・・・私はDM星人・・・グリーン・マ

ジック!そしてこいつは俺のパートナーのマジジャン」

マジジャン「ウォーロック」

ロックマン「今すぐフーセンを消して！」

グリーン・マジック「ヒヒヒやだね 消してほしければ私を倒して

みなさい・・・ヒヒヒ」

ロックマン「グリーン・マジック、おまえを倒す!ウェーブバトル

!ライドオン！」

おまけ

・小さいころのキザマロ・

4年前のキザマロは・・・

キザマロ「・・・」

ゴン太「なんだ？キザマロ」

キザマロ「でかい・・・」

ゴン太「何が？」

キザマロ「背です・・・6年になったらゴン太君をこえます！」

そして・・・現在・・・いまだ越えられず・・・

おまけ次回も続く！

第44話 グリーン・マジック(後書き)

七夕・・・もう終わってしまっ・・・

第45話 グリーン・マジックの力！(前書き)

今回のロックマンはとうとう決闘！

第45話 グリーン・マジックの力！

ロックマン「いくぞ、ロックバスター！」
デュン

グリーン・マジック「マジックシールド！」
ロックマン「なっ」

ロックバスターはマジックシールドにあたったてさらに跳ね返ってきた

ロックマン「わわっ」

ロックマンはスーパーバリアを使った

ロックマン「ふうー危なかったー」

ウォーロック「スバル油断するなくなるぞ！」

グリーン・マジック「ヒヒヒ次は私からいきます・・・マジックビーム！」

ビィィィーッ！

ロックマン「ぐあああっ」

ロックマンはまともに当たった

ロックマン「はあはあ・・・！」

ロックマンはしびれて動けなかった

ロックマン「こ、これは・・・」

グリーン・マジック「マジックビームは相手を少しだけ動けなくする技だ」

ロックマン「まだだ・・・くっ」

クリーン・マジック「動かさせませんよ！ヒヒマジックソード！」
ズバン！

ロックマン「ぐはっ」

グリーン・マジック「・・・さあウォーロックをわたせ・・・ヒヒヒ」

ロックマン「くっ・・・（強い・・・）」

グリーン・マジック「ヒヒヒ・・・渡してもらいましょうか・・・ヒヒヒ」

ウォーロック『くっ・・・どうすれば・・・』

グリーン・マジック「・・・そうですか・・・渡さないつもりですね、だったらむりやり取るまでです・・・ヒヒヒ、マジックストーン！」

ロックマンの上から大きい岩が落ちてきた

ロックマン「うわあああ」

ウォーロック『これまでか・・・！、この感じは、まさか・・・』

そのとき大きな光がやってきた

キーーーーーン

ロックマン「・・・えっ」

岩が2つに割れていた

ロックマン「こ・・・これは」

???「大丈夫かロックマン！」

ロックマン「ア・・・アシッド・エース！」

アシッド・エース「遅れてすまなかったなロックマン！」

ロックマン「なんでここに・・・」

アシッド・エース「話はあとだやるぞ！」

ロックマン「はい！」

おまけ

- 新キャラ -

作者「どーもーレッドスターです、急にですが新キャラクターを俺のほうに送っていただけばなんと、そのキャラを絶対に出します。締め切りは、7月9日 8月31日までです、皆どしどし送ろう！なお1人1回までです、送りかたは「名前・しゃべりかた・性格・どんなことをするか」です。

それでは、またあいましょー」

おまけ次回も続く

第45話 グリーン・マジックの力！（後書き）

……というわけでよろしくお願いします。

第46話 アシッド・エース！（前書き）

最近眠くて眠くて・・・たまりません！
今回のロックマンはアシッド・エース登場！

第46話 アシッド・エース!

グリーン・マジック「ヒヒヒ、仲間が増えようとおまえの負けは決まってる……」

アシッド・エース「それはどうかな……」

グリーン・マジック「!(速い!)」

アシッド・エース「はああ」

ズバン

グリーン・マジック「ぐうう!」

アシッド・エース「いまだロックマン」

ロックマン「はい、ロックバスター!」

デュン

グリーン・マジック「ぐぐ……」

ロックバスターは命中した……

ロックマン「くっ……(力が……)」

アシッド・エース「なにしてるロックマン!」

ロックマン「くっ……もう……」

アシッド・エース「……ロックマンこれを受け取れ!」

ロックマンは何かを受け取った

ロックマン「これは……」

アシッド・エース「それは「RKプログラム」ロックマンを強くするプログラムだ……しかしまだ試作品……ロックマンにもなんだかの影響を受けるかもしれない……」

ロックマン「……やります……」

ロックマンは、「RKプログラム」を起動した

『「RKプログラム」起動シューティングスターロックマン同化』

カッ!

Q1、好きな漫画は何ですか？

A、ナルトとかロックマンとかマリオくんとか・・・
ミソラ「そんなに読むんだ・・・」

Q2、ロックマンシリーズでは何が好きですか？

A、えーと・・・ロックマンEXEと流星のロックマンです・・・
ウォーロック「1つにしろよ・・・」

Q3、最後の質問です、とんこつラーメン好きですか？

A、食べれますけど好きではありませんね・・・
スバル「最後の質問必要あるの？」

おまけ次回も続く！

第46話 アシッド・エース！（後書き）

感想まつて・・・まーす！

第47話 RKプログラム！ロックキャノン！（前書き）

今回の話はロックキャノンというプログラムができましたが果たしてこの先にもこのプログラムが役にたつのか……っ！

第47話 RKプログラム！ロックキャノン！

グリーン・マジック「ぐあああ
ドサッ

グリーン・マジックは倒れた

ロックマン「はあはあ．．．やった．．．ぐっ」

ロックマンはひざをついた

ウォーロック「おいおい大丈夫か．．．」

ロックマン「うん．．．だいじょ．．．う．．．ぶ．．．」

バタッ

ロックマンは倒れた

ウォーロック「スバル!？」

アシッド・エース「大丈夫さ、気絶してるだけだ．．．」

ウォーロック「そうか．．．よかった」

ロックマン「．．．」

そのとき

マジジャン「ハアハアウォーロック」

ウォーロック「まだ居たのか」

マジジャン「ウォーロックキミハ、キケンナソンザイ．．．イカス

ワケニハイカナイ」

ウォーロック「どうしてだ．．．」

マジジャン「ウォーロックハ、ミツカゴ．．．ミンナヲキズツケル

コトニナル．．．」

ウォーロック「俺が．．．」

マジジャン「ソノイシガアルカギリ．．．」

ウォーロック「うるせー消える！うおりやややや」

ズバン

マジジャン「ぎゃああ」

シュン

ウォーロック「逃げたか・・・」
アシッド・エース「三日後って・・・」
ウォーロック「俺が・・・皆を・・・」
そして・・・現実世界にでた・・・
スバル「・・・ん・・・」
委員長「スバル君！」
ゴン太「スバル！」
キザマロ「スバル君」
スバル「皆・・・無事だったんだ・・・ぐっ」
暁「まだ動かないほうがいい」
スバル「は、はい・・・暁さん・・・」
暁「なんだ」
スバル「なんでここに？」
暁「ああそれは・・・スバルに言いたい事があったんだ・・・」
スバル「はい・・・」
暁「最近ウォーロックが狙われてるみたいだね」
スバル「はい」
暁「ウォーロックを狙っている組織の名前がわかったんだ」
スバル「それは・・・」
暁「「ダークムーラ」だ！」
ウォーロック「（なんかラ・ムーと似てるな・・・）」
スバル「「ダーク・ムーラ」・・・」
ウォーロック「おいそいえばこの「RKプログラム」はなんだ」
暁「このプログラムは、ロックバスターの進化版ロックキャノンだ、
攻撃力も命中力もあるが・・・問題は自分にも負担がかかることだ・
・・・」
スバル「どうしたら負担かからずに出来ますか・・・」
暁「1つある・・・」
スバル「それは・・・」
暁「最強の体・・・もしくは最強の・・・ヨロイだ」

スバル「……最強のヨロイ……」

おまけ

- 作者とウォーロックのコント -

ウォーロック「……コントってなんだ？」

作者「(ええーっ！そこから!?)」

ウォーロック「おい!なんだ」

作者「コントってのはお笑いみたいな事だよ」

ウォーロック「ふーん……お笑いってなんだ？」

作者「(まじで!知ってると思ったのに……)」

ウォーロック「？」

作者「えーと長くなるからパツパツと説明するね……カクカクジ

カジカ」 省略

ウォーロック「おおっそうだったのか人を笑わせるのか」

作者「そうだよ」

ウォーロック「……どうやって？」

作者「……」

作者は決めた……「もうやめよう」って決意したのであった……

おまけ次回も続く!

第47話 RKプログラム！ロックキャノン！（後書き）

感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってます！

第48話 黄金の石の秘密(前書き)

ロックマン、オリジナルキャラクター今日から送れます、皆も送ろう！

なお1人1回までです。

第48話 黄金の石の秘密

スバル「・・・ヨロイ・・・」

ウォーロック「！、スバルそいえばグリーン・マジックが言ったんだが三日後ってなんかあるのか？」

スバル「三日後・・・あつ！そいえばその日「まんげつ」が出る日だ！」

ウォーロック「（まんげつ・・・）」

暁「スバル、その金色の石はなんだ？」

スバル「あつ、この石は「黄金の石」だよ、父さんからもらったんだ！」

暁「（もしかして・・・あいつがいった石って・・・このことか）」

すると暁が・・・

暁「スバルちよつと来てくれ・・・」

スバル「？」

WAXA^{ワクサ}

スバル「久しぶりだなあWAXA^{ワクサ}」

ウォーロック「過去に行つてからきてねえもんな」

「???」あらあらスバルちゃんロックちゃん

ウォーロック「ぐつ・・・」

スバル「ヨイリー博士！」

ヨイリー「久しぶりね・・・」

暁「ヨイリー博士、スバルが持つてるこの石を調べてください！」

ヨイリー「はいはい・・・」

スバルは黄金の石を渡した

そして・・・そのころ・・・

ダークムーラ組織

「???2」・・・そろそろ俺行くぜ・・・ウォーロックを始末しに」

「???5」まで・・・まだ行くのは三日後だ・・・」

「???2」なんだ・・・それに三日後って言ったら・・・」

次郎「そうだぜ・・・」

ハナ「そうよ・・・今じゃないと」

「???5」いいんだ・・・これで三日後ならウォーロック自分でくる・・・それに「星河 スバル」

がいる限りウォーロックの力は半減する、つまりこれがチャンスだ！」

ハナ「そうなんだ・・・」

「???5」ウォーロックかならず私たちがおまえを始末するそうこの組織「ダークムーラ」が！」

「???2」なら三日後、俺が行くぜ・・・」

「???5」いいですよ・・・」

「???2」ニヤツ」

そのころWAXA^{ワックス}では・・・

スバル「・・・」

ヨイリー「わかったわー!」

スバル「えっ」

そして・・・

ヨイリー「これはね・・・ロックちゃんの一部よ!」

ウォーロック「!」

おまけ

- 緊急ニュース! -

作者「なーーんと、とうとう新たな章に行きます、たぶん第50話くらいから入りますさらに物語もドドンと急展開も!新たな

章、新たな展開も見逃せない！そして、その章の名は・・・
次回判明！お楽しみに！」

おまけ次回も続く！

第48話 黄金の石の秘密（後書き）

感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってまーーーーす
！

第49話 ウォーロックの一部（前書き）

どーもーレッドスターです。

今日も祭りだあああチョコバナナをくいます！

今回はとうとう新章の発表です！発表はおまけで！

第49話 ウォーロックの一部

ウォーロック『どういうことだよ……』

スバル『ロックの一部……』

ヨイリー『でもねこの石今はぜんぜんがいは無いの』

スバル『今……は？』

ヨイリー『ええ……三日後になにか起こるかもしれないわね……』

ウォーロック『……』

暁『とりあえず三日後ウォーロックを監視します』

ヨイリー『そうね……それがいいわ』

スバル『はい』

ヨイリー『スバルちゃんもう遅いから帰りなさい』

スバル『はい』

スバルは外に出た……

スバル『！』

ウォーロック『どうしたスバル上向いて』

スバル『（三日後は……まんげつ……）』

ウォーロック『おい』

スバル『（ロックとなにか関係があるのかな……）』

ウォーロック『おーいーいスバルーいーッ！』

スバル『ど、どうしたの？』

ウォーロック『さっさと帰ろうぜ』

スバル『あ、うん』

ウォーロック『（なに考えてたんだスバルのやつ）』

そして……

ガチャ

スバル『ただいまー』

茜『おかえりスバル』

大吾「遅かったなどこ行ってた」

スバル「あ、うんちよつとWAXAワックスに」

大吾「そうか」

茜「ごはん出来てるわよ」

スバル「わかつたー」

ウォーロック「・・・なあ大吾」

大吾「なんだ」

ウォーロック「あの黄金の石ってなんだ」

大吾「・・・そうか・・・とうとうこひの時が来たか・・・」

ウォーロック「この時？」

大吾「たぶん知っているかもしれないがあれはウォーロックの一部だ、あれはウォーロックの本当の力を引き出せる石だ・・・さらにあの石は、おまえの記憶でもある・・・」

ウォーロック「俺の記憶・・・」

大吾「さらにこの石はまんげつの夜に反応するんだ・・・」

ウォーロック「やはりそうか・・・」

大吾「しかし・・・これだけは言える事がある・・・」

ウォーロック「なんだ」

大吾「おまえは確実に自分を失う・・・」

ウォーロック「！」

スバル「ふー食ったー・・・ロック？」

ウォーロック「・・・」

そして二日後の夜・・・

WAXAワックス

暁「今夜は、ここにとまるんだスバル」

スバル「はい」

ヨイリー「明日ね・・・」

ウォーロック「（明日の俺は・・・どうなっちまうんだ・・・）」

そして・・・次の日の朝・・・

おまけ

- 緊急ニュース!2 -

作者「いや どもレッドスターです、とうとう次回からの章が発表!その名は…….」

「ライオールの章」です!いやあ 章か……なんかいいね!それとオリジナルキャラクターを送ってくれた人いましたありがとう
ございます!」

おまけ次回も続く

第49話 ウォーロックの一部(後書き)

次回とうとう新章です！

感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってます！

第50話 ウォーロック！（前書き）

とうとう新章始まりました！
ライオーガの章もよろしく！

第50話 ウォーロック!

スバルは走っていた

スバル「はあはあ・・・ここは・・・」

そのとき

???「ガアアアオオオオオオ」

スバル「!(これは・・・)」

???「グガアアアアアア」

スバル「まさか・・・ロック・・・」

ウォーロック「ガアアアアアアアアアアオオオ」

スバル「ロック!」

ウォーロック「グオオオオオオオオオオ」

ウォーロックは攻撃しようとしている・・・

スバル「ロッククイーーンツ!」

バアアアン!

スバル「!」

スバルは起きた・・・

スバル「・・・夢・・・」

スバルは窓のカーテンを開いた
カッ

スバルの顔に光があたった

スバル「うわっ」

スバルはまた寝転んだ

ウォーロック「ハハハ情けねーな!」

スバル「ぐ・・・目が・・・」

ウォーロック「(今日の夜・・・俺は・・・)」

スバル「(ロックは・・・)」

暁「スバル起きろー」
スバル「は、はい」
ウォーロツク「お．．．おい！までスバル！」
そして．．．
スバル「いち．．．にー、さん．．．し．．．」
ヨイリー「スバルちゃんもつと声を大きく」
スバル「は．．．はい！いち！にー！さん！し．．．」
ウォーロツク「なんであんなに元気なんだ？」
暁「さあ」
ウォーロツク「おまえはやんねーのか？」
暁「体操だけは．．．」
ウォーロツク「．．．」
暁「．．．」
そして．．．
スバル「ゼーゼーはいはい」
ウォーロツク「たらしねーな」
スバル「いま何時ですか暁さん」
暁「8時30分」
スバル「（約1時間！）」
暁「腹減ったな．．．くうか」
ウォーロツク「なにを．．．」
暁「サクサクうまい！」
スバル「（またうまい棒．．．ナポリタン味だ！）」
ヨイリー「ごはん出来たわ」
スバル「わーい」
ウォーロツク「（俺には関係ないな．．．）」
スバル「．．．うまそう」
ヨイリー「どんどん食べてね」
スバル「いただきまー．．．」
「博士！」

ヨイリー「なんでしょう」

「お客様です」

暁「（お客様つて・・・レストランかつ！普通に客でいいだろ！）」

ヨイリー「・・・あらルナちゃん！」

委員長「スバル君！」

スバル「委員長！」

ゴン太「よっ」

キザマロ「やあ」

スバル「ゴン太、キザマロなんでここに！」

委員長「3人とも心配してたのよ！」

スバル「3人？」

「???」「スバル君！」

スバル「あーっミソラちゃん！」

ミソラ「やつほー」

スバル「でも・・・」

暁「俺がよんだ」

スバル「でも危険じゃー・・・」

ミソラ「私たちのことは気にしないで！」

ゴン太「おう」

委員長「そうよ！」

キザマロ「です・・・」

委員長「それに私達はブラザーよ！だから私達のことには気にしない

で！」

スバル「皆・・・」

暁「それより早く食べよう！」

スバル「わすれてた・・・じゃー」

皆「いただきます」

おまけ

- 緊急ニュース!3 -

作者「なんとロックマンの新キャラを送ってきてくれた人は一人で
す!・・・少ないけど嬉しい!
皆もどしどし送ろう!」

第50話 ウォーロック！（後書き）

感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待っぜ！

第51話 ソロ登場(前書き)

今日はいい事あった・・・まじで、
すげえーうれしい・・・

第51話 ソロ登場

????2「……ここかWAXAは……」
ワクサ

????「なにをしている」

????2「だれだ！」

ソロ「俺はソロ……おまえを倒しに来た……」

????2「ソロか……（どっかで聞いたことあるな）」

ソロ「……電波変換！」

キイイイン

ブライ「……」

????2「！……やはりお前は孤高の戦士ブライだったか……」

ブライ「……来い！」

????2「電波変換！」

キイイイン！

ダーク・ナイト「……」

ブライ「！（この感じは……なんだ!?)」

ダーク・ナイト「いくぜーっ！」

ドオオオオオン

スバル「！」

ウォーロック「なんの音だ」

暁「外に出てみよう！」

スバル「委員長達はここで待っててね」

ミソラ「スバルくん……」

ゴン太「気よつけるよ！」

スバル「うん！」

そして外に出た・・・そこには・・・

スバル「！」

ウォーロック「あいつは・・・ダーク・ナイト！」

スバル「それにブライ！」

ドゴオオオン！

ブライ「くっ・・・」

ダーク・ナイト「やるな・・・」

ブライ「ラプラス！」

ラプラスは剣になった！

ブライ「はああ」

ズバァン！

ダーク・ナイト「くはっ・・・」

ブライ「これで終わりだ！」

ダーク・ナイト「（いまだ）ダークブレイド！」

ズドオオオン

ブライ「ぐうああああ」

スバル「ブライ！僕達もやろう！」

ブライ「来るな！」

スバル「！」

ダーク・ナイト「強気言いやがって・・・素直になれ・・・」

ブライ「だまれっ・・・俺は孤高の戦士ブライ・・・人の手などいらない・・・」

ダーク・ナイト「ククク、素直じゃねーな！」

ブライ「！」

ダーク・ナイト「きえろー！ームーの生き残りー！ー」

ズバンッ！！！

ブライ「・・・」

ダーク・ナイト「……………ぐふっ」
ドサッ

スバル「やったあ」

キイーン

ダーク・ナイトの変身が解けた

スバル「……………君は……………」

おまけ

- バトルカードの紹介 -

? 5 「エアスプレッド1」 ヒットした所からV字にゆうばくする、
3 ヒット攻撃!

? 6 「エアスプレッド2」 エアスプレッド1の進化版X字にゆうば
くする、3 ヒット攻撃!

? 7 「エアスプレッド3」 ヒットすると周りの8マスにゆうばくす
る、3 ヒット攻撃!

? 8 「マッドバルカン1」 前方に5連射!さらに奥にもゆうばくす
る!

? 9 「マッドバルカン2」 前方に8連射するバルカン攻撃!後ろに
もゆうばく!

? 10 「マッドバルカン3」 前方に12連射する、この小説でもよ
く使うぞ!

おまけ次回も続く!

第51話 ソロ登場（後書き）

久しぶりにダーク・ナイトを出しました！
感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってマース！

第52話 ダーク・ナイトの正体(前書き)

あ・・・頭が痛い・・・今回のロックマンもよろしく

第52話 ダーク・ナイトの正体

スバル「!・・・キミは・・・ライオ君・・・」
ライオ「・・・ちっ」

スバル「な、なんで」

ウォーロック『やはりな・・・あいつが学校に来た時から変な感じがした!』

スバル「ライオ君、なんでこんな事を!」

ライオ「やらなくちゃならねーんだ!」

スバル「!」

ライオ「・・・やるぞ・・・」

ブラック・ナイト『いいぜ』

ライオ「電波変換!」

キイイイイン!

ダーク・ナイト「ククク」

ブライ「おまえは俺が倒す!」

ダーク・ナイト「・・・」

ブライ「はあああ!」

ズバン!

ブライ「くっ・・・」

スバル「ブライ!」

ウォーロック『あいつがやられただと!』

ダーク・ナイト「今度は本気でウォーロックを始末する!」

スバル「・・・」

ウォーロック『・・・やるぞスバル!』

スバル「で、でも・・・」

ウォーロック「甘つたれるな！」

スバル「！」

ウォーロック「あいつは敵だ！いつまでもそんな事いうな！」

スバル「・・・わかった・・・やろう！」

ダーク・ナイト「やっとやる気になったか・・・」

スバル「トランスコード・シューティングスターロックマン！」

キイイイン！

ロックマン「・・・」

ダーク・ナイト「・・・来い！」

ロックマン「ウェーブバトル・ライドオン！」

ダーク・ナイト「食らえ！ダークブレイドーーッ！」

ズドオオオ

ロックマン「スーパーバリア！」

ダーク・ナイト「防いだか・・・だが」

ロックマン「ロックバスター！」

デュン デュン！

ダーク・ナイト「くっ・・・（けっこうやるな・・・だが・・・あと少し）」

ロックマン「マッドバルカン3！」

ガガガガガガガガガガガン！

ダーク・ナイト「ブラックシールド！」

ロックマン「何っ!？」

ダーク・ナイト「そんなよわつちい攻撃などきかねえよ！」

ロックマン「まだまだ・・・！」

ロックマンの動きが一瞬止まった

ウォーロック「どうしたスバ・・・！」

ウォーロックはなにかを感じた・・・

ドックン　ドックン

ウォーロック『(なんだ……この胸騒ぎ……)』

ロックマンは上を見た

ロックマン「！」

・　ロックマンがみたものは……うつすらとまんげつが見えていた……

第52話 ダーク・ナイトの正体（後書き）

次回番外編！（特別編ではありません）

番外編 謎の作者？&主人公なしストーリー (前書き)

主人公なしっと言ってもうオーロックは居ます

番外編 謎の作者? & 主人公なしストーリー

番外編ストーリー1

??? 「ふはははははっ」

スバル 「君だれ？」

??? 「なっスバルだっ！皆ー出てこーい！」

スバル 「ええっなんでーっ！」

.....

??? 「.....」

スバル 「.....来ないね」

??? 「.....あつ.....思い出した.....用事が.....

.....」

.....」

ウォーロック 「うそだろ！」

??? 「ぎゃー！ウォーロックだー！」

ウォーロック 「なっ.....テメー.....」

スバル 「.....あれよく見たら.....」

ウォーロック 「作者じゃねーか！」

作者? 「へ？」

ウォーロック 「おおっあのコント以来だな」

作者? 「へ? (コント?)」

スバル 「ぜんぜん気がつかなかったよ」

作者? 「えっ.....あのぼっよーし作者!一緒に暴れようぜ!」

スバル 「だめだよロツ」 「いこうぜ!」

作者? はウォーロックとともにどっか行ってしまった.....

そのころ本物は.....

作者「やった！いいネタ思いついたぞーっ！」
なんと小説を書いていた！
しかし1つ謎が・・・果たしてウォーロックが連れて行った作者？
は誰なのか・・・誰も知らない

番外編ストーリー2

ウォーロック「・・・ひまだースバルのやつどこに行ったんだ？」

・・・

ウォーロック「・・・この小説大丈夫か？」

???「そんなこと言わないで（涙）」

ウォーロック「うわっ作者（泣いてやがる!）」

作者「俺だって本気で書いてるんたよ小説（涙涙）」

ウォーロック「わ、わるかったな・・・（めっちゃ泣いてる!）」

作者「いいんだ・・・俺はな友達に誘われ小説を書いたんだ」

ウォーロック「へ、へえ（なんか語り始めた!）」

作者「小説っていいよね漫画と同じくらい」

ウォーロック「そ、そうだな（漫画?）」

作者「やはり漫画も最高だよ!」

ウォーロック「（あれ小説は？漫画なんてどうでも・・・）」

作者「よくない!」

ウォーロック「なんで心読めたんだよ!」

作者「さあ?」

ウォーロック「ええーっ!」

作者「さっ帰るか!またねウォーロック!」

ウォーロック「お、おお」

作者は去っていった

ウォーロックは思った
ウォーロック『何しにきたんだ？』

おわり

第53話 オックス・ファイアとハーブ・ノート（前書き）

オリジナルキャラクターを送ってくれた人は、3人です（少ない・
・）

第53話 オックス・ファイアとハーブ・ノート

ダーク・ナイト「！（動きが鈍くなった、今だ！）」

ロックマン「！」

ウォーロック「……………」

ロックマン「ロック？ロック！」

ウォーロック「！なんだ？」

ロックマン「どうした……………」

ウォーロック「スバル後ろ！」

ロックマン「え……………」

ズバアン

ロックマン「ぐあああ」

ダーク・ナイト「どうしたんださっきの勢いはどこに行ったんだ！」

ロックマン「（体が重い……………」

ウォーロック「（くそ……………このままではスバルが……………」

ダーク・ナイト「ロックマン……………ウォーロックを渡せばおまえを

みのがしてやる」

ロックマン「く……………」

ダーク・ナイト「渡さないってなら……………こうしてやる！」

ロックマン「なっやめて」

ダーク・ナイト「ダークブレイドー！」

ダーク・ナイトはWAXA本部のほうにやった

そのころ委員長達は……………

委員長「……………」

ミソラ「……………大丈夫かな……………」

ハーブ「平気よ」

ミソラ「そうかな・・・」
ゴン太「・・・俺行ってくる」
キザマロ「だめですよスバル君にいわれ・・・」
ミソラ「行こう！」
キザマロ「えーミソラちゃんまで・・・」
そのとき

ドゴオオオン

ミソラ「きゃ何!?!」
ヨイリー「ルナちゃん達大丈夫？」
委員長「は、はい」
ゴン太「・・・オックス！」
オックス「おう」
ゴン太「電波変換！」

キイイイン

ミソラ「ハープ」
ハープ『いつでもいいわミソラ』
ミソラ「電波変換！」

キイイイイン

オックス・ファイア「いくぞおおおおお」
ハープ・ノート「ええ」
ダーク・ナイト「もう一切り！」
ロックマン「やめろーロックバスター！」
デューン
ダーク・ナイト「そんなの痛くも・・・」

ハープ・ノート「シヨックノート！」
ギイン

ダーク・ナイト「くっ」

オックス・ファイア「オックスタックル！」

ドオオオーン

ダーク・ナイト「ぐあっ」

ロククマン「二人とも・・・どうして」

ハープ・ノート「私達ブラザーでしょ」

オックス・ファイア「助けるのは当然だぜ！」

ロククマン「二人とも・・・ありがとう！」

夜になるまであと・・・5時間後・・・

おまけ

- 作者とスバルのコント -

作者「どーもー作者のレッドスターと」

スバル「ほ、ほ、星河 スバルです！」

作者「スバルくん・・・緊張してるの？」

スバル「へ、平気・・・」

作者「(あっだめそう)」

スバル「・・・」

作者「・・・今回はもう終わりにしようかスバル君・・・」

スバル「・・・」

おまけ次回はお休みします

第53話 オックス・ファイアとハーブ・ノート（後書き）

感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってるよ・・・フハ
ハハハハハ

第54話 電波変換解除！？（前書き）

レッドスターです・・・今少し機嫌が悪いです・・・

第54話 電波変換解除!?

オックス・ファイア「ファイヤー」
ポオオオオオ

ダーク・ナイト「ブラックシールド!」

ハープ・ノート「(今よ) ショックノート!」

ギューイイイン

ダーク・ナイト「くっうおおおブラックシールド!」

ハープ・ノート「えっ2つもシールド出せるの!?!」

オックス・ファイア「いまだロックマン!」

ロックマン「ロックバスター!」

デュン

ダーク・ナイト「ぐあっ」

ロックマン「やった・・・!」

ウォーロック「ぐ・・・ああ」

ロックマン「ロック!?!」

ダーク・ナイト「く・・・ザコはじゃまだああああ!」

オックス・ファイア「!」

ハープ・ノート「!」

ダーク・ナイト「ダークホール!」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

オックス・ファイア「ぐおおお」

ハープ・ノート「きゃあああ」

ロックマン「! オックス・ファイア! ハープ・ノート!」

二人ははじき飛ばされた

ダーク・ナイト「へっザコ倒したぜ・・・次は貴様だロックマン!

ウォーロック!」

ウォーロック「ぐ・・・おおお」

ロックマン「!・・・(なんか・・・体が・・・

動かなく・・・なつてきた」

暁「ロックマン！くっ・・・アシッド！」

アシッド『・・・危険です』

暁「・・・そうか・・・（やはり今俺が行ったとしても・・・）」

ダーク・ナイト「ククク終わりだあああ」

カッ！

ダーク・ナイト「なつなんだ」

キイン

スバル「ん・・・あれ変身が解けてる・・・」

『オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ』

スバル「ロックの声・・・まさか」

ダーク・ナイト「な、なんだ・・・ウォーロックから黄金の光が出ている・・・」

ウォーロック『オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ』

夜になるまであと・・・・・・2時間後・・・

第54話 電波変換解除！？（後書き）

いつもより少し短いですね・・・
感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってる・・・

第55話 暴走！ウォーロック！？（前書き）

夏休みか・・・楽しみです・・・

第55話 暴走！ウォーロック！?

「????」・・・始まってしまった！早く行かないと！」

「????」『おいおいやべえぞ、もうまんげつがはつきりと見えるぜ』

「????」・・・間に合うか・・・」

そのころ・・・

ウォーロック『オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ』

スバル「ロック・・・」

ダーク・ナイト「（この光・・・そうか始まったんだな・・・暴走が）」

スバル「ロック！僕の声聞こえる!？」

そのとき

グラグラ

大地が揺れている・・・

スバル「・・・！」

キイイ

黄金の石が光っている

ダーク・ナイト「ついに来たぞ・・・復習のときが！」

ウォーロック『オオオオオオオオオオオオオオオオ』

ウォーロックの心の中・・・

『暗い・・・ここはどこだ・・・俺は・・・』

オオオオオオオオオオオオオオオオオ

『!・・・これは・・・何の声だ・・・頭の中が・・・真っ白に・・・なる』

ウォーロックは暗い穴の中に落ちていった・・・

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ウォーロツク「グオオオオオオオオオオオ」

ウォーロツクの周りに黒い霧が出てきた、ウォーロツクはその霧に
囲まれた……

ゴゴゴゴ……カッ

雷が落ちたウォーロツク場所に……

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

スバル「ロツクー……ッ！」

スバルはウォーロツクのところに向かっていた

暁「スバル行くな！」

ダーク・ナイト「くっ……なんて力だまさか……これほどとは」

スバル「……ロツク……？」

そこにはウォーロツクではなく大きい怪物がいた

???「グオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
オオオオオオ」

怪物の声だけで地面が割れた

暁「うわっ」

ハープ・ノート「ん……何？」

オックス・ファイア「いてて……なんだあれ」

ハープ・ノート「えっ……」

オックス・ファイア「でっかい怪獣……」

ハープ・ノート「……（スバル君……）」

ダーク・ナイト「クククとうとうこの時が来た！」

スバル「！」

ダーク・ナイト「いまから……ライオーガをデリートする！」

スバル「（これがロツクの本当の姿……ライオーガ……）」

ライオーガ「グアアアオオオオオオオオオオオオウウウウ……」

第55話 暴走！ウォーロック！？（後書き）

おまけはしばらくお休みします8月から再開するのでお楽しみに！
感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってるよ

第56話 ライオーガ（前書き）

とうとうこの物語も激しく動きだした！これからの展開も目が放せない！

第56話 ライオーガ

ダーク・ナイト「ウォーロック・・・いやライオーガを始末する！」
ライオーガ「グガアアアアアアアアアアアアアアアア！！！」

ライオーガがほえると雷が落ちてきた

ピッシャー！！！！

ダーク・ナイト「くっ・・・（さすがに力が半減しててもこんなに強いとは・・・）だが」

スバル「ロック！」

ダーク・ナイト「ダークブレイドーッ！」

ズバァン

ダーク・ナイト「うそ・・・だろ・・・」

ライオーガ「グオオオオ」

ライオーガは地面をたたいた

ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ

ココココココココココココココココココココココココココココ

大地が割れてしまいさらに震度5強ほどに大地が揺れていた
グラグラ

ダーク・ナイト「ぐああ・・・はああ・・・やるじゃねーか・・・」

スバル「くっ・・・まだゆれてる・・・」

委員長「キヤアアアア」

スバル「！委員長？」

スバルは委員長の所に向かった

スバル「委員長！」

委員長「助けて！足が・・・」

委員長の足にたくさんの物がのっかっている

キザマロ「スバル君もてつだってください！」

スバル「うん」

外では・・・

暁「くっ・・・まだかあいつは・・・」

ライオーガ『ガアアオオオオオオオオオオオオオオオオ』

また雷が落ちてきた

暁「・・・このままではWAXAが破壊されてしまう・・・」

ガコン！

スバル「ふう・・・委員長足大丈夫？」

委員長「平気よ」

スバル「よかった・・・」

ドオオオオオオン

スバル「！」

委員長「スバル君・・・どうなってるの外は」

キザマロ「ゴン太君は？ミソラちゃんは？」

スバル「・・・委員長・・・ごめん危険だから言えないよ・・・」

委員長「なんで！」

スバル「・・・行ってくる・・・」

そして・・・

スバル「・・・ロック！」

ライオーガ『グガアアアアアアアアアアアアア』

スバル「元に戻って！」

ダーク・ナイト「はあはあ何を言っている・・・ウォーロックの本
当本の姿はこれだ！」

ライオーガ『ガオオオオオオオオオオオオオオオオ』

スバル「ちがう・・・僕の・・・僕の・・・知っている姿に戻って
！ロツク-----」

「-----ッ!-----!-----!-----!-----!-----!-----」
ライオーガ「.....」

第56話 ライオーガ（後書き）

次回スバルの声が届くのかっ!？
感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってまっす!

第57話 ウォーロックの決意！（前書き）

今回の話はライオーガの中に居るウォーロックの心の中の話です。
なんかややこしいですね……

第57話 ウォーロックの決意！

ライオーガの中では・・・

『・・・暗い・・・』

ウォーロックは暗い闇の中にいた・・・

そのとき

ハロツクーーーーーッーーーーーッーーーーーッーーーーーッ

ーーーーーッ!!!!!!!!!!!!!!

『この声・・・聞いたことがある・・・思い出せない・・・』

ウォーロックは思い出せない・・・

『・・・俺は・・・なんだ・・・なんのためにここに居る・・・な

んのために・・・』

ウォーロックは頭も抱えた

『くっ・・・さっきの声・・・懐かしい感じがする・・・』

ハロツク、聞こえる！？僕だよ星河スバルだよ！

『星河・・・スバル・・・どこかで・・・聞いたことがある・・・』

・・・

ハ覚えてる？僕達一緒に戦った事を！

『一緒に・・・戦った事・・・』

ウォーロックはさらに頭を抱えた・・・

『くっ・・・スバル・・・一緒に戦った事・・・』

ドツクン ドツクン ドツクン ドツクン

ドツクン

『く・・・あああああ』

ハロツク、思い出してよーっ！

すると暗い闇にひとつの光がさした

『俺の名は・・・ロツク・・・ウォーロツク・・・なんだこ

の暖かい光・・・』

ドツクン、ドツクン、ドツクン、ドツクン

『俺の名はウォーロック・・・AM星人・・・そしてスバル！・・・
思い出したぜ！うおおおお』

暗い闇が晴れてきた

パアアアアアアアアア

ウォーロック『スバルー！ーッ！』

キイイイイイイイイイイイイ！

そして・・・現実世界

ライオーガ『グオオオオオオオオオオオオオオ』

スバル『くっ・・・ロック・・・クッキーッ！』

『たっく・・・うるせーなスバル！』

スバル『ロック・・・ロックなの』

『スバル・・・ありがとうな・・・』

スバル『きゆうに何言ってるのロック・・・』

『そっだよな・・・俺らしくねーよな・・・』

スバル『ロック？』

『俺はきめたぜ・・・スバル』

スバル『えっ』

『俺をデリートしろ！そのあいだなんとかこいつを抑える・・・』

ライオーガ『ぐっ・・・オオ・・・オオ』

『さあ・・・早く・・・』

スバル『・・・無理だよ・・・僕には出来ない・・・』

ダーク・ナイト『・・・ちっ・・・楽しくねえ・・・』

『早くしろおおおお』

スバル『・・・』

『俺は決意したんだ・・・もう皆の傷つく姿なんてみたくねえ・・・』

スバルの傷つく姿も見たくねえ・・・たのむ・・・これが最後のお

願いだああああああ』

スバル『ロック・・・』

第57話 ウォーロックの決意！（後書き）

なんか暗くなつたな・・・次回ウォーロック・・・そしてスバルの決意はーーーーっ！どうなる！？

第58話 スバルの決意！（前書き）

今日・・・楽しかったです。

今回はスバルの決意の話・・・

第58話 スバルの決意！

「俺は決意したんだ・・・もう皆の傷つく姿なんてみたくなえ・・・スバルの傷つく姿も見たくねえ・・・たのむ・・・これが最後のお願いだああああああ」

スバル「ロック・・・」

「たのむ・・・わかってくれ」

スバル「（なんで・・・ロックが消えないといけないの・・・なんで・・・）」

「スバル・・・俺はもう元に戻れないかもしれない、一生この姿のまま暴れるかもしれねえ、だったら俺は思うんだ・・・俺がデリートされればいいって・・・」

スバル「・・・」

「・・・俺は・・・おまえのおかげで変わった・・・俺はおまえに出会えてよかった・・・まだこの地球にいてえけど別れのときがきたんだスバル」

スバル「・・・僕だってロックにであって変わった・・・友達になれた・・・でも・・・」

「でも・・・？」

スバル「目の前で友達が消えるなんてやだよ！」

「・・・だから俺も目の前でスバルが俺のために傷つくところなんてみとられねえーんだ！」

スバル「そんなの間違ってるよ！」

「！」

スバル「ロック・・・帰ろうよ家に・・・」

「スバル・・・ッ！」

スバル「ロック？」

「ぐあああああつくつ・・・暴れてやがる・・・」

ライオーガ『オオオオ・・・グオオオオ』

「スバルー早く．．．しろ．．．」

ライオーガ「オオオ．．．オオオオ」

暁「（しかたがない．．．あれを渡すか．．．）」

「くっ．．．」

暁「スバル」

スバル「？」

暁「これを．．．」

スバルは、謎のプログラムを受け取った

スバル「これは．．．」

暁「DDプログラム．．．ウォーロックをデリートできるプログラ

ムだ．．．」

スバル「!!」

暁「そのプログラムを使うんだ．．．」

スバル「でも．．．」

「は．．．やくしろ．．．」

スバル「（ロック．．．）」

暁「ウォーロックも頑張っているんだ．．．スバル．．．わかって

くれ」

スバル「（僕は．．．僕はどうしたらいいんだ．．．）」

そのとき黄金の石が光った

パアアアア

スバル「！」

どんだん光が大きくなっている

スバル「暖かい．．．」

するとスバルは思いついた

スバル「．．．（もしかしたらすぐえるかもしれない）」

スバルはライオーガの所に歩いていった

暁「だめだスバル、戻って来い！」

「ス．．．バル．．．来るな．．．」

スバルはライオーガの前にきた．．．

第59話 奇跡の電波変換！（前書き）

ふっふっふっ・・・また「あれ」がやります・・・この話のあとに
発表します！

第59話 奇跡の電波変換！

スバルは、ライオーガの前に来た

「この馬鹿……来るなって……言っただろ」

スバル「……僕は……」

「？」

スバル「ロックを救う！」

するとスバルは片方のライオーガに触った瞬間

バチイイイバチイ

スバル「ッ！」

ライオーガの体は静電気に包まれていた

スバル「まだまだー」

「や……める……そんなことしたら」

バチイビリリ

スバル「くっ……おお」

すると黄金の石もスバルの声に反応しさらに光った！

スバル「うおおおおおお」

静電気が邪魔して手が届かなかった……

スバルの手は少し血がでていて黒くなっていた

スバル「あと……少して届くのに……」

「ダーク・ナイト……（スバルのやつ……無駄なことを……）」

「

するとスバルはもう一つの手も使った

ビリリリリリリ！

「やめる……やめてくれ……」

「暁「そうだよめるんだ！」」

スバル「おおおおおお」

バリチイイイイ！

スバル「うおおおお届け……！！！」

すると黄金の石がさらに光スバルとライオーガを包んだ

パアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

!!!!!!!!!!!!

ライオーガ「グオオオオオオ・・・オオオ・・・オ・・・オ・・・

」

そのときスバルの手がライオーガに届いた！

スバル「（今だ！）電波変換！」

すると・・・

キイイイイイイイイイイイイイイイイイン!!!!!!!!!!!!

暁「!!!」

ダーク・ナイト「!!!」

アシッド「!!!」

皆が見たもの・・・それは・・・

黄金のロックマン！

その姿は小さい鬼のような姿・・・そしてかたそうなヨロイ・・・
さらにロックマンの周りには雷が落ちてくる・・・しかし驚くのは
黄金の体をもっている・・・それはまるで・・・

黄金のヨロイ・ライオーガ！

第59話 奇跡の電波変換！（後書き）

それでは発表します！

「特別編2！」

その「特別編2！」のストーリーは7月の最後らへんに発表します！
お楽しみに！

第60話 黄金のヨロイ・ロックマンライオーガ！（前書き）

名前なつが！名前が「黄金のヨロイ・ロックマンライオーガ！」て・
・・まあいいか

第60話 黄金のヨロイ・ロックマンライオガ！

ダーク・ナイト「(うそだろ・・・あいつウオーロックをとめただけではなく・・・ライオガの力まで手に入れやがった、この場合・・・ロックマンを倒さねえーといけねえな)」

ロックマン「・・・これは・・・」

ライオガ『さーな』

ロックマン「わっロックその姿・・・」

ライオガ『ああつなんか知らないがこのままだったぜ』

ダーク・ナイト「クククじゃーそろそろ始めよう」

ロックマン「！」

ライオガ『・・・スバル』

ロックマン「うん！」

そして声そろえて言った

ロックマン・ウオーロック「ウエーブバトル・ライドオン！」

ダーク・ナイト「くらええダークブレイドオオオ」

ズバァン！

ロックマン「・・・」

ダーク・ナイト「ツ・・・」

ロックマンはビクともしなかった

ダーク・ナイト「くっダークホール！」

ギョオオオオオ

ロックマン「効かないよ・・・」

ダーク・ナイト「何っ!？」

暁「・・・なんだあれ・・・」

ロックマン「次はこっちからいくよ！」

するとロックマンは金色のハンマーをだした

ロックマン「ゴールデンハンマー！」
地面を叩いた

ドオオン！

ダーク・ナイト「どこに叩いてるんだ・・・ロックマン」
ロックマン「ニヤ」

するとダーク・ナイトの足元にひびが入った

ダーク・ナイト「!？」

ロックマン「地雷！」

地面から雷が出てきた

ババババババババババババ

ダーク・ナイト「ぐああああああ」

ロックマン「やったあ」

ダーク・ナイト「ククク・・・こんな・・・で・・・まけ・・・て・・・
たまる・・・か！」

ダーク・ナイトは、ダークホールを出した

ぎゅおおおお

雷を吸い込んだ

ロックマン「！」

ダーク・ナイト「・・・クククもう・・・限界だ・・・だが、これで終わらず！」

ロックマン「なんだ・・・あの黒いオーラは・・・」

ダーク・ナイト「ウオオオオオオオオオオオオオオ」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ダーク・ナイト「ブラックナイトスピアー」

ドギューーン

ロックマン「くっ・・・」

ライオーガ『RKプログラムだ!』

ロックマン「わかった!」

第60話 黄金のヨロイ・ロックマンライオーガ！（後書き）

なんかすごい展開ですね・・・

第61話 決着(前書き)

今日から夏休みだああたくさん遊ぶぜええ
スバル「宿題は？」

・・・忘れてた！

第61話 決着

ドギユウウウウウウウウウー！！！！！！！！！！

そのときブラックナイトスピアとロックキャノンのぶつかりあいが始まった

ドドドドドドドドドドドドドドドドドド

ロックマン「うおおおおおおおおおー！」

ダーク・ナイト「はあああああああああ

ロックマン「つ、強い・・・あの技いままでとパワーが違う！」

ダーク・ナイト「まさかこんなに強いなんて・・・」

2人の技は激しくぶつかりあった

ドドドドドドドドドドドドドドドドドド

ロックマン「くっ・・・（負けるわけにはいかない！）うおおお

おおおおお

ロックマンの体から黄金の光が出てきた

ズンッ

ダーク・ナイト「ぐうっ（急に力が強くなりやがった、いつたいあ

いつはなんなんだ！）」

ロックマン「うおおおおおおおおお

ダーク・ナイト「！」

ロックマン「！」

そのとき・・・

ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ

!!!!!!!!!!

2人の攻撃が激しくぶつかりあつたため大爆発した

2人はその爆発にのみこまれた

暁「ロックマン！」

ロックマン「うわあああああ」

ダーク・ナイト「くううう」

ブアアアア！

ロックマン「くっ……負けて……たまるか……」

ダーク・ナイト「こんな所で……」

2人は最後の力を振り絞つて

ロックマン「うおおおロックバスター！」

ダーク・ナイト「ダークブレイドオオ！」

デュン　　ズバアン

ロックマン「……」

ダーク・ナイト「……」

2人はそつと倒れた……

ロックマン「（ロック……）」

ロックマンはすつと目を閉じた

ライオーガ「スバルウウウ！！？」

暁「！あれは……」

スバルの変身は解けていて倒れていた……

スバルの前にはライオも倒れていた・・・

暁「・・・！大変だっ息してない！」

ライオーガ「何っ！」

スバル「・・・」

「暁さん」

暁「！」

ミソラ「どうしたんです・・・！」

ゴン太「ス、スバル・・・」

スバル「・・・」

暁「皆、早くスバルを運ぶぞ！」

ミソラ「嘘・・・スバル君・・・」

スバルは運ばれた・・・

ライオーガ「（俺のせいだ・・・くそつくそつくそーっ！）」

そして3日後・・・スバルは命には助かったがいまだ目を覚まさな

かった・・・

第61話 決着（後書き）

次回・・・スバルは目を覚ますのか・・・？

第62話 ライオの決意！（前書き）

今日は涼しいですね・・・（寒いぐらいに）

第62話 ライオの決意！

ライオ「はあはあ．．．くそっ 負けた．．．」

?????5「ぶざまですね．．．ライオ．．．」

ライオ「うるせえ．．．」

ライオはひざをおいた．．．

ライオ「（俺は．．．俺は．．．絶対にウォーロックを倒さなければいけないんだ）」

ライオは少し過去のことを思い出していた．．．

5年まえ．．．

ライト「あらあらライオピーマン残しちゃだめでしょ！」

ライオ「えーっ、だって苦いんだもん！」

ロンオ「はは分かるぞその気持ち俺もよく残してたもん！」

ライト「ちよつとあなた！」

ロンオ「わりいわりい」

ライオ「！あつそろそろ塾に行かないと！」

ライト「あつライオ！ピーマン食べなさい！」

ライオ「いつてきまーす」

このまま幸せな暮らしが続くとおもっていた．．．でも．．．

ライオ「わわっ遅くなっちゃった」

ライオはいそいで家に帰った．．．しかし

ライオ「．．．お母さん．．．お父さん．．．？」

家には誰も居なかった．．．

そのとき

?????『ケケケ．．．やはり人間の生命はうまい．．．』

ライオ「だ、誰．．．」

?????『．．．ケケケ、ラッキーまだいたのか．．．こいつも食べ

よう．．．』

ライオ「えっ．．．こないで．．．怖いよお」

「???? いただきますーす」

ズバアン!

「???? 『! 誰だ!』」

「???? 『ククク・・・坊主助けてほしいか?』」

ライオ「うん」

「???? 『テメエーは誰だ!』」

ブラック・ナイト「ブラック・ナイト・・・DM星人だ!」

「???? 『(なに・・・DM星人だと!?)』」

すると・・・

「???? 『へっ・・・今回は見逃してやる、だが5年後・・・おまえを食ってやる!』」

そう言つて去つていた・・・

ライオ「うつつ・・・お母さん・・・お父さん・・・」

ブラック・ナイト「・・・くやしいか・・・」

ライオ「うつつん」

ブラック・ナイト「だったら力を与えてやる・・・しかし条件がある・・・」

ライオ「?」

ブラック・ナイト「ウォーロックをデリートするんだ」

ライオ「・・・」

ライオはその条件をのんだ

そして・・・

ライオ「5年後だ・・・僕・・・いや俺はすべてをブラック・ナイトに預けた・・・待っているウォーロック5年後・・・お前を・・・」

「・」

現代・・・

ライオ「はあはあ俺はウォーロックを・・・始末する!」

???5「そうだ・・・それでいい、だが次は俺が行く・・・これは命令だ！」

ライオ「わかった・・・」

そのころスバルは・・・

スバル「・・・んっ・・・」

スバルは目を開けた・・・

第62話 ライオの決意！（後書き）

次回スバルが目覚める！

第63話 スバルの記憶（前書き）

なんか最近展開が暗い？ですね・・・しばらく続くかもしれません。

第63話 スバルの記憶

2日前・・・

ソロ「俺が・・・あんな奴ごときに負けた・・・」

ラプラス「・・・」

ソロ「ロックマン・・・お前はどこまで強くなるんだ・・・」

2日後・・・

スバル「・・・んっ・・・」

ウォーロック「スバル!？」

スバル「・・・!?わああああ」

スバルはベットから落ちた

ウォーロック「?、どうしたスバル?」

スバル「お・・・お化け・・・」

ウォーロック「!?なに寝ぼけてんだスバル」

スバル「うわああああ来ないでー」

そのとき

暁「どうした?」

スバル「お化け・・・」

スバルはウォーロックをゆびさした

暁「・・・お化けって・・・ウォーロックの事か?」

ウォーロック「・・・スバル・・・」

スバル「怖いよ・・・」

しばらくして・・・

皆「ええ

記憶喪失

!？」

ミソラ「それって・・・スバル君は私達のこと忘れちゃったの?」

ヨイリー「そうね・・・どうやらスバルちゃんのお父さんが事故に

あう前の記憶はのこってるみたいだね・・・」

スバル「あの」

ヨイリー「何？」

スバル「ここ……どこですか？」

ヨイリー「ここはWAXAよ」
ワクサ

スバル「わくさ？」

ゴン太「……スバル……」

スバル「えっ……誰？」

ゴン太「本当に俺達の事忘れたのかよ

委員長「ゴン太！そんなに強く言ったら……」

スバル「……ごめん……」

ゴン太「！」

スバル「僕……本当に覚えてないんだ……」

ミソラ「スバル君……」

ウォーロック「……スバルごめんな……俺が無茶させて……」

スバル「なんで、おば……ウォーロックがあやまるの……？」

ウォーロック「……そりゃ……」

スバル「僕があやまんないといけないのに……ウォーロックがあ

やまるなんて……」

ウォーロック「いいや俺があやまんねーといけないんだ……あの

時俺が助けてれば」

スバル「ウォーロック……」

しかしある所では……

????5「……そろそろ行くところ……」

????「そうだな……」

????5「……」

????「……」

????5「……」

????「……」

第64話 フェニックス！（前書き）

・・・なんか少しややこしい展開になってしまったーっ！？

第64話 フェニックス！

夜・・・

スバル「（僕はなんでこんな事に・・・どうして・・・）」

ウォーロツク「（やばいな・・・今のスバルの状態で敵が来たら・・・

・確実に負ける・・・）」

スバル「・・・ねえ・・・ウォーロツク・・・」

ウォーロツク「なんだ？」

スバル「僕ってどうだった？」

ウォーロツク「・・・はあ？スバルはスバルだろ・・・」

スバル「いや・・・記憶が無くなる前の・・・僕」

ウォーロツク「・・・教えてくれた・・・」

スバル「なにを？」

ウォーロツク「「キズナ」だ」

スバル「キズナ・・・」

ウォーロツク「・・・スバルは自分の命ではなく人の命を守った・・・

・自分がどんなに傷つこうとも・・・」

スバル「ウォーロツク・・・」

ウォーロツク「それで俺は知った・・・人は守ってこそ「キズナ」

が広がっていく事を・・・」

スバル「・・・」

そして・・・次の日の朝・・・

スバル「ふぁ」

スバルは起きた・・・

スバル「（・・・記憶が無くなる前は・・・ウォーロツクと合体してたんだよね・・・なんか頭の中が真っ白になってくる・・・考えるほど・・・）」

そのころ・・・
「????5」・・・やるか・・・」
「????」ああ・・・」
「????」「まて！」
「????」!」
「????5」誰だ！」
「????」「こたえる必要も無い・・・いくぞ!バード！」
バード「いいぜ！」
「????」電波変換！」

キーン!

「????」・・・こいつは・・・」
「????5」知っているのか？」
「????」「ああ、こいつは・・・俺達で作った電波体だ・・・」
「????5」「そうか・・・」
「????」「・・・さあやるぞ・・・」
「????5」「・・・お前・・・なんなんだ・・・」
フェニックス「僕はフェニックス・・・お前達の野望を壊しに来た・・・」
「」
「????5」フェニックスか・・・覚えておこう・・・サラバだ・・・」
「」
そして????5はきえていった・・・
フェニックス「・・・(動いたか・・・あいつが・・・)」
バード「どうする?」
フェニックス「とりあえずWAXAワクサに向かおう」
バード「そうだな」
そして・・・WAXAワクサに向かった・・・

第64話 フェニックス！（後書き）

新キャラクター「フェニックス」！

果たして敵か？味方か？どっちだぁー！？

第65話 電波変換！？（前書き）

！
最近ストックがなくなりそうです・・・誰かー助けてくださーい

第65話 電波変換！？

昼・・・

ウォーロック「ス・・・スバル・・・お前・・・」

スバル「記憶はないけど・・・ウォーロックと合体できるかもしれない・・・」

ウォーロック「しかし・・・」

スバル「でももし敵が来た時どうするの？」

ウォーロック「それは・・・ゴン太や暁がいるだろ・・・」

スバル「でも！本当は僕がやるんでしょ！？」

ウォーロック「・・・（スバル・・・）」

スバル「それに・・・もしかしたら合体したら思い出すかもしれない」

ウォーロック「・・・分かった・・・だが無理はすんな」

スバル「うん」

ウォーロック「スバル叫べ！電波変換って！」

スバル「・・・で・・・電波変換！」

キーン！

ロックマン「・・・うわっ僕の手が！」

ウォーロック「（なんかスバルと初めて電波変換した事を思い出す

な・・・）」

ロックマン「おおっ体がかかる・・・ッ」

ウォーロック「どうしたスバル！」

ロックマン「い・・・痛い・・・頭が・・・」

ウォーロック「スバル・・・思いだしたか？」

ロックマン「くっつうわあああ」

ウォーロック「スバルーッ！」

キイーン！

スバル「……」

ウォーロツク「スバル……」

スバル「ん……あれ……痛いのがなくなった……」

ウォーロツク「大丈夫か？」

スバル「平気だよ……」

そのころ……

???「ついた……^{ワクサ}WAXAに……」

バード「入るか？」

???「入るに決まってるでしょ！」

バード「……もしかしてこの兄ちゃんに会うためにここに来たりして……」

???「(ギクツ)」

バード「(凶星か……)」

???「まあ行こうよ……」

バード「うん」

???とバードは^{ワクサ}WAXAに入った

第65話 電波変換!?(後書き)

????のいとこがWAXAワクサにいる・・・果たして誰なのか?
わかる?

第66話 ドラゲ

暁「（スバルの記憶か・・・）」

アシッド「暁・・・そう心配しないで、平気ですよウォーロックがいますしね・・・」

暁「ああ・・・」

ヨイリー「・・・あら、いたわ」

暁「？ヨイリー博士・・・」

ヨイリー「あなたにお客さんよ」

暁「客？」

スバルは・・・

スバル「ねえウォーロック」

ウォーロック「なんだ？」

スバル「もう一度合体しようよ！」

ウォーロック「だめだこれ以上は」

スバル「なんで？」

ウォーロック「合体・・・電波変換は想像より危険なものなんだ・・・」

スバル「危険？」

ウォーロック「ああ・・・とくに今のスバルとでは最大でも2分間しか変身できない・・・それにそれ以上やると・・・」

スバル「・・・」

ウォーロック「自分の神経も破壊するしな・・・」

スバル「えっ？」

ウォーロック「記憶をなくしている今は・・・自分の力を制御できないから自分の体がもたないそれに、敵が来たとき・・・足手まといになるからな・・・」

スバル「足手まとい・・・」

そのころ……

暁「なっ……おまえなんでここに!? ドラグ!」

ドラグ「へへへ……」

バード「(やつぱり会いにきただけか……)」

ドラグ「そいえばあか兄、あいつ達が動きだした!」

暁「……やはり動きだしたか……(あのときディーラーを抜けたやつか……)」

ドラグ「ねえあか兄あの人いる?」

暁「ああ……いるが……今記憶喪失なんだ……」

ドラグ「ええっ!?!」

バード「(記憶喪失……まさか……)」

ドラグ「ねえいつていいスバルさんの所」

暁「いいが迷惑かけんなよ」

ドラグ「うん!」

バード「たしかめてみるか……」

ドラグ「いこうバード!」

バード「わかったまっつて」

ドラグは、スバルがいる部屋に行った……そして
ドラグ「ここだ……よし入ろう!」

ガチャ!

第66話 ドラゲ（後書き）

なんと新キャラドラゲ！
やっと味方の仲間ができた！

第67話 記憶の鍵(前書き)

はぁ・・・いいネタでねえー！

第67話 記憶の鍵

ドラグ「おじやまします……！」

スバル「！」

ウォーロツク「誰だ！」

ドラグ「まあまあ怪しい物ではないから……」

バード「それよりちよつと星河スバルの頭を見せてくれ」

ウォーロツク「なっ……いつからそこに居た！鳥！」

バード「誰が鳥だ！（鳥だけでも）」

ウォーロツク「それよりなんだ？おまえ達は……」

ドラグ「僕はドラグ！それと隣に居るのは僕のウィザードのバード
！」

バード「よろしく、じゃー頭を……」

ウォーロツク「ちよつと待て、なんで頭を見るんだ？」

バード「星河スバルの記憶を見るのさ」

ウォーロツク「はあ？スバルは記憶をなくしてるんだ！それをどう

やっ……」

バード「メモリーロック記憶見！」

ウォーロツク「めもりーるつく？」

ドラグ「バードは人の記憶を見る事が出来るんだ！」

バード「……！（これは）」

ウォーロツク「ふーん」

バード「……わかったぞ……星河スバルの記憶が消えたのが……」

……」

ウォーロツク「マジで!？」

バード「星河スバルの記憶は誰かの手によって鍵がかかっている」

ウォーロツク「鍵？」

スバル「あの それでその鍵を外すとは……」

バード「無理だな今は」

ウォーロツク「どうやったら外せる！」

バード「人間の解除プログラムを作ってもらつか……鍵をかけた奴を倒すしかないな」

ウォーロツク「しかし……鍵をかけた奴は誰だ？」

ドラグ「たぶんあいつだよ……」

ウォーロツク「あいつ？」

ドラグ「元ディーラーの人だよ……」

ウォーロツク「元？」

バード「たしかにあいつしか、こんな鍵をかけるプログラムをつくれないしな」

ウォーロツク「……だがあいつをたおせばいいんだな」

バード「それも無理だな」

ウォーロツク「なつなんでだ！」

バード「たしかにWAXAには強い奴も居る……しかしウォーロツクの中にいるライオオーガの力じゃなければ勝てない……」

ウォーロツク「じゃーどうしたら……」

バード「やはり解除プログラムを作ってもらうしか……」

ヨイリー「ならいい人が居るわよ」

ウォーロツク「うおおいつの間に！」

ドラグ「ヨイばー！」

バード「それで博士そのいい人って……」

ヨイリー「私の友達の子供が科学者なのたぶんその人ならそのプログラムを作ってくれるわ！」

スバル「科学者？」

第67話 記憶の鍵（後書き）

次回オリジナルキャラクターです！
送ってくれてありがとうございます！

第68話 科学者ダイヤモンド！(前書き)

ダイヤモンドか・・・(ポケモン?)

第68話 科学者ダイヤパール!

????「はあ……暇……」

????「なあ……博士……」

????「なによ実験台……」

????「(実験台って……)なんであのとき俺をえらんだ」

????「さあね……ただびったりだったのよ……あなたのその目が……」

????「目って……」

そのころ……

ウォーロック「……まだか?」

バード「何言ってるんだ……まだ1時間しか歩いてないぞ」

ウォーロック「いや……歩いてないが……暇だ」

バード「……フツ……」

ウォーロック「このお……笑ったな……」

バード「いや……以外にわががまだつたもんで……」

ウォーロックはきれた

ウォーロック「このやるおお俺がいつわががま言ったああああ!」

ドラグ「あはははは(笑)」

スバル「あつ……見えたよ」

皆「えつ……」

そこには……お城がありました

バード「……期待できそうですね……」

ウォーロック「でえええ」

ドラグ「わーいわーい」

そのとき……

????「誰だ! テメエーら、ぶつ飛ばすぞ!」

ウォーロック「なんだ……おまえ、いきなり出てきて」

「???」へっこの怪しい奴らめ俺様が追い出してやる!」
バード「こいつ・・・やらないといけないみたいだ・・・」
「???」へっ、見せてやる!俺の電波変換を!」
ウォーロック「何いいい」
「???」電波へ・・・」
すると女の声が出た・・・
「???」やめなさい!」
「???」わわっ・・・」
バード「!」
スバル「!」
ドラグ「!」
「???」はあ・・・まったく・・・」

数時間後・・・

スバル「・・・あの・・・」
「???」なによ」

ウォーロック「(なんだ・・・この女は・・・まるで委員長だ)」

バード「・・・まずは自己紹介からだ・・・俺はバード」

ドラグ「ドラグです!」

スバル「ス・・・スバルです・・・」

ウォーロック「ウォーロックだ」

ダイヤパール「そう・・・私はダイヤパールよ・・・そしてこのチビは弓垂よ」

弓垂「チビって言うなああ!」

ダイヤパール「なまいきよチビ!」

弓垂「ぐぐっ・・・(このヤロオ)」

ダイヤパール「んで・・・なんでここに来たの?」

ウォーロック「スバルの記憶の鍵を解除してほしい・・・だから作ってくれそのプログラムを」

ダイヤパール「・・・あのね・・・一言、言うわ・・・無理よ!」

ウォーロック「なにいいいい！」

ダイヤパール「普通に考えなよ人はデータとは違ってそんなの作れないわ……」

スバル「……」

ダイヤパール「……でもね……電波人間なら出来るわ……」

ウォーロック「本当か!？」

ダイヤパール「ええ……でも……」
すると

弓埴「あ?なんだ博士」

ダイヤパール「このチビにかつたらやってあげるわ……でも負けたら……」

ドラグ「負けたら？」

ダイヤパール「あなた達を実験台にするわ……フフフ」

皆「ええー！ー！ー！」

第68話 科学者ダイヤパール！（後書き）

いきなり・・・バトル！？それに負けたら実験台って・・・
次回どうなるのか！？

第69話 弓亜の電波変換！（前書き）

・・・オリジナルキャラクターを送ってきてくれた人は・・・4人・
・・・前回より1人増えました・・・（それでも俺嬉しい・・・）（
涙）

第69話 弓亜の電波変換!

ウォーロツク『実験台って……たとえばどんな実験するんだ……?』

ダイヤパール「フフフそれわね……」

するとウォーロツクだけに教えた

ダイヤパール「コソコソ……コソコソ……フフフ」

ウォーロツク『……ひいひい』

そして……

バード『……で、実験ってなんだ?』

ウォーロツク『……おい……この勝負勝つぞおお!』

バード『（そんなに恐ろしい実験なのか?）』

弓亜「……はあ……」

ダイヤパール「……さあ行きなさい、実験台!」

弓亜「実験台いうな!」

ウォーロツク『（あいつ……実験台なのか……）』

バード『やるぞドラグ!』

ドラグ「おおっ」

弓亜「へっ2人でもいいぜ!」

バード『俺達だけでいい……いくぞ!』

ドラグ「電波変換!」

キーン!

フェニックス「うおおお」

弓亜「……へえ　これがテメエの変身か……でも俺のほうが
すげえーぜ!」

ウォーロツク『!……こいつ……』

弓亜「テメエなんか10分で倒してやる……電波変換!」

キイイン！

アーチェリー・R「アーチェリー・R！」ニミ

フェニックス「おお かつこいい！」

アーチェリー・R「へっ・・・余裕こいてるのも今のうちだ！」

フェニックス「いくよ フェニックスブレード！」

すると羽が剣になった・・・

フェニックス「うおおお」

アーチェリー・R「バリア！」

ズバン！

フェニックス「なにい・・・」

アーチェリー・R「これでもくらいな！インフィニティーアロー！」

するとたくさんの矢がこつちやつてくる

フェニックス「うわああああ」

フェニックスにたくさんの矢がふりそそぐ

アーチェリー・R「チェックメイトだ！」

ダイヤパール「・・・3分51秒・・・わるくないわ」

フェニックス「くっ・・・」

バード「無理するな！」

ウォーロック「・・・やべえ・・・このままだと・・・」

スバル「・・・ウォーロック・・・」

ウォーロック「なんだ？」

スバル「合体しよう！」

ウォーロック「しかし・・・」

スバル「でもこのまま実験台になるよりは、まだよ！」

ウォーロック「スバル・・・そうだな・・・スバル！暴れよう

ぜ！」

スバル「うん！」

ウォーロック「電波変換だ！」

スバル「電波変換！」

キイイイイン！

ロックマン「……ぜったいに取り戻すんだ、僕の記憶を！」

第69話 弓亜の電波変換！(後書き)

次回ロックマンVSアーチェリー・Rリミットの戦い！

第70話 ロックマンVSアーチェリー・R(前書き)

ロックマン対アーチェリー・Rミニどっちが勝つのか？

第70話 ロックマンVSアーチェリー・R

アーチェリー・R「……ほう teme エーが噂のヒーロー……ロックマン！」

ロックマン「噂？」

アーチェリー・R「おもしれえ……こいよ！」

ロックマン「……ウォーロック……」

ウォーロック「なんだ？」

ロックマン「どうすればいいの？」

ウォーロック「（そうだった……戦い方も忘れてるんだ……）
とにかく「バトルカード」を使え！」

ロックマン「……これか……わかった！ロングソード！」

すると腕がロングソードになった

ロックマン「わわっ……腕が……」

ウォーロック「こいつで攻撃すんだ……やれ！」

ロックマン「うん……」

アーチェリー・R「はっ、記憶なくしてても容赦しねえーぜ！」

ロックマン「うおおおおお」

ズバン！

アーチェリー・Rはトゲかわした

アーチェリー・R「遅い！スピアショット！」

シューッ

すばああん

ロックマン「わあああああ」

ロックマンの体に弓矢が命中した！

ドサッ

ロックマン「くっ……い……痛い……」

アーチェリー・R「……これが世界を救ったヒーローか？……
はっ！だつたら俺がヒーローになってやるよ……おまえみたいな
ザコじゃねー俺が！」

ウォーロック「おまえ……やっぱり気にいらねえ……」

ダイヤパール「……フフ……終わりね……」

アーチェリー・R「とどめだ！」

ロックマン「……ロックバスター！」

デュン！

アーチェリー・R「ぐっ……まだやるようだな……」

ロックマン「はあはあ……体がかつてに……動いた……？」

ウォーロック「……（スバルは完全に忘れてるわけじゃねえ……

・スバルの体が覚えているんだ戦い方を！）」

アーチェリー・R「……やっぱり戦いはこうじゃねえとな！」

ロックマン「……ロックバスター」

デュン！

アーチェリー・R「もう同じもんは、きかねえよ！」

アーチェリー・Rはかわした

ロックマン「くっ……もういつか……！」

ロックマンの体に痛み走った

ウォーロック「スバル？」

ロックマン「ぐっ……あああああ！」

ダイヤパール「……10分まであと……3分……」

第70話 ロックマンVSアーチェリー・R（後書き）

ロックマンピンチ！？次回どうなるーっ！？

第71話 ロックマン暴走!?(前書き)

つかれた・・・

第71話 ロックマン暴走!?

ロックマン「うわああああああ」

ウォーロック「スバル!」

アーチェリー・R「どうした? 大声だして」

するとロックマンの姿が変わっていく

アーチェリー・R「なんだ・・・へっ姿が変わっても俺には勝てねえよ!」

ロックマン「ぐっ・・・おおお」

ウォーロック「やべえ・・・(俺は「あの」プログラムがあるから暴走しないが・・・)」

ロックマン「ぐおおおおお」

アーチェリー・R「へっ・・・これでとどめだ! インフィニティアロ
ー!」

すると上に無数の矢が降ってきた

ロックマン「ぐおおおお」

ロックマンは無数の矢を交わした

バード「・・・あいつ・・・」

アーチェリー・R「何・・・(全部交わしたと?)」

ロックマン「ぐおおおおおおおおおお」

アーチェリー・R「くっ・・・」

ダイヤパール「あの子・・・まさか・・・」

アーチェリー・R「なあ・・・博士」

ダイヤパール「何よ」

アーチェリー・R「あれ」やってもいい?」

ダイヤパール「いいけど・・・残り1分30秒よ」

アーチェリー・R「へっ・・・十分だ・・・」

ロックマン「ぐおおおお」

アーチェリー・R「ターゲット!」

するとアーチエリー・R（レミ）の目から赤い線が出てきた
ロックマン「？」
アーチエリー・R「つらぬけ！センサーショット「レベル3」！」
アーチエリー・R（レミ）は矢を放った
ギューウウウウウウウウ！

ドン！

ロックマン「……」
アーチエリー・R「へっ……やった」
するとロックマンの姿がもどっていく……
ダイヤパール「時間よ……」
アーチエリー・R「……へへっ早いな……10分は……」
そして変身を解いた
ロックマン「んっ……あれ……僕……」
弓垂「何……（まさか……俺がまけただと……）」
ロックマン「やった！」
ダイヤパール「あの子達の勝ちね……それと……」
弓垂「？」
ダイヤパール「弓垂……よく頑張ったわね……」
弓垂「……ふんっ！」
ダイヤパール「それじゃ……やるわよ」
ロックマン「えっ……」
ダイヤパール「あなたの記憶を取り戻すのよ！」
ロックマン「……はい！（これでやっと……僕の記憶が戻る！）」

そのころ

「……そろそろ……だな……」
「『あ……あ……』」
「……い……く……ぞ……」
「WAXAに！」
ワクサ

第71話 ロックマン暴走!?(後書き)

次回は、とうとうスバルの記憶があああ戻るかも!

第72話 記憶の中で・・・(前書き)

どーもーレッドスターです

なんと次回は、特別編の発表です！

第72話 記憶の中で・・・

ロッキマン「ここは・・・」

ロッキマンの目の前には大きな機械があった

ウォーロック『でえええ』

ダイヤパール「実はこの機械は実験用よ」

ロッキマン「実験用!？」

ウォーロック『まさか俺達をだましたのか・・・』

ダイヤパール「・・・それは違うわ」

ウォーロック『?』

ダイヤパール「この機械は確かに実験用・・・でもあなた達が来る前に少し改造したのよ」

ロッキマン「えっ・・・なんで・・・」

ダイヤパール「あなた達が来る前にヨイリーばーちゃんが連絡くれたのよ」

ウォーロック『そうだったのか・・・』

ダイヤパール「まあ、でもあなた達の力を実験するけどね」

ロッキマン・ウォーロック『ええー！！！?』

ダイヤパール「じゃー始めるわよ・・・」

すると大きい機械が動きだした・・・

ダイヤパール「さあ、入りなさい」

ロッキマン「・・・」

ウォーロック『いくぞスバル』

ロッキマン「うん!」

ロッキマンは大きい機械の中に入った

ダイヤパール「それじゃーお休みなさい」

すると・・・

ロッキマン「・・・あれ?」

ウォーロック『なんか・・・眠く・・・な・・・る』

第72話 記憶の中で・・・（後書き）

次回スバルの・・・中!?

それとダイヤパールを考えてくれたのは・・・ねず・・・牛先輩
です!

ありがとうございます!

第73話 記憶のかけら(前書き)

どーもーレッドスターです。
特別編の発表はこのあとです

第73話 記憶のかけら

ダイヤパール「さっ！始めましょうか・・・」

するとさっきのバズーカの中から3つの玉が出てきた

コロコロ・・・

するとその玉を機械にはめ込んだ

カチツ・・・ブウウン

ダイヤパール「・・・起動！」

すると機械の中に居るロッキマンが少しずつ浮いていく

ダイヤパール「つぎは、あのこの頭に打ち込めば・・・」

ダイヤパールはスイッチを押した

ポチッ

シュン！

ロッキマンにデータを打ち込んだ

ロッキマン「・・・くっ・・・うっ・・・」

スバルの頭の中

ドラグ「ん・・・あれどこどこ？」

バード「・・・どうやらここは、星河スバルの頭の中のようにです」

弓垂「うん？・・・ここは・・・あっ！！！」

すると弓垂が立ち上がった

弓垂「くう おのヤロオ・・・」

ドラグ「・・・あれ？」

バード「どうした？」

ドラグ「なんか頭の中に文字が浮かんできた」

弓垂「はあ？文字？ふはははははそんな事あるわけ・・・」

あつた！？

バード「たしかになんかの文字が見えます・・・！」

・24時間のあいだに記憶の鍵を解除すること

・決して暴れない事

・24時間までに解除できなかつたら自分が消滅する

弓垂「・・・消滅？」

ドラグ「・・・」

バード『・・・つまり時間内に記憶の鍵を解除しないと俺達が消えるってことか・・・』

ドラグ「・・・僕・・・やるよ」

弓垂「へっ・・・俺は、手伝わねえよ」

バード『手伝わないと消えるぞ！』

弓垂「そんなこと知るか！やるならテメエーらだけでやってこい！俺はやらねえ！」

バード『こいつはほんとこっぴど俺達だけでやろう・・・ドラグ』

ドラグ「うん・・・」

バードとドラグは記憶の奥に行った

弓垂「けっ・・・」

ドラグとバードは・・・

ドラグ「なんか暗くなってきた・・・」

そのときドラグの足が引つかかった

ガッ

ドサッ

ドラグ「いたー・・・ん？」

ドラグの足の下には、なんかの「かけら」があった・・・

バード『これは何かのデータですね』

ドラグ「・・・とっところ・・・」

ドラグは何かのデータを拾った・・・

ハード『ドラグ、急ごう！』
ドラグ「うん！」

第73話 記憶のかげら（後書き）

特別編2の・・・話は・・・なんとおーooooooooっ！

コラボです！違う小説の「失われし大切な絆」を書いている牛先輩
先生と共演！

夢のコラボです！（もちろん許可は取っています）
お楽しみに！

第74話 発見！記憶の鍵！（前書き）

たぶん次回は「特別編」です！

第74話 発見！記憶の鍵！

ロックマン「うう………」

ダイヤパール「30分経過……残り23時間30分……」

ロックマンの頭の中……

ドラグ「うわっ、何も見えない……」

バード「はぐれないでくださいよ」

……

バード「？、ドラグ？」

シン……

バードはあせつた

バード「言ってるそばからはぐれたあ

！？」

そのころドラグは……

ドラグ「あれ？バード？どこ！？返事してよ！」

……

ドラグ「………」

そのころ弓垂は……

弓垂「………けっ！（なんであいつらは、人のために命をかける……）」

弓垂は、地面を叩いた

ドンー！

弓垂「………うぜえ……あいつらうぜえ……たった1人のため

に命をかけるなんてどうかしてるぜ！」
そのとき弓垂の頭の中にあの言葉が浮かんだ
「あとはたのんだよ・・・弓垂・・・」
それは、タイヤパールの言葉だった
弓垂「・・・チツしかたねえな・・・」

そのころバードは・・・
バード『おいドラグー！』
返事はなかった・・・
バード『どこに行っただんだ？ドラグは・・・！』

ドラグは・・・
ドラグ「はあ・・・暗いよ・・・」
そのとき！

ピカアアアア

さつき拾ったデータが光り始めたさらに道の奥に光っている物があった

ドラグ「？、なんだろ」
近づいて見るとそれは、ドラグも持つてるデータだった
ドラグはとりあえず拾った・・・
ドラグ「（なんかデータ拾い・・・はまりそう）」

そのころバードは・・・
バード『こっ、これは・・・』
バードの目の前には大きな「鍵」だった
バード『で・・・でかい・・・』

第74話 発見！記憶の鍵！（後書き）

次回はたぶん「特別編2」！お楽しみに！

特別編2 第一と第二の世界(前書き)

レッドスター「どーもーレッドスターです今日は、なんと！ゲスト牛先輩先生が来ています！」

牛先輩「あつどーも．．．．．」

レッドスター「．．．．．(テンションひくう〜)」

牛先輩「何でいるのかは前々話を読んでください(レッドスター先生の小説)」

クロウ「やーやーどーもどーも牛先輩のキャラのクロウで〜〜す」

レッドスター「おおっクロウだ！(本物初めて見た)」

ドラグ「わぁ なんかバカそう」

バード『(初めて会って何言ってるんだ？ドラグは．．．)』

クロウ「君も君でガキっぽいね」

ドラグ&クロウ「こいつとは．．．仲良くなれそうな気がする．．．」

牛先輩「おい！おまえら俺は！？何友情芽生えてんだ！？」

ドラグ「ねえクロウさんどっか行こうよ！」

クロウ「OK」

そして．．．ドラグとクロウは走ってどこかに行ってしまった．．．遠くに

レッドスター「．．．これ．．．前書きだよな．．．牛先輩先生？」

牛先輩「たぶん」

果たして次回ドラグとクロウは、帰ってくるのかあ〜〜〜

レッドスター&牛先輩「続くの!？」

続きます

特別編2 第一と第二の世界

某所某時刻

「クククク準備は整った・・・」
謎の男の声が響いている

コダマタウン（第一の世界）

スバル「・・・なにこれ？」

スバルは、メールを見てこう言った

ウォーロック『何って、メールだろ』

スバル「そうなんだけど・・・何か変なんだ」

ウォーロック『どれ、見せてみる！』

ウォーロックは、そのメールを見た

「星河スバルへ

ロックマンの姿で展望台に来てもらう・・・」

スバル「・・・行かないほうがいいかな？」

ウォーロック『そのほうがいいな』

スバル「・・・あれ？まだ続きがある」

「来なかった場合、君の友達の命は無い

もちろん1人で来い」

スバル「友達？・・・まさか！」

ウォーロック『たぶん委員長たちの事だろ』

スバル「・・・行こう！」

ウォーロック『ああっ！』

スバル「トランスコード・シューティングスターロックマン！」

キイイン！

ロックマン「行こう、展望台へ！」

コダマタウン（第二の世界）

キーンコーンカーンコーン

「やばい遅刻だぁー！ー！」

学校に遅刻し走っているスバル

『俺は何回も起こしたぜ』

「よし、ロック、電波変換だ！」

『しかたね・・・ん？』

言葉の途中でいきなり黙るウォーロックにスバルは

「どーしたの？ロック・・・！」

「やぁスバル君」

「ツ、ツカサ君！？どうしてここに！？」

スバルが驚くのも無理はない

今スバルの目の前にいるのは

半年前転校してしまった

双葉ツカサなのだ

『おいジエミニはどうした！？』

「え？い、今はいないよ」

ウォーロックの間にツカサは焦っていた

『？』

「どうしたの？ツカサ君？」

「そ、それより僕と来てほしいんだ」

「え、でも学校が」

「来てくれるよね？」

「は、はい」

何故かツカサから恐ろしいオーラを感じ従うしかなかった

そして着いたのは展望台だった

特別編2 第一と第二の世界（後書き）

どうでしたか？俺が書いている世界は「第一の世界」です。

そして牛先輩先生が書いた世界は、「第二の世界」です・・・俺の作品と牛先輩先生の作品を両方読んでいる人は嬉しいです！

次回も「特別編2」！

特別編2 謎の男・・・シュン(前書き)

どーもー今日は、2回目です。

安心してください牛先輩はいませんので

まあ・・・クロウはいるけど・・・

とにかく2回目というわけですが・・・前回の前書きはともグダグダでした(涙)

ではどうぞ！

特別編2 謎の男・・・シュン

展望台（第一の世界）

ロックマン「はあはあ・・・」

ウォーロック「！、スバル、あそこだ！」

ロックマン「委員長！」

スバルの目の先に委員長達が倒れていた

ロックマン「誰がこんなことを・・・」

ウォーロック「・・・！これは」

ロックマン「どうしたの？ロック」

ウォーロック「何かが来る・・・それに・・・」

ロックマン「それに？」

ウォーロック「邪悪な力を感じる」

ロックマン「邪悪な・・・力？」

そのときウォーロックが

ウォーロック「！、スバル！逃げろ・・・」

ロックマン「わかつ・・・え？」

ウォーロック「なっ・・・」

ロックマンの後ろに人が立っていた

????「やあ、おはよう！」

ロックマン「だ、誰ですか・・・」

シュン「俺の名前はシュン！よろしくーっ！」

ロックマン「よ・・・よろしく・・・」

ウォーロック「（おかしい、さっきまで邪悪な力が感じたのに今は、

感じない・・・）」

シュン「ところで1つ教えてほしいんだけど・・・」

ロックマン「はい」

シュン「ロックマンで君かい？」

ロックマン「はい」

ウォーロック『!』

ウォーロックは、焦った

ウォーロック『スバルそこからにげるーっ!』

ロックマン『え……』

シユン『そうか……君がロックマン』

ロックマン『!』

シユン『ロックマン』

ロックマンは、戦う体制にはいった

ロックマン『なんだ!』

シユン『俺は、君をもう1つの世界を案内しよう』

ロックマン『何っ?』

そのときロックマンの下に大きな穴が現れロックマンは、その穴に落ちてしまった!

ロックマン『うわあああああああ……』

展望台(第二の世界)

『て、展望台?』

スバルから出た一言にツカサは

『うん、ちよつと用があつ……て!』

突然殴られそうになってスバルは後ずさる

『な、なにをするの!? ツカサ君!』

『スバル! こいつはツカサじゃねえ!』

『えっ!?』

『さすが世界を救ったヒーローのウィザード……
勘が冴えてるね』

その言葉と共にツカサの姿が変わり

黒いスーツの男に変わる

『それにしてもよくわかったね……周波数は
双葉ツカサとまったく同じのはずなのに……』

『ツカサがジエミニと一緒にじゃねえからだ』

「へえそれだけでわかるんだ

さすが犬っぽいだけある」

『誰が犬だ！グアアアアルルル』

「完全に犬だよ」

『だあまありやー』

もはや日本語になっていなかった

ちなみに訳すと『黙れやー』である

「・・・あなたは誰ですか？」

「ん？僕かい？僕はシュン」

『スバル！こいつなんかあぶねえ！

電波変換だ！』

「うん！

トランスコード シューティングスターロックマン！！』

スバルは強い光に包まれ

光が消えるとそこにはロックマンが立っていた

「待ってたよその姿になるのを」

パチン

シュンの指鳴らしと同時に

ロックマンの足元に大きな穴が開き

ロックマンは穴に落ちてしまう

「うわああああー」

特別編2 謎の男・・・シュン（後書き）

いやぁ〜終わったぁーもうすべてが終わったー

クロウ「じゃ、死ぬ？」

ええつやだ！まだ死にたくない！（まだ若いのに）

クロウ「俺の方が若いよ！」

えっ！？なんで俺の心の声があったの？

クロウ「それは・・・次回教える」

続くの！？

続くよ

特別編2 第三の世界(前書き)

どーもーレッドスターでーす

クロウ「ZZZZZZZZZZ」

・・・あれ？クロウ君？なんで出てきていきなり寝てるの？

クロウ「ZZZZZZZZZZ」

・・・まあいいか(めんどいし)

クロウ「ZZZZZZZZZZ」

・・・ではどござ

特別編2 第三の世界

??? (第三の世界)

ロックマン&ロックマン「うわああああ」「」

2人のロックマンは、すごい勢いで落ちた

ドサーッ!

ロックマン&ロックマン2「いてて・・・ん?」「」

ロックマン同士目をあわせた

ロックマン&ロックマン2「うわあああ僕!?」「」

ウォーロック&ウォーロック2「どうしたスバ・・・ルが2人

!? おおっ俺も2人!?!」

ロックマン&ロックマン2「ロックも2体・・・なんで?」「」

ウォーロック&ウォーロック2「しらねえーよ・・・真似すんな

ー! ツ! 俺!」

ロックマン&ロックマン2「(なんか・・・おもしろい)」「」

ウォーロック「とにかくここはどこなのか調べるぞ! スバル!」

ロックマン&ロックマン「うん!」「」

ウォーロック2「ど・・・どっちがスバルであっちがスバルで??」

ウォーロック2は混乱し始めた

ロックマン2「ロックしつかり!・・・でどっちがロックなの?」

ウォーロック&ウォーロック2「俺だあああ!」

ロックマン「あ　もう、どっちがどっちなの　!?!」

しばらくして・・・

ロックマン「えーと・・・こっちのロックが君ので」

ウォーロック2「おう!」

ロックマン「で・・・こっちが僕ので・・・」

ウォーロック「物みたいに言うな!」

ロックマン2「ところで……ここはどこなのか調べようよー！」
ロックマン「そうだね！」

ウォーロック&ウォーロック2『おう！……おい俺！だから真似すんな！』』

ロックマン&ロックマン2「（やっぱりおもしろい）」

そして……ロックマン達はいろんな所を調べた、そしてロックマン達はあることを知った……それは……

ロックマン「……ここって……」

ロックマン2「僕の家……」

ウォーロック『おいおいそれになんだ？いろんな所が破壊されてやる』

ウォーロック2『おいおい……まさかここ……』

『コダマタウン……？』

ロックマン「……！母さん！」

ロックマンはドアを強く引いた

ギイイイイイ……

ロックマン2「……うそ……誰もいない……」

ウォーロック『オフクロ……！』

ウォーロック2『誰だ！』

????『ブロロロロロ……』

ロックマン「この声……ゴン太！」

しかしロックマン達が見たもの……それは……

ノイズに操られているオックス・ファイアだった

特別編2 第三の世界（後書き）

今回で特別編2は、3回目！前回よりも結構短いです・・・

クロウ「おっは〜 今は17時だよ〜」

（おは タ？）やっと起きたか居候！

クロウ「俺に影響されて的確に人を傷つける言葉が言えるようになったね」

・・・てかさ、前回の続きなんだけど何で俺の心の声を読んだんだ？

クロウ「失われし大切な絆の最初の番外編見れば分かる ヒントは作者ゾーン」

・・・（作者ゾーン？）答えは？

クロウ「作者ゾーン」

（さっきのヒントとまるつきり一緒だあああ）

クロウ「そうだね」

（こ・・・こいつ・・・また俺の心の声をおお・・・）

クロウ「んじゃお休み」

・・・結局こいつ何なんだ？

クロウ「ZZZZZZZZZZ」

（・・・寝るの早っ！）・・・と言っわけで次回また会いましょう

（珍しく普通に終わった・・・）

特別編2 オックス・ファイアン（前書き）

・・・あれ？クロウ？珍しくないなあ・・・（帰ったのか？・・・
そんなわけないかあ）

.....

・・・はあつまんねえ（でもなんか嬉しい）
まあどつど

特別編2 オックス・ファイア

オックス・ファイアN「ブロロロロロロロロ」

ロッキマン「ゴン太！」

ロッキマン2「なんでノイズが・・・オックス・ファイアに・・・」
ウォーロッキ「わからねえ・・・ただここがコダマタウンなのは分かった・・・しかしなぜオックス・ファイアがこんな状態なのかわからん」

ロッキマン「一体・・・どうなってるんだ・・・」

ロッキマン2「もう1人の僕、あぶない！」

ロッキマン「！」

オックス・ファイアNは突進してきた

オックス・ファイアN「ウオオオオオオオオオオオオオオ！」

ドカア！

ロッキマンは吹き飛ばされた

ウォーロッキ「スバルー」

ロッキマン「くっ・・・うっ」

ロッキマン2「ええいロツクバスター！」

オックス・ファイアNに直撃した

ロッキマン2「よし！」

オックス・ファイアN「ブロロロロロロロロ！」

ロッキマン2「なにいい効いてない!?」

ウォーロッキ2「とにかく逃げる！」

ロッキマン2「う・・・うん、でも」

ロッキマン「くっ・・・」

ウォーロッキ2「やべえ俺達が負けたらどうすればいいんだ！」

ロッキマン「・・・体が・・・動かない・・・」

ウォーロッキ「俺もだ・・・スバル・・・」

ロッキマン「ここで・・・終わるのかな・・・」

ウォーロック『……終わってたまるかよ……こんな所で』
ロックマン『……そうだね……もう1人の僕が頑張ってるんだ……』
するとロックマンは立ち上がった
ロックマン2『うおおおロングソード!』

ズバン!

オックス・ファイアN『ブロロロローー』
オックス・ファイアNはロックマン2にタツクルした
オックス・ファイアN『ウオオオオオオオオオオオオオ』
ロックマン2『うわああああ』
ドサツ
ロックマン2『うつ……強い』
ウォーロック2『立て!負けるぞ!』
ロックマン2『体が言うこと利かないんだ……』
オックス・ファイアNは、ロックマン2にまたタツクルしてきた……
ロックマン2『うわああああ』

ズンウウウツ!

オックス・ファイアN『!?!』
ロックマン『……』
ウォーロック『スバル……おまえ……』
ロックマンは、ノイズチェンジしていた……『クラウンノイズ』
に……

特別編2 オックス・ファイアン（後書き）

・・・マジで？

拝啓レツドスター様

「すっげー 今ドラグ（本物）ビックウェーブに乗ってるぜーイヤ
ツハー

俺が帰るのはライオーガの章の終わりらへんにでるから楽しみに待
つててねー」

・・・なぜ？

あと特別編2はしばらくお休みします・・・いやいや飽きてませ
んよただ・・・

ストックが・・・はは・・・

とにかく次回は本編を書きます、特別編2を楽しみにしてる方本当
にすみません

でも絶対にいつか書きます！そのときまでお楽しみに！

第75話 謎の文字・・・（前書き）

（本編）前回までは！

ロックマンの記憶を取り戻すためにドラグ、バード、そして弓亜が
ロックマンの頭の中に入ったが・・・弓亜は、ドラグ達の協力せず
ドラグ、バードはロックマンの頭の中の奥に進んだ、しかしドラグ
とバードはいつの間にかはぐれていたそしてバードはドラグをさが
しているとバードの目の前に現れたのは「記憶の鍵」だった！ドラグ
は「謎のデータ」を2つ見つけ、さらに弓亜も動きだした・・・

第75話 謎の文字・・・

ドラグ「わーい2つ目だ！」

するとそのデータから文字が浮かびあがってきた・・・

「ー」「グ」

ドラグ「・・・何これ？」

そのころバードは・・・

バード『で・・・でかい・・・』

そのときバードは気付いた

バード『これは・・・』

「 ロックマン」

バード『かけていてわからないが、たぶんこれが記憶の鍵を解除する方法！』

そのときバードは思い出した

バード『・・・あ、ドラグ忘れてた・・・』

バードはドラグを探しに行った・・・

ドラグは・・・

ピツカアアアアア

ドラグ「わーい明るい！」

そのとき誰かの泣いている声が聞こえてきた・・・

「しくしく・・・父さん・・・グズツ」

ドラグ「・・・誰？」

「しくしく・・・父さん・・・父さん・・・」

ドラグは少しずつ近づいてみた・・・そこには・・・

ドラグ「・・・スバル・・・さん？」

そこにはまだ小さいころのスバルがいた・・・

スバル（小）「しくしく・・・父さん・・・」

すると・・・
スウー・・・

小さいスバルが消えてしまった・・・

ドラグ「消えた・・・？」

そのとき

「ウオオオ・・・」

ドラグは後ろを向いた

ドラグ「こ・・・これは・・・」

ドラグの目の前になんとアンドロメダが現れた！

アンドロメダ「ウオオオオオオオオオオオ」

ドラグ「アンドロメダって・・・スバルさんが倒したはずじゃ・・・」

「

ちようどそのころ・・・

バード「うそだろ・・・なんでここにクリムゾン・ドラゴンが・・・」

」

クリムゾン・ドラゴン「ガオオオオオオオオオオオ」

バード「くっ・・・逃げなければ・・・」

バードは逃げた・・・しかしクリムゾン・ドラゴンは追いかけてくる

クリムゾン・ドラゴン「グオオオオオオオオオオ」

バード「くそ・・・こんなときにドラグがいれば・・・」

ドラグは・・・

アンドロメダ「ウオオオオオオ」

アンドロメダはドラグに攻撃してくる

ドオオン！

ドラグ「うわー助けてーバードー」

そのとき

アーチエリー・R「インフィニティーアロー！」

アンドロメダに無数の矢がふりそそぐ

アンドロメダ ♪ゲオオオ・・・
♪
アンドロメダは、消えた・・・
ドラグ・・・弓垂・・・
♪
アーチェリー・R・・・
♪

第75話 謎の文字・・・(後書き)

アンドロメダが出てきたー！？まだまだ続くロックマンの頭の中！
次回はどうなる！？

第76話 命令(前書き)

はあ・・・なんか疲れた・・・

第76話 命令

ドラグ「・・・弓垂・・・」

アーチエリー・R「・・・」

ドラグ「なんでここに・・・」

アーチエリー・R「・・・命令されたからだ・・・」

ドラグ「命令？」

アーチエリー・R「ああ・・・それとこれをやるよ」

アーチエリー・Rはデータデータをあげた

ドラグ「おお・・・データ！」

するとそのデータも光始めた

ピカアーン

そして文字が浮かびあがってきた

「タ」

ドラグ「・・・タ？」

今持っているのは、「ー」「グ」「タ」である・・・

キイーン

アーチエリー・Rは変身変身をといた・・・

弓垂「俺はお前の仲間になったわけじゃねー、これは命令されたから動いてるだけだ！」

ドラグ「弓垂・・・ありがとう！」

弓垂「・・・ふん」

そのとき

バード『ドラグー』

ドラグ「あっ・・・バー・・・」

バードの後ろにクリムゾン・ドラゴンがいた

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオオオオオオオオオオオ』

弓垂「ちっ・・・なんだあんなデッカイ怪物は・・・」

バード『おまえは・・・弓垂！』

ドラグ「バード！」
バード「・・・やるぞ！」
ドラグ「電波変換！」

キイイイイン

フェニックス「フェニックス！」
クリムゾン・ドラゴン「ガアオオオオオオ」
フェニックス「フェニックスブレード！」
ツバサが剣になった
フェニックス「うおおおおおおお」
するとクリムゾン・ドラゴンからロケットが出てきた
フェニックス「なっ・・・」

ドオオオオン

フェニックス「ぐっ・・・」
バード「（っ、強い・・・）」
フェニックス「・・・バード・・・」
バード「なんだ」
フェニックス「あれ・・・開放する？」
バード「・・・だめだ危険すぎる」
弓垂「「あれ」ってなんだよ・・・」
バード「・・・君には関係ありません」
弓垂「このお」
クリムゾン・ドラゴン「ガアオオオオオオ」
フェニックス「とにかく・・・どうにかしないと・・・」

第77話 謎の記憶・・・(前書き)

なんか知らないけどやる気が出てきたーっ！

第77話 謎の記憶・・・

フェニックス「・・・フェニックスブレード！」

翼が剣になった

フェニックス「フレイムソード炎の剣」

剣から炎が出てきてた

ポオウ！

フェニックス「はあああああ」

ズバン！

フェニックス「やった！（まともに当てた）」

クリムゾン・ドラゴン「ガアオオオオオオオ」

フェニックス「えっ・・・」

またロケットが出てきてフェニックスにあたった

ドオオオン

フェニックス「くっあああ・・・」

バード「ドラグ！（やはり「あれ」を使ったほうがいいのか・・・

？）」

弓垂「・・・見てらんねえーな」

フェニックス「くっ・・・体が動かないよお」

クリムゾン・ドラゴン「ガアオオオオオオオ」

フェニックス「・・・やつぱやろうよ・・・」

バード「だめだ・・・危険すぎる！」

フェニックス「でも・・・」

???「どうしたのお？」

フェニックス「えっ？」

フェニックスが見たものそれは小さな女の子だった

フェニックス「・・・誰？」

シオリ「花野シオリです」

バード「(花野シオリ……どこかで聞いたことがあるような……)
」

クリムゾン・ドラゴン「ガオオオオオオ」

フェニックス「!危ないからシオリちや……」

きずいた時にはシオリはいなくなっていた

弓垂「おい、どこ見ている!」

バード「!」

フェニックス「くっ……でも体が……」

クリムゾン・ドラゴン「オオオオオオオオ」

フェニックス「うわああああああ」

そのときまた声がした……こんどは、男の声だった……

????「やめる!」

フェニックス「!」

バード「あ、あれは……ロックマンEXE!^{エグゼ}」

ロックマンEXE「……」

そのころ現実世界……

????5「……クク……」

????5のあとを追っているライオ

ライオ「(そいえば見たことねえな……あいつのウィザード)」

????5「出て来い……ソウル!」

ソウル「クク……楽しみだぜ……」

ライオ「(あいつは……!)」

第77話 謎の記憶・・・（後書き）

ライオが見たものは・・・？そしてロックマンEXEキターー
なんでいるかというと・・・その秘密は次回明らかにな

第78話 ロックマンEXE対クリームゾン・ドラゴンー！(前書き)

レッドスターです・・・今日も暑いですね・・・

第78話 ロックマンEXE対クリムゾン・ドラゴン！

バード『（しかしなぜここにロックマンEXEが……）』
ロックマンEXE『はああロックバスター』

デユン！

クリムゾン・ドラゴンはビクともしなかった

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオ』

バード『（ここはロックマンの中……記憶……！）』

バードは「ハッ」と気づいた

フェニックス「どうしたの……？」

バード『わかったぞ……ここはロックマンの「記憶」の中だ！』

フェニックス「えっ……でもロックマンは記憶を失くしてるんでしょ？」

バード『だからここは、「ロックマンが失くした記憶の中」だ』

フェニックス「えっ……じゃー今戦ってるロックマンEXEも……

……

バード『ああ……おそらくロックマンの記憶だ』

ロックマンEXE『くっ……全然効かない……』

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオオオオオ』

????『大丈夫か？ロックマン！』

ロックマンEXE『あつ熱斗君！』

熱斗『いくぜロックマン！』

ロックマンEXE『いつでもいいよ』

熱斗『いくぜ！バトルオペレーション セット』

ロックマンEXE『イン！』

熱斗『バトルチップ「Wソード」スロットイン！』

ロックマンEXEの両手がソードになった

ロックマンEXE『うおおおハッ！』

ズバッ！

クリムゾン・ドラゴン『ゲガアアアアアアアオオオオオ』
するとロケットがロックマンEXEを狙う

ロックマンEXE『くっ……ロックバスター』

デュン デュン

しかしロケットもビクともしなかった

熱斗『あぶない！バトルチップ「バリア」！』

キーン

ドゴオオオオン！

熱斗『ロックマン！』

ロックマンEXE『ありがとう熱斗君』

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオオオオオオオオオオオオ』

クリムゾン・ドラゴンはでかいロケットを出した

熱斗『うわっでっか！？』

ロックマンEXE『くるよ熱斗君』

熱斗『わかってる……よしバトルチップ「ハイキャノン」！』

ロックマンEXE『うおおおハイキャノン！』

ドオン！

ロックマンEXEはでかいロケットを破壊した

ロックマンEXE『もう一発、ハイキャノン！』

ドオン！

ハイキャノンは、クリムゾン・ドラゴンに命中した

クリムゾン・ドラゴン『ゲオオ……ガアオオオオオ』

するとクリムゾン・ドラゴンが爪でロックマンEXEを切り裂こう

としている

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオオ』

熱斗『くっ……バトルチップ「インビジブル」！』

ズパアアアアアアン

フェニックス『あっ……ロックマンEXEが！』

クリムゾン・ドラゴン『ガオオオオオオオオオ』

第78話 ロックマンEXE対クリムゾン・ドラゴン！（後書き）

ロックマンEXEがああ次回ロックマンEXEの行方は・・・？

第79話 もう1体のEXE！（前書き）

どーもレッドスターです・・・なかなか終わらないクリムゾン・ドラゴンとの勝負いつ決着がつくのか・・・？

第79話 もう1体のEXE!

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオオオオ』

熱斗『・・・バトルチップ「トレインアロー3」!』

すると何も無い所から弓が出てきた

シュツ、シュツ、シュツ

弓はクリムゾン・ドラゴンに刺さった

クリムゾン・ドラゴン『ゲアアアア』

すると何も無い所からロツクマンEXE^{エグゼ}が現れた!

フェニックス『わあ、すごい』

バード『(たしかにすごい・・・しかし今のままじゃ確実にクリムゾン・ドラゴンには勝てない・・・)』

ロツクマンEXE『熱斗君お願い!』

熱斗『バトルチップ「サンダーボールx3」!』

ロツクマンEXE『サンダーボール』

バチイバチイバチイ

クリムゾン・ドラゴンはロケットを3つだしてサンダーボールを消した

ロツクマンEXE『強い・・・』

クリムゾン・ドラゴン『ガアアアアアアア』

またでかいロケットが現れロツクマンEXEを狙って撃った

熱斗『やべえー「バリア」がない!』

ロツクマンEXE『熱斗君!』

熱斗『ロツクマーン!』

そのとき

???『リフレクメット3』

するとロツクマンEXEの目の前に大きなガードが現れた、そして

ロケットは跳ね返ってクリムゾン・ドラゴンに跳ね返ってきた!

ドオオオオオン

熱斗「誰だ！」

熱斗が見たものそれは・・・

????「若いなあおじいちゃん！」

????「久しぶりだね熱斗君」

熱斗が見たのは熱斗に似た人とロックマンEXEエグゼだった

熱斗「・・・ロックマンが・・・2人!？」

正斗「俺は正斗！」

ロックマンEXE2「僕は熱斗君の時代の100年後のロックマンだよ」

熱斗「えーとつまり・・・未来のロックマンと未来の孫？」

正斗「おじいちゃん俺も手伝うよ！」

熱斗「お・・・おお頼むよ」

正斗「いくよロックマン！」

ロックマンEXE2「うん」

熱斗「こつちもいくぞ！」

ロックマンEXE「うん」

熱斗&正斗「バトルオペレーション セット」

ロックマンEXE&ロックマンEXE2「イン！」

第79話 もう1体のEXE！（後書き）

正斗は「特別編」に出たキャラクターです。
しかしこのあとの展開は面白くなりそう・・・

第80話 EXEコンボ!

熱斗&正斗「バトルチップ「Wソード」!」

ロックマンEXE&ロックマンEXE2「うおおおお」

2体のロックマンEXEはクリムゾン・ドラゴンの顔を切った
ズバババン!

クリムゾン・ドラゴン「ギヤヤヤヤ」

熱斗&正斗「今だ!バトルチップ「Wハイキャノン」!」

2体のロックマンEXEは、両手がハイキャノンになった

ロックマンEXE「僕は右をやるよ」

ロックマンEXE2「じゃー左をやるよ」

2体のロックマンEXEがクリムゾン・ドラゴンの目の前に来た

ロックマンEXE&ロックマンEXE2「くらえハイキャノン!」

ドドドドン!

クリムゾン・ドラゴン「グウウウウウ……」

熱斗&正斗「とどめだあー」

ロックマンEXE&ロックマンEXE2「ロックバスター」

デュウウウーーン!!

クリムゾン・ドラゴン「ウウウウウウ……」

するとクリムゾン・ドラゴンの体が崩れていった……

フェニックス「やったあー」

バード「まさか……勝てるなんて……」

そのとき

シオリ「すごい……」

フェニックス「あつ、シオリちゃん」

シオリ「……あなたなら使えるかもしれないわ……」

フェニックス「えっ……?」

するとシオリの手から光が出てきた……

シオリ「・・・あなたは・・・いずれ・・・」
キイイイイイイイイ

光が大きくなりフェニックスの体を包んだ・・・

バード「ん・・・あれ・・・なにもない・・・」

ドラグ「うん・・・あれ？変身が解けてる」

バード「！、ロックマンEXEは！？」

気づいたときには、もういなかった・・・しかし代わりにデータが
5つ落ちていた

そのデータをドラグがひろうと文字が現れた

「シ」「テ」「イ」「ユ」「ス」

バード「・・・！、分かったぞ・・・」

ドラグ「？」

バード「あの鍵の解除の方法が！」

第80話 EXEコンボ！（後書き）

とうとうデータ8個目！そして謎の少女シオリ！一体なに者なのか？さらにフェニックスに何されたのか？謎ばかりです！

第81話 残り5時間・・・(前書き)

どーもーレッドスターでーす

今回の話とはにかくデータ探しです

第81話 残り5時間・・・

そのころ（外）現実世界では・・・

ダイヤパール「・・・早くしなさい弓垂・・・のこり5時間よ」
ロックマン「・・・うつつ」

ロックマンの頭の中・・・

ドラグ「ええっ見つけたの？鍵・・・」

バード「ああ・・・ついて来い」

ドラグと弓垂は、バードのあとについていった・・・
そして・・・

バード「ここだ・・・」

ドラグ「おおおおおっ！大きいー！ーっ！」

弓垂「でかあ!？」

バード「あと見てくれここを」

ドラグ「・・・なにこれ？かけてて読めないよ」

弓垂「だが最後の文字は読める・・・」
「ロックマン」って・・・

バード「かけている所があるだろ・・・」

ドラグ「うん・・・」

バード「それが今ドラグが持っている「データ」がかけらだ！」

弓垂「しかしかけている所は10個ある・・・こいつが持っている

「データ」が8個・・・あと2つか」

バード「あと2つ探すぞ！」

ドラグ「おーっ！」

そのころ（外）現実世界は・・・

ダイヤパール「・・・そろそろやばくなっただわね・・・」
弓垂、何
してるの！早くしなさい、早くしないと・・・」

中では・・・

バード「・・・どこだ？」

弓垂「あー！ーっ！おいガキ！なんか探す方法はねえーのか？」
ドラグ「んー・・・あっ！そいえばデータを見つけたとき僕が持つてるデータが光ってた！」

バード「つまりドラグが持っているデータが光ればその近くにあるってことか・・・」

弓垂「よーしさっさと探すか！」

そのとき・・・

スウー

ドラグ「・・・あれ？なんか手が薄くなって・・・」

バード「・・・！まさか・・・もう24時間がたつのか！？」

弓垂「俺はまだ死にたくねえーっ！」

バード「ドラグ！早く探すぞ！」

ドラグ「うん！」

現実世界では・・・

ロックマン「うわあああああつぐう」

ダイヤパール「・・・あと・・・2時間・・・」

第81話 残り5時間・・・(後書き)

- ・ あと・・・2時間!?!・・・あと言い忘れましたロックマンの頭の中と外の世界の時間のたちかたは違います・・・言い忘れました・・・

第82話 残り2つ・・・(前書き)

残りのデータは2つ・・・ドラグ達は見つけれられるのか？

第82話 残り2つ・・・

ドラグ「早くしないと消えちゃう！」

ドラグの手が少しずつ薄くなっていく・・・

バード『・・・にしても「データ」が光らない・・・この近くにはないのか？』

弓垂「・・・おい！そこにわかれ道があるぞ」

バード『ほんとうだ・・・よし二手に別れよう！』

ドラグ「うん！」

弓垂「俺は左行く」

ドラグ「バードと僕は右！」

バード『ドラグ、あいつに「データ」を半分、分けてくれ』

ドラグ「分かった」

そして弓垂は4個「データ」をもらった

バード『さあ、行こう！』

ドラグ「おーっ！」

弓垂「・・・ああ」

そして二手に別れた・・・

ドラグ&バードは・・・

バード『・・・なんか気味わるいですね・・・』

ドラグ「・・・あれ？」

バード『どうした？』

ドラグ「「データ」が光ってる・・・」

ポオオオオウ

データは微妙に光っていた

ドラグ「この近くにデータがあるー！」

バード『どうやらこの奥にあるようだ・・・行こう』

そのころ弓垂は・・・

弓垂「・・・なんかいる（ような）気がする・・・」
弓垂は、後ろを勢いよく「バツ」って振り向いた

・・・オオ・・・オオオオ・・・

弓垂「・・・えっ・・・？」

弓垂が見たものは・・・白い・・・人・・・

弓垂「うそだろ・・・」

白い人「オオオオオ・・・」

弓垂「ぎゃぁーーーーっ」

そのとき、「データ」が光った！

キイイイ

弓垂「（まさか・・・）」

すると白い人が分裂する・・・

にゅ～～～

そして「あっ」と言う前に何十対のウイルスになった！

弓垂「・・・マジで？」

ドラグ&バードは・・・

バード「この奥にあるはずなんだけど・・・」

ドラグ「！、バード！」

バード「どすした！」

ドラグが見たものは白い人だった・・・

ドラグ「おばけえ〜怖い〜」

バード「いや・・・お化けじゅない・・・あれは、ウイルスだ！」

白い人「キシャーーーーー！」

バード「かまえるー！」

ドラグ「まだ体が痛いけど・・・頑張る！」

弓亜は・・・

弓亜「めんどくせえー・・・でもやるか」

ウィルスは弓亜に攻撃しようとした

弓亜「いくぜ・・・」

ドラグノ弓亜「電波変換!!」

第82話 残り2つ・・・(後書き)

・・・なんか・・・知らないけど、メッチャ、ハイテンションで書けた・・・

第83話 ウイルス！（前書き）

どーも、レッドスターです。

なんとなく昨日アイスを3つも食べました

親にはこう言われました「食いすぎ！」って……たしかに食いすぎました

第83話 ウイルス!

キイイイイイイイン!

フェニックス「・・・やるよー!」

弓垂は・・・

キイイイイイイイン!

アーチェリー・R「へっ、一瞬で終わらす!」

アーチェリー・Rは弓ユミを持ち上に上げた

アーチェリー・R「インフィニティーアロー」

上に放った矢は光だし無限の矢になった

そしてウイルスに降り注ぐ

ザザザザザザ

アーチェリー・R「チェックメイトだ・・・」

ウイルス達は次々と消えていった

アーチェリー・R「くうー終わった・・・あれ?」

アーチェリー・Rユミの足のしたに「データ」があった・・・

アーチェリー・R「よし!」

そのころフェニックスは・・・

フェニックス「うおおおおウィングブレイド「たて切り」!」

ズババン!

ウイルスは次々と消えるがまだ半分も残っている・・・
フェニックス「ううっ・・・なんでこんなに・・・」
バード「（確かにあの白い奴を切る前はウイルスの反応は1体だった・・・しかし切ったあと白い奴が分裂して今では・・・）」
フェニックス「ううっ、まだ何十体もいるよ・・・」
バード「・・・よし！ドラグ俺の指示に動け！」
フェニックス「OK！」
ウイルスがどんどん近づいてくる・・・
バード「まずは右だ！」
フェニックスは指示通り右に移動した
バード「そして横切りだ！」
フェニックス「うん、ウィングブレイド「横切り」！」

スババババババン！

一回で半分近くウイルスを倒した
フェニックス「やったあ！」
バード「ただ上を見る」
フェニックス「えっ・・・」
上から攻撃をするウイルスがいた・・・
バード「たて切りだ！」
フェニックス「ウィングブレイド「たて切り」！」

スパン！

ウイルスは消えた
フェニックス「（この高さなら・・・）いける！Wフェニックスブレード！」
翼が2つの剣になった

バード『これならできる・・・』
フェニックス「フェニックスの必殺技
・・・」

「クロスファイナル!!!」

ズドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

ウイルスは一瞬にして全滅した・・・

第83話 ウイルス！（後書き）

！
最近オリキャラを送ってくる人が少し増えました・・・ありがとう

第84話 解除！？記憶の鍵！（前編）（前書き）

とうとうやっとスバルの記憶が戻るのか？
でも・・・本当に長かった・・・

第84話 解除！？記憶の鍵！（前編）

フェニックス「やったあ！」

バード「……！、おいドラグそこに「データ」があるぞ！」

フェニックスは変身をといた

キーン

ドラグ「ふう……どこどこ？」

ドラグは「データ」を拾った

そして「データ」が光った

すると「データ」に文字が浮かんだ

「ー」

ドラグ「……また「ー」？」

バード「とりあえず記憶の鍵の所に戻ろう」

ドラグ「うん！」

そして……記憶の鍵の前……

弓垂「！、来たか……」

バード「おい……「データ」は？」

弓垂「あるぞ……」

ドラグは「データ」を見た

「ン」だった……

バード「これで全部……10個か……」

そしてドラグ達はいままで「データ」の文字を見た

「ー」「グ」「タ」「シ」「テ」「イ」「ユ」「ス」「ー」「ン」

バード「……あとははめ込むだけだが……」

ドラグ「何かの言葉だよね？文字を並べかえてなんかの言葉にすればいいんじゃない？」

バード「そうだな……並べかえてみよう！」

弓垂「よーし、こんなの楽勝だ！俺に任せろ！」

数分後・・・

弓垂「出来た！」

バード『どれど・・・』

ドラグ「えーと・・・」「11シテイクスタグン」・・・

バード『・・・読めない・・・』

ドラグ「・・・(なに語?)」

弓垂「・・・とにかくはめよう」

カチャカチャ・・・

し~~~~~ん

バード『・・・やはりただ言葉を作るだけじゃなく・・・ロックマン・・・星河スバルに関係ある言葉じゃないか?この鍵を解除するには・・・』

ドラグ「僕・・・やる!」

弓垂「・・・」 答えが違っていてショックを受けていて

声が出ない弓垂

ドラグ「・・・(ロックマンに関係ある言葉・・・)」

ピーン

ドラグは何かを思いついた!

ドラグ「これだーっ!」

第84話 解除！？記憶の鍵！（前編）（後書き）

次回ドラグが思いついた言葉とは・・・？

第85話 解除！？記憶の鍵！（後編）（前書き）

昨日オリキャラを送ってくれた人がいました！
本当にありがとうございます！

第85話 解除！？記憶の鍵！（後編）

ドラグ「これだぁー！ーっ！」

「シューティングスター」

バード「・・・「シューティングスター」か・・・」

弓垂「意外にベタだな・・・」

バード「でも、もしかしたらこれで、あっているかもしれない！」

そして記憶の鍵にはめこんだ・・・

カチャカチャ・・・キイイイイイ

急に記憶の鍵が光だした！

そしてだんだん光が大きくなって・・・そして・・・

カツ！

ドラグ達は目をつぶった

ドラグ「うわぁぁ」

バード「くう・・・」

弓垂「まぶしいいい」

そして光が弱くなった・・・

ドラグ「・・・あれ？」

バード「おさまったか・・・？」

弓垂「うおお目があかねええ」

バード「！、これは・・・」

バードが見たものそれは、鍵が無くなっている代わりに大きな道が出来ていた、それにその道は明るかった・・・

バード「・・・ドラグ行ってみよう！」

ドラグ「おーっ！」

そしてドラグとバードは歩いた・・・

弓垂「ふう・・・やっと目が・・・って俺をおいて行くなーっ！」

弓垂は必死にドラグとバードの所まで走っていった

そしてドラグ達は奥にすすむと・・・

バード「なんでだ？奥に進むほど道が明るくなっていく・・・」

ドラグ「何これ？」

バード「どうした？」

ドラグは指をさした

バードは見た・・・それはたくさんの写真だった・・・

バード「これは・・・ロックマンのいままでの記憶の「写真」だ」

弓垂「どれどれ・・・なんだこれ？」

バード「なんかあったか？」

弓垂「ほれ、これ」

バード「・・・どういうことだ・・・」

その記憶の写真はまるで誰かがペンで塗りつぶしたような真っ黒な写真だった

バード「・・・おかしい・・・こんな初めてだ・・・」

弓垂「・・・うわっ体がっ！」

ドラグ達の体が少しずつ消えていく

スウウーイー

バード「早くここから出なければ・・・消える！」

ドラグ「どうやって出るの？」

バード「・・・」

ドラグ「まさか・・・」

バード「・・・」

バードは、目をそらした・・・

弓垂「ここから出る方法・・・知らなかったりして・・・」

バード「・・・そう・・・」

弓垂はしばらくシーンってなった・・・そして・・・

弓垂「まじでかあああああああ！！？」

ドラグ達の体は、半分まで消えていた・・・

第85話 解除！？記憶の鍵！（後編）（後書き）

次回、記憶の中から出れるのか？

第86話 消えちゃう!? (前書き)

今日は「3DS」を買いました

めっちゃ目がチカチカする・・・でも楽しい

第86話 消えちゃう!?

ドラグ「うわああ消えちゃうー!」

バード「だが絶対にここから出る方法はある……うーん」

弓垂「てか消えたら、死んじやうの?」

バード「……おそろく……」

弓垂はシヨックを受けた……

弓垂「くうう……こんな所で死んでたまるかああ……!」

バード「うるさい!」

弓垂はまたシヨックを受けた……

ドラグ「……ねえ、もしかしたらここから出れる道があるかも!」

バード「そうだな……あるかもしれない、探そう!」

そしてここから出る道を探しに行った……

弓垂「くっ……なんで俺だけ……あつ!また俺をおいて行くな

!

バード「(くっ……早くしないと消える……一体どうやったら

出れるんだ!)」

ドラグ「なんだろ……体が少しずつ重くなってるような……」

バード「ああつ……俺もさつきから重くなっている……」

弓垂「はあはあ、歩くのが嫌になっていく」

体の四分の三が消えかかっている……

ドラグ「くう……僕……死んじやうのかな?」

バード「死なないさ……絶対に死んでたまるか!」

弓垂「でもさ……もうほとんど消えてるし……本当に助かるの

か?」

バード「助かる!」

弓垂「本当かよ」

ドラグ「……なんか周りが暗くなっているような……」

バード「くっ、たしかに暗くなっている……」

すると3人の体は四分の三まで完全に消えていた

ドラグ「・・・寒いよお・・・暗いよ・・・」

バード「眠い・・・意識が・・・」

そのときバードは目をつぶってしまった・・・

するとバードの体がどんどん消えていく・・・

バード「ド・・・ラグ・・・」

シユウウウウウウ・・・

バードは消えてしまった・・・

ドラグ「バードー！！」

弓亜「・・・さっきの言葉なんだよ・・・」「助かる！」って・・・

なんだよ・・・自分が助かってねえーじゃねえーか！」

ドラグ「・・・行こうよ・・・」

弓亜「・・・おう・・・っ！」

すると今度は弓亜の体がどんどん消えていく・・・

弓亜「くっそ・・・これまでか・・・」

ドラグ「弓亜・・・」

弓亜「・・・おい・・・ガキ！おまえは助かれよ・・・」

ドラグ「！」

そして弓亜は消えていった・・・

ドラグ「・・・1人になっちゃった・・・」

ドラグは遅く歩いた・・・1人で・・・

トコトコ・・・

ドラグ「バード・・・弓亜・・・」

ドラグは頑張つて歩いた・・・しかし

ドラグ「うつつ・・・重い・・・暗い・・・眠い・・・寂しい・・・」

「

するとドラグの体はどんどん消えていく・・・

シユウウウウウウウウウウウウー・・・

・・・

ドラグ「やだあ・・・消えちゃう・・・消えちゃうよお」

そんなときになぜか親の事を思い出した・・・
ドラグ「お父さん・・・お・・・母さ・・・ん」
ドラグは静かに目を閉じた・・・
そして静かに消えていった・・・

第86話 消えちゃう!? (後書き)

今回の話・・・なんか悲しくなる(書いてるこっちも)

次回・・・ロックマン、いや・・・星河スバルの記憶がとつとつ戻る!

第87話 記憶が戻った！（前書き）

とつとつスバルの記憶がもどる！・・・やっと戻る・・・

第87話 記憶が戻った!

ダイヤパール「……なんとか間に合ったみたいね……」

ロックマン「……ふあ〜」

ウォーロック「くう〜……スバル?」

ロックマン「……あれ?ロック?」

ウォーロック「おまえ……思い出したか?」

ロックマン「何いつてるのロック?」

ダイヤパール「成功ね、記憶が戻ったわ」

ロックマン「記憶?それに……誰ですか?」

ダイヤパール「私はダイヤパール……あなたは記憶をなくしてて私が記憶を取り戻したのよ」

ウォーロック「つまりスバルは記憶をなくしてたんだ」

ロックマン「うそーっ!?」

ウォーロック「本当だ」

ロックマン「……!、ロックさつきから気になってたんだけどさ」

ウォーロック「なんだ?」

ロックマン「あそこに倒れている人は誰?」

ウォーロック「ドラグと……弓垂って奴だ」

ダイヤパール「……そろそろかな?」

ドラグ「……うわああああ」

バード「ぐああああああ」

弓垂「ぐううううう」

ドラグとバードと弓垂は急に苦しそうに大声をだした
ロックマン「ど……どうなってるの〜っ!?!」

ドラグ「ううっ……ん?」

バード「……え?」

弓垂「……お?」

ドラグとバードと弓亜は立ち上がった

ダイヤパール「・・・おかえり」

バード「・・・どうなっているんだ？」

弓亜「生きてる・・・俺生きてる！」

ドラグ「わーい、よかった！」

バード「あの・・・博士なんで生きていますか俺達？」

ダイヤパール「あたりまえじゃない・・・ちゃんとクリアしたんだから！」

バード「・・・そうか！たしかあのときこう書いてあった！」

・24時間までに解除できなかつたら自分が消滅する

バード「つまりこれは「クリア」出来なかつたら消滅することです・・・

・クリアできたら消滅しないで外に出れることだったのか！」

ダイヤパール「そう・・・よくわかったわね」

そのときダイヤパールに一つの電話が来た

P i P i P i

ダイヤパールはハンターV Gを取った

ダイヤパール「もしもし？」

するとしばらくしてダイヤパールの目の色が変わった

ダイヤパール「あなたは・・・」

第87話 記憶が戻った！（後書き）

次回・・・話が急展開します！

第88話 ホワイト・ソウル！（前書き）

とぅとぅとぅとぅとぅ？の正体がわかるのか！？

第88話 ホワイト・ソウル!

ダイヤパール「あなたは……ヨイリーちゃん!?」

ヨイリー「大変よ! 正体不明の電波体がWAXAワクサに襲ってきたのよ」
するとバードが話した

バード「今はどうなっているのですか?」

ヨイリー「今、ある電波体が戦っているわ……」

ロククマン「……オックス・ファイアですか?」

ヨイリー「いいえ違うわ……ダーク・ナイトよ!」

ロククマン「……えっ!?!」

ウォーロクク「おいおい……冗談だろ?」

ヨイリー「冗談じゃないわ……お願い……もどっ……ジジ……」

・プツン!」

電話は、「プツン」って途切れた

ウォーロクク「やべえぞ……こりゃ」

ロククマン「早くいか……」

ダイヤパール「いいえ、あなたはここに残ってもらおうわ!」

ロククマン「ええっ!?!」

ダイヤパール「弓亜とドラグは、WAXAワクサに向かいなさい!」

弓亜「なんで俺が……」

ダイヤパール「行きなさい!?!」

弓亜「はあああ!?!」

バード「いくぞドラグ!」

ドラグ「おっ!」

そしてドラグ、バード、弓亜はWAXAワクサに向かった……

ロククマン「……あの」

ダイヤパール「さっ! 実験するわよ」

ロククマン「ええっ!?! (いきなり?)」

ウォーロクク「おい……なんで実験するんだ……俺達を」

ダイヤパールは、「ニヤリ」と笑った
ダイヤパール「それはね……」

そしてWAXA^{ワクサ}では……

???「……裏切るのか？ダーク・ナイトよ……」

ダーク・ナイトは体がボロボロだった……

ダーク・ナイト「はあはあ……貴様だったのか……」

???「？」

ダーク・ナイト「俺の家族を殺したのは、貴様だったのかああああ
あ！……」

するとダーク・ナイトは???に接近した

ダーク・ナイト「俺はおまえを……倒す！覚悟しろホワイト・ソ
ウル！」

ホワイト・ソウル「……ククク……」

第88話 ホワイト・ソウル！（後書き）

まさかの展開！次回はその2人の勝負、果たしてどちらが勝つのか！？

第89話 ダーク・ナイトVSホワイト・ソウル！（前書き）

どうもレッドスターです。

最近オリキャラを送ってきてくれる人が多いです。

俺はとっても嬉しいです・・・（涙）

第89話 ダーク・ナイトVSホワイト・ソウル!

時はさかのぼり……1時間前……

WAXAでは……
ワックス

ミソラ「大丈夫かな?スバル君……」

ゴン太「きつと平気だった!」

キザマロ「そうですよ、ウォーロックもいるんですし……」

ミソラ「……うん……」

そのとき……

ドオオオオン!

ゴン太「ななななななんだ?」

暁「大変だ、謎の電波人間がWAXAをに襲つてきた!」
ワックス

ミソラ「えっ!?!」

ゴン太「またかよ……」

キザマロ「同感です……」

ミソラ「……(スバル君がいない今……私が……)私行きま
す!」

キザマロ「ええっ!?!危険ですよ」

ミソラ「でも行く!」

ハープ『こうなったら止まらないわよ、ミソラは』

ミソラ「いくよハープ!」

ハープ『はいはい』

ミソラ「電波変換!」

キイイイン!

ハープ・ノート「敵は……外ね!」

キザマロ「……行っちゃった……」

ゴン太「……俺も行くぜ!」

キザマロ「ゴン太君まで!?!」

ゴン太「電波変換!」

キーン!

オックス・ファイア「ウオオオ行くぜーっ!」

そしてオックス・ファイアも行ってしまった・・・

キザマロ「・・・なんか悲しいです・・・」

そしてハープ・ノートは・・・

ハープ・ノート「・・・あっ!居た!」

そしてハープ・ノートは、敵にちかづいたそのとき

???「・・・なんでお前が・・・」

ハープ・ノート「!」

ハープ・ノートが見たものは、一人は初めてみるがもう一人は、あ
のときの敵・・・ダーク・ナイトだった

ハープ・ノート「(なんであいつが!?)」

オックス・ファイア「どうした?ハープ・・・ってあいつは!」

ダーク・ナイト「なんで黙っている・・・ホワイト・ソウル」

ホワイト・ソウル「・・・ククク・・・」

ダーク・ナイト「なにがおかしい?」

ホワイト・ソウル「なんで邪魔をする・・・ダーク・ナイト」

ダーク・ナイト「・・・俺は一つ聞きたいだけだ・・・なんで俺の

親を殺したウィザードをお前が持っている!」

ホワイト・ソウル「さあーな」

ダーク・ナイト「・・・まさかあのとき、わざと俺の親をやったの
か?」

ホワイト・ソウル「・・・だったら?」

ダーク・ナイト「倒す!」

ホワイト・ソウル「ククク・・・アーハハハハお前が私を倒すだ
と?おかしくて笑いがとまらねえーアーハハハハ!」

ダーク・ナイト「黙れーっ!ダークブレイドーっ!」

ホワイト・ソウル「!」

ズドオオオオン

ダーク・ナイト「はあはあ・・・」

ホワイト・ソウル「お前の力・・・そんなものか？」
ダーク・ナイト「何っ!？」

確かにまともな当たらずなのに相手はビクともしていなかった。

ホワイト・ソウル「次は・・・こっちからだ・・・」

するとホワイト・ソウルの姿がきえた・・・

ダーク・ナイト「!」

ダーク・ナイトは、周りを見た

ダーク・ナイト「くっ・・・見えない・・・」

すると・・・

ホワイト・ソウル「こっちだ・・・」

ホワイト・ソウルはいつの間にかダーク・ナイトの後ろに居た・・・

ダーク・ナイト「しまっ・・・」

ホワイト・ソウル「・・・裏切り者には罰を・・・くらえ・・・

ゴーストアイ!

ダーク・ナイト「ぐう・・・(体が・・・うごかねえ・・・)」

ホワイト・ソウル「さあ・・・罰を受けよ・・・ソウルバスター!

ドギユウウウウン!

ダーク・ナイト「ぐあああああああああつ」

ドサツ・・・

ホワイト・ソウル「クククもう裏切るなよ・・・ダーク・ナイトよ」

ダーク・ナイト「くっ・・・はあはあ」

ホワイト・ソウル「また・・・裏切るのか?ダーク・ナイトよ・・・

ー

ダーク・ナイトは体がボロボロだった・・・

ダーク・ナイト「はあはあ・・・貴様だったのかよ・・・」

ホワイト・ソウル「そうだ」

ダーク・ナイト「俺の家族を殺したのは、貴様だったのかああああ

あ!.....!」

するとダーク・ナイトはホワイト・ソウルに接近した

ダーク・ナイト「俺はおまえを．．．倒す！覚悟しろホワイト・ソウル！」

ホワイト・ソウル「．．．ククク．．．まだやるのか？無駄なことを．．．」

ダーク・ナイト「そうだ．．．俺は貴様を倒すまで倒れない！貴様を倒して親のかたきをつつんだああ！」

ホワイト・ソウル「出来るならやってみるよダーク・ナイトよ．．．」

ハーブ・ノート「何？この激しい戦い．．．あの二人は仲間じゃないの？」

オックス・ファイア「ここは引き返そうミソラちゃん」

ハーブ・ノート「．．．」

そしてハーブ・ノートとオックス・ファイアは引き返した．．．

そして．．．ロックマン達は．．．

ロックマン「．．．こんな所でやるの？」

ダイヤパール「そうよ．．．」

ロックマンの目の前には、意外に普通な部屋だった．．．

ロックマン「そいえばさつきから、おとなしいねロック？」

ウォーロック『．．．．．』

ダイヤパール「さあ始めるわよ．．．実験を！」

ロックマン「．．．はい」

第89話 ダーク・ナイトVSホワイト・ソウル！（後書き）

今回めっちゃ話長い・・・

次回ロックマン・・・改造計画？（仮）

第90話 恐ろしい実験？（前書き）

今回の話は・・・ウォーロックが・・・ウォーロックが・・・恐
ろしいことだ・・・

第90話 恐ろしい実験？

ダイヤパール「じゃ、早速・・・変身を解きなさい」
ロックマン「あっ・・・はい」

ロックマンは変身を解いた
キーン！

ダイヤパール「それじゃー・・・その電波体！」
ウォーロック「・・・俺？」

ダイヤパール「あなたからやるわ・・・フフ・・・」
ウォーロック「ヒイイイ~~~~」

そして・・・
スバル「・・・大丈夫かな？ロック・・・」

そのとき、となりの部屋から・・・
『ギアアアアアアアアア』

スバル「ひい」
『もうやめて・・・ウギアアアアアア~~~~』

「おとなしくしないともつと痛い目にするよ」
『もう・・・だ・・・めだ・・・』

スバル「・・・（一体どんな実験だろ？）」
「さっ、これで・・・最後よ・・・フフ」

そして・・・隣の部屋から奇妙な音が・・・
ギョギョギョー~~~~！パリーン！ガガガドーン！

そして扉が開いた・・・
ダイヤパール「ふう・・・終わったわ」

スバル「・・・あの、ロックは？」
ダイヤパール「それなら今・・・」

ウォーロック「ハッハッハッ、スバル君」
スバル「・・・はあ？」

スバルはダイヤパールを見た

スバル「あの……ロツクに何を……」

ダイヤパール「色々」

ウォーロツク「ハツハツハツ、いや、実にいい気分だ！」

スバル「（一体……「色々」とは、何だろ？）」

ウォーロツク「ハツハツハツ」

ダイヤパール「じゃ……次はスバル……」

スバル「……僕は何をするんですか？」

ダイヤパール「あなたには、「薬」をのんでもらうわ」

スバル「薬？」

ウォーロツク「よかったね、スバル君」

スバル「……どこが？」

そしてスバルは隣の部屋に恐る恐る入っていった

第90話 恐ろしい実験？（後書き）

ウォーロックー戻ってきてよーっ！
・・・次回・・・ウォーロックは元に戻るのか？

第91話 謎の薬・・・？（前書き）

どうもレッドスターです、それにしても、もうそろそろ夏休みが終
わってしまいます・・・はあ、あと2ヶ月休みたい・・・

第91話 謎の薬・・・？

スバルは隣の部屋に入った・・・
スバル「・・・ここは」

そこには、無数の機械と薬があつた

ダイヤパール「さつそくこの「薬」をのんでもらうわ・・・」
スバル「えっ・・・」

スバルは「薬」を渡された

スバル「（普通だ・・・）」

ダイヤパール「早くのみなさい」

スバル「は、はい」

スバルは「薬」を飲んだ

ゴックン

スバル「・・・」

ダイヤパール「・・・さつ、戻るわよ」

スバル「えっ、それだけ？」

ダイヤパール「そうよ」

そして元の部屋に戻ると・・・

ウォーロック「やあ、スバル君どうでしたか？」

スバル「（まだ戻ってない・・・）」

ダイヤパール「それじゃ、さつさと向かいなさい」

スバル「向かう？」

ダイヤパール「WAXAワックスによ」

スバル「行ってもいいんですか？」

ダイヤパール「さつさと行きなさい！」

スバル「はい！」

ウォーロック「さあ、行きましょうスバル君」

スバル「う、うん・・・（いつになったら戻るんだろ？）」

第91話 謎の薬・・・？（後書き）

ダーク・ナイトが・・・次回ダーク・ナイトは負けるのか？

第92話 ダーク・ナイトとホワイト・ソウル・・・決着（前書き）

果たしてどっちが勝ったのか？

第92話 ダーク・ナイトとホワイト・ソウル・・・決着

ドオオオオオオン・・・

ハーブ・ノート「何！？この大きい音？」

ドラグ達は・・・

バード『この音は・・・^{ワクサ}WAXAからだ』

ドラグ「なんの音だろ？」

弓唄「さあ？」

^{ワクサ}WAXA・・・

ダーク・ナイト「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ホワイト・ソウル「無様だな・・・ダーク・ナイト」

ダーク・ナイト「・・・・・・・・」

ホワイト・ソウル「さあそろそろやるか・・・」

ガシッ

ホワイト・ソウル「！」

ホワイト・ソウルの足を捕まえたダーク・ナイト

ダーク・ナイト「ま・・・て・・・」

ホワイト・ソウル「まさかまだやるのか？」

ダーク・ナイト「まだ・・・終わってねえ・・・よ・・・俺は・・・

まだ・・・」

ホワイト・ソウル「ふん・・・めざわりなやつめ」

ダーク・ナイトは少しずつ立ち上がった

ダーク・ナイト「こんな・・・所で・・・まけて・・・られる

かよ・・・」

ホワイト・ソウル「ちっ・・・・・・・・なんなら次で最後だ・・・お前を

消しやる！」

ホワイト・ソウルはソウルバスターを撃とうとしている・・・
ダーク・ナイト「俺は・・・俺は・・・」

そのとき！
キーン！

ライオ「！」

ブラック・ナイト「ライオは逃げる」

ライオ「ブラック・ナイト・・・何・・・言ってやがる・・・俺
はまだやれる・・・」

ブラック・ナイト「・・・ウソだな」

ライオ「！」

ブラック・ナイト「今のお前は、しゃべるのも限界だろ」

ライオ「・・・」

ブラック・ナイト「・・・ライオ・・・」

ライオ「！」

ブラック・ナイト「強くなったな」

ホワイト・ソウル「ソウルバスターー！」

ドギユウウウウウウン！

ライオ「ブラック・ナイトオーーーーーーッ！」

ドオオオオオオン！

第92話 ダーク・ナイトとホワイト・ソウル・・・決着（後書き）

ブラック・ナイトの最後・・・

第93話 過去の日々・・・(前書き)

今回の話は、ライオとブラック・ナイトの日々の話・・・

第93話 過去の日々・・・

ライオ「ブラック・ナイトオーーーーーッ！」

ドオオオオオオオン

ホワイト・ソウル「ククク粉々になって消えたか」

ライオ「・・・ゆるさねえ・・・」

ホワイト・ソウル「何だ？おまえも同じようになりたいか？」

ライオ「絶対にゆるせねえー！」

ホワイト・ソウル「はっ、今のお前になにができる？ただの弱い「人間」にー！」

ライオ「弱い・・・でもブラック・ナイトは言ってくれた・・・

・「強くなったな」って！言ってくれたんだ！」

ホワイト・ソウル「はっ、でも今のお前に出来る？」

ライオ「俺はブラック・ナイトの仇を討つ！たとえこの身が切り裂

かれようと俺はお前を倒してやる！」

ホワイト・ソウル「人間ごときがああこれで終わりだー！」

ホワイト・ソウルはライオを殴った

ドカア！

ライオ「ぐうう・・・」

ドサッ

ライオ「（まだまだ・・・くそっ動け、体・・・動け足・・・うっ」

・・・）」

ポロッ

ライオ「！（これは・・・水？・・・泣いてるのか、俺・・・）」

ライオの目には、涙がこぼれていた

ライオ「（ブラック・ナイト・・・）」

なぜかライオは昔のことを思いだしていた

それはブラック・ナイトと出会ったときだった・・・

ライオ「うっうっ・・・お母さん・・・お父さん・・・」

ブラック・ナイト「・・・くやしいか・・・」

ライオ「うっうっん」

ブラック・ナイト「だったら力を与えてやる・・・しかし条件がある・・・」

ライオ「？」

ブラック・ナイト「ウォーロックをデリートするんだ」

ライオ「・・・」

そう、そのころから始まった・・・ブラック・ナイトとの冒険が・・・

ブラック・ナイトはいつも危険な道を選んで、海を渡る時は船じゃなく筏を作って海を渡った

でも・・・いつもブラック・ナイトは助けてくれた・・・だから強くなれた・・・

苦しいときも、つらいときも、泣いてるときも・・・

ライオ「（ブラック・ナイト・・・俺はどうしたら・・・）」

ホワイト・ソウル「ライオ・・・泣いてるのか？けっ・・・なんならブラック・ナイトと同じ所につれてってやるよ・・・」

ソウル「まで殺すな・・・俺がこいつの魂をすっ」

ホワイト・ソウル「そうだな・・・やれソウル」

ソウル「それじゃ、いただきまーす」

ソウルはライオの目を見た・・・するとライオの魂が出てきた・・・そしてソウルはライオの魂を丸飲みした・・・

ゴックン

ソウル「うまいな魂は・・・」

そのとき！

ズバン！

ホワイト・ソウル「なんだ？」

フェニックス「ただいまさんじょーう！」

アーチェリー・Rリム「……（なんか変なのがいる）」

バード「あれは……あのときの……」

アーチェリー・Rリム「あれ？なんか人倒れてる」

バード「……（なんだこの感じあいつ生きてるかんじがしない）」

ホワイト・ソウル「チツ、またザコか……相手してやるか」

第93話 過去の日々・・・(後書き)

ライオが・・・なんか残酷だあー

第94話 VSホワイト・ソウル！（前書き）

今日・・・4回目！？どんだけ暇なんだ俺？

第94話 VSホワイト・ソウル!

ホワイト・ソウル「チツ、またザコか・・・相手してやるか」

バード「!、ドラグあそこに倒れているやつ息してないぞ」

フェニックス「えっ?なんで・・・」

ソウル「俺があいつの魂をたべた」

バード「!(あのウイザード・・・何か変だ、なんにも感じない)」

アーチェリー・R「魂^{ソウル}って・・・食べるの!?!」

バード「いや食えない・・・普通はな」

フェニックス「えっ、どうゆうこと?」

バード「俺もそこまでは分からない」

ソウル「ケケケ、あいつらの魂も食っ」

ホワイト・ソウル「じゃ、あいつらをやるか」

バード「来る!」

フェニックス「うおおウイングブレイド」たて切り!」

ズバアン!

しかしホワイト・ソウルはいなかった

フェニックス「あれ?どこにいるの?」

アーチェリー・R「後^{トモ}ろだ!」

フェニックス「えっ・・・」

フェニックスは後ろを向いたそのとき

ホワイト・ソウル「遅い・・・」

ホワイト・ソウルはソウルバスターを撃った

ドギユウウウウウウウ!

フェニックス「うわあああああ」

ドサッーッ

フェニックス「ぐっう・・・」

アーチェリー・R「この・・・スピアショット!」

シュッ

スカッ

はずれてしまった・・・

アーチエリー・R「いない・・・いや姿を隠しているのか・・・でも」

弓矢を上にした

アーチエリー・R「俺にはかんげえね！インフィニティーアロー」

矢を空に撃ちそして光った

カッ

すると空から無数の矢が降り注ぐ

ドドドドドドドドドドドドドドドド

ズバッ

ホワイト・ソウル「くっ・・・（チツかすったか・・・）」
すると

アーチエリー・R「みつけた」

ホワイト・ソウル「くっ・・・」

アーチエリー・R「（残り4分か・・・）終われ！センサーシヨッ

ト「レベル3」！

アーチエリー・Rは、^{アタリ}矢を放った

ギユウウウウウウン

ホワイト・ソウル「やっ、やめるおーーーーー」

しかし・・・

ホワイト・ソウル「なんちゃって」

ホワイト・ソウルは消えた・・・

アーチエリー・R「！」

ホワイト・ソウル「終わるのはお前だ」

アーチエリー・R「しまった・・・」

ホワイト・ソウル「終わりな・・・」

ドギョウウウウウウ

フェニックス・ぐっ・・・弓垂・・・
「

第94話 VSホワイト・ソウル！（後書き）

ホワイト・ソウル強すぎる！次回もどうなる？

第95話 フェニックス覚醒！？（前書き）

どうもレッドスターです。

今回の話はなんとフェニックスが覚醒！？

第95話 フェニックス覚醒!?

アーチエリー・Rテレニ「ガハッ．．．!」
ドサッ

ホワイト・ソウル「クククあつけないな．．．もつと俺を楽しませ
てくれよ、ザコ」

ホワイト・ソウルはアーチエリー・Rの頭に足をのつけた
アーチエリー・R「ぐううう．．．」

フェニックス「．．．弓垂．．．」

ホワイト・ソウル「．．．おや、まだ気絶してないな．．．おま
え」

バード「来るぞあいつがこっちに」

フェニックス「でも．．．動かないよ．．．体が」

バード「(どうする．．．)」

ホワイト・ソウル「クククまずはこいつのウィザードからやるか」

バード「(ここから出なければ．．．)」

ホワイト・ソウル「出てこないと．．．」

ドカッ

フェニックス「うわっ」

ホワイト・ソウル「こいつがどうなってもいいのか？」

バード「くっ．．．」

バードはでてきた

ホワイト・ソウル「いいこだ．．．そしてさっそく消える」

ホワイト・ソウルは、ソウルバスターを撃とうとしていた

バード「(これまでなのか．．．どうか助かる方法を．．．)」

ホワイト・ソウル「助かる」なんて思ってねえよな、ククク安心
しろ．．．助かんねえからな．．．」

フェニックス「バード．．．逃げて．．．」

ホワイト・ソウル「消える．．．ブラック・ナイトのようにな．．．」

ドギユウウウウン

フェニックス「バード……バード……バード……バード……」
バード「俺は終わるのか……」
フェニックス「（バード！）」

ドツクン ドツクン ドツクン ドツクン！

フェニックス「！」

ドオオオオオオオオオオ

ホワイト・ソウル「ククク、ウィザードを消した……！」
フェニックス？「……」

ホワイト・ソウル「まだ動けたのか……！（あの姿は）
バード『ドラグ……まさか「あれ」を……』」

フェニックスの姿は変化していた、それは大きな翼にそして身にま
とう……「黄金の光」……その姿は……

ホワイト・ソウル「ド……ドラグーン……！」

第95話 フェニックス覚醒！？（後書き）

フェニックスが言っていた「あれ」はドラグーンの事だった・・・
次回激しいバトルが始まる・・・

第96話 黄金のツバサ・フェニックスドラグーン！(前書き)

フェニックスがとつとつドラグーンに！

第96話 黄金のツバサ・フェニックスドラグーン！

ホワイト・ソウル「ド……ドラグーン……！」

フェニックス・Dドラグーン「僕はお前を……許さない！」

ホワイト・ソウル「（なんだこの感じは……体がうまくうごかねえ……まさか……）」

私は恐れているのか？」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

フェニックス・Dドラグーン「僕はお前を倒す！」

シューン

ドゴツ

ホワイト・ソウル「カハツ」

フェニックス・Dドラグーンは、一瞬にして消え、一瞬にしてホワイト・ソウルを殴っていた

ドラグーン（バード）「（やはり凄い……ドラグがこの力を使いこなすのは、だがどこまでもつのか……）」

ホワイト・ソウル「くつやるな……（なんだこいつ……化け物か？）」

フェニックス・Dドラグーン「お前……バードに「消える」って言ったよね？」

ホワイト・ソウル「それがどうした？」

フェニックス・Dドラグーン「謝れ……バードに謝れ！」

ホワイト・ソウル「けっ、誰が謝るかよバード」

フェニックス・Dドラグーン「そうか……じゃー「消える」！」

ホワイト・ソウル「！」

フェニックス・Dドラグーン「フレイルムウイング！」

すると翼が炎の鳥になりホワイト・ソウルに撃った
ビュウン

ホワイト・ソウル「ぐっ（反撃する暇もな……）」

ドオン ドオン

ホワイト・ソウル「ぐあああああああああああああ」

フェニックス・Dドラグーン「これで終わりだと思っな」

ホワイト・ソウル「ま…….まて」

フェニックス・Dドラグーン「嫌だ」

ドラグーン『(もう止まらない今のドラグは…….なんとってドラグは怒ると誰にも止められないし一度おこると何かをやりとおすまで止まらないからな……)』

ホワイト・ソウル「くっ…….だったらソウル

ドゴオン

ホワイト・ソウル「ぐっ…….!!」

フェニックス・Dドラグーンは、ホワイト・ソウルの腕を踏んずけた

フェニックス・Dドラグーン「撃たせないよ…….」

ホワイト・ソウル「(なんなんだこいつ…….本当にさっきまでのガキなのか?)」

フェニックス・Dドラグーン「そろそろ終わらそう…….くらえ、トライ・Dドラグーン・

ファイア!」

キィィィィ

ホワイト・ソウルの周りに三角形の線が出てきた

ホワイト・ソウル「なっ…….」

フェニックス・Dドラグーン「消えろ」

すると線から炎が出てきて、その炎が3匹の火の鳥になりホワイト・ソウルを囲んでいる…….

ホワイト・ソウル「やめろ…….すまなかった…….ほんと」

フェニックス・Dドラグーン「遅いよ…….もう終わるんだから…….」

すると3匹の火の鳥が同時にホワイト・ソウルに突っ込む

ボオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオン!!!!

ホワイト・ソウル「ギヤアアアアアアアアアアアアアア

ッ……」
ホワイト・ソウルは、火の海に溺れていった……

第96話 黄金のツバサ・フェニックスドラグーン！（後書き）

恐るべしフェニックス・D!^{ドラグーン}
しかし次回フェニックス・Dに異変が^{ドラグーン}・・・？

第97話 フェニックスの限界・・・（前書き）

どうもレッドスターです・・・今日はいつもより早起きました。
いつもは11時とかに起きるのに・・・なんでだ？

第97話 フェニックスの限界・・・

ボオウ・・・

ホワイト・ソウル「・・・・・・・・・・」

キイン

変身が解けた・・・・・・・・

ソウル「くっ・・・・・・・・（なんとしてもこの魂は・・・・）」

フェニックス・D「待て」

ソウル「チツ・・・・・・・・」

フェニックス・D「お前も許さない・・・人の魂を取ってなにが楽

しい？」

ソウル「ケケケ・・・・・・・・楽しい？ああ楽しさ、とくにおいしいしな」

フェニックス・D「そうか・・・・・・・・なら消えろ、僕はお前みたいな奴

を見るとイライラする・・・・・・・・さっさとそいつも連れてここからでて

いけ！」

ソウル「ケケケそうか・・・・・・・・でも俺はもう人間の力は借りない」

ドラゲーン「ドラグ・・・・・・・・そろそろ・・・・・・・・」

フェニックス・D「黙ってて」

ドラゲーン「・・・・・・・・」

ソウル「もう人間はいらない・・・・・・・・使い捨てなのさケケケ」

フェニックス・D「使い捨て？」

ソウル「ああつ、そうさ人間はもう用済み、もう人間みたいな「ク

ズ」はもういらなんだよ」

ピクッ

フェニックス・D「クズ・・・・・・・・だと・・・・・・・・お前、人間はなんだとお

もっている、人間はお前の物じゃない・・・・・・・・お前のおもちやじゃな

いだ、クズでもないんだ、クズと思っっている奴は本物のクズだ！」

ソウル「うるさいんだよガキは！中身は人間のくせに生意気いって

んじゃ・・・・・・・・」

フェニックス・Dドラグーン「お前だってウィザードのくせに生意気言つなよ．
．．いや．．お前みたいなやつウィザードでもない」
ソウル「それで結構だ俺はウィザードじゃねえよ俺は．．．おつ
と、ここから先は秘密だったな．．．」
フェニックス・Dドラグーン「今回は見逃す．．．さつさと行け」
ソウル「いい気になりやがって．．．でも次は．．．お前の魂も
いただくよケケケ」
スウー

ソウルは行ってしまった．．．

ドラグーン「ドラグ、早くしないと．．．」

フェニックス・Dドラグーン「うん．．．っ!」

ドックン．．．

フェニックス・Dドラグーン「グウウウウウウー痛い．．．」

ドラグーン「(しまった)ドラグ早く変身をとけ!」

フェニックス・Dドラグーン「ああ頭が．．．痛いよ．．．ぐっう」

フェニックス・Dドラグーンの頭にすごい激痛が走った

ドラグーン「くっ．．．(俺の声が届かない．．．どじする．．．)
」

第97話 フェニックスの限界・・・（後書き）

なんか凄い展開が続いてるな・・・次回、フェニックス・Dはどうなる！？

第98話 受け入れ・・・(前書き)

今日は・・・いい日だ・・・

第98話 受け入れ・・・

フェニックス・Dドラグーン「ううううううっー」

フェニックス・Dドラグーンは頭を抑えている

弓垂「・・・ん？いててて・・・たしか白いやつに踏まれて・・・！」

ドラグーン「おい！何ねている早くこっちに来い！」

弓垂「おっ・・・おおっ（あれバードか？なんかめっちゃ姿変わってるよ、俺が寝ているあいだにながあった？）」

そして弓垂はフェニックス・Dドラグーンに近づいた・・・

弓垂「なんだよ・・・これ・・・」

フェニックス・Dドラグーン「ガアアウウ・・・ああっ」

弓垂「（俺の体が・・・震えてる・・・）」
ガタガタ

弓垂「なあ・・・バード・・・これは・・・」

ドラグーン「今はドラグーンだ・・・今のドラグは、苦しんでいる・・・」

フェニックス・Dドラグーン「うわああああああああ」

「受け入れる・・・」

フェニックス・Dドラグーン「うっ・・・ぐああ」

「俺を受け入れる・・・」

フェニックス・Dドラグーン「ああああああ（やだ・・・受け入れたくない）
あああああああっ」

「受け入れれば楽になる・・・」

フェニックス・Dドラグーン「うっうっうっうっうっう」

「さあ……受け入れる俺を……！」

フェニックス・Dドラグーン「がっ……ぼ……くは……うけ……入れな
——————い！」

するとフェニックス・Dドラグーンの周りに炎の渦が現れた
ポオビユユユユ

弓垂「ええええええええええっ!?どうなって……！」
シューウウウウ

ドラグーン「はあはあ……くっ俺もそろそろ限界だ……」
弓垂「ど、どうなってんだよ」

ドラグーン「はあはあ、ドラグは、今俺の力を使っている……し
かしその力が強大でいくらドラグがその力を使いこなしてもそれは
たったの数分しか使えない……もしその力を使いこなせないと口
ツクマンのように暴走する……簡単に言うと俺の力がドラグの体
を支配してしまう……」

弓垂「？」
ドラグーン「はあ……もっ簡単に言うと……ドラグの体がド
ラグーンに飲み込まれるってことだ……はあはあ」

弓垂「！」
フェニックス・Dドラグーン「うわあああやめて——うわあ——っ」
ドラグーン「はあはあ……ドラグ受け入れるな……」

フェニックス・Dドラグーン「ああああああ……ククク……」

弓垂「！」
ドラグーン「ド……ラグ……」
しゅううううしゅん!

ドラグーンは消えた

フェニックス・D^{ドラグーン}ククク・・・クハハハ・・・
「垂「ドラグ？」」

第98話 受け入れ・・・（後書き）

まさか・・・次回は・・・やばすぎる展開+ロックマン登場！
とうとうロックマンの久々バトル！見逃すなっ！

第99話 フェニックス・D暴走!? (前書き)

どうもレッドスターです・・・今回の話はフェニックス・Dドラグーンが暴走
!?

果たしてこの先の展開とは・・・?

第99話 フェニックス・D暴走!?

フェニックス・D「ククク・・・クハハハ・・・」

弓垂「ドラグ?」

フェニックス・D「・・・人間の反応がする・・・」

フェニックス・D「弓垂を見た・・・」

フェニックス・D「貴様か!」

するとフェニックス・Dは、弓垂のほうに歩いてきた

弓垂「ハハハ・・・冗談だろ?」

フェニックス・D「久しぶりに外に出れたんだ・・・人間を倒す」

弓垂「おいおい・・・マジで・・・おいドラ」

フェニックス・D「消えて無くなれ」

弓垂「ぎやあああああああ!」

そのとき

「ロックバスター!」

デュン!

フェニックス・D「!」

弓垂「・・・あれ?助かった・・・ってロックマン!?!」

弓垂の目の前にはロックマンが居た

ロックマン「大丈夫?」

弓垂「お・・・おお」

ウォーロック「ハッハッハッ助かってよかったですね」

弓垂「(あれ・・・ウォーロックなのか?一体なにがあったんだ?)」

「

フェニックス・D「お前は・・・!」

ロックマン「!」

フェニックス・D「そうか・・・お前も俺と同じか」

ロックマン「どういうこと?」

フェニックス・D「そう同じ・・・化け物どうしなのさ!」

ウォーロック『スバル君……あの人なんかおかしいですね……』

ロックマン『うん……』　今のウォーロックに慣れた

フェニックス・D『^{ドラグーン}クククさあなれよお前も化け物に！』

弓垂『ドラグ……』

ロックマン『えっ……ドラグ君ってさっきの？』

ウォーロック『もう……なんで、あんなになっちゃったでしょうね』

弓垂『えーと……たしかドラグーンの力にのみこまれて暴走したんだ』

ロックマン『じゃ、今のドラグ君は……』

弓垂『ドラグーン……そのものだ……』

ロックマン『……僕ドラグ君を助けるよ……』

弓垂『お前……本当に出来るのか？』

ロックマン『まかせて……僕はドラグ君を助ける！』

第99話 フェニックス・D暴走！？（後書き）

今回ロックマンの戦いませんでした・・・戦ったと言っても「ロックスバスター！」だけです・・・次回はバトルばかりです（たぶん）
お楽しみに！

第100話 治った！（前書き）

なんと今回でこの小説100話이었습니다！

読んでくれる皆さんのおかげです！

まあ、なんか最近さらに小説を書くのが楽しくなっちゃって・・・
こんな作者だけどこれからもよろしくお願いします！

小説はまだまだ続く

第100話 治った!

フェニックス・Dドラクーン「こいよ・・・」

ロックマン「行くよ、ロック!」

ウォーロック「はい分かりましたスバル君」

ロックマン「バトルカード「マッドバルカン3」!」

そしてフェニックス・Dにむけて撃った

ガガガガガガガガガガガ!

しかしフェニックス・Dはビクともしていなかった・・・

フェニックス・Dドラクーン「そんなていどか?ロックマン!」

ロックマン「くっ(効かない!?)」

フェニックス・Dドラクーン「なんならこっちからやってやるよ!」
すると

ロックマン「!(どこ・・・まさか!)」

ロックマンは後ろを向いた

フェニックス・Dドラクーン「おせえんだよ・・・」

ドゴツ

ロックマン「カハツ・・・」

フェニックス・Dドラクーン「まだまだーっ!」

ドゴオオオン

ロックマン「ぐふっ・・・がああ」

フェニックス・Dドラクーン「とどめだ!」

ウォーロック「ああっどうしよう・・・このままじゃスバル君が・・・
くっ・・・」

ブウウウン

ウォーロック「うおおおおおおおーっ!」

フェニックス・Dドラクーン「うおおおおお」

ピタッ

フェニックス・Dドラクーン「!」

ウォーロック『いてて頭がいてえな・・・』

ロックマン『ぐっ、ロック元に・・・戻ったんだ』

ウォーロック『スバル・・・どうしたんだその傷・・・』

ロックマン『早く・・・ドラグ君を助けないと』

ウォーロック『!・・・まさかこいつがドラグか?』

フェニックス・D『ドラグーンクククそうだ・・・ドラグだよ』

ロックマン『今・・・ドラグ君はドラグーンの力にのみこまれてるんだ』

ウォーロック『そうか・・・ならなるか・・・』

ロックマン『えっ!?!』

ウォーロック『あっちが「ドラグーン」ならこっちは「ライオーガ」になるんだ!』

ロックマン『でも・・・僕は・・・』

ウォーロック『今度はうまく制御が出来る気がするんだ』

ロックマン『・・・分かったやってみよう!』

フェニックス・D『ドラグーン!』

第100話 治った！（後書き）

次回は「番外編」！100話スペシャル！お楽しみに！

番外編 100話記念の番外編 (前書き)

どうも！いつもおなじみのレッドスターです

今回は100話記念の番外編です！

いや〜最近の話がシリアスすぎてちょっと「笑い」がなく本当につらいです・・・

しかし今回の番外編は「笑い」あり！「涙？」あり？の番外編！
それでは番外編をどうぞ

番外編 100話記念の番外編

エピソード1「ドラグの休日」・・・の巻

それはまだスバルにあう前の話・・・

暁「よお！ドラグ」

ドラグ「あか兄！」

バード『ドラグ・・・これは？』

ドラグ「今日はあか兄が僕の家泊まるんだ！」

バード『（初耳だ）』

ドラグ「ねえあか兄！何する？」

暁「チェス」

そして2人はチェスをやることになった

トン

暁「・・・」

ドラグ「キングいただき」

暁「（ドラグって・・・こんなに強かったのか？）」

バード『（フフフびひってるな？暁・・・チェスを教えたのは俺だ）』

ドラグ「やったー勝ったー」

暁「負けた・・・」

ドラグ「じゃー、「例」の物ちょうだい」

暁「わかった・・・」

暁はドラグに「うまい棒」10本あげたのであった・・・

ドラグ「サクサク・・・うまい」

バード『うまい棒っておいしいのか・・・わからんな』

そしてあつという前に夜になった

暁「さつさと寝るよ」

ドラグ「はい」

そしてドラグは寝た・・・そうウサギの人形を抱きしめながら・・・
暁「(ドラグってもう小学3年だよな?)」
バード「(いつみてもあの人形・・・気にいらねえ・・・)」
そして・・・

暁「またなドラグ」

ドラグ「グッバイあか兄」

暁「(どこで知ったんだ?」「グッバイ」は)」

バード「(フハハハびびったな暁それも俺が教えたのさフハハハ)」
」

エピソード1終わり

エピソード2「弓垂とダイヤパール」・・・の巻

それは実験台にされた後ののはなし・・・

弓垂「・・・」

ダイヤパール「・・・成功よ・・・」

弓垂「・・・」

ダイヤパール「この私を無視するき?」

弓垂「・・・」

ダイヤパール「そんなに私としゃべりたくないの!?!」

すると弓垂は首を横に振った

ダイヤパール「じゃ、何?」

弓垂は自分ののどを指でさした

ダイヤパール「まさか・・・声がでないの?」

弓垂「・・・」 「そう」って言っている

ダイヤパール「・・・」

弓垂「……」

ダイヤパール「……」

弓垂「……」

2人の沈黙が今……始まる！

ダイヤパール「……」

弓垂「……」

ダイヤパール「……」

弓垂「……（いつまで続くんか？この沈黙……）」

そしてあつという間に5時間たった……

もちろんまだ沈黙は続いている

ダイヤパール「……」

弓垂「……」

ダイヤパール「……」

そしてとうとう沈黙を破るものがいた……それは――――
っ！？

ヨイリー「何してるの？」

ダイヤパール「ビクッ」

弓垂「……（ビクッ）」

ダイヤパール「あ……」

弓垂「誰？」

ダイヤパール「……」

なんとこのことでしょうか今度はダイヤパールがしゃべれなくなって
弓垂が声を出せるようになりました

ダイヤパール「……（声が……）」

弓垂「やったぜー！声が……声がーっ！」

トゴツ

弓垂「ぎゃふん」

ダイヤパールが突然弓垂をかけた

ダイヤパール「~~~~~」 「ひびきよ……お

前」っと言っていた

弓垂「ごめんなしやい・・・ガクッ」
そして弓垂は2日間声を出さなかったという・・・

おわり

番外編 100話記念の番外編 (後書き)

いやいや久々に書きたいことがかけて楽しかったです
次回からはまた「本編」です・・・次回は・・・ロックマンが!?

第101話 覚醒(前書き)

今回の話はロックマンが・・・覚醒!?
さあどうなる

第101話 覚醒

ロックマン「はあああー……」
ウォーロック「ウォオオオ……」
フェニックス・D「くるか……ライオーガ」
キュイイイイイイイイイイイイイイイ
ロックマン「はあああああああああー！」
ウォーロック「ウォオオオオオオ力がみなぎるーくるぞスバル！」
ロックマン「わかつてる……！！！」
そのとき光がWAXAのすべてを包んだ

カア！！！！

フェニックス・D「……！、この感じ……やっと出てきたか……
ライオーガ！」
ロックマン・R「……成功した……」
ライオーガ「あつ……しかしそんなに長くはもたねえ……やるぞ！」
ロックマン・R「僕は絶対にドラグ君を助ける」
フェニックス・D「無駄だ！」
そして2人は激しくぶつかりあふ

ドゴオン ドギユン ガシツ ドカン スバアン

ロックマン・R「はあはあ……！」
フェニックス・D「くらえ！雨天火！」
ロックマン・Rの上から炎が降り注ぐ
フェニックス・D「ライオーガよ燃えろ！」
ポオオン

フェニックス・D「!?」^{ドラグーン}

ロックマン・R「効かないよ……」^{ライオーガ}

ライオーガ「へっ……ドラグーンは「スピード」が高いがこっちは「防御」がたかいそんな技じゃきかねえぜ」

ロックマン・R「今度はこっちから行くよ!」^{ライオーガ}

そして走ってフェニックス・Dの所に来た^{ドラグーン}

フェニックス・D「!」^{ドラグーン}

ロックマン・R「くらえ!ドラグーン!」^{ライオーガ}

するとハンマーを出したロックマン・R^{ライオーガ}

ロックマン・R「雷鬼の一撃!」^{クラッシュ}

ハンマーから静電気が流れたそしてフェニックス・Dにくらわせた^{ドラグーン}

ドゴオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

フェニックス・D「かはっ……」^{ドラグーン}

ロックマン・R「(やばい……やりすぎちゃた……)」^{ライオーガ}

ドサッ

フェニックス・D「ククク……久々に負けた……しかし今回は本気をだせなかった……ライオーガ……俺とお前が今同じ場所にいる……そして次に今の姿どうしであったらそのことを意味することはただ一つ……世界が……おわ……る時だ……ククク」

ロックマン・R「世界が……終わる……」^{ライオーガ}

そしてフェニックス・Dの変身が解けた……^{ドラグーン}

ライオーガ「こっちも戻るぞ」^{ライオーガ}

ロックマン・R「うん」^{ライオーガ}

キーン

そして今「ライオーガ」と「ドラグーン」の戦いはいったんおさまった……しかし今……
地球……いや世界……いや宇宙の消滅の歯車が今回り始めたのであった……

第101話 覚醒（後書き）

どうも・・・はぁ疲れた・・・次回からは少しずつ「笑い」の方
を取りたいと思っています（まぁ出来たらの話ですが・・・）

第102話 ライオの涙（前書き）

どうもレッドスターです。

今日いい事がありました・・・

第102話 ライオの涙

スバル「いてて……」

ウォーロック『やはりライオーガの力はずらいな』

弓垂「……」 ライオーガとドラグーンの戦いにビ
ビツて気絶

スバル「……！、あれは……」

ウォーロック『あいつは……ライオ！』

スバル「なんでここに……」

弓垂「……はっ！ここは、今どうなってるの？」

スバル「……ロック」

ウォーロック『……こいつ……ないてやがる』

スバル「つれていこうWAXAワックスに……」

そして……

ミソラ「はあ……」

ゴン太「なんか最近変なことばつかだよ……」

キザマロ「まるでこの世界の終わりみたい……」

委員長「キザマロ！変なこといわないでちょうだい！」

キザマロ「……はいいい……」

すると

「みんなー」

ゴン太「この声は……スバル！」

皆は声のする方に向いた

スバル「ただいま」

ミソラ「スバル君……記憶は？」

スバル「戻ったよ」

ミソラ「よかった……」

ゴン太「！……そいつ……ライオか？」

スバル「うんそうだよ」

ウォーロック『それとドラグもな』

委員長「スバル君……」

スバル「何……」

委員長「なんでロックマン様の姿じゃないの？（怒）」

スバル「ご……ごめんなさい」

委員長「でも、よかった」

スバル「委員長……」

ウォーロック『そいえばスバル……誰か忘れてないか？』

スバル「え？」

外では……

弓垂「完全に俺の事忘れてるよ……（涙）」

第102話 ライオの涙（後書き）

次回のロックマンは・・・笑いあり？

第103話 WAXA崩壊！？（前書き）

最近なぜか腰が痛い・・・（俺まだ歳じゃないのに）

第103話 WAXA崩壊!?

ゴン太「ライオ達起きねえな」

スバル「ロック」

ウォーロック「なんだ？」

スバル「WAXA大丈夫？」

グラグラ

ウォーロック「・・・大丈夫だろ」

グラグラ

スバル「（いや、もうゆれてるじてんで大丈夫じゃないと思う）」

ミソラ「ねえ、スバル君」

スバル「何？」

ミソラ「スバル君は大丈夫なの？その傷」

スバル「うん、全然平気・・・ッ！」

スバルは傷を抑えた

ミソラ「全然平気じゃないじゃない」

スバル「ははは・・・」

ウォーロック「（・・・まさか、ドラグが「ドラグーン」とは）」

ミソラ「さあ、傷口を見せて！私が治療してあげる」

スバル「ありがとう」

ハープ「ポロン ロック」

ウォーロック「げっハープ」

ハープ「私がロックの痛い所を直してあげるわフッフ」

ウォーロック「ち、近づくな！このっ・・・」

そして・・・

ミソラ「はい、終わり」

スバル「ありがとう」

ウォーロック「ぜえぜえもうハープは・・・」

ハープ「ここよ」

ウォーロツク『くっ、追いかけんよ』

ハープ『さあおいでロツク・・・やさしく痛いところを癒してあげるわフフフ・・・』

ウォーロツク『くそっ、こうなったら（うおおおビーストスイング）』

ズバア

ハープ『フフ、やる気のような私も負けないわよお』

そして2体のウィザードの戦いが今始まった・・・

ハープ『ポロン私の技を食らいなさい！（本月初登場よ）』
そしてハープは引き始めた

~~~~~

ハープ『技名は「楽しい休日」よ』

ウォーロツク『だあああああどこが楽しい休日だ！ただの悲しい休日だろ！』

ハープ『いいじゃない』

ウォーロツク『（めんどくせ）かああもう終わらす！うおおおおお  
おお』

ハープ『！』

ウォーロツク『うおおおおおおおフルパワービーストスイング  
グウウウウウ！』

ズバアアアン

ハープ『くっ・・・あら？』

ウォーロツク『あれ？』

グラグラ・・・ゴゴッ

すると建物がどんどん崩壊していく・・・

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ドシャアアアン

ウォーロツク『（やっべ）』

そしてWAXA崩壊したのであった・・・

中にいた人は皆なんとか無事だった・・・

弓垂は・・・

弓垂「まだ忘れてる・・・！、そうかWAXAワクサにいけば・・・」

WAXAワクサは崩壊していた・・・

弓垂「・・・」 何があったのか知らないがなんか悲しい

顔をした弓垂であった

第103話 WAXA崩壊！？（後書き）

はぁぁ・・・久しぶりに気楽にかけた

第104話 久しぶりの家（前書き）

どうもレッドスターです・・・なんかすみません3日間も書けなくて・・・

とうとう俺のストックもなくなり3日間休みましたたぶんしばらくは休まないとおもいます



## 第104話 久しぶりの家

とある場所

ソウル『はあはあ・・・ついた』

ソウルの目の前には黒い屋敷があった・・・

そしてソウルはその屋敷に入った

ソウル『来たぜ俺が』

???『まっていたわよ・・・ソウル』

ソウル『遅れてすみません』

???『・・・にしてもまさかあなたが負けるとはね』

ソウル『やはりあの力を壊すより利用したほうがいいと思います』

???『しかしあの力を私たちが利用してもあの力を制御するのは

難しいわ』

ソウル『・・・それでは「例」の物を持ってきました』

???『やつと「1000人」の魂を手に入れたのね』

ソウル『いいえあと「1人」足りません』

???『あと1人・・・ね』

そのころWAXAワックスがあつた場所では・・・

ビュウウウウ

スバル『・・・夜になつちやたね』

ミソラ『寝る所もないのよね』

ヨイリー『・・・』

ウォーロツク『なあ・・・スバル』

スバル『何?』

ウォーロツク『おふくろの家にもどんねえか?』

スバル『その手があつた!』

委員長『でもどうすんの?』

スバル『何が?』

委員長「ヨイリー博士とか今家に戻れないし」

スバル「えっ……どうして戻れないの」

キザマロ「それは僕が説明します……最近<sup>ワクサ</sup>WAXAでは激しいバトルが続いてしまい<sup>ワクサ</sup>WAXAだけでは無く<sup>ワクサ</sup>WAXAの外まで被害が受けています、そのせいで帰れるのはコダマタウンだけと……」

ミソラ「じゃー私帰れないの!？」

キザマロ「はい」

スバル「困ったなあ」

ヨイリー「誰かの家に泊まるとかは？」

スバル「そうだね……しばらくコダマタウン以外のところは行けないし……」

ウォーロック『とりあえずおふくろに聞いてみようぜ』

スバル「うん」

そしてコダマタウン……

茜「皆が止まる?いいわよ」

スバル「だってさ」

委員長「私んちはだめだったわ……」

ゴン太「同じく」

キザマロ「同じく」

スバル「……」

ハーブ『ポロロン しばらくよろしくねロック』

ミソラ「スバル君の家に泊まるんだ……私」

ドラグ「スースー」

スバル「……(この先僕どうなるんだろ?)」

第104話 久しぶりの家（後書き）

まさかの展開！なんかよく家に泊まるっていうの・・・なんかラブ  
ストーリーみたいになってるんですが・・・この先大丈夫かな？

第105話 ドラゲ目覚める(前書き)

どうもレッドスターです。

なんか最近色々と忙しくて一日1話しかかけません、でも俺は頑張ります！(色々)

## 第105話 ドラゲ目覚める

茜「はいご飯よ！」  
どお〜ん

そこには凄い豪華な料理が並んでいた

皆「おお〜っ」

スバル「(母さん・・・はりきってるね)」

ミソラ「おいしそう」

ヨイリー「(漬物がないわ)」

ドラゲ「わーい」

スバル「わっ！ドラゲ君いつ起きたの？」

ドラゲ「さつき」

スバル「へえ〜」

大吾「にぎやかだな」

茜「そうね」

ウォーロック「スバルさつさと食べるよ」

スバル「あっ、うん」

皆「いただきますあーす」

ミソラ「もくもくおいしい」

スバル「・・・そいえばロック誰か忘れてない？」

ウォーロック「さあ？」

そのころWAXA「ワックス」があつた場所では・・・

弓垂「皆・・・どこ？」

すると

P i P P i P i

弓垂「はい、もしもし」

ダイヤパール『なにしてんの弓垂！早く帰ってきなさい！』  
弓垂『でも皆が・・・』

ダイヤパール『ヨイばあならスバルの家に泊まるって行ってたけど・  
・まさか置いてかれた？』

弓垂『・・・』 ショックを受けている

ダイヤパール『まあとりあえず帰ってきな』

プチッ！ツーツーツー

このあと弓垂は帰っていった、そう・・・涙を拭いて・・・

そのころ・・・

スバル『もう・・・食べれないゲップ』

ドラグ『ごちそうサンマ』

ヨイリー『（幸せ）』

ミソラ『ぷはぁー』

スバル『・・・寝るか』

茜『ミソラちゃん是我的部屋でねましょ』

ミソラ『はい』

スバル『ドラグ君は僕と』

ドラグ『わーい』

そして・・・この日は皆よく眠りましたとさ・・・

第105話 ドラゲ目覚める(後書き)

ドラゲが急に目覚める・・・恐るべし!ドラゲ!

第106話 騒がしい1日(前書き)

どうもレッドスターです、今日俺新しい小説を書きましたよかったら見てください



## 第106話 騒がしい1日

次の日の朝・・・

ウォーロツク『起きろスバル』

スバル「あと10分30秒ねかせて・・・」

そのとき急にスバルの体が動かなくなった

スバル「！、体が・・・動かない・・・」

ドラグ「どうしたの？」

スバル「ねえ・・・ドラグ君」

ドラグ「何？」

スバル「放してくれない？」

そうスバルの体が動かなかったのはドラグがスバルの体を抱いていたからなのだ！

そして・・・

スバル「（結局起きちゃった・・・）」

ドラグ「わーいわーい」

スバル「（いつまで続くんだろこの生活・・・とほほ）」

ミソラ「んん〜よく寝た」

そのときウォーロツクは嫌な感じがした・・・

ミソラ「あっスバル君おはよ」

スバル「うん、ふあ〜」

ウォーロツク『スバル・・・しばらくここから留守する・・・』

スバル「どうして？」

ウォーロツク『それは・・・』

ハープ『ポロロン逃がさないわよロ・ツ・ク』

ウォーロツク『ぎゃーハープ・・・』

そしてウォーロツクはスバルのハンターV.Gから出てった  
もちろん追いかけるハープであった

スバル「・・・」

ドラグ「おなかへった」

茜「まつててねあと少して出来るから」

大吾「いやーにぎやかだな」

スバル「（にぎやかすぎる）」

そして朝ごはん

スバル「（母さん・・・張り切りすぎるよ、朝までこんな量そしていつもより・・・豪華!）」

ミソラ「いただきまーす」

ドラグ「いただきマンモス!」  
もぐもぐ

スバル「そいえばヨイリー博士は？」

ミソラ「たしかなんかラジオ体操するって」

スバル「・・・」

大吾「スバル今日いつしよに展望台に行くか？」

スバル「うん行く!」

ミソラ「私も行ってもいい？」

ドラグ「僕もー」

ヨイリー「私も」

スバル「いいよ・・・ってヨイリー博士いつからいたの!？」

ヨイリー「さつきからよ」

スバル「へえー」

そして皆朝ごはんを食べ終わりました・・・

第106話 騒がしい1日(後書き)

まだ続く少し平和な日々・・・次回も続く

第107話 夜の星(前書き)

どうもレッドスターです。

今日から学校が始まりました・・・やだな・・・

## 第107話 夜の星

夜の8時・・・皆様はんを食べ終わって展望台に向かう

スバル「わぁー今日もきれい」

ウォーロツク『そうか？俺にはどれも一緒に見えるけどな』

ミソラ「・・・」

ドラグ「わーいわーい」

ヨイリー「・・・感動」

大吾「ここから見る星はやっぱりいいな、スバル」

スバル「うん」

ウォーロツク『（いつまでこの星を見られるか・・・）』

ミソラ「そいえば初めてスバル君と会ったのもここ、展望台だったよね」

スバル「そうだね」

ドラグ「あつ、流れ星！」

キラアン

次々と流れている星・・・そしてスバルは思った・・・

スバル「（僕は、いままで世界を守れた・・・でも今回は守れるのかな・・・）」

ミソラ「スバル君？」

スバル「えっ・・・何？」

ミソラ「なんか難しそうな顔してるよ？」

スバル「いや、本当に何でもないって・・・ハハ・・・」

ドラグ「あつ、また流れ星だ！願いを言わないと・・・」

スバル「（願いか・・・）」

ミソラ「せっかくだから私たちも願おうよ」

スバル「そうだね」

そして皆手と手を合わせた・・・

ドラグ「（皆楽しくいられますように）」

ヨイリー「(若返りますように)」  
ミソラ「(いつまでも皆といられますように)」  
スバル「(世界を守れますように)」  
皆それぞれの願いをこめたあとスバルの家に帰っていった・・・

そのころ・・・

弓垂「あゝあ、眠い」

ピンポーン

弓垂「！」

ダイヤパール「客？でな弓垂」

弓垂「なんで俺？まあいいか・・・」

そして扉をあけた

弓垂「はーいどちら・・・！！」

???「久しぶりだな・・・弓垂」

弓垂「おまえは・・・」

すると雨が降ってきた

ザアアアアアア

弓垂「兄貴・・・」

第107話 夜の星（後書き）

次回・・・弓垂の過去が分かる？（仮）

第108話 弓垂の兄（前書き）

どうもレッドスターです。

はぁ・・・今日ちょっといやなことがありました・・・



## 第108話 弓垂の兄

弓垂「兄貴……」

長矢「元氣みたいだな」

弓垂「何しにきた……」

長矢「ちよつとな……弟の顔が見たくてね」

弓垂「俺は見たくねえよ兄貴の顔なんかよ」

長矢「そうか……」

弓垂「さつさと帰れよ」

長矢「いいやそれは出来ない……」

弓垂「！」

長矢「俺は弟を連れ戻しに来たんだから」

弓垂「なんだと……いまさらそんな事いやがって俺はどんな気

持ちでいたか……」

長矢「やはり……か」

弓垂「分かったら帰れ……」

長矢「だつたら無理にでも連れ戻す！」

すると長矢は弓垂の腕を掴んだ

弓垂「てめええ……」

長矢「……」

ザアアアアアアアアアアアアアアア

雨はどんどん強くなっていく……

弓垂「兄貴、昔言っただこと忘れてないよな？」

長矢「！」

弓垂「お前など俺の前から消えればいいんだ」なんて言ったくせ  
によ……いまさらどの面下げて来ているんだよテムエよ！」

長矢「……帰るぞ」

バチン

弓垂は長矢から離れた

弓垂「ふざけんなよ・・・ふざけんなよ！」

ゴロゴロピカアーン

雷の音が強まっていた・・・

長矢「・・・このわからずやが・・・」

弓垂「！」

すると長矢はハンターV.Gを出した

長矢「電波変換」

そして雷の音とともに変身した

キイイイイイン

弓垂「なにい」

???「さあ・・・弓垂も変身しなよ・・・」

弓垂「なにで兄貴が電波変換出来るんだ・・・」

クロダーツ「この姿はクロダーツださあ早く変身しろよ弓垂！」

弓垂「OK・・・10分間だけ付き合ってやるよ・・・電波変換！」

キイイイイン

アーチエリー・Rトミカ「・・・」

クロダーツ「10分?へっそれだけあればじゅうぶんだ！」

雷が2人の近くに落ちた

ドオン

第108話 弓垂の兄（後書き）

な、なにいろ弓垂の兄が電波変換だとおゝ次回は兄弟バトル！

第109話 クロダーツの力(前書き)

どうもレッドスターです。

今回は兄弟バトル!かつのは弓亜が長矢か!?

## 第109話 クロダーツの力

アーチェリー・R「くらえインファイニティーアロー！」

無数の矢がクロダーツに降り注ぐ

しかしクロダーツは一步も動かなかつた

クロダーツ「へえ、お前の力はそんな程度か・・・」

アーチェリー・R「何っ！」

クロダーツ「なら俺の力も見せてやる・・・シャドウスパア！」

アーチェリー・Rの周りにたくさんの針が現れた

クロダーツ「刺される！」

ザザザザザザザザザ

アーチェリー・R「ぐああああああああ」

たくさんの針はアーチェリー・Rの体トツミにささる

アーチェリー・R「ぐああ・・・ああ」

クロダーツ「・・・がっかりだよ俺の弟がこんなに弱いなんて」

アーチェリー・R「だまれええ・・・」

クロダーツ「本当がっかりだ・・・」

アーチェリー・R「だまりやがれええええ」

アーチェリー・Rは矢トツミを放った

ズバア

クロダーツ「！」

クロダーツの腕に少しあたって

アーチェリー・R「兄貴・・・俺はもうお前の「おもちゃ」じゃね

えんだ！弟だあ？もうにとど「弟」って呼ぶんじゃねえよ！」

クロダーツ「まったく・・・反抗期なのかねえ」

アーチェリー・R「俺の前から消えやがれええ！」

クロダーツ「消える？本当に俺が消えてもいいのか？」

アーチェリー・R「！？」

クロダーツ「お前は俺を消せるのか？最期のつながりを・・・」

アーチェリー・R「……」

クロダーツ「そう……」「血の繋がった」最期の兄弟を！」

アーチェリー・R「……どうだっていいそんなの……俺にはもう  
必要ない」

クロダーツ「そうか……ならこれならどうだ？」

????「捕まえたよおー」

ダイヤパール「もがもが！」「放しなさい！」

アーチェリー・R「なっ……博士？」

クロダーツ「こいつは人質だ、返してほしければ俺達のところにく  
るんだな」

アーチェリー・R「……」

クロダーツ「来週だ……来週の今ここで待つ……返してほしけ  
れば来週のここにこい」

ダイヤパール「んーんー」

ポロツ

ダイヤパールのポケットからなにか落ちた

クロダーツ「またな」

????「待ったねえ」

2人は消えていった……

キイン

変身をといた弓亜……

ザアアアアアアア

弓亜はダイヤパールが落としたりップみたいなものを拾った……

弓亜「（助けてみせる……）」

そして3日後の朝……

スバルの家では……

スバル「そいえばWAXAワクサはどうなったんですか？ヨイリー博士

ヨイリー「まだ無理そうね……」

スバル「そうですか」

ピンポン

茜「はい」

ガチャ

茜「あら、スバルーお友達よー」

スバル「はい」

ゴン太「ようスバル！」

スバル「ゴン太！それに・・・」

キザマロ「おはようございます」

委員長「ヨイリー博士達は？」

スバル「僕の部屋にいるけど・・・」

スバルの部屋では・・・

ドタバタドタバタ

ドラグ「わーいわーい」

ミソラ「・・・」

じゃあくん

ギターを弾いていた

ヨイリー博士はリビングで茶をのんでいる

委員長「にぎやかね」

スバル「でしょ？」

ドラグ「ねえスバルさん遊ぼう！」

スバル「そうだね・・・」

ある所

「……そろそろだわ……宇宙の消滅が……」



第109話 クロダーツの力（後書き）

とうとう危機が・・・？

そして今日でオリジナルキャラクタークタールの投稿が終わりにします。

オリキャラを送ってくれた人ありがとう（涙）

ちなみに送ってきてくれた人は6・7人です

第110話 夏が来た！（前書き）

どうもレッドスターです。

俺の小説では今やっと「夏」！がきました・・・（春長すぎだろ）

## 第110話 夏が来た！

次の日の朝

茜「スバルー」

スバル「何・・・？」

茜「はい」

スバルに渡されたものそれは・・・「5000ゼニー」だった  
スバル「これは？」

茜「今日と明日お祭りあるからいつてきていいわよ」  
スバル「ありがとう」

そしてスバルの部屋・・・

スバル「皆！」

ドラグ「なーにー？」

スバル「お祭り行かない？」

ミソラ「いいね行こうよ！」

ハープ「ロック行きましようよ」  
『』

ウォーロック『やだ』

スバル「今日の6時からあるからその間何する？」

ドラグ「うっしーと遊びたい」

スバル「うっしー？」

ミソラ「ゴン太君の事だよ」

スバル「（ゴン太がうっしーね・・・）」

ミソラ「せっかくだからルナちゃん達も誘おうよ！」

スバル「そうだね」

ピーンポーン

ゴン太「ふぁ〜いいいぜ今日の6時な！」

ピーンポーン

委員長「お祭り？いいわよ行ってあけるわ」

ピーンポーン

キザマロ「わかりました6時ですね・・・」

スバル「よしっこれで全員だ」

ミソラ「お祭りがあ久しぶりにいくなあ」

スバル「ミソラちゃんの仕事が忙しくてお祭り行く余裕ないもんね」

ミソラ「うん、でも今日も明日も大切な人とお祭りに行ける・・・」

だから今の私幸せなんだ」

スバル「ミソラちゃん・・・」

そして6時間後・・・

スバル「・・・」

ドラゲ「・・・」

ミソラ「・・・」

キザマロ「・・・」

委員長「・・・」

ゴン太「ごつめえーん遅れた・・・」

委員長「ゴ〜ン〜タ〜（怒）」

ゴン太「わわっごめんなさい委員長！」

スバル「ハハハ」

スバルは思った「いつまでもこの平和が続いてほしい」っど・・・  
しかし平和はいつも短かった・・・

第110話 夏が来た！（後書き）

次回は祭りだせー！

まあ小説の中だけど・・・

第111話 祭りだ！（前書き）

9月になりましたね・・・しかしまだ暑いですね。

## 第111話 祭りだ！

コダマ公園

スバル「ついた！」

スバル達の目の前は祭りの屋台がズラーッと並んでいた

ウォーロツク『しかし祭りってそんなに楽しみなものか？』

ドラグ「わぁー金魚すくいだぁ！」

ゴン太「ウォー焼きそばにたこ焼きにわたがし！」

キザマロ「ゴン太君お祭りは食べ物だけじゃありませんよ」

ゴン太「くうぞぉー」

キザマロ「聞いてない・・・」

スバル「順番に見ていこうよ」

そしてスバル達は屋台を順番に渡った

ビリッ

ドラグ「あーあ・・・やぶれちゃった・・・」

スバル「次は・・・」

焼きそば屋

ゴン太「おじさーん焼きそば5個ください」

おじさん「おうよ、皆の分も入ってんだろ？」

ゴン太「1人で食う」

おじさん「きにつたぜ！+もう1個おまけするぜー！」

スバル「6個!？」

そしてゴン太は5個+1個を食べました

わたがし屋

ゴン太「わたがし3個ください」

ミソラ「私は1個で」

ウォーロック『(ゴン太・・・食いすぎだろ)』

???「ククク・・・ここだな」

???『ヒヒヒ・・・いけウイルスども』

ウイルス達はお祭りを襲撃した

スバル「ハハハ」

ウォーロック『!、スバル、ウイルスだ!』

スバル「えっ・・・」

どおーいーん

ミソラ「えっ、何!?!」

ハーブ『ミソラ!ウイルスがあっちこっち散らばってるわ!』

ミソラ「せつかくのお祭りなのに・・・ゆるさないわ!」

スバル「トランスコード・シューティングスターロックマン!」

.....

スバル「・・・あれ?」

ウォーロック『どうやらWAXAが崩壊してトランスコードは使えないようだな?』

スバル「ええっじゃーしょうがない」

ウォーロック『ならトランスコードじゃなければいいんじゃないか?』

スバル「わかった・・・電波変換 星河スバル オン エア!」  
キィィィン

ロックマン「できた・・・あっ、姿が懐かしい!」

ウォーロック『(できた・・・)』

ロックマン「よしやるぞー!」



第111話 祭りだ！（後書き）

次回、謎の敵現る・・・

第112話 アク（前書き）

どうもレッドスターです。  
まだまだ厚いっスね

## 第112話 アク

ミソラ「電波変換！」

キイン

ハープ・ノート「いくよ、ショックノート！」

ウイルスはどんどん消えていく

ロックマン「ロックバスター！」

デユン デユン

ウイルスはどんどん消えていくがしかし同じくどんどんウイルスの数も増えていた

ロックマン「きりがない」

ウォーロック「！、スバルなにかがこっちに近づいてくるぞ！」

ロックマン「なんだって!？」

そのとき

ドゴオ

ロックマン「かはっ・・・」

ハープ・ノート「ロックマン？」

ロックマン「誰だ？」

????「こいつか・・・獲物は」

????「ヒヒヒそうだ」

ドラグ「あっ、あいつは」

バード「ソウルだ！」

ソウル「あの時の小僧・・・あの時の恨みは忘れてない」

????「あれ？ロックマンじゃーねえの？」

ソウル「そう俺はあの小僧にやられた・・・それにあいつも獲物だ」

・・・

ロックマンは立ち上がった

ロックマン「そうか、君たちがウイルスをばらまいたな！」

????「そうさ、俺達がばらまいた」

ウォーロツク『！（こいつ・・・なんか変な感じがする・・・）』  
そのとき

????「はああああ」

ズドオオン

ロツクマン「！」

????「・・・久しぶりだね・・・」

????「・・・」

????「ソロ・・・いや今はブライか・・・」

ブライ「おまえなぜここにいる・・・アク！」

アク「なぜいるって・・・いるからに決まってるからじゃないか」

ブライ「・・・変わらないな・・・」

アク「まあね」

ロツクマン「（どうしよう・・・話について行けない）」

アク「これは何かのえんだ・・・俺はここでお前をつぶす！」

ブライ「ふん」

アク「電波変換！」

キイイイイイン

ブライ「・・・」

キラア「さあやるつか、この俺・・・キラアと・・・」

第112話 アク（後書き）

ソロとアクの関係とは・・・？

第113話 プライVSキラア（前書き）

今回の話は・・・まさか・・・

### 第113話 ブライVSキラア

キラア「さあこい！」

ブライ「ブライナツクル！」

たくさんの手がキラアに向かう

ドゴオ

キラア「ぐふっ……昔より力が強くなったな」

ブライ「……………」

キラア「こつちも反撃だあ！キラアソード！」

黒いオーラが剣になった

ブライ「……ラプラス」

ラプラスはソードになった

キラア「ラプラスソードか……行くぞ！」

2人の攻撃は激しくぶつかりあった

キイン ガン ズバアン

ブライ「くっ（動きが早い！）」

キラア「（力は早いがやはりスピードではこつちが勝っているな）」

ズバアン

ブライ「がああああ」

ロックマン「ブライ！」

ウォーロック「そうか……そういう事だったのか」

ロックマン「ロック？」

ブライ「ぐっ……」

ブライは足をやられていた

キラア「ブライ……まだまだだな」

ブライ「！」

ドッ

ブライはキラアの腹を殴った

キラア「ぐっあ」

ブライは立ったしかし・・・  
ブライ「くっ・・・（足が）」  
キラア「ククク足をやられていればまともに動けまい」  
ブライ「・・・」  
キラア「なあ・・・協力しねえか？」  
ブライ「！」  
キラア「なあブライお前はほしくないか？」  
ブライ「なにをだ」  
キラア「世界さ」  
ロックマン「世界!？」  
ブライ「世界・・・だと？」  
キラア「そうだ・・・自分だけの世界・・・自分の夢がかなう世界だ！」  
ブライ「・・・夢がかなう世界・・・」  
キラア「そうだ・・・」  
ブライ「・・・くだらないな」  
キラア「何っ！」  
ロックマン「ブライ・・・」  
キラア「くだらない？この話を聞いても同じこと言えるのか」  
ブライ「ふん」  
キラア「お前の親にも会えるんだぜ？」  
ブライ「・・・！」



第113話 プライVSキラア（後書き）

なにいブライの親！？なんかさらに大変なことになってきたーっ！

第114話 ロックマンVSキラア（前書き）

どうもレッドスターです。

今回の話もやばそう・・・

## 第114話 ロックマンVSキラア

ブライ「……………！」

キラア「悪い話ではないだろ？」

ブライ「(家族……………)」

ロックマン「ブライ！」

ブライ「……………親などくだらない……………」

キラア「ククク、「親などくだらない」か……………本当は会いたいくせに……………」

ブライ「俺は1人で生きてゆく」

キラア「そうか、協力してくれないか、なら消える」

ズバア

ブライ「ぐっ」

カラーン

ブライはソードを落としてしまった

ブライ「はあはあ」

キラア「弱い……………それでも「ムー」の生き残りか？」

ブライ「！」

キラア「じゃあな、わが友……………」

デュン

キーン

キラアの剣が飛ばされた

キラア「！」

ロックマン「やめろ！」

キラア「そうだった……………獲物はブライではなく、ロックマン！」

ロックマン「ロックバスター」

デュン

キラア「……………」

サッ

キラアはロツクバスターをよけた

キラア「（これだったらすぐに捕獲できそうだ）」

ロツクマン「！」

キラア「くらえ」

ズバア

ロツクマン「うわああああ（早い・・・）」

ドサツ

委員長「あれは・・・ロツクマン様！」

ゴン太「ロツクマンがピンチだ・・・でも委員長を守るのが俺の役

目・・・どうしょ」

キラア「では・・・捕獲・・・！」

ロツクマン「ロツクやるよ」

ウォーロツク「おう」

キイイイン

ロツクマン・Rライオーガ「変身！」

キラア「何!？」

ロツクマン・R「うおおハンマー」

ドオン

キラア「くつ・・・（スピードはこっちが勝っているけど、なんだ

あの力は！一発でもあれにあたったらダメージが大きいここは遠距

離で攻撃するしかない）」

すると剣が消えて変わりに銃になった

キラア「くらえ爆ボンバーガン十弾！」

ダンダンダンダンダンダンダンダンダンダン

ロツクマン・R「ゴールドシールド」

ブウン

キンキンキンキン

キラア「何っ!」

ロックマン・R「これで終わらす！」

ロックマン・Rはキラアライオーガに近づいた

キラア「！」

ロックマン・R「ライオーガ クラッシュ雷鬼の一撃！」

ドゴオオオオオン

キラア「ぐがああああうああああ

ソウル『（ひきあげるか・・・）』

ソウルはキラアに近づき一緒に消えていった・・・

ロックマンは電波変換をといた・・・

キイン

スバル「消えた・・・」

ウォーロック『たくつ、なんなんだ？あいつら』

スバル「（それにキラアって人・・・「ムー」とかって・・・もし

かしてキラアも「ムー」の生き残り？）

ブライ「・・・」

ブライも変身をといた

キイン

ソロ「・・・」

ソロは立ち上がったそして足をひきずりながらどこかに行こうとしていた

スバル「ソロ」

するとソロはとまってスバルに言った・・・

ソロ「よけいなまねをするな・・・」

スバル「！？」

そしてどこかに行ってしまった・・・

第114話 ロックマンVSキラア（後書き）

せっかくの楽しい祭りがあゝ・・・次回は祭りの続き？

第115話 祭り再開！（前書き）

どうもレッドスターです。

なんかこの先の展開はなんかやばくなるかも……？

## 第115話 祭り再開！

なんとかスバル達は祭りを守ったそして・・・

次の日

スバル「ぐぐぐ」

ウォーロツク「（なんか最近わからねえ事ばつかな・・・）」

スバル「・・・ふあゝ・・・おはよ・・・」

ウォーロツク「起きたかスバ・・・」

スバル「ぐ」

ウォーロツク「（寝るの早っ！それとも寝言か？）」

スバル「ぐ」

ウォーロツク「・・・」

そして10時半・・・

スバル「んっ・・・ふあゝおはよ・・・」

ウォーロツク「ああ、おはよう寝ボスバル」

スバル「寝ボスバル!？」

ミソラ「スバル君起きた？」

ドラグ「スバルさん」

スバル「おはよう」

ウォーロツク「ほらさっさと歯磨きしろ寝ボスバル!」

スバル「寝ボスバルって言うなーっ!」

そして・・・

スバル「えっ、今日も祭りあるの!」

茜「ようよ、あんまり被害は出てないからできるって」

ミソラ「行こうよスバル君!」

スバル「そうだね（昨日みたいになりませんように!）」

そしてあっという間に6時になりました



スバル「行こうか皆・・・」  
ゴン太「ウオオーーまた焼きそばをくうぞー」

焼きそば屋

ゴン太「・・・」

焼きそば屋がない代わりに紙が張ってあった

「焼きそば屋はもう終わったぜ！」

ゴン太「・・・」

その日ゴン太は泣いた・・・そう静かに・・・

射的屋

キザマロ「ターゲットは・・・ミソラちゃんのポスターです！」  
パン

キザマロは撃った・・・しかしミソラのポスターではなく・・・  
お兄さん「はいおめでとう！ムキムキ君のポスターです」  
キザマロ「(いない・・・)」

わたがし屋

ミソラ「おいしいー」

ドラグ「ミソラさんみてー」

ミソラ「わっ・・・おじいさん？」

ドラグは綿を顔につけてひげの真似をしていた・・・

スバル「(本物のひげみたい)」

そして楽しい時間は過ぎるのが早かった・・・

委員長「たのしかったー」

スバル「まあ約2名落ち込んでるけど・・・」

ゴン太「焼きそば・・・焼きそば・・・焼きそば・・・」

キザマロ「ムキムキムキムキムキムキムキムキムキムキムキムキムキムキムキムキムキ」

ウォーロック『(キザマロの奴なんかの呪文を言ってやがる)』  
スバル「楽しかったね」

ミソラ「うん！」

ドラグ「またいきたい！」

スバル「また来年行こうね」

ドラグ「わーい」

そしてこの日約2名以外の人は楽しく帰りました

そして・・・3日後・・・

ミソラ「電車が直ったからこれで帰れる！」

ドラグ「スバルさんの家またとまりたい」

スバル「またね・・・(騒がしい一週間だった・・・)」

そしてミソラ・ドラグ・ヨイリーは帰っていった・・・

そしてWAXAは一部だけ直ったそうだ・・・

そのころ・・・

弓垂「・・・」

長矢「弟よ・・・逃げずによくきたね・・・ほめてやるっ」

弓垂「博士はどこだ・・・博士を返せ！」

長矢「そうだな・・・」

キイイン

長矢は変身した

クロダーツ「でも俺に勝つたらな・・・弟・・・」

弓垂「・・・」

第115話 祭り再開！（後書き）

次回また兄弟対決！

**第116話 兄弟バトル！（前書き）**

どうもレッドスターです。

兄弟バトルは本日で2回目！

弓垂は勝てるのか！？

## 第116話 兄弟バトル!

弓垂「電波変換!」

キイン

アーチェリー・R「こいよ……」

クロダーツ「では行くぜ!シャドウスパア!」

アーチェリー・Rニミットの周りにたくさんの針が現れた

アーチェリー・R「くっ……(また囲まれた……でも……)」

アーチェリー・Rは矢を空に向けた

アーチェリー・R「インファイニティーアロー!」

クロダーツ「ふんそんなので俺にあたると……!」

アーチェリー・Rの周りにあつた針が全部落とされていた

クロダーツ「(まさか狙いは針だったのか!)」

アーチェリー・R「同じ技は俺には効かない……どうする?兄貴・

……」

クロダーツ「なめるなあ!ならこれならどーだ!」

アーチェリー・R「?」

クロダーツ「針地獄を見せてやる!」

クロダーツは地面に手を付けた

すると

アーチェリー・Rの下から……

ポコッ

アーチェリー・R「なんだ……!?!」

針が出てきた

ズバッ

アーチェリー・R「(チツ、少し顔にかすつたか)」

クロダーツ「まだまだ」

ポコポコポコポコ

次々と地面から針が出てくる……

アーチェリー・R「くそおこれじゃあ攻撃できねえええ……」  
クロダッツ「そろそろ終わりにしよう……特大の地獄をみせてな……」

アーチェリー・R「(くそ……どうすれば博士を助けられるんだ……)」

クロダッツ「終わりだーっ、マウンテンダーツ!」

大きなダーツが地面から出てきた

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

アーチェリー・R「で……でけええ」

クロダッツ「これはタダのダーツではない……時間がたてば自動的に爆発するんだ」

アーチェリー・R「(やりすぎだろー)」

クロダッツ「どうだ?俺の所に来れば爆発などしない……」

アーチェリー・R「……(ここは俺にとって大切な場所……けど兄貴は嫌いだ……でもでも……)」

クロダッツ「さあどうする?」

アーチェリー・R「(兄貴は俺を捨てた……でもここは……)」

クロダッツ「あと2分で爆発するぜ」

アーチェリー・R「(くそつ俺もあと2分で変身が……そうだ……自分で止めればいい、でも……)」

止められるのか?こんなでかいの……俺に……)」

クロダッツ「あと1分だぜ」

するとアーチェリー・Rは思いだした

アーチェリー・R「(そうだ……このチップ!……いちかばちか試してみる!)」

ハンターV Gに差し込んだ

ピーーーー

『変形チップ入力成功無限時間GMに変形!』

キユイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイ

アーチエリー・Rは形が変わった・・・

クロダーツ「なんだ!？」

するとマウンテンダーツは一瞬にして消えていた

クロダーツ「あ、ありえない・・・」

『変形完了!』

アーチエリー・GV「・・・・・・・・・・・・・・・・」

第116話 兄弟バトル！（後書き）

なんかすごい・・・



第117話 アーチェリー・GV(前書き)

どうも・・・レッドスターです・・・  
今日は大変でした・・・

第117話 アーチェリー・GV

『変形完了!』

アーチェリー・GV「……………」

クロダーツ「なんだ……その姿は?」

アーチェリー・GV「兄貴……俺はお前を倒す!」

クロダーツ「ふんっ、姿だけ変わっただけで……」

ズバァ

クロダーツ「!」

クロダーツがぎずいた頃にはいつの間にか腕に傷がついていた……

クロダーツ「何……」

アーチェリー・GV「よそ見すんなよ……兄貴!」

クロダーツ「(なんだ?こいつさっきまでの動きじゃねえ……)」

アーチェリー・GV「埋まれ!」

クロダーツ「!」

ドゴオオン

クロダーツ「ぐうああああああ」

クロダーツはおもいつきり地面にたたきつかれた

ドサァー

クロダーツ「ぐはっ!」

アーチェリー・GV「……………兄貴……」

クロダーツ「なんだよ……」

アーチェリー・GV「なあ、兄貴……なんで今ごろ俺を連れ戻し

に来たのか教えるよ兄貴……」

クロダーツ「……知りたいか?」

アーチェリー・GV「ああ……」

クロダーツ「今から一ヶ月後……俺は消える……だから俺は弟

とちよっとの間だけ暮らしたかった……たしかに今頃お前を連れ

戻すのはへんだが、俺は後悔した・・・」

アーチェリー・GV「・・・」

クロダーツ「お前にあんな酷いことを言ってしまったことを・・・」  
アーチェリー・GV「・・・だったら博士を返してくれ・・・そうしたら考えてやるよ」

クロダーツ「!・・・それは無理だ」

アーチェリー・GV「なんでだ!」

クロダーツ「お前の博士は・・・もうボスの所に居る!」

アーチェリー・GV「なんだよそのボスって!それになんでボスの所に博士がいる!」

クロダーツ「ボスは・・・博士を恨んでいるからだ」

アーチェリー・GV「・・・じゃー嘘なのか?また暮らしたいって・・・」

クロダーツ「そうじゃな・・・」

アーチェリー・GV「やっぱり嫌いだ!兄貴は!」

クロダーツ「嘘じゃない・・・」

ズバア

クロダーツ「ぐはっ・・・」

シユウウン

クロダーツはどこかに消えてしまった!

アーチェリー・GV「ググッ・・・」

キイン

変身を解いた弓垂

弓垂「・・・もう、わけわかんねえよ・・・」

そのころ・・・

「準備はととのった……30日後、この世界……」  
ソウル「ボス楽しみですね……」  
「フフフ……」

第117話 アイチェリー・GV（後書き）

次回はスバルの久しぶりに1人で居られる時間の話！・・・かも？

第118話 久しぶりの1人の休日(前書き)

どうもレッドスターです。

今日は気楽に書きたいと思います・・・

第118話 久しぶりの1人の休日

コダマタウンにセミの鳴き声が響き渡る・・・  
ミンミンミンミン

スバルの家では・・・

スバル「あ・・・暑い・・・」

ウォーロツク「んじゃ俺は、行ってくる」

スバル「どこに？」

ウォーロツク「涼しい所」

スバル「僕もつれてって・・・あれ？」

気づいた時にはもうウォーロツクはいなかった・・・

スバル「早っ！」

茜「スバルー！」

スバル「何？母さん・・・」

茜「ちよつと出かけてくるけどなんか買ってきてほしいのがある？」

スバル「氷」

茜「氷なら冷蔵庫にあるからね！」

スバル「は~~~~い」

そして茜は外に出かけていった

スバル「・・・」

少しづつセミの鳴き声が大きくなってきていた

ミンミンミンミン~~~~ン！

スバル「（今年のセミは張り切っているな・・・）」

しばらくして・・・

スバル「・・・」

セミ「~~~~」

スバル「（何でだろ・・・暇だからか僕セミとらめっ」

してるよ・・・）」

セミ「~~~~ン」

スバル「（勝った!）」  
セミは負けて空へと飛び立っていった、そう・・・バサバサと・・・  
スバル「・・・暇だ・・・」  
スバルは思った・・・  
スバル「（騒がしいのもあんまり好きじゃないけど、でも1人で暇  
すぎてもなんか落ち着かないな・・・）」  
スバルはさらに思った・・・  
スバル「（なんたるこの感じ、この光景、昔見たことあるような・・・  
・たしか父さんが行方不明になった時の夏に・・・たしかこの感じが  
したような・・・）」

スバルは思い出していた・・・  
父さんが行方不明になった最初の夏・・・  
茜「スバル・・・泣かないの」  
スバル「ぐずっ、だって父さんが・・・父さんが・・・ぐずっ」  
茜「もう泣かないで・・・きつと生きてるわよ宇宙のどこかできつ  
と・・・」  
茜はスバルを抱いた・・・  
ギユウウ  
スバル「母さん・・・」

夜7時・・・  
スバル「・・・ふあゝ・・・あれ?夢?  
すると  
ガチャ  
茜「スバルー?ちよつと手伝つて!」



スバル「はい」

そして・・・

シュン

スバル「？」

スバルはハンターV.Gを見た

ウォーロック『帰ってきたぜスバル』

スバル「ロック！」

ウォーロック『スバル、おふくろが呼んでるぞ』

茜「早く〜」

スバル「そうだった！」

ガチャ

大吾「帰ってきたぞー」

スバル「おかえり！」

大吾「ただいま」

スバル「（今の僕は幸せだ、だって家族みんなでこの家にいてロックもいてそして・・・皆でおなじテーブルでご飯食べれるんだから！）」

ウォーロック『どうした？スバル』

スバル「なんでもないよ」

ウォーロック『そうか』

スバル「（この幸せが続いてほしいな・・・ずっと・・・）」

スバルは暇だったけどなんとなく楽しかった1日でした・・・

第118話 久しぶりの1人の休日(後書き)

次回も見てください

第119話 30日後・・・(前書き)

どうもレッドスターです。

本当にもう暇なのです！(今ね)

第119話 30日後・・・

あれから30日後・・・

WAXAはだいぶ直<sup>ツクサ</sup>ってきた所でした

しかしまだ直<sup>ツク</sup>つてない所もありました・・・

ヨイリー「ふう、出来たわ」

暁「なんだこれ？」

ヨイリー「秘密よ」

暁「はあ・・・」

コダマタウンでは・・・

とつくに夏休みになっていた・・・

スバル「ねえロック」

ウォーロック「なんだ？」

スバル「最近ウイルスとか出てきてないよね・・・」

ウォーロック「そうだな、最近平和すぎて退屈だ」

スバル「そうだね・・・」

しかしある所では・・・

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

????「ホホホ、力がみなぎってくるわ」

ダイヤパール「あなた・・・なにをしているの・・・その力は危険」

????「うるさい、私はあなたのせいでこんな事になってしまった

のよ？私は許さないわあなたを・・・そしてこの世界もよ！」

ダイヤパール「・・・」

ソウル「あと27時間後ですね・・・」

「???」「そう27時間後この世界の半分を破壊するわ」

ダイヤパール「やめなさい！」

「???」「何言っているのよこの力はあなたがくれたんじゃない・・・」

「

ダイヤパール「くっ・・・」

カチカチカチ

ダイヤパールは「???」に気づかれないようにメールをうった

ピピッ

ダイヤパール「（メール送信完了・・・あとはまつだけよ）」

ワクサ  
WAXAでは・・・

ブルル

ヨイリー「あら？メールかしら」

ヨイリーはメールを見た

ヨイリー「これは・・・」

第119話 30日後・・・(後書き)

次回の展開は・・・？

第120話 メール(前書き)

どうもレッドスターです。

最近サブタイトルが思いつきません・・・(どうしようかな・・・?)

## 第120話 メール

P i P i P i

スバル「電話だ」

ピッ

ヨイリー「スバルちゃん」

スバル「ヨイリー博士、どうしたんですか？」

ヨイリー「話はWAXAワクサでするわ、早く来てね」

スバル「あつ、はい・・・」

プッン！

ウォーロツク「なんかあわててたな」

スバル「行こう」

WAXAワクサ

スバル「おおつ、なんか前のWAXAワクサより大きい！」

ウォーロツク「でもまだ未完成なんだよな・・・これでじゅうぶんじゃね？」

スバル「（たしかに・・・）とりあえず中に入ろうよ」

WAXAワクサの中

スバル「（なんか部屋がたくさんある・・・ホテルみたい）」

ヨイリー「スバルちゃん、こっちよ！」

スバル「はい！」

スバルは部屋に入った

スバル「！、皆もここに」

ミソラ「スバル君！」



ゴン太「スバル！」

ドラグ「スバルさん！」

スバル「ヨイリー博士、話ってなんですか？」

ヨイリー「これを皆に見てほしいの」

スバル「これは・・・メール」

「ヨイばあちゃんへ

急だけど助けて！今捕まってるの、場所は・・・タカラノシティよ」

スバル「タカラノシティ・・・まさかダイヤパール博士が捕まってるなんて・・・」

ヨイリー「お願い！あの子を助けて！」

スバル「・・・分かりました・・・」

ドラグ「あの・・・スバルさん」

スバル「何？」

ドラグ「急ですけど僕と・・・ブラザーになってください！」

スバル「（本当に急だ・・・）いいよ」

スバルはドラグとブラザーになった

ドラグ「やったー」

スバル「それでヨイリー博士、いつ助けに行くんですか？」

ヨイリー「今かしら・・・」

ミソラ「なら今向かいますよー！」

スバル「そうだね・・・なるべく早く助けないとね」

ドラグ「そいえば弓垂はどうするー？」

スバル「そうだね・・・」

バード『やっぱり弓垂も必要だと思えます』

スバル「なら弓垂もさそって早く助けに行こうー！」

ドラグ「おーっ！」

第120話 メール（後書き）

次回とうとうダイヤパールを助けるためにタカラノシティに向かう！

## 第121話 タカラノシティ

弓垂「……博士……」

P i P i P i

弓垂「!、誰だ……?」  
ピッ

ドラグ「弓垂ーっ!」

弓垂「うわぁ、ドラグか……」

ドラグ「ねえ弓垂一緒にタカラノシティ行こうよ!」

弓垂「はは、すまねえ今はそんな気分じゃないんだ……」

ドラグ「そうなの?せっかくダイヤパール博士を助けに行くのに……」

弓垂「まじでかああああ」

ドラグ「マジ」

弓垂「わかった、俺も行く!」

ドラグ「じゃータカラノシティでまってるから来てね」  
プッ

弓垂「(博士がタカラノシティに……)」

そしてスバル達はタカラノシティに向かった……

タカラノシティ

スバル「……なんかでかいマンションがズラァーって並んでる……」

ウォーロック「なんつー所だ……」

ドラグ「でかい」

ミソラ「いい所」

ゴン太「あーっ牛井屋だ！」

キザマロ「(やっぱりですか・・・はあ)」

スバル「でもこの町のどこかに居るんだよね・・・ロックなんか感じない」

ウオーロック『いや、なにも・・・』

スバル「そうか・・・皆で分かれて探すしかないか・・・」

ドラグ「僕は弓亜を待つ」

スバル「わかった」

ミソラ「私はあっちに行く」

委員長「私も」

ゴン太「俺はキザマロとこっちに行くぜ」

キザマロ「はい」

スバル「僕はこのへんを探すよ」

ミソラ「なにかのてがかりを見つけたらメールか電話するね」

スバル「うん！」

????「きたね・・・ロックマン！」

第121話 タカラノシティ（後書き）

次回またまた新たな敵？現る

第122話 謎の人形（前書き）

どうもレッドスターです。

今日も1日頑張ります・・・

## 第122話 謎の人形

ミソラと委員長は・・・

ミソラ「なんかここ怪しいな？」

委員長「いいえこっちの方が怪しいわ」

ミソラ「なんで？」

委員長「だってほら・・・」

そこに看板があった

「アジトは」

ミソラ「（・・・怪しい・・・いろんな意味で・・・）」

委員長「私はこっちに行くわ」

ミソラ「ちよつと待って！」

委員長はもう行ってしまった・・・

ミソラ「ハア・・・」

委員長は・・・

委員長「絶対に探して見つけてそしてロックマン様に・・・フッフ  
トン

委員長は何かにあたった

委員長「何これ・・・人形？」

するとその人形は・・・

グニョグニョ

委員長「キャー！ー！」

ミソラは・・・

ミソラ「ルナちゃんの声だ！何があったんだろ・・・」  
すると戻って来た委員長

ミソラ「どうしたの？何かあったの？」

委員長「・・・」

「ミソラ」?

「????」「1人目」

その頃ゴン太とキザマロは・・・

キザマロ「ゴン太君怪しいですねここ・・・」

・・・・・・・・

キザマロ「ゴン太君?」

後ろを振り向いたキザマロだったがそこにはゴン太ではなく人形があつた

キザマロはその人形を持った

キザマロ「なんですかねこの人形は?きみわるいです」と人形が動き始めた

グニョグニョ

キザマロ「ヒイーーーー!」

その頃ゴン太は・・・

ゴン太「怪しい・・・」

ゴン太の目の前には牛井屋があつた・・・すると・・・

ゴン太「!、あつキザマロ!」

キザマロ「・・・・・・・・」

ゴン太「?」

「????」「2人目」





第122話 謎の人形（後書き）

一体こいつ何なんだ？人形とか・・・次回はロックマンが・・・？

第123話 もう1人のスバル！（前書き）

今回の話は・・・スバルが・・・？

## 第123話 もう1人のスバル!

スバル「このへんには怪しいのいな・・・?」

ウォーロック「ちゃんと探せよ」

スバル「探してるよ!」

???「みつけた、ロックマン!」

ウォーロック「!」

スバル「どうしたの?ロック?」

ウォーロック「何かけはいがした・・・」

スバル「!」

そのとき

ウォーロック「スバル上だあ!」

スバル「わぁーーーーー!」

ポン

空からワラ人形が落ちてきた

スバル「に・・・人形・・・」

ドサァー

ウォーロック「スバルーっ!」

???「ストライク!」

ウォーロック「誰だ!」

スバル「ぐぁーーーー!」

ウォーロック「スバル!?」

ウォーロックはスバルのほうを見たそしてウォーロックが見たものは・・・2人のスバルであった・・・

スバル「ロック・・・ロック・・・」

スバル? 「……………」

もう一人のスバルは、スバルの首をしめていた  
ギユウウウウ

スバル「ぐっ……ああ」

ウォーロック「スバルが……なんで?」

??? 「ははは、いいぞいいぞ」

ウォーロック「!?」

その声の先には謎の電波人間がいた……

ウォーロック「お前は……」

ライヤードール「オレ? オレはライヤードール!」

ウォーロック「ライヤードール……」

ライヤードール「そしてあのもう一人のスバルだっけ? もう一人の

スバルはオレの「ワラニンギョウ」さ!」

スバル「ううっ……」

偽スバル「……………ニヤッ」

ウォーロック「お前……なんで俺達に!」

ライヤードール「えっ? だってある電波体って君だろ?」

ウォーロック「さあな」

ライヤードール「その電波体を始末しろって依頼されたしそれにお

金だってたくさんもらえるしね」

ウォーロック「始末か……」

スバル「ぐっ……ロック……」

ウォーロック「まってる! ビーストスイング!」

しかしあっさりと偽スバルによけられた

スバル「ぷはあ!」

ウォーロック「大丈夫か!」

スバル「うん」

ウォーロック「やるぞ!」

スバル「トランスコード シューティングスターロックマン!」

キイイイイイイン

ロケットマン」・・・・・・ウェーブバトル ライド オン！」

第123話 もう1人のスバル！（後書き）

今回も出てきたオリキャラは、送ってくれた人のキャラです。  
ありがとうMk・SRさん！

第124話 ライヤードール(前書き)

どうもレッドスターです。

今回の話はロックマンが・・・？



## 第124話 ライヤードール

ライヤードール「きてもいいよでも・・・オレは強いよ？」

ロックマン「ロックバスター！」

デユン デユン

ライヤードール「おっとと・・・あぶねっ」

ロックバスターは全部よけられた

ロックマン「まだまだバトルカード」「ロングソード」「！

ズバァン

ライヤードール「うぎゃ

ドサッ

ウォーロック「やったか!？」

ライヤードール「うわあゝ危なかった」

ロックマン「！」

ライヤードール「なんとかこの人形で防ぎきった」

ロックマン「なっ・・・」

ライヤードール「やっぱりロックマンは強いや・・・でも・・・」

ドカァ

ロックマン「うわっ

ドサッ

ウォーロック「スバル!？」

ロックマン「後ろから誰かに・・・」

ウォーロック「うしろ?」

ロックマンの後ろにはもう1人のロックマンがいた

ウォーロック「まさか・・・」

ライヤードール「そうそのまさかだよ、そのロックマンはワラニン

ギョウさ・・・」

偽ロックマン「・・・」

偽ロックマンはロックバスターの体制にはいった

ロックマン「ロック……」

デユン

ロックマン「うぐっ……」

ライヤードール「このワラニンギョウはロックマンとまったく一緒、  
力も姿も……でもワラニンギョウのほうは、いつも全力で戦って  
くるよ……だから本物のロックマンも本気でやしないと負けるか  
もね」

デユン

ロックマン「ぐああああ」

ウォーロック「この偽ロックマンめ……ビーストスイング！」

ズバア

パシッ

ウォーロック「何……」

偽ロックマンはウォーロックの腕を掴んでいた

偽ロックマン「……」

ウォーロック「このっ……ウオオリヤヤヤヤヤ」

ウォーロックは腕に力をいれた

ググッ

ウォーロック「ウオオオオオオオオオ」

すると偽ロックマンが……

デユン

ウォーロック「！」

偽ロックマンのロックバスターがウォーロックに直撃した

ロックマン「ロック！」

ウォーロック「ぐはっ」

ドサッ

ウォーロックは倒れた

ライヤードール「もともと狙いはその電波体だし……これで依頼  
クリアだね……」

ロックマン「……ロック……」

第124話 ライヤードール（後書き）

次回の展開とは……？

第125話 ピンチからの逆転(前書き)

果たしてウォーロックの運命は・・・？

## 第125話 ピンチからの逆転

ロックマン「……ロックーーーーーっ！」

ドオオオオオオオオオオオ

ロックマン「!?」

ライヤードール「まさか……」

ロックマンは音のしたほうを見た

オックス・ファイア「まてえーっブロロ！」

偽オックス・ファイア「……」

ロックマン「オックス・ファイアが……2人!?」

オックス・ファイア「!、あれは……ロックマン！」

ライヤードール「オレ……運悪いな……まあいい早くこの電波体を……」

ドオオオン

ロックマン「今度はあっちから聞こえた……!」

そこには……

ハープ・ノート「もう意味わかんないよ!ショックノート！」

偽ハープ・ノート「……」

偽ハープ・ノートも同じ技を繰り返してきた

ドオオン

ライヤードール「……本当にオレ運悪いな今日……」

ロックマン「ロックバスター！」

デユン

ライヤードール「あっ、しまっ……」

ドオン

ライヤードール「たあーーーーーい」

ロックマンのロックバスターはライヤードールに直撃した

ロックマン「まだまだっ!バトルカード「マッドバルカン3」!

ガガガガガガガガガン!

ライヤードール「うぎやあああああああ」

すると偽ロックマンの様子がおかしくなっていた

偽ロックマン「……ジジ……」

ウォーロック「はあはあ……ぐっ……」

ロックマン「ロック！」

ウォーロック「俺の事は気にすんなそれより早くあいつを……」

ロックマン「ロック……わかった！」

ライヤードール「……依頼失敗か……」

ロックマン「……えっ？」

すると偽もの達が皆消えた

ロックマン「どうして……？」

ライヤードール「オレの負けは決まったも当然……」

ロックマン「……」

ライヤードール「わかるかったな……お詫びにこれを……」

ウォーロック「なんだ？この箱」

ライヤードール「せめてこれぐらいはさせてくれ……じゃあな……」

・

するとライヤードールはどこかえと行ってしまった

ロックマン「……ライヤードールって結構いい人だね」

ウォーロック「そうか？それよりこの箱をあけてみるぞ」

ロックマン「うん」

パカア

すると中から……

ビヨーン

ロックマン「うわあっ!？」

ウォーロック「なんだ？ビックリ箱か？……ん、なんか書いてあるぞ」

るぞ

するとウォーロックはよんでみた

「バカバカバカバカバカバカ」

ウォーロック「……ブチッ」

ロックマン「ロックなんて書いて……」  
ウォーロック「スバルウー……次こそ絶対に倒すぞおおお！」  
ロックマン「ええっ！？どうしたのそんなやる気になって!?!」  
その日ウォーロックは誓った……そうライヤードールを絶対に倒すことを……

第125話 ピンチからの逆転（後書き）

次回とうとうダイヤパールありがたが……



第126話 ダイヤパールのいる場所！（前書き）

ととうとう今回ダイヤパールの場所が・・・

## 第126話 ダイヤパールのいる場所！

ある所

ダイヤパール「……………」

???「あと少し……………あと少しで……………」

ダイヤパール「……………」

ダイヤパールはまたメールを書いていた……………

ダイヤパール「（あとは送って待つだけ……………」

ピッ

ダイヤパールはメールを送った

???「何しているの？博士？」

ダイヤパール「！」

???はハンターV Gを奪った

バア

???「ふん……………メールか、余計な真似を……………」

ダイヤパール「（私はどうなってもいい……………でもこの世界は……………」

……………」

そして……………

P i P i P i

スバル「あつ、メールだ……………！」

ウォーロック「どうしたスバル……………これは！」

ミソラ「どうしたの？」

ゴン太「なあ〜スバル、委員長とキザマロが見つからない」

スバル「……………そうか……………でもそのかわりダイヤパール博士の居

場所が分かった！」

ゴン太「本当か!？」

そのメールの内容は・・・

「私の居場所は・・・ホテルの地下よ・・・」

ミソラ「ホテル？・・・でもホテルならあそこにもあっちにも・・・

」

スバル「・・・探そうホテル全部！」

ゴン太「おう！」

ミソラ「うん！」

そしてスバル達は委員長とキザマロを探しながらホテルに向かった。  
・

スバル「いないなあ、委員長とキザマロ」

ミソラ「スバル君ホテルに着いたよ」

スバル「うん・・・デカツ！」

スバル達の目の前には約40階もあるホテルあった・・・

ウォーロック『世の中いるんなもんがあるな』

スバル「まずはこここの地下を探そう」

そして30分後・・・

スバル「ぜえぜえ」

ミソラ「はあはあ」

ゴン太「・・・」

ゴン太は倒れて横になっていた・・・

スバル「こ・・・このホテル、はあいなかった・・・ぜえぜえ」

ミソラ「このホテルの地下すごく深かったのであった・・・

ウォーロック『スバル、やすんでる暇なんてないぞ！』

スバル「・・・次行こう・・・」

第126話 ダイヤパールのいる場所！（後書き）

次回ホテルの地下を探しまわる！

第127話 怪しいホテル（前書き）

今回ダイヤパールが居るホテル見つかるか？

## 第127話 怪しいホテル

スバル達委員長とキザマ口を探しながらダイヤパールが捕まっているホテルも探していた・・・

スバル「次はここだ」

少しでかいホテルだった・・・

ゴン太「今回は結構簡単だな」

ミソラ「じゃ、行こっ！」

そしてスバル達はホテルの地下に入った・・・

そしてわずか2分・・・

スバル「・・・・・・・・・・」

ミソラ「・・・・・・・・」

ゴン太「地下なかつたな・・・」

スバル「まあ地下のあるホテルも無いホテルもあるって」

そして探してから2時間がたっていた・・・

ウォーロツク「スバル・・・」

スバル「何？」

ウォーロツク「あそこにあるボロいたてもんがあるが・・・」

スバル「ボロいホテルだ・・・！」

ミソラ「スバル君？」

スバル「皆、あそこのホテルに行こっ」

ゴン太「でもよおおそこにいんのか？」

スバル「探さないとわからない」

ミソラ「・・・私も行く！」

ゴン太「えっ！？・・・俺も行く・・・」

そしてボロいホテルに入っていた・・・

スバル「・・・人全然居ないね」

ミソラ「なんか怖い・・・」

ゴン太「あつ！あそこに地下の階段が！」

スバル「本当だ・・・いつてみよう」

ウォーロツク「・・・！！！」

スバル「よし、行こう」

ウォーロツク「待てっおりるな！」

しかし遅かった・・・スバル達は地下に行く・・・

バチィ　　バババババ！

キイイイイイイイーーーー

光がスバル達を包む

シュウウウウン

.....

スバル達はもうこのホテルから居なくなっていた・・・そつとに  
も・・・

第127話 怪しいホテル（後書き）

スバル達の姿が消えた!?

次回スバル達の行方は・・・



第128話 謎の星(前書き)

どうもレッドスターです・・・  
今回はあいつらが・・・？

## 第128話 謎の星

そのころ・・・

委員長「もう！ここどこなの！？」

キザマロ「どうやらこの部屋に閉じ込められてるみたいですね」

委員長「わかってるわよそんなこと！はあくロックマン様へ助けて  
」

そのころ肝心のスバルは・・・

スバル「うーん」

ウォーロック『スバル！起きろ！』

スバル「・・・ロック？」

ウォーロック『どうやら俺達へんな所に来てしまったそつだ・・・』

スバル「・・・ここは・・・！」

ミソラ「うーん・・・どうしたのスバル君」

ゴン太「グオ〜」

スバル「ここは・・・宇宙のどこかの星だ！」

ミソラ「・・・へ？」

ウォーロック『しかし息もできるあんなボロいホテルからどつやつ  
たらこんな宇宙に行ける？』

スバル「・・・確かに・・・夢だよね夢・・・」

ウォーロック『夢かどうかは確かめる方法ならあるぜ？』

スバル「え？」

ウォーロック『ほつぺたをつねる』

スバル「えっ！？」

ウォーロック『スバル・・・ほつぺをつねさせる・・・』

スバル「いやだよ！」

ミソラ「スバル君・・・ファイト！」

スバル「ええっ！？ミソラちゃんまで！？」

そして

ギユウ~~~~~

スバル「イタイイタイ!」

ウォーロック「……」

ミソラ「……夢じゃなさそうね」

スバル「ほくのぼつべが〜」 うまく喋れない

ゴン太「ぐう〜」

???「あいつら来たか……」

ウォーロック「スバル!」

ハープ「ミソラ!」

オックス「ゴン太!」

ゴン太「ぐう〜」

オックス「起きろおおー」

スバル「なんか来たの?」

ウォーロック「ああつ……それにこの感じ……前にもあった」

スバル「前にも?」

???「フラワーボム!」

スバル「(この攻撃は……)」

すると地面から花が咲きそして花から爆弾が落ちてきた

スバル「くつ……電波変換」

キイン

ミソラ「電波変換!」

キイン

ドオオオオオオン

爆弾が爆発した

ロックマン「よしっなんとか……」

???「ウエーブジェット!」

ドドドドドドド

ロックマン「!、うわあああ」

どおおおん

ハーブ・ノート「ロツクマン!？」

???「ヒヒヒマジックビーム！」

ビィーーーーーッ!

ハーブ・ノートにあたった

ドン!

ハーブ・ノート「キヤアアーーーーー」

ドサッ

ハーブ・ノート「体が動かない・・・」

???「よお久しぶりだな・・・ロツクマン」

ロツクマン「お前達は・・・僕が倒した・・・DM星人！」

ブルー・ジェット「クク・・・」

フラワー・ピンク「・・・」

グリーン・マジック「ヒヒヒ・・・」

第128話 謎の星（後書き）

なんとロックマンが倒したDM星人が！？

次回、ロックマン達はDM星人をもう一度倒すことができるのか！  
！！？

第129話 DM星

ゴン太「・・・あれ？俺なにしてんだ？」

ブルー・ジェット「ククク・・・今度こそ倒すぜ！」

ロックマン「来い！」

ゴン太「・・・どうなってるんだ？」

オックス「ゴン太！俺等もやるぞ！」

ゴン太「・・・お、おう・・・電波変換！」

キイイイン

オックス・ファイア「ブロロ、やるぞー！」

ロックマン「ロックバスター！」

デュン

しかしかわされた

ブルー・ジェット「ククク、こっちだロックマン！」

ロックマン「バトルカード「ソード」×2！」

ロックマンの両手がソードになった

ロックマン「うおーーー！」

ズババン！

ブルー・ジェット「ぐう・・・またまだあ！」

ハープ・ノート「ショックノート」

ギユイイン

フラワー・ピンク「利かないわ！フラワーボム！」

フラワー・ピンクはハープ・ノートの攻撃をフラワーボムだけで防いだ

ハープ・ノート「防がれた・・・でもまだよ！」

オックス・ファイア「ウオオオー！タツクル！」

グリーン・マジック「そんなの効きませんよマジックシールド！」

オックス・ファイアはそのシールドにおもいつきり突進したしかし・

ボヨォン

オックス・ファイア「ウガッ！」

ドサッ

グリーン・マジック「このシールドはどんな攻撃でも跳ね返す事が出来る・・・それが電波体だとしても！」

オックス・ファイア「・・・」

ロックマン「ブルー・ジェット！1つ聞きたい事がある！」

ブルー・ジェット「いいだろ・・・なんだ？」

ロックマン「ここはどこ？」

ブルー・ジェット「ここはわれらDM星人の星・・・DM星だ！」

ロックマン「ここがDM星・・・」

ブルー・ジェット「この星はあわれな姿になってしまった・・・そうそのウォーロックの中にいる「ライオーガ」とほかにいる「ドラグーン」のせいでこんなあわれな姿になったんだ！」

ウォーロック「・・・ッ」

ブルー・ジェット「そしてもうあんな過ちをおかさないように俺はウォーロックを排除しなければならぬ！」

ロックマン「だったら何でロックを作ったの!？」

ブルー・ジェット「・・・俺達に勝ったら教えてやるよ・・・来い

！」

ロックマン「やるしかないっ！ウェーブバトル ライド オン！」

第129話 DM星(後書き)

次回激しいバトルが続く!



第130話 ロックマンVSブルー・ジェット(前書き)

今回はロックマン対ブルー・ジェット!

## 第130話 ロックマンVSブルー・ジェット

ロックマン「バトルカード「マッドバルカン3」×2！」

ロックマンの両手がマッドバルカンになった

ロックマン「はあああああ」

ガガガガガガガガガガガ

ブルー・ジェット「うおっあぶねえな！」

ガガガガガガガガガガガ

ドンドンドン

ブルー・ジェット「ぐうう、3発あたっちまった・・・」

ロックマン「ブルー・ジェット・・・前よりスピードが上がってる」

ウォーロック「よっぽどあの時負けたのが悔しかったんだな」

ブルー・ジェット「行くぞ！ウェーブジェット！」

ドドドドド

ロックマン「スーパーバリア！」

ドオオン

ブルー・ジェットはロックマンに突っ込んだが防がれた

ブルー・ジェット「くそお！」

ロックマン「うおおおロックバスター」

ブルー・ジェット「！」

さっ！

デュン！

ブルー・ジェットは凄いスピードでロックバスターをよけた

ブルー・ジェット「俺はウォーロックを排除する！ウェーブジェッ

ト！」

ドドドドドド

ロックマン「まだバリアをはってるから無駄だよ！」

ブルー・ジェット「それはどうかな？」

するとロックマンに突っ込むと思ったたらブルー・ジェットの方がロ

ツクマンをよけた

ロックマン「えっ……」

ウォーロック『油断するな……』

ロックマン「うん……！、これは！」

するとロックマンの周りに水の円が出来ていた

ブルー・ジェット「ロックマン！おまえはこの円から逃げられない！そう防ぐことも！」

ロックマン「やってみないとわからない！ロックバスター！」

デュン

ポチャン！

ロックマン「！」

ブルー・ジェット「無駄無駄！」

ウォーロック『スバルあの円を飛び越えろ！』

ロックマン「うん！」

するとこの円の中から出ようとした

ブルー・ジェット「俺はこれを待っていた……くらえ！俺の最強の技を！」

ロックマン「あとちよっと！」

ブルー・ジェット「ウェーブサークル！」

すると円の形の水がどんどん大きくなってきた

ロックマン「水が増えた!？」

ブルー・ジェット「終わりだあ！」

すると円の水が波のように襲ってきた

ドパーーーーーン！

ロックマン「スーパーバリアでもこんなに……うわぁーーーーっ！」

ロックマンのスーパーバリアが破られた！

そしてロックマンは波に飲み込まれた……

第130話 ロックマンVSブルー・ジェット(後書き)

じかいロックマンは無事なのか・・・？

第131話 ロックマンVSブルー・ジェットその2(前書き)

ロックマン対ブルー・ジェットのバトルは続く・・・  
そしてロックマンは無事なのか・・・？

第131話 ロックマンVSブルー・ジェットその2

ザッパーン

水が散らばった・・・

ブルー・ジェット「ククク・・・ウアーハハハハハ！やったぞ、

ロックマンを倒したぜ！ハハハハ！」

ロックマン「ぐっ・・・」

ウォーロック「ス・・・スバル・・・大丈夫か？」

ロックマン「だ、大丈夫・・・ぐうあ・・・」

ブルー・ジェット「まだ意識があったのか・・・とどめを刺してやるよ・・・」

ロックマン「！」

ブルー・ジェット「ウェーブジェット！」

ドドドドドドドド

ロックマン「くっ・・・うおおおおおおお」

キイイイイ

ロックマンは黄金の光を放った

ブルー・ジェット「な、何だ？」

ロックマン「うおおおおおおお」

キイイイイイイ

ブルー・ジェット「うわあ」

黄金の光がブルー・ジェットを包んだ

ブルー・ジェット「・・・？、これは・・・まさか・・・」

ロックマン・R「ライオガロックマン・R！」

ブルー・ジェット「ラ・・・ライオガ・・・お前、使いこなせる

ようになつたのか・・・」

ライオガ「スバルさつさとやるぞ！」

ロックマン・R「うん・・・すぐに終わらせる！」

ブルー・ジェット「ふんっ！ビビらねーぞ！くらえウェーブジェッ

トー！」

トトトトトトトトトトト

ロックマン・R「！」

ドオオオオオン

ブルー・ジェット「へっ、まともにあててやっ……たぜ……何っ!?」

ロックマン・Rは傷<sup>ライオীগ</sup>1つもついていなかった

ブルー・ジェット「うそだろ……俺の攻撃が……効いていないだと!?」

ロックマン・R「終わりだ！」

ブルー・ジェット「くっ……」

シユウ

ブルー・ジェット「（ここは逃げるしか……）」

ババババ

ロックマン・Rの手から電気<sup>ライオীগ</sup>の玉が出来た

ブルー・ジェット「へっ、そんな玉俺のスピードにはかなわないぜ！」

ロックマン・R「うおおおおお」

すると電気の球を地面に落とした

ブルー・ジェット「ハッロックマンの奴頭イカレてんのか？」

バチイイイイイ

バババババ

ブルー・ジェット「!、ぐあああしびれる……なんでだあああああ」

ロックマン・R「水だよ」

ブルー・ジェット「水……だと……」

バチイン

ドサッ

ブルー・ジェットは倒れた

するとブルー・ジェットは気づいた

ブルー・ジェット「！、そうか・・・水で電気が渡り俺の足の下の水まで渡ったのか・・・」

キィイイン

ロックマン・Rは元の姿に戻った

ロックマン「ぐっ・・・僕も倒れそう・・・」

ブルー・ジェット「・・・俺の負けだ・・・ロックマンもう俺は動けねえ・・・」

ロックマン「ブルー・ジェット・・・」

するとロックマンはフラフラになりながらもブルー・ジェットの所に来た・・・

ロックマン「はあはあ・・・おしえてくれるよね？」

ブルー・ジェット「・・・ああっ」

そしてハープ・ノートは・・・

ハープ・ノート「あの時の仮が返す時が来た見たいね・・・」

フラワー・ピンク「・・・」



第131話 ロックマンVSブルー・ジェットその2(後書き)

次回はハーブ・ノートの戦い!

第132話 ハープ・ノートvsフラワー・ピンク(前書き)

今回はハープ・ノート対フラワー・ピンクの闘い!

## 第132話 ハープ・ノートVSフラワー・ピンク

ハープ・ノート「あの時の仮が返す時が来た見たいね・・・」

フラワー・ピンク「・・・」

ハープ・ノート「行くよ！シヨックノート！」

ギュイイイン

フラワー・ピンク「フラワーボム！」

ポオオン

ハープ・ノートの攻撃は防がれた

ハープ・ノート「まだまだ！マシガンストリング！」

フラワー・ピンク「効かないわよそんな攻撃・・・」

するとフラワー・ピンクの下から木が出てきたそしてフラワー・ピンクはその木に乗った

ハープ・ノートの攻撃はまた外れた

ハープ・ノート「当たらない・・・」

ハープ「あきらめないで！絶対に相手にはすきがあるはずよ！」

ハープ・ノート「そうよね・・・そのすきを見つける！」

フラワー・ピンク「くらいなさい！フラワーボム！」

ハープ・ノート「キャア」

ポオオン

ハープ「ミソラ！」

ハープ・ノート「はあはあ・・・まだ諦めない！シヨックノート！」

ギュイイイン

フラワー・ピンク「！」

ドオン

ハープ・ノート「えっ・・・当たった・・・」

するとフラワー・ピンクが出した木が消えそして木から落ちた・・・  
ドサッ

フラワー・ピンク「ぐっ・・・」

ハープ・ノート「もう一度ショックノート！」  
ギューイイイン

フラワー・ピンク「……フラワーボム！」  
ポオン

フラワー・ピンクは防いだ  
ハープ・ノート「防がれた……でもどうしてさっき私の攻撃が当たったんだろ……？」

ハープ「……」

ハープ・ノート「でも考えてる暇はないわね……」  
フラワー・ピンク「あなた……弱いわね……」

ハープ・ノート「！」

フラワー・ピンク「フフあなたすきだらけなのよ……」  
ハープ・ノート「弱い……」

フラワー・ピンク「くらいなさいフラワーボム！」

ボムがハープ・ノートに向かって落ちてきた

ハープ「ミソラ！」

ハープ・ノート「！」

ポオオオオオン

ハープ・ノート「キヤアアアアア」

ハープ・ノートはまともに攻撃に当たってしまった  
ドサツ

フラワー・ピンク「あの時と同じようにしてあげるわ……ツリー  
スパア！」

ハープ・ノート「（私だって……）私だって……負けない！シ  
ョックノート（連続）！」

ギューギューイイイイイン

フラワー・ピンク「しまっ……」  
ドオオオン

ハープ「！」

ハープ・ノート「はあはあ……」

ハーブ『わかったわ・・・あいつの倒す方法が！』  
ハーブ・ノート「ハーブ？」

第132話 ハープ・ノートvsフラワー・ピンク(後書き)

次回・・・ハープのつけたフラワー・ピンクの倒す方法とは・・・  
?

### 第133話 ハープ・ノートVSフラワー・ピンクその2

ハープ・ノート「倒す方法？」

ハープ『そう・・・ずっとあいつを見てたらある事に気づいたの』

ハープ・ノート「それって？」

ハープ『あいつはその場所からあんまり動いてないの』

ハープ・ノート「！、確かに！」

ハープ『そして私は思うの技は何個でも出せるけど技を出してる時はその場所から動けないかもしれないわ』

ハープ・ノート「それじゃーそれを確かめてみるわ！」

フラワー・ピンク「はあはあ・・・やるじゃない・・・」

ハープ・ノート「シヨックノート」

ギューイイイン

フラワー・ピンク「フラワーボム！」

ハープ・ノート「！」

ハープ・ノートの攻撃は防がれた

フラワー・ピンク「フッフそんな攻撃か・・・あれ？あいつは・・・」

ハープ・ノート「こつちよ！」

フラワー・ピンクの後ろから声がした

フラワー・ピンク「！」

ハープ・ノート「シヨックノート！」

ギューイイイン

フラワー・ピンク「くっ・・・」

するとまたフラワー・ピンクの下から木が現れその木に乗った

ハープ・ノート「シヨックノート（連続）！」

ギューギューギューギューイイイイイイイイイイイ

フラワー・ピンク「フラワーボム！」

ボオオオオオオン

その攻撃も防がれた・・・

フラワー・ピンク「そんな攻撃なんて効かない・・・」

そこにはハープ・ノートの姿がなかった・・・

フラワー・ピンク「どこ!?」

ハープ・ノート「ここよ」

フラワー・ピンク「!」

ハープ・ノートはフラワー・ピンクの後ろに居た

ハープ・ノート「この攻撃で終わらすよ!フルパワーショックノ  
ト!」

ギユユイイイイイイイイン!

ドオオオオン

フラワー・ピンク「キヤアアアアアア!」

ドサッ

フラワー・ピンクは倒れた

ハープ・ノート「はあはあはあ・・・勝った・・・」

ハープ「大丈夫?ミソラ?」

ハープ・ノート「大丈夫・・・」

フラワー・ピンク「どうやら・・・私の方が・・・弱かったみたい  
ね・・・」

ハープ・ノート「・・・いいえ、あなたも強かったわ」

フラワー・ピンク「・・・」

そしてオックス・ファイアは・・・

オックス・ファイア「ブロロロ負けないぞー!」

グリーン・マジック「ヒヒヒ・・・」



第133話 ハープ・ノートVSフラー・ピンクその2(後書き)

次回はオックス・ファイアの戦い!

第134話 オックス・ファイアVSグリーン・マジック(前書き)

とつとつオックス・ファイア対グリーン・マジックのバトル!

## 第134話 オックス・ファイアVSグリーン・マジック

グリーン・マジック「ヒヒヒそれじゃー始めましょうか・・・」

オックス・ファイア「ウォーオックスタツクル！」

オックス・ファイアは一直線にグリーン・マジックの方に向かった  
ダダダダダダ

グリーン・マジック「ヒヒヒならばマジックシールド！」

オックス・ファイア「そんなシールド俺が破って・・・」

そしてオックス・ファイアはシールドにタツクルした

ドン！

オックス・ファイア「ウォooooooooooooッ！」

グリーン・マジック「すきだらけですよ・・・マジックビーム！」

マジックシールドを破りながらオックス・ファイアにマジックビ  
ムを当てた

oooooooooooo

オックス・ファイア「ぐおおおお」

ドサツ

オックス・ファイア「ウォー体が動かねえーッ！」

グリーン・マジック「ヒヒヒそれでは・・・マジックソード！」

ズバア

オックス・ファイア「ooooooooooooッ」

ズバアズバア

オックス・ファイア「ooooooooooooッ」

グリーン・マジック「早いですが・・・とどめをさしますかね・・・

ッ

オックス「おいゴン太負けちまうぞ！」

オックス・ファイア「まだまだあーooooooooooooッ」

グリーン・マジック「？」

オックス・ファイア「(よしっしびねがひいてきた)ファイアブレ

ス！」

ポオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ

グリーン・マジック「なあ……うわぁーーーーー」

ドオオン

オックス・ファイアは立ち上がった

グリーン・マジックはオックス・ファイアの攻撃をうけてしまった・

・

グリーン・マジック「ヒヒヒ……やりますね……少しなめていましたよ……」

オックス・ファイア「ウオーーーーーアンガーパンチ！」

グリーン・マジック「！」

オックス・ファイアはグリーン・マジックに右腕を振り下ろした！

グリーン・マジック「マジックシールド！」

ドオオオオン

グリーン・マジック「なっ……なんという力……」

オックス・ファイア「まだまだーーーーブロロロロ！」

ピシッ

グリーン・マジック「!？」

マジックシールドにヒビがはいつた

オックス「ゴン太そのまま押しつぶせ！」

オックス・ファイア「ウオーーーーーッ！」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

第134話 オックス・ファイアVSグリーン・マジック(後書き)

次回オックス・ファイアはグリーン・マジックを倒す事が出来るのか！？

第135話 オックス・ファイアVSグリーン・マジックその2(前書き)

昨日書けませんでした・・・

理由は凄く疲れていまして書くことと思ってもなんか眠くなって寝て

しまいました(笑)

さて、今回の話は果たしてオックス・ファイアが勝つのか？

それともグリーン・マジックが勝つのか!？

第135話 オックス・ファイアVSグリーン・マジックその2

グリーン・マジック「ぐぐっ……」

オックス・ファイア「ウオー……」

グリーン・マジック「（こいつ……少しずつ力が強くなってますね……）」

オックス・ファイア「負けるか……っ！」

ズドン！

オックス・ファイアの力がまた上がった

ビシッ

少しずつマジックシールドにヒビが広がっていく

グリーン・マジック「ぐおおお（マジックシールドが……）」

オックス・ファイア「（ヒビが大きくなった！）ウオー……っ！もう一発アンガーパンチ！」

グリーン・マジック「やめろ……っ！」

ズドオオオオオオオオオオ！

パライイイイイイン

グリーン・マジック「うぎやあああああああ」

オックス・ファイアの攻撃はマジックシールドを破りそのままグリーン・マジックに攻撃した

ドサッ

オックス・ファイア「勝った……勝ったぞ……ウオー……っ！」

グリーン・マジック「ヒヒヒ……まさかこの私がロックマン以外にやられるとは……」

オックス・ファイア「グリーン・マジック……」

そしてそのころ・・・  
ウォーロック「まさか俺が・・・」  
ロックマン「そのためにロックを狙ってたのか・・・」  
ブルー・ジェット「われらDM星人にとって「ライオーガ」と「ドラグーン」は・・・失敗作なんだ」  
ロックマン「・・・」

しかしある所では・・・

???「あと20時間後に世界は私のものに・・・」

ソウル「ボス・・・あの3人がやられました・・・」

???「そんなのいいわ・・・」

ソウル「えっ・・・」

???「だって・・・もうあいつら要らないし」

ソウル「そうですか・・・」

???「それで・・・あの女はどう?」

ソウル「寝ています」

???「そう・・・ではそろそろ私も動くところかしら?」

ソウル「いいえ次は・・・俺が・・・」

???「そう・・・たのんだわよソウル・・・」

ソウル「はい・・・」

(久しぶりの)おまけ

スバル「・・・おまけやるのって久しぶりだねロック」



ウォーロツク『そうだな・・・もう5・60話やってねえもんな』  
スバル『でも・・・ネタとか思いつかなかつたり書けなかつたりし  
てるもんね・・・最近』

ウォーロツク『でもよ5・60話もおまけやれなかつたんだぜ？』  
スバル『しょうがないよ・・・作者も最近忙しいし・・・』

ウォーロツク『そうか・・・』

スバル『にしても5・60話かあ・・・長いね・・・』

ウォーロツク『そうだな・・・にしても作者は今回出ないのか？』

スバル『さあ？おまけを考えて忙しいんじゃない？』

ウォーロツク『ならいいけど・・・』

第135話 オックス・ファイアVSグリーン・マジックその2(後書き)

久しぶりに書いて見ました・・・次はいつ「おまけ」出来るか分かりません・・・

あと次回はDM星の悲しき過去の話・・・そうDM星のすべてが明らかされる！

第136話 DM星の過去・・・(前書き)

今回はほぼDM星の過去の話です・・・

## 第136話 DM星の過去・・・

ほんの少し時間をさかのぼりロックマンがブルー・ジェットに勝ったあと・・・

ロックマン「はあはあ・・・おしえてくれるよね？」

ブルー・ジェット「・・・ああっ」

そしてDM星の過去の話が始まった・・・

ブルー・ジェット「それは・・・約6年前の話だ・・・」

### 6年前

そのころのDM星はとても平和でした・・・

しかし平和は突然終わりをつけた・・・

DM星人「大変だーっ、FM星人が攻めてきたぞーっ！」

そう・・・突然FM星人が襲ってきたのです

FM星人「クククここにあるのか・・・最強の兵器が・・・」

DM星人「なにしに来た！」

FM星人「何って・・・戦争だよ・・・」

DM星人「何・・・」

そうそのころから始まった・・・電波戦争が・・・

そしてDM星の王「ホウリー」は宣言した・・・

ホウリー「この星は我らDM星人の宝である！そして絶対にあの「鍵」を渡してはならぬ！だから我らはその戦争を終わらす新たな「兵器」を作る！そしてその兵器の名は・・・「ライオーガ」「ドラグーン」だ！」

オオオオオオオオオオオオオオ

DM星人の皆は大きな声で叫んだのであった・・・

そして始まった

電波戦争が・・・

そしてそこにはA M星人の姿もあつた・・・

??? 『この戦争は終わらす・・・』

??? 『ふんっ燃えてきた・・・』

??? 『燃えてる暇などない・・・』

そうその3体は・・・A M星の三体・・・「ペガサス」「レオ」「ドラゴン」である・・・

ホウリー 『まさかあの三体が来るとは・・・』

D M星人 『FM王！FM星の奴らも来ました！』

ホウリー 『そうか・・・やはり「鍵」狙いか・・・皆につげ・・・戦争開始だあ！』

D M星人 『はい！』

F M星人 『あの「鍵」さえあれば・・・我らF M星は・・・』  
そのとき

ドオオン

F M星人 『な、何だ！？』

D M星人 『絶対に「鍵」は渡さない！』

F M星人 『だつたら来いよ・・・』

D M星人 『いいや俺じゃない・・・やるのは・・・』

??? 『グウアアアアアアアアアアアアウ』

??? 『キシヤアアアアアアアアアアアアアア』

F M星人 『なんだこいつは・・・』

D M星人 『こいつらは「ライオーガ」と「ドラグーン」我らD M星の・・・秘密兵器だ！』

F M 星人「なんだって・・・!？」

第136話 DM星の過去・・・（後書き）

次回「DM星」対「FM星」対「AM星」の電波戦争！

## 第137話 電波戦争

ライオーガ「グウオオオオオオオオオオオオツ！」

ドラグーン「キシヤアアアアアアアアアツ！」

FM星人「なんて力だ・・・」

DM星人「ハハハハやれえ」「ライオーガ」「ドラグーン！」

ライオーガ「グウオオオオオオオオツ！」

ライオーガはFM星人に突進した

FM星人「やめろおおお」

ズドオオオオン

FM星人は遠くに飛ばされてしまった

そしてそれを見ていたAM星人・・・

ペガサス「あれは大変な物を作ってしまったな・・・DM星人は・・・」

レオ「そうだな・・・」

ドラゴン「何も起こらなければいいがな」

ライオーガ「グオオオオオオオオオオ」

ドラグーン「キシヤアアアアアアアア」

しかし・・・

FM星人「あんな恐ろしい物を作られてはDM星には近づけられない」

FM星人2「だったら先にAM星を狙えばいい・・・」

FM星人「そうだな・・・」

そしてFM星人はAM星を襲撃した！

AM星人「大変だあーFM星の奴らが襲ってくるぞー！」

ペガサス「くっ・・・とうとう狙ってきたか・・・」

ドラゴン「やるしかなさそうだな」

レオ「絶対にこの星は守る！」

そしてとうとうFM星人は襲って来たのです



F M星人「いけえーウイルスどもー」

F M星人はウイルスをばら撒いた

A M星人「くそっなんてウイルスの数だ！」

F M星人「さあ終われA M星人よ！」

ペガサス「終わるのはそっちだ！」

F M星人「！」

すると氷の粒が上から降ってきた

F M星人「うわぁー！ー」

ドオン

ペガサス「やはりF M星の奴らも力をつけてきたな．．．」

そしてD M星は．．．

ホウリー「やはり．．．」「ライオーガ」「ドラグーン」だけでは

戦争は終わらないか．．．」

D M星人「やはり「切り札」をだしたほうが．．．」

ホウリー「．．．しかたがない．．．」「切り札」の準備を！」

D M星人「はい！」

D M星の切り札．．．それは．．．

アンドロメダ．．．

第137話 電波戦争（後書き）

なぜDM星人がアンドロメダを！？  
その事実が次回！

## 第138話 アンドロメダ（前書き）

どうも！レッドスターです！

今回はなんとアンドロメダが出てくるんですよ……

そして何故DM星人がもっているのかも謎……

そしてその謎が今回判明するのだぁぁーっ！

（今回作者はテンションめっちゃ高いです）

## 第138話 アンドロメダ

ドラゴン『!?!』

レオ『どうしたドラゴン?!』

ドラゴン『この感じ・・・まさか・・・』

レオ『?!』

そのころDM星では・・・

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ホウリー『めざめよアンドロメダ!』

キイイイイイイイイイ

アンドロメダ『ウオオオオオオオオ・・・』

ホウリー『やはり凄いな・・・われらDM星人が作った切り札・・・』

アンドロメダ!!』

ペガサス『!(なんだ・・・この感じは・・・まさかDM星人の奴・・・)』

・・・)』

FM星人『あれは・・・アンドロメダだ!』

アンドロメダ『ウオオオオオオオオオオ』

ホウリー『さあやれえアンドロメダ!この戦争を終わらせるのだあ

ー』

アンドロメダ『ウオオオオオオオオ』

するとアンドロメダの形が変化した

キイイイイイイ

アンドロメダ『グオオオオオオオオ』

ドラゴン『くつ・・・DM星人め・・・』

ホウリー『やれえーアンドロメダ!ネビュラブレイカーだ!』

アンドロメダ『グオオオオオ』

キイイイイイン

アンドロメダは力をチャージした．．．  
そして

ホウリー『発射だ！』

アンドロメダ『グオオオオオ』

ドギユウウー—————

アンドロメダは緑色のビームを発射した

ペガサス『くつ．．．非難するぞ』

F M星人『ぎやあ—————』

ホウリー『これで戦争を．．．ん？』

なんとビームの先にライオーガとドラグリーンがいた

ホウリー『どくんじゃー！ライオーガ！ドラグリーン！』

しかしまにあわなかった．．．

ドオオオオオオオオオ

ビームはライオーガとドラグリーンに当たってしまったのだた．．．

ペガサス『．．．．．』

F M星人『やったあーあの2体がいなく．．．なっ．．．て．．．  
ないだど—————』

ライオーガ『．．．．．』

ドラグリーン『．．．．．』

ホウリー『よかった．．．さあライオーガ、ドラグリーン戻ってくる  
のだ．．．．．えっ？』

ドオン ドオン

なんとライオーガとドラグリーンは暴走しライオーガとドラグリーンが  
闘っていた

ホウリー『やめるのだ！仲間同士で荒そうな！』

ライオーガ『グウオオオオオオオオオオオオウツ！』

雷をドラグーンに落とした

ドオオオン

ドラグーン『ピシャアアア』

ドラゴン『これは面倒な事になったな・・・』

ペガサス『DM星人の奴はとんでもない「怪物」を作ってしまったな・・・』

レオ『どうする？あの2体をほつとくとわれらの星まで破壊されてしまう』

ドラゴン『・・・これじゃー戦争は出来ない・・・今は自分達の星だけを守る事にしよう！』

FM星人『・・・（今がチャンスか・・・）』

第138話 アンドロメダ(後書き)

次回ライオーガVSドラグーン!次回・・・どうなるのか!?

第139話 ライオーガVSドラゲーン(前書き)

今回はなんとライオーガ対ドラゲーンの戦い!



## 第139話 ライオーガVSドラグーン

ライオーガ『グウオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ  
バチバチイ

ライオーガの体から電気が流れている

ドラグーン『ピシャアアアアアアアアアアアアアアアア  
ポオウポオウ

ドラグーンの体から炎の渦が出来ていた

FM星人『今のうちにあれを……』

そしてFM星人の1体はどこかに行ってしまった

そしてライオーガとドラグーンは激しくぶつかり合っていた  
ドオオオン

ライオーガ『グウウウウアアアアアアアアアアアア』

ライオーガはまたドラグーンに雷を落とそうとした

しかし今度はドラグーンは炎の渦で雷を吹き飛ばした  
ビュウウオオオオオオオ

ドラグーン『ピシャアアアアアアアアアアアアアアアア』

そのころDM星では……

ホウリー『……私のせいだ……私があんな恐ろしい物を作り出  
した……』

DM星人『ホウリー様！自分を責めないでください！』

ホウリー『……こうなったら私がああの2体を止める……』

DM星人『ホウリー様！危険ですよ！』

ホウリー『とめるなこれは私が生み出してしまった事なのだ……  
それにあの2体を止めなかつたらいずれこの星……いやこの銀河  
のすべてが破壊するかもしれん』

DM星人「で……でも……」

ホウリー「行かせてくれ……」

DM星人「……ホウリー様……どうか無事で……」  
ホウリー「……ありがとう」

そしてそれを聞いていたFM星人……

FM星人「(グットタイミング!)」

そしてホウリーは外に出ていった

ライオーガ「グウオオオオオオオオオオオオ」

ドラグーン「ピシヤアアアアアアア」

ドオオオオン

2体は激しくぶつかり合っていた

ホウリー「ぐううう……なんて力だ……」

すると……

DM星人「大変です!ホウリー様!」

ホウリー「何しているここは危ないぞ……」

DM星人「聞いてください……アンドロメダの鍵が……盗まれました!」

ホウリー「何つ……」

FM星人「やった……とうとう「鍵」を手に入れたぞー」

そしてそのFM星人は自分の星に帰ろうとしたついでに……

FM星人「ついでにこの星を……」

そしてFM星人は……

FM星人「アンドロメダよこの星を滅ぼせーっ!」

アンドロメダ「ウオオオオオオオオ」

しかしアンドロメダは動かなかった……

FM星人「なんで動かないんだ……」

すると外から大きな音がした

ドオオオオオウウウウウウウウン

そして外では・・・

ホウリー『うおおおおおおおお』

ホウリーから凄い光が解き放っていた・・・そしてその光はライオ  
ーガとドラグーンを包んでいた

ライオーガ『グオオオ・・・』

ドラグーン『ピイイ・・・』

ホウリー『うあああ（くそっ・・・あの2体の力を抑えるには力が  
たりん・・・だったら・・・DM星にある力を使うしかない・・・）

』

そしてホウリーはDM星の力を使った

それと同時にDM星の力は減っていき少しずつ減びていった・・・

DM星人『なんだどんどんDM星が減びている！』

ホウリー『（すまない・・・DM星の皆・・・私は・・・ダメな王  
だ・・・皆・・・許しておくれ・・・）私はすべての力を使いあ  
の2体の力を封じ込める！うおおおおおおおお』

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ライオーガ『ウウ・・・』

ドラグーン『イイ・・・』

そしてライオーガとドラグーンは少しずつ姿を変え・・・そして小  
さくなりどこかに行ってしまった・・・

ホウリー『はあはあ・・・力を使い切ってしまった・・・』

ペガサス『おのDM王・・・あの2体を封じ込めたな・・・』

レオ『しかしあいつも・・・』

ドラゴン『そうだな・・・』

DM星人『ホウリー様！』

ホウリー『・・・私はもうだめだ・・・』

DM星人『なに言っているんですか！』

ホウリー「頼む．．．DM星をまた．．．つくりなおしてくれ．．．」  
そう言つて目を閉じた

DM星人「ホウリー様！ホウリー様！目を開けてください！ホウリー様！」

そしてホウリーは少しずつ消えていった．．．

DM星人「．．．俺は．．．俺は．．．ライオーガとドラグーンを消す！」

そしてそのあとは．．．AM星とFM星の戦いがあった．．．AM星にはライオーガの力をもつた電波体が居た．．．しかしそのあとライオーガの力をもつた電波体はFM星に居ると言われた．．．

そしてブルー・ジェットの話が終わった．．．

ウォーロック「まさか俺が．．．」

ロックマン「そのためにロックを狙つてたのか．．．」

ブルー・ジェット「われらDM星人にとって「ライオーガ」と「ドラグーン」は．．．失敗作なんだ」

ロックマン「．．．」

ウォーロック「．．．すまなかつた．．．」

ロックマン「ロック．．．」

ブルー・ジェット「しかし今なら平気かもしれない」

ロックマン「えっ？」

ブルー・ジェット「ウォーロックはもうライオーガの力を使いこなせる．．．」

ウォーロック「おまえ．．．」

ブルー・ジェット「それと教えようお前達が探している奴の場所を．．．」

ロックマン「それは．．．」

ブルー・ジェット「この星の中にワープゾーンがあるそしてお前達

がいたホテルに戻るそしてまたホテルの地下に行くが・・・きつと俺達の仲間がお前達を狙う・・・しかしそれを抜ければお前達の探し物があるはずさ・・・」

ロックマン「ありがとう!」

ウォーロック「行くぞスバル!」

ロックマン「うん!」

すると・・・

ハープ・ノート「はあはあ・・・終わったよ」

オックス・ファイア「こつちも倒したぜ!」

ロックマン「じゃー行こう!」

ハープ・ノート「うん!」

オックス・ファイア「おう!」

そしてロックマン達は向かった・・・ダイヤパールのいる所を目指して・・・

第139話 ライオーガVSドラゲーン(後書き)

今回長いな・・・そしてDM星の過去もわかり・・・  
そして次回ロックマンはダイヤパールのもとにいけるのか!?

## 第140話 ワープゾーン

ロックマン達はDM星の中に入って行った・・・

ロックマン「暗い・・・」

ハープ・ノート「明かりとか電気ないの？」

オックス・ファイア「あるぜ！」

オックス・ファイアは近くにあった木の棒に火をつけた  
すると周りが少し明るくなった

ロックマン「ありがとうオックス・ファイア！」

オックス・ファイア「なんのなんのこんな簡単だぜ！」

ハープ・ノート「あ！ロックマンあれ！」

ロックマン「んっ・・・あっ！あれだブルー・ジェットが言っていたワープゾーン！」

ウォーロック「よし、さっさと元の場所に戻るか！」

ロックマン「うん」

そしてロックマン達はワープゾーンの上に立った

すると・・・

「ワープシマス、ワープシマス」

ロックマン「よし・・・これで・・・ん？」

「ワープスルマデ、10ビヨウマエ・・・」

そのときロックマン達が少しずつ浮いていた  
フワフワ

ロックマン「うわあ浮いてる！」

「5」 「4」

ハープ・ノート「無重力ね・・・」

「3」 「2」

オックス・ファイア「ウォー！無重力初めてだぜえー」

「1」 「・・・」 「0」

「ソレデハワープシマス」

ロツクマン「うわぁー！ー」

ハープ・ノート「きゃー！ー！ー」

オックス・ファイア「ブ□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□  
シューン

ロツクマン達は消えた……

そして地上にある元ロツクマン達が居たボロホテルでは……  
ドサァー！

ロツクマン「イテテ……あれ？戻って来た……」

ウォーロツク「どうやらそのようだな……」

ロツクマン「ハープ・ノートとオックス・ファイアは！？」

ハープ・ノート「私はここよ」

ロツクマン「よかった……あとオックス・ファイアは……  
すると上から声がした

オックス・ファイア「おーいロツクマン！」

ロツクマン「……オックス・ファイア……なんで屋上に……  
？」

そしてしばらくして……

オックス・ファイアは屋上から降りてきた……

オックス・ファイア「いやいやびっくりした」

ロツクマン「でもなんで屋上に？」

オックス・ファイア「目が覚めたら屋上に居た」

ロツクマン「そうなんだ……」

ハープ・ノート「ねえ早く助けに行きましょう！」

ロツクマン「うん！」

オックス・ファイア「おう！」

そしてロツクマンはボロイホテルの中に入って行った……



第141話 地下（前書き）

どうもレッドスターです。

今回も頑張って書きたいと思います

## 第141話 地下

ロツクマン達は地下に行く階段を見つけた

ハープ・ノート「確かさつきこの階段を下りようとしたときにワープしちゃったんだよね……」

ロツクマン「平気だよ……たぶん」

オックス・ファイア「よっしゃー行こうぜ！」

ロツクマン「うん！」

そしてロツクマン達は地下に行つた……

ロツクマン「……平気みたいだ……」

ハープ・ノート「そうだね」

オックス・ファイア「なんだこれえー」

ロツクマン「どうしたのオックス・ファイア！」

するとロツクマンは後ろを見るとそこには……

ロツクマン「長い……一本道だ……」

ウォーロツク「おいおい……奥がみえねえぞ」

ロツクマン「どうやらこの道を行かないといけないらしいね」

オックス・ファイア「はあ……なんかなあ……」

ハープ・ノート「行こう！もしかしたらルナちゃんとキザマロ君もいるかも！」

ロツクマン「うん、じゃあ行こう！」

オックス・ファイア「あつ、待つてよ！」

そしてロツクマン達はこの道をひたすら歩いた……

ロツクマン「まだ奥が見えない……」

ハープ『にしても今の状態で敵が現れたらちよつとやばくない？』

ハープ・ノート「たしかに……私さつきのバトルで力ほとんど使い切っちゃった」

オックス・ファイア「俺も」

ロツクマン「僕ももう少ししか力が……だからこのまま敵が現れ

ないでそして残ってる力で博士を助けるんだ……」

ウォーロック『しかしあのブルー・ジェット言ってたぜ……敵が俺らを狙いに来るって』

ロックマン「だからその前に博士を助ければいんだけど……」

????「クク……来たか……」

ウォーロック『!』

ロックマン「どうしたのロック?」

ウォーロック『やはりそううまくいくもんじゃないな……』

ロックマン「えっ……?」

????「ゴーストアイ!」

カチン

ロックマン「ぐう……体が……固まって……動けない……」

ハーブ・ノート「なに……これ?」

オックス・ファイア「ブロロ……」

ロックマン「誰だ……ぐう」

ホワイト・ソウル「俺は……ホワイト・ソウルさ!」

ロックマン「ホワイト……ソウル……」

オックス・ファイア「あーっ……あいつダーク・ナイトと戦って

たやつ……」

ハーブ・ノート「やばい……」

ホワイト・ソウル「ククク……」

第141話 地下（後書き）

いきなりの登場ホワイト・ソウル！  
早速ピンチになったロックマン達次回どうなる！？

第142話 大ピンチ！？（前書き）

今回は・・・まさかのホワイト・ソウル登場！

そしてロックマン達の体力はもう少ない・・・このピンチをどうのりこえるのか？

第142話 大ピンチ!?

ホワイト・ソウル「クク……この先は行かせないぜ」

ロックマン「ぐうう……」

ウォーロック「こいつ……やべえ……」

ハーブ「(このままじゃミソラ達がやられちゃう……)」

オックス「俺は……なんもできねえのか……ブロロ……」

ホワイト・ソウル「そいえば……あの青いのが……ライオーガか……」

ロックマン「ぐっ……」

ホワイト・ソウル「まずは……ライオーガからやるか……」

そしてホワイト・ソウルは、少しずつロックマンの所に近づいた

コト コト コト

ウォーロック「(やはり俺が外に出てないとかしないとな……)」

そしてウォーロックは、外に出ようとしたその時

バチィ

ウォーロック「ぐあっ……なんだ?外に出れない……」

ホワイト・ソウル「無駄だよ俺の技「ゴーストアイ」は相手の動きを止めるだけでは無く……相手のハンターV.Gの中にいるウィザードはそこから出れなくなる技だ……」

ウォーロック「ぐっ……おまえは一体何なんだ!」

ホワイト・ソウル「……悪魔さ……」

ウォーロック「悪魔……?」

ロックマン「ぐうあ……(動けええ……)」

ホワイト・ソウル「動かなくていいよ……」

ロックマン「(?)」

ホワイト・ソウル「だって……ここで終わるのだから  
ロックマン「!?」

ホワイト・ソウル「くらえ……ソウルバスター!」

ドギユウウン

ロックマン「……………」

ハープ・ノート「ぐうああ……………」

オックス・ファイア「ブロー————」

ドギユウ—————ン

ホワイト・ソウル「終わったか……………」

???「久しぶりだね……ホワイト・ソウル」

???「大丈夫か?ロックマン!」

ホワイト・ソウル「!……まさか」

ロックマン「フェニックス!アーチェリー・R!リミット」

フェニックス「へへん!」

アーチェリー・R「まさかこんな事になってるなんてな……………」

ホワイト・ソウル「チツ……………」

フェニックス「……ロックマン先に行って!ホワイト・ソウルは

僕が倒す!」

ロックマン「フェニックス……分かった!皆行こう!」

ハープ・ノート「うん!」

オックス・ファイア「おう!」

アーチェリー・R「おうよ!」

そして皆は先に行った

第142話 大ピンチ！？（後書き）

次回フェニックス対ホワイト・ソウルの対決！  
果たしてどうなる？



第143話 フェニックスVSホワイト・ソウル！（前書き）

今日・・・早起しました・・・しかし眠い・・・です。

### 第143話 フェニックスVSホワイト・ソウル!

ホワイト・ソウル「ククク・・・あの時の恨み・・・はらす!」

フェニックス「今度こそ倒す!」

バード「待つてくれドラグ!」

フェニックス「何?バード・・・」

バード「おかしい・・・電波変換している人間は違うのに何故前と同じ姿をしているんだ?」

フェニックス「えっ・・・同じ人じゃないの?」

バード「お前・・・忘れたのか?前の奴は今病院で入院してるんだ!」

フェニックス「そうなんだ・・・でもたしかにおかしい・・・」

ホワイト・ソウル「知りたいか?俺の正体・・・」

バード「正体?」

ホワイト・ソウル「そうだ・・・俺はただの電波体ではない!」

バード「どういう事だ!ただの電波体じゃないって!」

ホワイト・ソウル「俺は・・・悪魔だ!」

フェニックス「悪魔?」

バード「悪魔だと?変な事を・・・」

ホワイト・ソウル「なら・・・俺に勝つたらすべてを教えてやる!」

バード「しょうがない・・・やるぞ!ドラグ!」

フェニックス「うん、分かった!」

ホワイト・ソウル「それでは・・・始めよう!」

ロックマン達は・・・

ロックマン「大丈夫かな?フェニックス・・・」

ウォーロック「平気だろ・・・あいつにはドラグーンの力がある!」

ロックマン「そうだね・・・」

アーチエリー・R「にしても、いつまで続くんだこの道!」

オックス・ファイア「本当だぜ・・・」

ハーブ・ノート「まだゴールが見えない・・・」  
ロックマン「でも頑張らないとね！」  
ウォーロック「そうだな」

そして・・・フェニックスは・・・

フェニックス「ウイングブレイド」たて切り」！」

ホワイト・ソウル「きかねえよ！シャドウミスト！」  
するとフェニックスの周りが暗くなった

フェニックス「！」

バード「ゆだんするな！」

フェニックス「うん・・・」

しかし周りが見えない・・・

フェニックス「どこ・・・？」

「ソウルバスター」

フェニックス「！！！」

ドギユウウー——ン

ドゴオオオー——ン

ホワイト・ソウル「ククク・・・まだまだ・・・」

第143話 フェニックスVSホワイト・ソウル！（後書き）

次回フェニックスの運命は・・・

第144話 フェニックスVSホワイト・ソウルその2(前書き)

最近涼しくなってきた・・・しかし寒すぎても嫌だな・・・

## 第144話 フェニックスVSホワイト・ソウルその2

ホワイト・ソウル「ククク・・・まだまだ・・・」

フェニックス「ぐふっ・・・（やっぱり強いや・・・）」  
バード「大丈夫か？」

フェニックス「まだ・・・やれるよ！」

ホワイト・ソウル「クククそうこなくちゃ！またくえ、ソウルバスター！」

フェニックス「周りが・・・見えないよ・・・」

バード「そうだ、こんな霧、翼で吹き飛ばすんだ！」

フェニックス「うん！」

バサア ビユウウウ

そして霧が晴れた瞬間

ドオオオオオン

フェニックス「うわああああ」

なんとかホワイト・ソウルの攻撃をギリギリよけたフェニックス・

フェニックス「霧がなくなればこっちのもんたもんね！」

ホワイト・ソウル「ほう・・・ならばゴーストアイ！」

フェニックス「ぐっ・・・」

ホワイト・ソウル「ククク・・・さあ地獄を見せてあげよう」  
バード「ドラグ！」

フェニックス「こんなの・・・ぐうう・・・」

ホワイト・ソウル「ソウルセイバー！」

フェニックス「！」

スバア ズバアン

フェニックス「ぐああ」

ホワイト・ソウル「ククク・・・そろそろ終わらすか」  
フェニックス「ぐううう・・・」

ホワイト・ソウル「終わりだソウル・バスター！」  
フェニックス「うをおーーーーー」

ドクン

ピカアーーーーン

ホワイト・ソウル「この光は・・・そうか・・・」

フェニックス・D「<sup>ドラグーン</sup>・・・僕は・・・まだ負けるわけにはいかな  
い！」

ホワイト・ソウル「あの姿・・・ドラグーンか、ちょうどいいやつ  
てやる！」

フェニックス・D「くらえフレイムウイング！」

ボオオオオオオウ

炎は鳥のように飛びホワイト・ソウルに向かっている

ホワイト・ソウル「この力・・・俺が倒す！」

ドオオオオン

フェニックス・D「よしっ！」

ホワイト・ソウル「ぐうああああ・・・やはり強い・・・」

フェニックス・D「メテオファイアー！」

炎のがホワイト・ソウルに降り注ぐ

ボオン ボオン

ホワイト・ソウル「ぐっ・・・やるな・・・しかし！ソウルバスタ  
ー！」

ドギユウウウウウン

フェニックス・D「片手でじゅうぶんだ」

右手でソウルバスターを受け止めた

ホワイト・ソウル「・・・ククク・・・ハハハハ・・・」

フェニックス・D「？、何がおかしい・・・」

ホワイト・ソウル「やはり開放するか・・・」

フェニックス「開放？」

ホワイト・ソウル「そう・・・悪魔の力をな！」  
フェニックス・D「悪魔の力？」



第144話 フェニックスVSホワイト・ソウルその2(後書き)

次回「悪魔」の力開放！  
果たして悪魔の力とは？

## 第145話 ホワイト・ソウルの世界

ホワイト・ソウル「これを使う事になるとはな．．．ククク」

ドラグーン『ドラグ！』

フェニックス・D「うん．．．分かってる！」

ホワイト・ソウル「地獄に落ちろ！デスゲート！」

フェニックス・Dドラグーンの下から大きな穴ができた！

フェニックス・D「そんなの飛べばおち．．．！」

そのとき大きな穴から黒いものが出てきた

ゴゴゴゴゴゴゴ

フェニックス・D「な、なんだ？」

ドラグーン『これは．．．ドラグ！逃げしろ、捕まったら．．．終わる！』

フェニックス・D「えっ．．．」

ガッ

フェニックス・D「うわああ」

フェニックス・Dドラグーンが黒いものに捕まってしまった

ホワイト・ソウル「さあ落ちろ！地獄にな！」

ズルルル

フェニックス・D「うわああああああああああ」

フェニックス・Dドラグーンは穴に飲み込まれてしまった

ホワイト・ソウル「ククク．．．俺も．．．」

シュン！

そして．．．

ピュルルルルル

フェニックス・D「うわああ落ちるー！ーっ！」

ドラグーン『．．．ドラグ．．．飛べ！』

フェニックス・D「．．．あれ？黒いのがなくなってる．．．よし

っ！」

バサツバサツ

そして、そのまま地面に降りた

トーン！

フェニックス・D「ここは・・・」

ドラグーン「なんか・・・恐ろしいケハイがする」

フェニックス・D「けはい？」

ホワイト・ソウル「ようこそ俺の世界へ」

フェニックス・D「ホワイト・ソウルの・・・世界」

ホワイト・ソウル「くうく・・・やはりこの姿はきついな・・・そ

れでは俺の本当の姿を見せてやる！」

するとホワイト・ソウルは電波変換を解除した

キーン

ソウル「・・・ククク・・・それでは・・・うおおおおー

ー！

そのとき地面が大きく揺れた

グラグラグラグラグラ

フェニックス・D「な、な、なんだ？」

ドラグーン「ドラグ！あいつからもつと離れる！」

フェニックス・D「えっ、分かった」

そしてフェニックス・Dは距離をとった

ソウル「うおおー！

そのとき邪悪なオーラがソウルの体にまとってそして・・・

ソウル「これが俺の力だあー！」

ドオオオオオオオオオオオ

フェニックス・D「何が起きているんだ!？」

そして揺れがおさまった・・・

ドラグーン「大丈夫か？」

フェニックス・D「うん・・・!」

???? 「キキキキキキ・・・」

フェニックス・D「！」

ドラグーン「！」

デスソウル「これが俺の地獄の姿・・・デスソウル！」

ドラグーン「何だ・・・あの姿は、まるで・・・悪魔！」

デスソウル「キキキ・・・」

第145話 ホワイト・ソウルの世界（後書き）

次回・・・とうとう対決！

第146話 デスソウルのカ！（前書き）

今回2回目！

## 第146話 デスソウルの力！

ピリピリ

フェニックス・Dドラグーン「なんか、ピリピリくる……」

ドラグーン「これが悪魔か……」

デスソウル「こいよ……フェニックス・D！」

フェニックス・D「……分かった……くらえメテオファイア！」

デスソウルの上から炎が降り注ぐ

ボオウボオウ

ドオオオン

フェニックス・D「やったあ！」

デスソウル「キキキ……やるねえ……」

フェニックス・D「!?」

ドラグーン「嘘だろ……あいつ傷一つついていない……」

デスソウル「やはり地獄はいい！すばらしい所だ！」

フェニックス・D「僕はまだ負けてない！必殺！トライ・Dドラグーン・ファ

イア！」

デスソウル「この技か……」

デスソウルは三角形の線の中に居た……

そして線から炎が出てきた、そして、その炎が三体の火の鳥になつた  
たそしてデスソウルのほうに向かった

ボオオオ

デスソウル「……」

フェニックス・D「終わりだぁー！ーっ！」

ボオオオオオオオオオオオオオオオオオオ

デスソウルは火の海に包まれた

フェニックス・D「今度こそ……」

デスソウル『今度こそ・・・？』

フェニックス・D「う、嘘・・・」

デスソウル『少し効いたぜ？お前の技』

ドラグーン『あいつ・・・さっきまでのあいつとは違う！』

フェニックス・D「・・・」

デスソウル『では今度はこっちから・・・』

フツ

フェニックス・D「消えた！」

デスソウル『こつち』

フェニックス・Dは後ろを向いたそのとき

ドゴオオオン

フェニックス・D「くはっ・・・」

デスソウル『デスセイバー！』

ズバア

フェニックス・D「ぐがああ・・・」

ドラグーン『ドラグー！』

デスソウル『キキキ・・・これで終わりだ！地獄で永遠に眠れ！と

どめだー！』

ズバアアア

フェニックス・D「・・・」

ドラグーン『・・・』

デスソウル『・・・なんでだ・・・』

きられたのはデスソウルだった

???『久しぶりだな・・・ソウル！！』

デスソウル『ぐっ・・・お前は・・・』



第146話 デスソウルのカ！（後書き）

次回「あいつ」が登場！

第147話 黒き電波体

??? 『久しぶりだな．．．ソウル!!』

デスソウル 『ぐっ．．．お前は．．．』

フェニックス・D 『<sup>ドラグーン</sup>君は．．．』

デスソウル 『ブラック・ナイト!』

ドラグーン 『たしかライオのウィザード．．．』

ブラック・ナイト 『俺はお前を許さない!』

デスソウル 『ふん．．．お前地獄に落ちたのか．．．いい気味だ』

ブラック・ナイト 『安心しろ．．．お前にも本当の地獄を見せてやる!!』

デスソウル 『ああ見せてくれ』

フェニックス・D 『僕もやる!』

ブラック・ナイト 『(こいつ．．．ドラグーン!) いいだろ』

デスソウル 『こい!』

フェニックス・D 『うおおーフレイムウイング!』

ポオオウ

デスソウル 『．．．効かないなあ』

ブラック・ナイト 『後ろだ!』

デスソウル 『!』

ズバア

デスソウル 『ぐああ』

ブラック・ナイト 『へっ．．．』

デスソウル 『き、貴様っ!』

フェニックス・D 『うおおーメテオファイア!』

ポオウポオウ

デスソウル 『何っ．．．』

ドオオオン

デスソウル 『ぐああ』

ブラック・ナイト『へつ2体1じゃ勝てないのか？お前』

デスソウル『なめるな！』

ブラック・ナイト『！』

デスソウル『デスセイバー！』

ズバアアン

ブラック・ナイト『ぐうあああああ』

ドサツ

フェニックス・D『ブラック・ナイト！』

ブラック・ナイト『お前は目の前の敵を倒すんだ！絶対にあいつにも弱点があるはずだ！』

ドラグーン『ドラグ、その弱点を見つけよう！』

フェニックス・D『弱点……！』

デスソウル『どうしたんだ？ヒビって動けねえのか？』

ドラグーン『ドラグ、見つけたのか？』

フェニックス・D『みつけた……弱点』

ドラグーン『弱点はなんだ？』

フェニックス・D『さっきブラック・ナイトが攻撃した時の事を思い出したら見つけたんだ！弱点は後ろから攻撃される事！』

ドラグーン『（ベタだな）』

第147話 黒き電波体（後書き）

次回、弱点を見つけたフェニックス・D・・・次回勝てるのか？

## 第148話 ブラック・ナイト

フェニックス・D「<sup>ドラグーン</sup>よし、後ろからやるぞ！」

ドラグーン「そのためには、相手のすきを見つけないければな……」

フェニックス・D「すきか……」

デスソウル「来ないならこっちから行くぜ！」  
シューン

フェニックス・D「！」

ドゴオン

デスソウルはフェニックス・Dの腹を殴った<sup>ドラグーン</sup>

フェニックス・D「ぐはっ……ぐっ……」

デスソウル「まだまだ！デスセイバー！」

ズバアン

フェニックス・D「ぐううう」

ドラグーン「(デスソウル……こいつまさか……)」

フェニックス・D「い、痛い……よお」

デスソウル「キキキ……1人じゃ何も出来ないのか？」

フェニックス・D「うつつ……まだまだあ……」

デスソウル「キキキ俺を楽しませろよ……ガキイ」

フェニックス・D「！」

ドゴツ ズバアン ドカア

フェニックス・D「ぐうあああああ」

ドラグーン「(いくらドラグーンの数でもこれでは、負けてしまう・

・早くすきを見つけないとな)」

フェニックス・D「ぐはっ」

デスソウル「キキキもうおしまいか？」

フェニックス・D「まだだ……まだ僕は……負けない！」

デスソウル「そうか……ならもつといたぶってやる！」

ドゴオオン

フェニックス・D「うわああああ」

ドラグーン「(これまでなのか・・・せめてすきを生み出せば・・・)  
」

ブラック・ナイト「・・・5秒だ・・・」

ドラグーン「！」

ブラック・ナイト「俺が5秒のすきを作る・・・あとはあいつしだ  
いだ・・・」

ドラグーン「・・・(5秒か・・・ドラグなら出来るかも)  
そして・・・」

ドラグーン「たのむブラック・ナイト！」

ブラック・ナイト「ああっ」

デスソウル「終わりだぁー」

ブラック・ナイト「(今だ)うぉおー」

ズバアン

デスソウル「ぐおおおお」

ドラグーン「今だドラグ！」

「3」

フェニックス・D「ぐっ・・・すべての力を・・・うぉおおおお  
おお」

「2」

フェニックス・D「うぉおおおトライ・D・ドラグーンファイア！」

「1」

ドラグーン「この勝負・・・勝ちだ！」



第148話 ブラック・ナイト（後書き）

とうとう勝ったフェニックス！

次回は・・・？



## 第149話 操られた兄

アーチェリー・R「!!?」

そこにはなんと、クロダーツがいた!

クロダーツ「……………」

アーチェリー・R「兄貴……………」

ウォーロック「兄貴!!?」

ロックマン「あれが…………アーチェリー・Rのお兄さんか……………」

アーチェリー・R「おい兄貴!そこをどけえ!」

クロダーツ「……………」

アーチェリー・R「おい聞いてんのか!」

ロックマン「ねえなんか様子変だよ?」

クロダーツ「タオス…………タオス…………シンニユウシャ、タオス」

アーチェリー・R「!…………兄貴……………」

そのころ

???「フフフ…………さあやりなさいクロダーツ…………あなたは私  
のかわいい…………人形、だから倒しなさい…………本気で弟を!」

クロダーツ「タオス…………オマエタチ…………タオス」

アーチェリー・R「目を覚ませえ兄貴!」

ウォーロック「あいつまじで俺達を倒しに来るぜ……………」

ロックマン「…………やろうアーチェ……………」

アーチェリー・R「いいや…………俺だけでやる!」

ロックマン「でもダイヤパール博士を……………」

アーチェリー・R「なあロックマン1つお願いがある!」

ロックマン「?」

アーチェリー・R「博士を…………助けてくれ!」

ロックマン「アーチェリー・R……でも……」

ウォーロック「行くぞスバル」

ロックマン「ロック……」

クロダーツ「ウォォー……タオス……」

ドン!

アーチェリー・R「くっ……どうやらこいつ俺を狙ってるようだ・

・早くいけえロックマン俺はお前を信じてるぜ地球を救ったヒー

ロー!!」

クロダーツ「ウォォー……」

ガキイン

アーチェリー・R「ぐっ……」

ロックマン「……分かった!」

そしてロックマン達は先に進んだ

アーチェリー・R「行ったか……さあ始めようか……兄貴」

クロダーツ「ウォォー……」

第149話 操られた兄（後書き）

次回・・・本気の兄弟バトルが始まる！

## 第150話 アーチエリー・R対クロダーツ！

ロックマン「平気かな・・・」

ウォーロック『平気だろあいつなら』

ロックマン「ようだよね」

そのころ・・・

アーチェリー・R「ニミインファイニティーアロー！」

無限の矢がクロダーツに降り注ぐ

クロダーツ「・・・キカナイヨけ」

クロダーツはすべての矢をかわした

アーチェリー・R「何っ・・・（これは厄介だ・・・どうしたら兄貴を正気に戻せんか・・・）」

クロダーツ「クラエ、シャドウスピア！」

アーチェリー・Rの周りにたくさんの針が現れた！

アーチェリー・R「この技は・・・逃げるのがやっかいだ・・・」

クロダーツ「ササレロ」

ザザザザザザザザザ

アーチェリー・R「ぐああああああああ」

ドサツ

クロダーツ「オワリ・・・オマエ・・・」

アーチェリー・R「おい・・・兄貴・・・たしか前会ったとき言っていたよな・・・また俺と暮らしたいって・・・だったら兄貴！正気にもどれえー！っ！」

クロダーツ「・・・タオス」

アーチェリー・R「くっ（やはり戻らない・・・どうすれば・・・）」

┌

ある所

???「無駄よ・・・私を倒さない限りクロダーツはずっと私の・・・  
・操り人形・・・フッフ」

ドゴオン

アーチェリー・R「ぐはっ、はあはあ・・・（兄貴の奴・・・少し  
ずつ俺の動きについてきてる・・・やばい・・・）」  
クロダーツ「シャドウスピーア！」

アーチェリー・R「（またか・・・だが）インフィニティーアロー  
！」

アーチェリー・Rは矢ですべての針を落とした

キーン キーン キーン

アーチェリー・R「はあはあ、やったぜ」

クロダーツ「コシヤクナ・・・」

アーチェリー・R「へっ・・・目覚ませよ兄貴」

クロダーツ「・・・」

第151話 言葉

クロダーツ「……………」

アーチェリー・R「トモ……………」

クロダーツ「……タオス！」

アーチェリー・R「兄貴……………」

クロダーツ「フルシャドウスパア！」

アーチェリー・R「何っ……そんなの俺……………」

ズバツ

アーチェリー・R「えっ……………」

ザザザザザザザザ

アーチェリー・R「ぐああああああああ（これは……前のシ

ヤドウスピアじゃない、早すぎて針が……見えない）」

クロダーツ「……………」

アーチェリー・R「ぐうあ……………」

アーチェリー・Rはひざをついた

トン

アーチェリー・R「（痛い……体中が……しびれて……………」

クロダーツ「コノハリニハ……ドクガヌツテアル……アンシン

シロ、イツシユウカンハウゴケナイガ、イノチニハナニモナイ……

」

アーチェリー・R「はあはあ……（だんだんしびれが強まってい

る……………」

クロダーツ「コレデコイツハ、ウゴケナイ……サキニイツタヤツ

ヲオイカケルカ……………」

アーチェリー・R「はあはあ……（俺は無力だ……あの時、博

士を守れなかった……兄貴も助けられなかった……俺は……

俺は……皆のやくにたてなかった……俺は……弱い……

！）」

クロダーツ「イクカ……」

「諦めるのかい？」

アーチェリー・R「！（博士……）」

それは……弓亜がアーチェリー・Rの力を手に入れて一週間後の事だった……

弓亜「うをおおーーーーー」

ダイヤパール「……」

弓亜「電波変換！」

キイーーーーン

アーチェリー・R「はあはあ……！」

ズキズキ

アーチェリー・R「ぐああ……苦しい……」

キイン

電波変換を解除してしまった……

弓亜「はあはあはあ……」

ダイヤパール「なんで電波変換を解除したんだい」

弓亜「くっ苦しかったんだよ」

ダイヤパール「それを克服しないといつまでたっても出来ないわよ」

弓亜「くっ……やってられるかよ！こんなの！」

ダイヤパール「……」

そして弓亜はどっか行こうとした……

そのとき！

ダイヤパール「諦めるのかい？」

弓亜「……」

ダイヤパール「あんたが電波変換したいって言ってきたのに……

諦めるのかい？」

弓亜「……」

ダイヤパール「それじゃああなたの夢・・・諦めることになるわよ？それでもいいのかい？」

弓垂「・・・」

ダイヤパール「諦めると・・・男がくさるよ」

弓垂「・・・やってやる・・・」

ダイヤパール「！」

弓垂「やってやるよ！そして・・・博士をビックリさせてやる！」

ダイヤパール「・・・ビックリさせてみな・・・！」

弓垂「へっ・・・やってやる！」

アーチェリー・Rはこの時の事を思い出していた・・・

アーチェリー・R「はあはあ・・・待て・・・」

クロダーツ「！」

アーチェリー・Rは立ち上がろうとした

アーチェリー・R「はあはあ俺はあ・・・諦めねえ・・・」

クロダーツ「・・・バカナ・・・」

アーチェリー・R「俺は・・・兄貴を正気に戻して、はあはあ・・・

俺は夢を・・・諦めない！」

アーチェリー・Rはもうフラフラだが立ち上がっていた！

アーチェリー・R「チップ・・・セット！」

カチッ

『変形チップ入力成功！無限時間GMに変形！』  
インフィニティタイム

キィーイーイーーン

アーチェリー・R「（俺は・・・全力で兄貴を救う！）」



第151話 言葉（後書き）

次回クロダーツを救えるのか!?

第152話 救えるか！？ (前書き)

果たしてクロダーツを正気に戻して救えるのか！？

## 第152話 救えるか!?

『変形完了!』

クロダーツ「!?!」

アーチェリー・GV「・・・兄貴・・・俺は絶対に!」

クロダーツ「・・・オドロイタ・・・ドクヲサシタノニウゴケルト  
ハ・・・」

アーチェリー・GV「はあはあ（やはり毒のせいですう長くもたない・・・だから毒が全身にまわる前に救う・・・）」

クロダーツ「スグニオワラス、フルシヤドウスピア!」

アーチェリー・GV「（来た!）スロータイム!」  
カツ・・・チン

すると針がゆつくりとアーチェリー・GVに向かっていった・・・  
アーチェリー・GV「（今のうちにここから移動しないと）」

そしてアーチェリー・GVはその場から移動した・・・そして  
クロダーツ「!・・・ハズレタ・・・」

アーチェリー・GV「（スロータイムは・・・5秒間だけ発動できるのか・・・）」

クロダーツ「マダマダ!」

アーチェリー・GV「ハイタイム!」

ビュン!

今度はアーチェリー・GVが早くなった

クロダーツ「ナンダ・・・キュウニアイツハヤクナッタ!」

アーチェリー・GV「（これで目を覚ませ!兄貴!）くられ、スぺ  
ーソケット!」

すると黒い穴が現れそしてその中からロケットが出てきた!

クロダーツ「ナンダト・・・」

ロケットはクロダーツに向かって来た！

そして・・・

ドオオオン

クロダーツ「グアアアア」

ドサッ

クロダーツは倒れた

アーチェリー・GV「はあはあ・・・（思えば俺・・・兄貴が嫌いだった・・・でもなんでか今は救いたいって思ってた・・・なんで俺は兄貴を救いたいって思ったんだろ・・・あんなに・・・嫌いだつたのに・・・）」

ズキーン

アーチェリー・GV「ぐう・・・（毒が全身にまわったか・・・俺も・・・倒れるか・・・）」

ドサッ

アーチェリー・GVは倒れた・・・

そして思った・・・

アーチェリー・GV「（兄貴・・・正気に戻ってくれ・・・でないと俺の夢が・・・）」

そしてアーチェリー・GVは気を失った・・・

そして

????「・・・まさかクロダーツが敗れるとは・・・だがまあいい・・・もう準備はととのった・・・あとは時間だけ・・・フフフフフ・・・」

第152話 救えるか!？ (後書き)

次回! ロックマン達はゴールにつけるのか!？

第153話 ゴール直前！（前書き）

今回はロックマンはとうとうゴールに着いたと思ったら・・・

第153話 ゴール直前!

ロッキマン「だいぶ体力が回復してきたよ」

ハープ・ノート「私も」

オックス・ファイア「俺もだ!」

ウォーロック「しかし・・・傷はまだ治っていない・・・」

ロッキマン「・・・それでも僕はダイヤパール博士を助ける!」

ウォーロック「(スバルも結構強くなつたな・・・)」

ロッキマン「・・・!、ねえ皆あれ・・・」

ハープ・ノート「ん?」

オックス・ファイア「お?」

ロッキマンの指の先には・・・なんと一つの扉があつた

ハープ・ノート「まさか・・・」

オックス・ファイア「やつとゴールか!?」

ウォーロック「・・・(怪しい・・・扉の前にだれもいない・・・

」

ロッキマン「とうとうきたんだ・・・」

オックス・ファイア「ブロロ・・・」

ハープ・ノート「・・・うん」

そしてロッキマン達は扉に近づいた・・・そのとき

ウォーロック「!・・・まてスバル!その扉に近づくな!」

ロッキマン「えっ・・・」

すると急に扉が爆発した

ドオオオオオオオオーーーーーー

ハープ・ノート「きゃ」

オックス・ファイア「うおっ・・・」

ロッキマン「くっ・・・何だ?」

???「あゝあ・・・失敗しちゃったあゝ」

ロッキマン「!」

オックス・ファイア「誰だーっ!」

ボムボツク「僕々?僕はあゝボムボツクだよ」

ウォーロツク『ボムボツク?』

ボムボツク「……(こいつら……クロダーツから……つうか出来たのかあゝ)」

ロツクマン「そこを通せ!」

ボムボツク「やゝだゝねえゝゝだ」

ウォーロツク『(こいつ……ム力つく!)』

ボムボツク「ねえゝ君達の方ゝ見せてもらうよおゝ?」

ロツクマン「(やんないと……ダイヤパール博士を助けられない!)ロツクバスター!」

ボムボツク「そんなの効かないよおゝ、ボムの盾!」

ドン! シュウー

ロツクマン「防がれた!?!」

ハーブ・ノート「シヨツクノート!」

オックス・ファイア「ファイアプレス!」

ギューイーン  
ボオオオオオオオ

ボムボツク「だゝかゝらゝ効かないよおゝ、ボムの盾」

2人の技が防がれてしまった

ハーブ・ノート「強い……」

オックス・ファイア「なかなかやるな……」

ロツクマン「よしっ皆やるう!」

ハーブ・ノート「待って」

ロツクマン「えっ?」

ハーブ・ノート「スバル君……いいえロツクマン!私たちがあいつの動きを止めている間に先に行つて!」

ロツクマン「でも……」

オックス・ファイア「俺達を信じてくれ!だって俺達はロツクマンの「ブラザー」だ!」

ハーブ・ノート「そうよ!私たちなら大丈夫だから……だから口



ツクマンは博士を助けてあげて！アーチェリー・Rも言<sup>リ</sup>つてたでし  
よ？」

ロックマン「……」

ロックマンはアーチェリー・Rの言葉を思い出した

「早くいけえロックマン俺はお前を信じてるぜ地球を救った  
ヒーロー！」

ロックマン「……分かった！」

ハープ・ノート「ロックマン！」

ロックマン「お願い……5秒でいいからボムボックを止めて！」

オックス・ファイア「おうよ！」

ハープ・ノート「うん！任せて！」

ロックマン「（あと……少し！）」

第153話 ゴール直前！（後書き）

次回とうとう・・・ダイヤパールを助けることが出来るのか!？

第154話 チャンスを待つ・・・(前書き)

今回はダイヤパールを助けられるのか？

第154話 チャンスを待つ・・・

ハーブ・ノート「シヨックノート！」

オックス・ファイア「ウオオー！ツッ！ファイアプレス！」

ボムボック「話〓聞いてたあ〓？聞かないって〓言っただよあ〓〓」  
そしてまたも防がれてしまった

ロックマン「・・・（僕は2人を信じて・・・チャンスを待つだけ！）」

ボムボック「！（あいつ〓全然戦いに〓参加してないよあ〓？なん  
でだろ〓？）」

オックス・ファイア「オックスタツクル！」

トトトトトトトト

オックス・ファイアは勢いよくボムボックにタツクルしようとした。  
・・・しかし・・・

ボムボック「すごいなあ〓でも〓ボムトラップ！」

ボムボックはオックス・ファイアの下に仕掛けた

そして・・・

ボオオオオオン

オックス・ファイアは引つかかった

オックス・ファイア「うわああああ」

ロックマン「オックス・ファイア！」

ボムボック「僕を〓なめないほうが〓いいよ〓」

オックス・ファイア「まだまだーブロロロ！」

オックス・ファイアは立ち上がった

ハーブ・ノート「私だつて！パルスソング！」

ポワワ〓ン

ボムボック「（音波か〓でも〓）超爆弾！」

するとでかいボムが現れた

そしてそのボムを音波に投げた

ポイー

ボゴオオオオオオオン!

ハープ・ノート「きゃあああああ  
ドサッ

ロツクマン「くっ……」

爆発の後からの煙がロツクマンを包む

ブオ……

ロツクマン「あっ……前が見えない……! (そうだ……)」  
ボムボツク「ど〜こ〜?」

そして煙が晴れた……

オックス・ファイア「ブロロロ」

ロツクマン「ねえオックス・ファイア」

オックス・ファイア「?」

ハープ・ノート「シヨツクノート!」

ギューイーン

ボムボツク「効かないって〜何回も〜言ったじゃ〜ん  
そして防がれてしまった

ハープ・ノート「どうしよう……」

オックス・ファイア「ハープ・ノート! またパルスソングをやっ  
てくれ!」

ハープ・ノート「……分かった!」

ロツクマン「これなら……抜ける!」

第154話 チャンスを待つ・・・(後書き)

次回ロックマンの作戦とは？

## 第155話 突破成功！？

ハーブ・ノート「パルスソング！」

ポワワ〜ン

ボムボツク「ま〜た〜か〜．．．でも〜超爆弾！」

そしてハーブ・ノートの技が防がれてしまった！

ポオオオオオオオン

爆発により煙が出てきた

ロツクマン「よしっ！オックス・ファイア！」

オックス・ファイア「おう！ファイアブレス！」

ポオオオオオオオ

ボムボツク「ま〜さ〜か〜この煙を〜利用して〜僕を〜倒すつもり

〜？でも〜そううまく〜いかないよお〜」

オックス・ファイア「．．．．．」

ロツクマン「．．．．」

ボムボツク「ボムの盾〜！」

ポオオオオオ

ボムボツク「えっ．．．．」

炎はボムボツクを交わしボムボツクを抜いた．．．

ロツクマン「（煙で見えにくいけど炎のおかげで光っている所に走

れば．．．）」

そしてロツクマンは走った炎のある場所に．．．

タタタタタ

オックス・ファイア「ロツクマン！早くしないと火が消えるぞ！」

ロツクマン「間に合え．．．！」

そして．．．煙が消えた．．．

ボムボツク「（なんだっただる〜さっきの〜炎〜なんだろ〜？）」

オックス・ファイア「作戦．．．成功！」

ハーブ・ノート「やったあ！」

ボムボツク「あれ、青いヤツ、いないよお？」

オックス・ファイア「後ろ見てみるよ」

ボムボツク「！」

ロツクマンはいつの間にかボムボツクの後ろに居た・・・

ロツクマン「あそこに行けば・・・ダイヤパール博士がいる・・・

絶対に助ける！」

ボムボツク「1人、逃がしちゃった、どうしよう・・・まあ、いいか」

オックス「いいんだな・・・」

ハープ「いいんだ・・・」

ボムボツク「2人、だけでも倒す」

ハープ・ノート「頑張つて・・・ロツクマン！」

オックス・ファイア「負けるなよ、ロツクマン！」

そして・・・

ロツクマンは扉を開いて部屋に入った

ガチャ

ロツクマン「なんだろ・・・なんか暗くて気味悪いなあ・・・」

ウォーロツク「油断すんなよスバル・・・なんか凄く嫌な予感がする・・・」

???「フッフ・・・きたわねライオーガ！・・・いいえロツクマン！！」

ロツクマン「誰だ！」

アクエ「・・・私はアクエ・・・にしても早かったわね・・・まだ

2時間もあるわ・・・」

ロツクマン「2時間？」

アクエ「そう・・・宇宙消滅のね・・・」

ウォーロツク「はあ？そんな事できるわけ・・・」

アクエ「出来るのよ・・・私なら・・・ね・・・」

ロツクマン「・・・」





第155話 突破成功！？（後書き）

次回・・・とうとうボスのアクエとの対決！そしてダイヤパールは・  
・

## 第156話 アクエの力

ウォーロツク『なんでテメエなら出来るんだ!』

アクエ『・・・私はね・・・失敗作なのよ・・・』

ロツクマン『失敗作?』

アクエ『そう・・・実験のね・・・』

ロツクマン『実験・・・まさか・・・』

アクエ『そのまさかよ・・・私はダイヤパールに実験台にされて失敗したのよ・・・でも失敗したおかげで

私は宇宙消滅できる力を手にいれた・・・』

ウォーロツク『しかしただ実験に失敗しただけでそんな力手にいれられないはずだ!』

アクエ『・・・そのとおりよ・・・失敗しただけでそんなすばらしい力など手に入れられない・・・でも「こいつ」が私に力を与えてくれた・・・』

ウォーロツク『こいつって・・・?』

アクエ『・・・DM星人の・・・「ハクガメ」がね・・・』

ウォーロツク『ハクガメ?』

アクエ『・・・出てきな!』

シュン

ハクガメ『おい・・・まだ時間じゃねーじゃねーか!』

アクエ『だから時間を稼ぐのよ・・・』

ハクガメ『だったらさっさとやるぞ』

アクエ『でも・・・まだ「裏」は出さないよ』

ハクガメ『へいへい』

アクエ『では・・・電波変換!』

キイイイイイイイ

ウォーロツク『!』

ロツクマン『・・・』

「????」それでは……この部屋の明かりをつけましょう……」  
パツ

部屋が明るくなった

ロックマン「あ、明るく……!」

ウォーロック「なんだよ……この部屋……」

ロックマン「……これは……」

ウォーロック「このけはい……これは魂だな……」

部屋のあちこちには魂が保管されていた

ロックマン「なんて数なんだ……」

「????」おどろいた?

ロックマン「!」

ウォーロック「ほう……それが電波変換か……（なんか知らんが……あいつの電波変換……違和感を感じる……）」

ミスガメ・ハクア「私のこの姿……ミスガメ・ハクア……どう

だいすばらしいだろ？」

ロックマン「ミスガメ……ハクア……」

ウォーロック「スバルやるぞ!」

ロックマン「うん……」

ミスガメ・ハクア「フフフ……」

ロックマン「ウェーブバトル ライド オン!」

第156話 アケエの力（後書き）

とうとう始まったロックマンVSミズガメ・ハクア！  
ロックマンは勝つ事が出来るのか！？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9637s/>

---

流星のロックマン4黄金のヨロイ・ライオーガ/ツバサ・ドラグーン

2011年10月12日15時50分発行